

天神河内 第1遺跡

大淀川右岸農業水利事業国営天神ダム
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

宮崎県教育委員会

天神河内 第1遺跡

大淀川右岸農業水利事業国営天神ダム
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



1991

宮崎県教育委員会

序

宮崎県教育委員会では、九州農政局の依頼により、昭和63年度から平成2年度まで宮崎郡田野町の天神ダム建設予定地内の発掘調査を実施いたしました。本書は、その調査報告書です。

この天神河内地区は山間部に位置しますが、県内では出土例の少なかった縄文時代前期～中期の遺物などをはじめとして、弥生時代から中・近世にかけての貴重な資料が数多く検出されました。

本書が、埋蔵文化財に対する認識と理解を深める一助となるとともに、研究資料として社会教育・学校教育の場で活用されることを期待します。

調査にあたって工期の変更など御協力をいただいた九州農政局をはじめ関係機関、御指導・御助言等をいただいた諸先生方、並びに地元の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成3年3月

宮崎県教育委員会

教育長 児玉郁夫

例　　言

1. 本書は、九州農政局が宮崎郡田野町字天神河内に計画した国営天神ダム建設に伴う事前調査として、宮崎県教育委員会が実施した天神河内第1遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の5万分の1図をもとに作成し、周辺地形図については、九州農政局大淀川農業水利事業所作成の千分の1図をもとに製図、作成した。
3. 現地での図面は、各調査員を中心に、適時、文化課埋蔵文化財係職員の応援を得て作成した。実測の補助は、測量会社に委託した。
4. 遺物・図面の整理は、埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測・拓本・計測及び製図等については、菅付和樹・谷口武範のほか文化課職員・整理補助員の協力を得てこれを行った。
5. 現地調査にあたって、県総合農業試験場有村玄洋氏に土壤調査を、奈良教育大学市川米太氏に熱ルミネッセンス法による年代測定を依頼し、玉稿をいただいた。なお、市川氏は分析後急逝されたため、同大学の長友恒人氏に玉稿を賜った。記して謝意を表するとともに、市川氏の御冥福をお祈り申し上げる。

このほか、帯広畜産大学中野益男氏には残存脂肪分析について御指導いただき、分析は民間会社に委託した。

6. 石器の計測にあたり、石材同定については宍戸章氏に御教示賜り、石器の分類については文化課の長友郁子氏の協力を得た。
7. 本書に使用した写真は、各調査員が撮影した。
8. 本書に使用した方位は主に磁北であり、位置図など一部は座標北である。また、本書で用いた記号は、S A が堅穴住居跡、S B が掘立柱建物跡、S C は繩文時代の土坑と歴史時代の土塙、S E が溝状遺構、S I が集石遺構をそれぞれあらわしている。土器の色調については、「新版 標準土色帖」の土色に準拠した。
9. 本書の執筆は、各調査員が分担して行い、文責は目次に明記した。編集は、菅付・谷口が行った。
10. 遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。また、V区出土の五輪塔の一部は、遺跡の東側の天神神社境内に移転し復元している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1	
1. 調査に至る経緯	(面高)	1
2. 調査の組織	(菅付)	2
第Ⅱ章 遺跡の位置	(菅付)	3
1. 地理的環境	3	
2. 歴史的環境	3	
第Ⅲ章 調査区の設定と概要	(菅付)	6
第Ⅳ章 調査の記録	9	
1. 層序	(菅付)	9
2. VI層の遺構と遺物	(菅付)	11
1. 集石遺構	11	
2. 土器	18	
3. 石器	44	
3. IV層の遺構と遺物	(菅付)	52
1. 集石遺構	52	
2. 配石遺構	56	
3. 土坑	58	
4. 土器	61	
5. 石器	107	
4. II層の遺構と遺物	124	
1. 繩文時代の遺物	(菅付)	124
2. 弥生時代から古墳時代初頭の遺構と遺物 (谷口)	126	
(1) 住居跡	126	
(2) 弥生土器	126	
(3) 後期～古墳時代初頭の土器	136	
(4) 石器	136	
3. 歴史時代の遺構と遺物	(谷口)	136
(1) 挖立柱建物の概要	139	
(2) 挖立柱建物の分析	184	
(3) 土塙	185	

(4) 石組遺構	206	
(5) 溝状遺構	206	
(6) IV区の概要	210	
(7) V区の概要	216	
(8) 包含層出土の遺物	225	
第V章 自然科学的分析の結果	234	
田野町天神河内第1遺跡土壤調査報告書	234	
焼け石の熱ルミネッセンス年代測定結果について	238	
天神河内第1遺跡の集石遺構に残存する脂肪の分析	240	
第VI章 おわりに	(著付・谷口)	262

挿 図 目 次

第1図 天神河内第1遺跡位置図	4
第2図 天神河内第1遺跡周辺地形図	7～8
第3図 天神河内第1遺跡土層図	10
第4図 VI層調査区の設定及び遺構分布図	12
第5図 集石遺構実測図(1) VI層	13
第6図 集石遺構実測図(2) VI層	14
第7図 集石遺構実測図(3) VI層	16
第8図 集石遺構実測図(4) VI層	17
第9図 集石遺構実測図(5) VI層	19
第10図 繩文土器実測図(1) VI層	21
第11図 繩文土器実測図(2) VI層	23
第12図 繩文土器実測図(3) VI層	24
第13図 繩文土器実測図(4) VI層	25
第14図 繩文土器実測図(5) VI層	27
第15図 繩文土器実測図(6) VI層	29
第16図 繩文土器実測図(7) VI層	31
第17図 繩文土器実測図(8) VI層	32
第18図 繩文土器実測図(9) VI層	33
第19図 繩文土器実測図(10) VI層	36

第20図	縄文土器実測図(11) VI層	37
第21図	縄文土器実測図(12) VI層	39
第22図	縄文土器実測図(13) VI層	40
第23図	縄文土器実測図(14) VI層	42
第24図	縄文土器実測図(15) VI層	43
第25図	石器実測図(1) VI層	45
第26図	石器実測図(2) VI層	46
第27図	IV層調査区の設定及び遺構分布図	53
第28図	集石遺構実測図(1) IV層	54
第29図	集石遺構実測図(2) IV層	55
第30図	配石遺構実測図(1) IV層	57
第31図	配石遺構実測図(2) IV層	59
第32図	土坑及び出土土器実測図 IV層	60
第33図	縄文土器実測図(16) IV層	63
第34図	縄文土器実測図(17) IV層	64
第35図	縄文土器実測図(18) IV層	66
第36図	縄文土器実測図(19) IV層	68
第37図	縄文土器実測図(20) IV層	69
第38図	縄文土器実測図(21) IV層	71
第39図	縄文土器実測図(22) IV層	73
第40図	縄文土器実測図(23) IV層	75
第41図	縄文土器実測図(24) IV層	76
第42図	縄文土器実測図(25) IV層	78
第43図	縄文土器実測図(26) IV層	80
第44図	縄文土器実測図(27) IV層	83
第45図	縄文土器実測図(28) IV層	84
第46図	縄文土器実測図(29) IV層	86
第47図	縄文土器実測図(30) IV層	88
第48図	縄文土器実測図(31) IV層	89
第49図	縄文土器実測図(32) IV層	90
第50図	縄文土器実測図(33) IV層	92
第51図	縄文土器実測図(34) IV層	93
第52図	縄文土器実測図(35) IV層	95

第53図 繩文土器実測図 (36) IV層	96
第54図 繩文土器実測図 (37) IV層	98
第55図 繩文土器実測図 (38) IV層	99
第56図 繩文土器実測図 (39) IV層	100
第57図 繩文土器実測図 (40) IV層	102
第58図 繩文土器実測図 (41) IV層	103
第59図 繩文土器実測図 (42) IV層	104
第60図 繩文土器実測図 (43) IV層	106
第61図 石器実測図 (3) IV層	109
第62図 石器実測図 (4) IV層	110
第63図 石器実測図 (5) IV層	111
第64図 石器実測図 (6) IV層	112
第65図 繩文土器実測図 (44) II層	125
第66図 II、Ⅲ層上面調査区及び遺構分布	127～129
第67図 弥生時代住居跡 (SA 1)	129
第68図 弥生土器実測図 (1)	131
第69図 弥生土器実測図 (2)	132
第70図 弥生土器実測図 (3)	133
第71図 弥生土器実測図 (4)	134
第72図 出土土器・石器実測図	135
第73図 遺構分布図	137～138
第74図 SB 1	140
第75図 SB 2	141
第76図 SB 3	142
第77図 SB 5	143～144
第78図 SB 4	145
第79図 SB 6	146
第80図 SB 7	147
第81図 SB 8	148
第82図 SB 9、SB10	149
第83図 SB11	150
第84図 SB11出土遺物実測図	151
第85図 SB12	152

第86図	SB13	153
第87図	SB14	154
第88図	SB15、SB16	155
第89図	SB17、SB18	156
第90図	SB19	158
第91図	SB20	159
第92図	SB21、SB22	160
第93図	SB23、SB24	161
第94図	SB25	162
第95図	SB26	163
第96図	SB14、19、24、32出土遺物実測図	163
第97図	SB27	164
第98図	SB28	165
第99図	SB29出土遺物実測図	165
第100図	SB29、SB30	166
第101図	SB31、SB32	167
第102図	SB33、SB34	168
第103図	SB35、SB36	169
第104図	SB37	171
第105図	SB38、SB39	172
第106図	SB40	173
第107図	SB40、41、45、47出土遺物実測図	173
第108図	SB41	174
第109図	SB42	175
第110図	SB43	176
第111図	SB44	177
第112図	SB45	178
第113図	SB46	179
第114図	SB47、SB48	180
第115図	SB49、SB50	181
第116図	SC1	186
第117図	SC2	187
第118図	SC3、4、5、6、7	188

第119図	S C 8、9、10、11、12、13、14、15、16、17	189
第120図	S C 18、19、20、21、22	190
第121図	S C 23、24、25、26	191
第122図	S C 27、28	192
第123図	S C 29、30	193
第124図	S C 31、32、33、34	194
第125図	S C 35、36、37、38、40	195
第126図	S C 39、41、42、43、44	196
第127図	S C 45、46、47、48、49	197
第128図	S C 50、51、52、53	198
第129図	S C 54、55、56、57	199
第130図	S C 58、59、60	200
第131図	石組遺構・S C 61	201
第132図	S C 74、77、78、95、96	202
第133図	S E 1、2、5 土層断面図および出土遺物	207
第134図	S E 1～5 出土遺物実測図	209
第135図	IV区遺構分布図	211～212
第136図	IV区溝状遺構	215
第137図	S E 6～18出土遺物実測図	216
第138図	V区遺構分布図	217～218
第139図	石塔群実測図	220
第140図	石組遺構実測図(1)	221
第141図	石組遺構・墨書き実測図	222
第142図	V区溝状遺構土層断面図	224
第143図	出土遺物実測図(Ⅱ区)	226
第144図	出土遺物実測図(Ⅱ区)	227
第145図	出土遺物実測図(Ⅰ区)	228
第146図	出土遺物実測図(Ⅰ・Ⅱ区)	229
第147図	石臼実測図(1区)	230
第148図	出土遺物実測図(Ⅲ・Ⅳ区)	232
第149図	土盤実測図	233
第150図	建物の変遷(1)	267
第151図	建物の変遷(2)	268

表 目 次

縄文土器観察表 (1)	20
縄文土器観察表 (2)	26
縄文土器観察表 (3)	30
縄文土器観察表 (4)	35
縄文土器観察表 (5)	38
縄文土器観察表 (6)	41
石器組成表 VI層	44
石器計測表 (1) VI層	48
石器計測表 (2) VI層	49
石器計測表 (3) VI層	50
石器計測表 (4) VI層	51
縄文土器観察表 (7)	62
縄文土器観察表 (8)	65
縄文土器観察表 (9)	70
縄文土器観察表 (10)	74
縄文土器観察表 (11)	77
縄文土器観察表 (12)	79
縄文土器観察表 (13)	82
縄文土器観察表 (14)	85
縄文土器観察表 (15)	91
縄文土器観察表 (16)	97
縄文土器観察表 (17)	101
縄文土器観察表 (18)	105
石器組成表 IV層	108
石器石材別組成表 IV層	113
石器計測表 (5) IV層	114
石器計測表 (6) IV層	115
石器計測表 (7) IV層	116
石器計測表 (8) IV層	117
石器計測表 (9) IV層	118

石器計測表 (10) IV層	119
石器計測表 (11) IV層	120
石器計測表 (12) IV層	121
石器計測表 (13) IV層	122
石器計測表 (14) IV層	123
掘立柱建物跡計測表 (1)	182
掘立柱建物跡計測表 (2)	183
掘立柱建物跡分類表	184
土塙観察表 (1)	203
土塙観察表 (2)	204
土塙観察表 (3)	205

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査に至る経緯

九州農政局大淀川農業水利事業所では、宮崎市、田野町、清武町の1市2町にまたがる2,000haの耕地に畑地灌がい及び水田用水補給を行うため、大淀川支流境川に新たに水源を開発するためダム（天神ダム）の建設を進めている。

昭和63年2月末、ダム建設工事区内で土器が出土しているとの連絡があり、昭和63年3月1日、現地調査を行ったところ、2箇所で弥生土器や縄文時代早期の土器、集石造構に伴うと推定される焼石の散布が認められた。散布地点は、境川の右岸に形成された河岸段丘上で、遺跡は、地形上その全域に広がっていると考えられた。その後、昭和63年3月8日付けで九州農政局大淀川農業水利事業所から遺跡発見通知が提出されたので、県教育委員会では、遺跡の所在が予想される河岸段丘上の試掘調査を昭和63年4月6日から8日まで実施した。その結果、河岸段丘の一部に縄文時代及び中世の遺跡が存在し、その包含層は、第II層が中世、御池ボラ層下の第IV層が縄文時代前期、アカホヤ層下の第VI層が縄文時代早期で、また、中世の遺構は河岸段丘の北部に、縄文時代の遺構は河岸段丘の南部に広がることが予想された。

ダム堤体の建設場所は、遺跡の所在する河岸段丘のほぼ中央部で、昭和63年度は、7月から建設にむけての試験掘削を実施する予定であった。そのため、九州農政局大淀川農業水利事業所と遺跡の保存について協議を重ねたが、事業施行上、ダム堤体の移設等の設計変更は困難であったので、ダム堤体及び水没部分については発掘調査を実施して記録保存の措置を取ることになった。昭和63年7月から実施予定であった試験掘削は、発掘調査期間を考慮して工期等の変更を行い、平成元年1月以降実施することになった。また、今回の発掘調査事業は3箇年事業とし、最初の2箇年が発掘調査、最終年度に報告書を作成することになっていたが、昭和63年度の調査で平成元年度の調査地の各時代の文化層が試掘調査の結果より広がることが確認され、また、新たに中世の五輪塔などが発見されたので、発掘調査の期間を3箇年まで延長し、同年度内に報告書も作成することになった。

発掘調査は、ダム堤体の試験掘削箇所のI区3,700m²（延べ9,100m²）を昭和63年8月9日から平成元年3月10日まで実施し、同じく試験掘削箇所のII区及び水没部分のIII区計8,400m²（延べ22,200m²）を平成元年6月5日から平成2年3月20日まで行った。また、各年度の遺物・図面の整理等は、調査に併せて実施した。最終年の平成2年度は、水没部分のIV・V区計3,000m²（延べ5,000m²）の調査を7月25日から平成3年3月20日まで実施し、並行して報告書を作成した。

2. 調査の組織

天神河内第1遺跡の発掘調査の組織は、次のとおりである。

調査依頼者 九州農政局大淀川農業水利事業所

調査主体 宮崎県教育委員会

教育長 児玉郁夫

教育次長 山本一慶（昭和63年度） 増井彬宏（平成元・2年度）

高山義孝

文化課長 久徳菊雄（昭和63・平成元年度） 斎岡 孝（平成2年度）

課長補佐 木幡文夫（昭和63年度） 片野坂次彦（平成元・2年度）

主幹兼庶務係長 小倉茂光

埋蔵文化財係長 岩永哲夫

特別調査員 残存脂肪分析指導（昭和63年度）

中野益男（帯広畜産大学）

熱ルミネッセンス法による年代測定（昭和63年度）

市川米太（奈良教育大学）

出土遺物指導（平成元・2年度）

寺沢 薫（奈良県立橿原考古学研究所）

梅木謙一（松山市埋蔵文化財センター）

泉 拓良（奈良大学）、田中良之（九州大学）

調査担当者 埋蔵文化財係 永友良典・谷口武範（昭和63年度）

菅付和樹（平成元・2年度）

事務担当者 庶務係 串間俊也（昭和63年度） 長友広海（平成元・2年度）

埋蔵文化財係 面高哲郎

調査協力 有村玄洋（宮崎県総合農業試験場）、大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）、小田富士雄（福岡大学）、木村幾多郎（大分市歴史資料館）、長友恒人（奈良教育大学）、新東晃一・中村耕治・東 和幸（鹿児島県教育委員会）、柴畑光博（都城市教育委員会）、森田浩史（田野町教育委員会）、北郷泰道・近藤 協・石川悦雄・長友郁子・吉本正典・吉永真也（文化課埋蔵文化財係）、戸高真知子・大盛祐子・山下博明・津隈久美子・増田慈子・荒木慶子・稻元光恵・押川保子・金子悦子・金丸琴路・久木田知代子・芝元泰子・杉尾直子・杉尾翠子・杉尾愛恵・田村とし子・富永優子・長田博子・永峰まり子・野田和美・日野泰イ子・松浦由美・森美知子・八木裕子・横山千穂・大淀川右岸地区土地改良事業促進協議会、山之口町教育委員会、中部農林振興局

第Ⅱ章 遺跡の位置

1. 地理的環境

天神河内第1遺跡は、宮崎郡田野町天神地区の字天神河内に所在する（第1図）。

田野町は、宮崎平野の南部に位置する宮崎市から南西約15kmの田野盆地を中心とする町である。町の北西部は標高200~280mの低い山地に、南部は標高1,119mの鶴塚山をはじめとする600~800mの山塊に囲まれ、西部の標高563mの青井岳へと連なる300~400mの山岳地帯で北諸県郡山之口町と境を接している。町境は、この青井岳の東側を北流する大淀川の支流境川である。境川は、鶴塚山、雪が峰、東岳の北麓から急峻な山あいを縫うように大きく蛇行しながら北へ流れ、東諸県郡高岡町去川で大淀川に注いでいる。

一方、山之口町は、青井岳の南麓から広大な都城盆地へと開けており、この青井岳一帯の山塊が田野町を含む宮崎平野部と都城盆地とを隔てる天然の障壁となっている。

遺跡は、この境川の源流から4.5kmほど下った右岸、標高約280m前後の南北に長い河岸段丘上に営まれ、地形的にも険しい山岳地帯にあって比較的水や食料の便など生活環境に恵まれた場所に立地している。

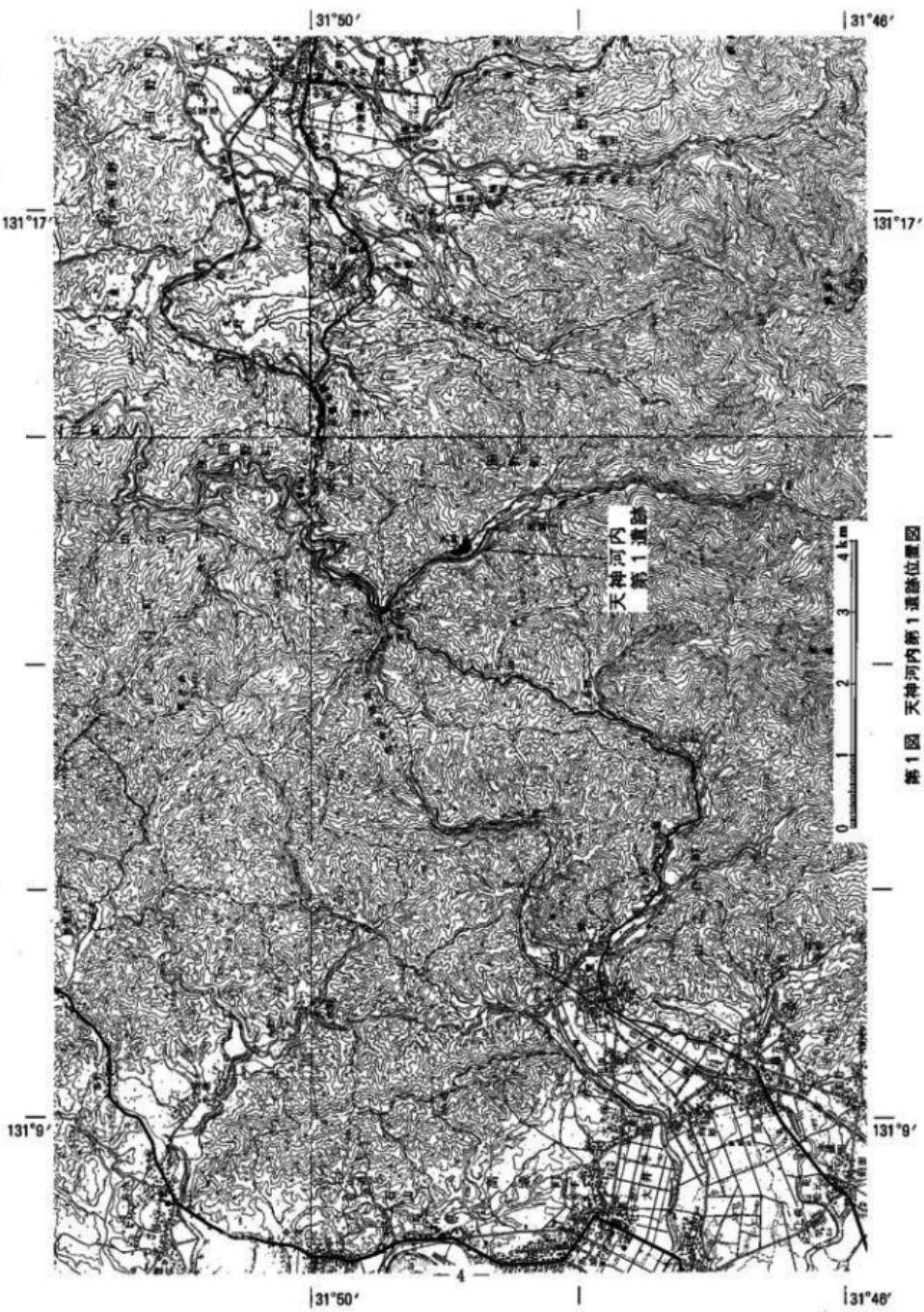
2. 歴史的環境

天神河内第1遺跡では、主として縄文時代早期・前中期・弥生時代中期～古墳時代初頭、中・近世の遺構・遺物が確認されている。次にこの周辺の同時代の遺跡を概観しつつ当遺跡の歴史的環境について記す。

縄文時代早期の代表的な遺跡としては、東へ約8kmの田野町前平遺跡群がある。ここは、標高622mの前平山の北西裾部に位置し、芳ヶ迫第1・同第3・札ノ元の各遺跡で集石造構計242基、堅穴住居跡2軒等が検出されている。同町にはこのほか数多くの早期の遺跡が確認されているが、殆どが台地や河岸段丘の端部など水の便に近い小高いところに立地する傾向にあり、県内各地の早期遺跡と同様の立地状況を示している。

前中期の遺跡は、これまでに発掘調査例が少ないため殆ど様相がつかめていない。しかし、前期では、野尻町柿川内第1遺跡、清武町三角堀遺跡・下田畑遺跡などで曾畠式土器が比較的まとまって出土し、そのほか前期土器が少量ながら出土している遺跡としては、えびの市灰塚遺跡（轟B式・曾畠式）・平木場遺跡（轟C・D式？）、小林市本田遺跡（曾畠式・深浦式？）、高城町城ヶ尾遺跡（曾畠式）、田野町黒草遺跡・丸野遺跡・長蔵遺跡・権現谷第1遺跡（曾畠式）、清武町小原遺跡・入料遺跡（曾畠式）、若宮田遺跡（轟B式）、串間市猪之様遺跡（曾

第1図 天神河内第1道路位置図



烟式)、西郷村内野々遺跡(轟D式?)など県南地方を中心に見られる。

一方、中期の遺跡はさらに少ない。このうち、阿高式系統の土器は、県南部の南郷町崩野遺跡で比較的まとまって出土したほかは、都城盆地を含む県南地方にごく少量見られる程度である。また、船元式系統の土器は、清武町辻遺跡、高鍋町大戸ノ口第2遺跡、西郷村内野々遺跡、北方町笠下遺跡などで、キャリバー状の器形を持つ春日式系統の土器は清武町赤坂遺跡、高鍋町大戸ノ口第2遺跡などでごく少量見られるくらいで今の所殆ど知られていない。

弥生時代中期から古墳時代初頭の遺跡としては、田野町丸野遺跡で中期後半の土器や後期前半の竪穴住居跡が、椎現谷第1遺跡で後期初頭の竪穴住居跡が、黒草遺跡で終末期の土器がそれぞれ検出されている。また、都城盆地側では高城町城ヶ尾遺跡で後期後半の、都城市向原第1遺跡・丸谷第2遺跡で後期初頭の、向原第2遺跡・祝吉第2遺跡・丸谷第1遺跡・加治屋遺跡で終末期の、祝吉遺跡で古墳時代初頭のそれぞれ集落跡が検出されている。

中・近世については、東播系片口鉢や備前焼甕などが出土した田野町芳ヶ迫第2遺跡の発掘調査例があるのみで、遺跡から歴史を見た場合殆ど未解明のままである。しかし、この時代は山城跡や番所跡・街道跡などの記録や伝承あるいは文献資料も多少残っているので、文献資料からこの地をめぐる支配関係について概観してみたい。

鎌倉時代初期の1197年、建久の日向國岡田帳には、田野町を含む飫肥・北郷400町と山之口町を含む三俣院700町を支配した地頭として島津忠久の名が見える。その後、鎌倉時代後半頃には三俣院(山之口町・高城町・三股町一帯)に大隅の肝付氏が入って来たが、14世紀末には再び島津氏が支配している。一方、14世紀中頃に西都市の都於郡城に本拠を移した伊東氏は、次第に宮崎平野部の土持氏の領地を侵していく、15世紀中頃に田野町付近を押さえ、16世紀中頃までこの地を支配している。その間、15世紀末には、伊東氏の飫肥(日南市一帯)攻略の野望を断念させるため島津氏により三股1,000町が伊東氏に割譲され、山之口町付近も伊東氏の支配となつた。しかし、16世紀前半には、再び島津氏の一族北郷氏がこの地を奪還している。この後、1577年、伊東義祐の豊後落ちにより日向は島津氏が支配する。そして、豊臣秀吉の九州仕置により伊東氏と島津氏の領地境が確定し、江戸期を経て今日に至るまで境川が藩境・町境となっている。

顯在遺構として伝承されているものに田野町のヒダカン城(片井野)、田野城(三角寺)、梅谷城(梅谷)、山之口町の山之口城(麓)、王子城・松尾城(花木)などの中世山城跡がある。また、山之口町は近世薩摩藩の直轄地として青井岳・飛松・無頭子・五反田・麓に番所跡、麓に地頭仮屋跡が知られている。しかし、これらはいずれも発掘調査は行われていない。このほか、近世の鹿児島街道が当遺跡の北側の青井岳を通り、さらにその北側に田野町八重～山之口町飛松～同麓を結ぶ間道が、遺跡の南側には田野町麓～同片井野～山之口町無頭子～同上長野～同麓を結ぶ間道があったと伝えられている。

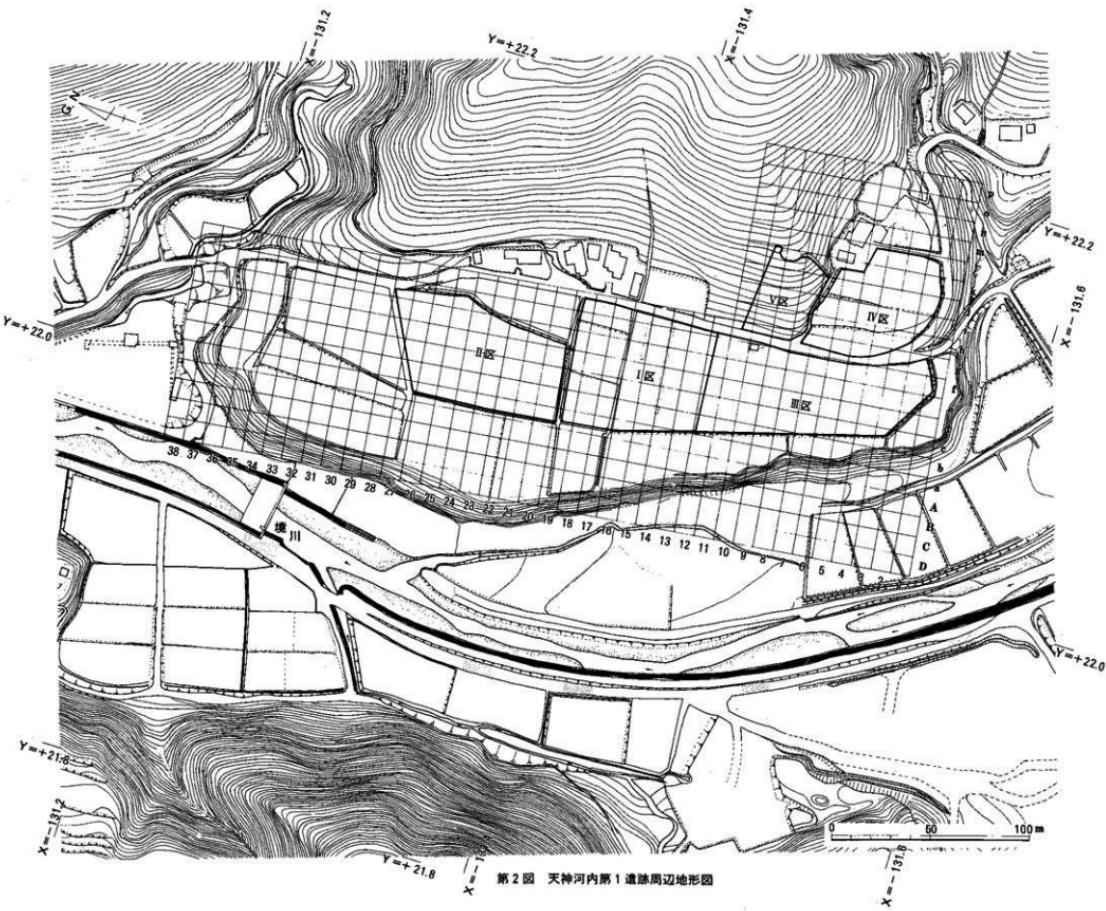
第Ⅲ章 調査区の設定と概要

天神河内第1遺跡は、境川の右岸に形成された河岸段丘上に展開する遺跡である（第2図）。昭和63年のトレンチによる試掘調査の結果、その一部に縄文時代及び中世の遺構・遺物を確認した。そこで、耕作地の境を目安に確認した箇所を北から順にA～F区と便宜的に分けて発掘調査を行うことになった。遺跡は東から西へ緩やかに傾斜しており、調査対象地はその中央部北側から東側にかけての山側寄りの部分で、段丘の西端部と北端部は除外された。また、初年度の調査が終了した時点で、それまで便宜的に分けていた発掘区を、調査年度順にB・C区→I区、A区→II区、D・E区→III区、F区→IV区と改め、新たに発見されたG区はV区とした。

調査前は、殆ど畠地または水田として利用され、III区南半には住宅や畜舎が立っていた。しかし、調査直前にはII区及びIII区の一部は既に表面を整地され、I区南西端からIII区北半にかけてとIV区の一部は表土をかなり土取りされていた。

調査にあたり、地形に合わせて一辺10mのグリッドを設定し、南北を整数で、東西をアルファベットで表示した。調査は、試験掘削予定箇所の1区から始めた。その結果、遺跡は、遺構・遺物に粗密はあるものの3層の文化層が比較的良好な状態で残っていることが確認された。そのため、調査対象地のほぼ全域にわたって3層掘らなければならなかったが、時間的制約上、初年度を除きトレンチによる遺構・遺物の確認とその周辺の拡張という方法で調査を進めた。また、半ば工事と並行しながらの調査であったため排土置き場には一定の制約を受けたが、調査区の半分を先に調査し、そこへ次の調査区の排土を運び込むという方法をとった。

表土除去後、I区北半～II区南半、III区中央部とIV区の全域に弥生時代から歴史時代の包含層が確認された。また、各区の中央部には、III層（御池ボラ）の上面で西へ開く浅い谷地形も確認された。遺構は、I～III区では主にこのIII層上面もしくはII層下部で検出され、IV区ではII層上面で検出した。検出した遺構は、弥生時代の堅穴住居跡1軒、歴史時代の掘立柱建物跡50棟、土塁128基、溝状遺構27条などである。掘立柱建物は、現地で検討し復元したものである。IV層及びVI層では縄文時代の包含層を確認した。いずれも火山灰層に封じ込まれて比較的良好な状態であったが、検出した遺構は、IV層で集石遺構11基、配石遺構7基、土坑3基、VI層で集石遺構24基であった。また、このVI層では、一部の集石遺構及び包含層中の焼石について熱ルミネッセンス法による年代測定や残存脂肪分析を行っている。いずれの層も出土遺物の平面的層位的分布状況については、報告書作成期間の都合上、現地での観察所見しか報告できなかった。



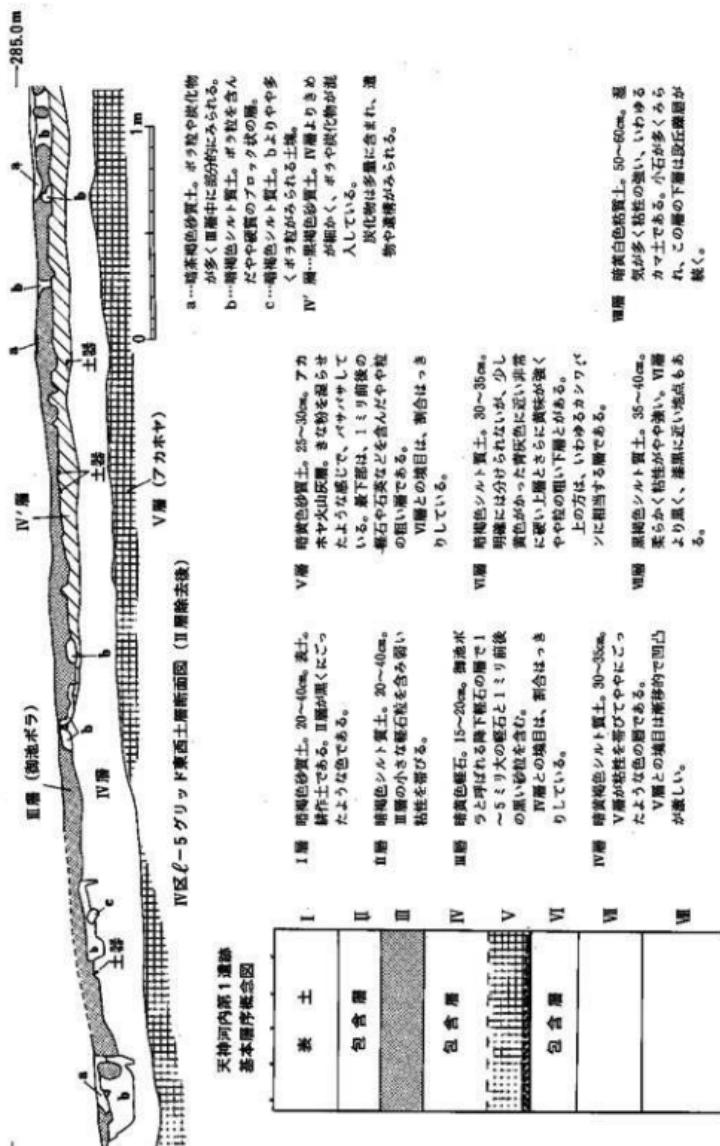
第IV章 調査の記録

1. 層序

当遺跡では、鍵層となる3層の火山灰・降下軽石層が比較的良好な状態で堆積していた。第1層は、御池ボラ・御池軽石といわれる降下軽石層である。霧島火山の御池が噴出源とされる。噴出年代は確定していないが、従来、この層の上層で縄文時代後期の土器が出土することから、縄文時代中期から後期頃の降下軽石と考えられている。第2層は、アカホヤと呼ばれるガラス質火山灰である。最下部には、5mm以下の黄橙色軽石を伴うことが多く、噴出年代は約6300年前といわれる。最近は、この層を境に縄文時代早期と前期を分けることがほぼ定着しつつある。第3層は、カシワバンあるいは牛之脛ロームといわれ、アカホヤの直下に堆積している。県内では西部～南部～県央部で分布が確認されている。

当遺跡の基本層序は、第3図のとおりである。I層表土は、最近まで畠地または水田として利用されていた。今回除外された西側の段丘端部は一段低くなっている。表土の下はすぐにII層が露出する。II層は、II区の中央部とI区の北東部、III区の中央部などに堆積していた。ここは、若干谷地形にもなっている。しかし、IV区はほぼ全面にII層が残っており、最も厚いところで約1m近い堆積がある。このことによりII層は、河岸段丘の西半部を除く全域に堆積していたが、I～III区などは耕作地あるいは住宅地として平坦にされる過程でやや小高い部分などとともに削平されたのではないかと考えられる。この層は、縄文時代後期・晚期、弥生時代中期前半～後期、古墳時代初頭、古代、中・近世の遺物が含まれている。III層は無遺物層である。IV層は、御池ボラに覆われてIII区南端を除いてほぼ全域に堆積していた。県内では調査例の少ない縄文時代前期～中期の遺物が出土している。IV区では、III層直下に炭化物や多量の遺物を含む黒褐色砂質土が広がっており、この層には配石遺構や主に中期と思われる遺物が多く見られた。V層は無遺物層であるが、水流によるとと思われる二次堆積の痕跡も多く見られた。しかし、最下部の軽石の層は安定した状態で残っていた。VI層は、カシワバンと呼ばれる非常に堅い火山灰とその下のやや粒の粗い層であるが、漸移的な変わりかたでありどちらからも遺物は出土するため、今回は1層として強いて区別をしなかった。この層は、時間の都合上、トレンチ調査で無遺物層までいっさきに掘ってしまうというやり方をしているため、層を区別することが困難であったという事情もある。III区では、V層直下、VI層上面に張付いた状態で第12図21の土器が出土した。V層上部では遺物は確認していない。それ以下は、未調査である。

また、このほかにIII・V区では溝状遺構の埋土の上部で新燃岳スコリア（1716～1717年）の層が、IV・V区では同じく溝状遺構の埋土の上部で文明軽石（文明ボラ・白ボラ 1476年）の



第3図 天神河内第1道跡土層図

層が確認されている。

2. VI層の遺構と遺物

VI層は、確認された最下層の文化層であり、時間的に全掘することが難しかった。そこで初年度を除いて、トレンチによる遺構・遺物の検出とその箇所の拡張という方法で調査を遂行せざるを得なかった。おのずと調査精度に粗密があることは否めない。また、最終年度のIV区は、県内での調査例が少ないのでIV層の調査に時間を費やしたため、VI層はわずかな面積しか調査できなかった（第4図）。

VI層で検出された遺構は集石遺構のみ24基である。この集石遺構の一部については、焼石の熱ルミネッセンス法による年代測定と残存脂肪分析を行った（第V章参照）。また、出土遺物については、調査期間及び報告書作成期間の都合上、層位的な検討ができなかった。

1. 集石遺構

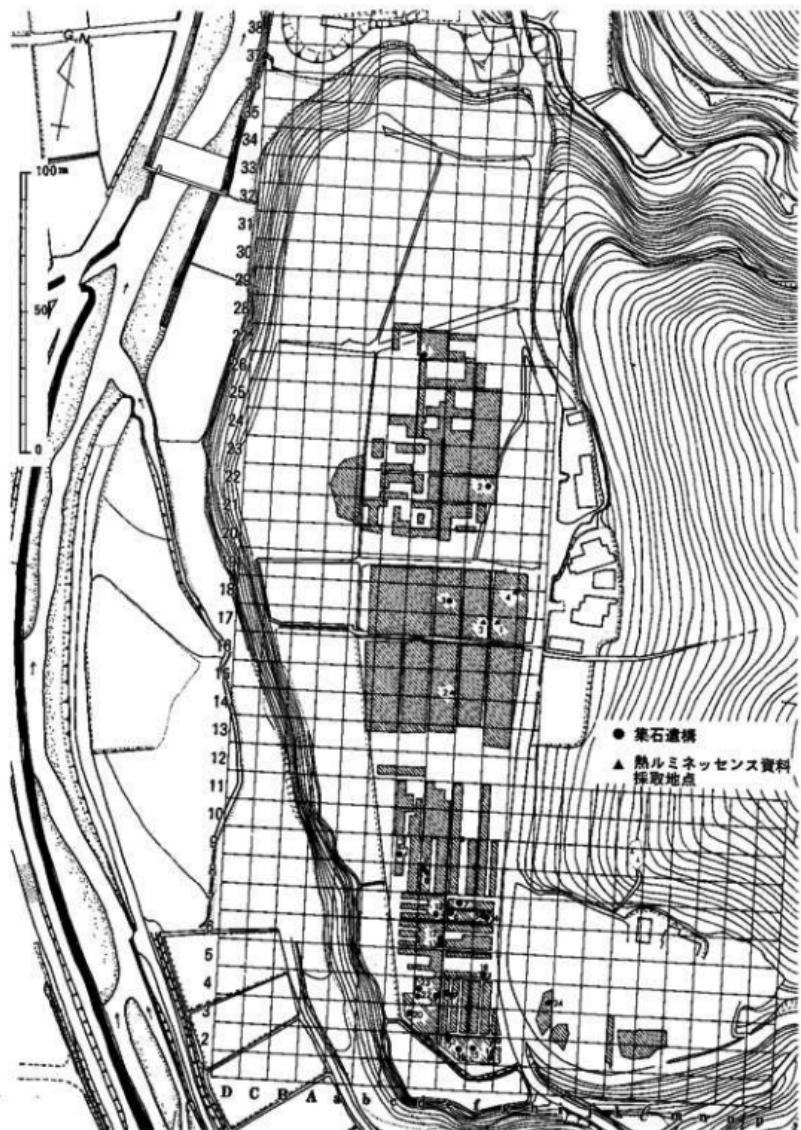
遺構はVI層の下部のVI層に近い部分で主に検出されている。分布の中心はIII区の南半部にあり、遺物もこの付近に多く出土している。形態的には焼石が20個前後のものから200個を超えるものまであるが、下部に掘り込みのあるものは少ない。また、この層には数多くの大きめの河原石が単独で散乱している一方それらの集積したものも見られる。

S I 1～S I 6（第5図）

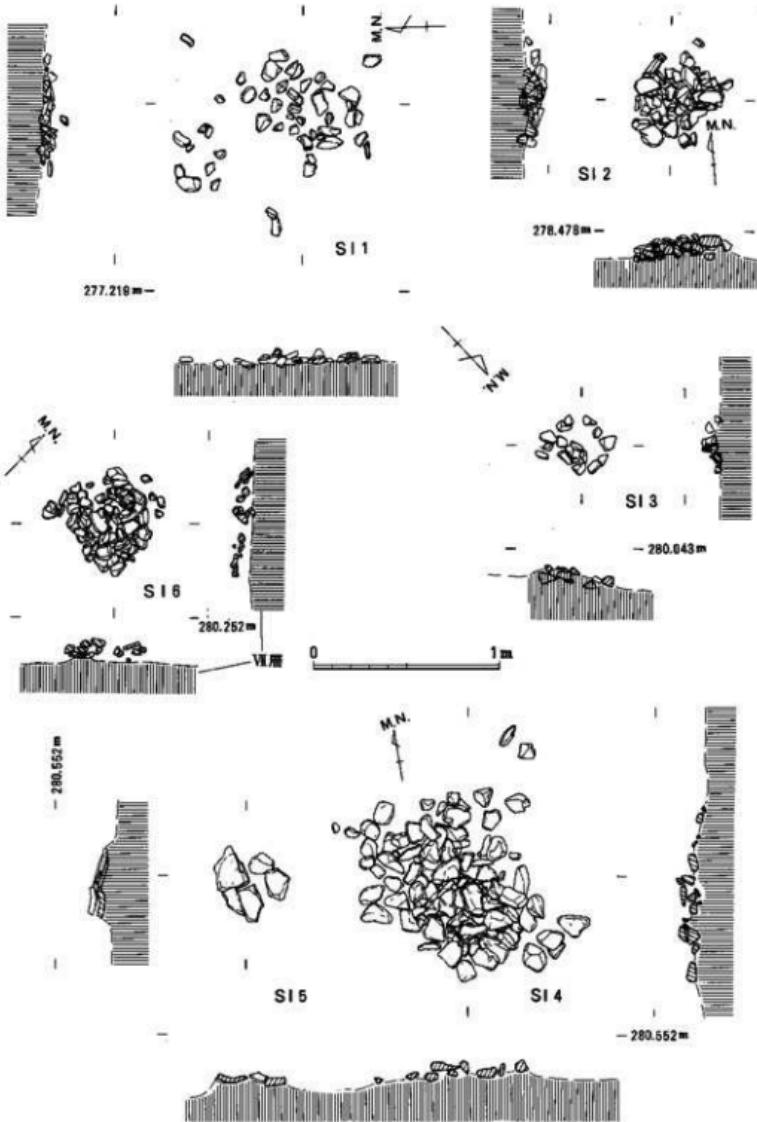
S I 1は、VI層最下部で検出。礫は赤変したものが多く炭化物（スス状のもの）が付着している。素手で取り上げたが、特に炭化物が多く付着したものは残存脂肪分析に出した。直径1m程の範囲に広がり、下部に掘り込みは見られない。S I 2は、赤変し割れた礫が直径50cm程の範囲に集積していたが、下部に掘り込みは見られなかった。礫には黒色の炭化物の付着したものが多々、遺構の上下や周辺の土とともに残存脂肪分析を行った。S I 3は、少量の礫が直径40cm程の範囲に集積していた。下部に掘り込みはない。S I 4・5は、VI層最下部で検出。VI層上面よりやや上位面であった。S I 4は、20cm前後の大きめの河原石を多く用い、赤変し割れたものも多い。数は多くないが、所々に黒色のスス状の炭化物が付着しているものもある。下部に掘り込みは見られない。S I 5は、熱を受けたと思われる大きめの河原石の剥離片がS I 4の近くに集まっていたものであるが、赤変したものや炭化物の付着したものなどは見られなかった。S I 6もVI層最下部で検出した。礫に顯著な赤変はない。半分程の礫には黒色のスス状のものが付着している。河原石は4～10数cmの大小偏平なものが多く用いている。掘り込みは見られない。

S I 7～S I 12（第6図）

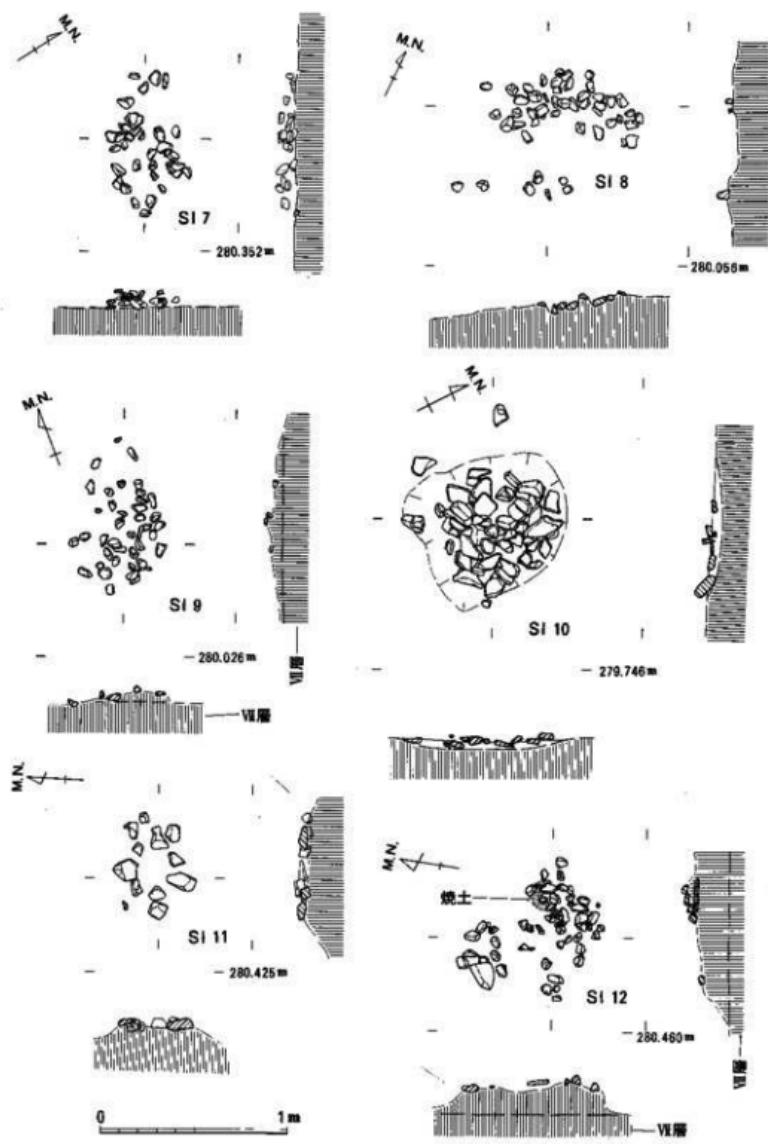
S I 7は、VI層最下部で検出した。数個の礫を除いて赤変は見られない。炭化物の付着も殆ど見られない。礫は5～10cm程の割合偏平な河原石である。下部に掘り込みは見られない。



第4図 VI層調査区の設定及び透構分布図



第5図 集石遺構実測図(1) VI層



第6図 集石遺構実測図(2) VII層

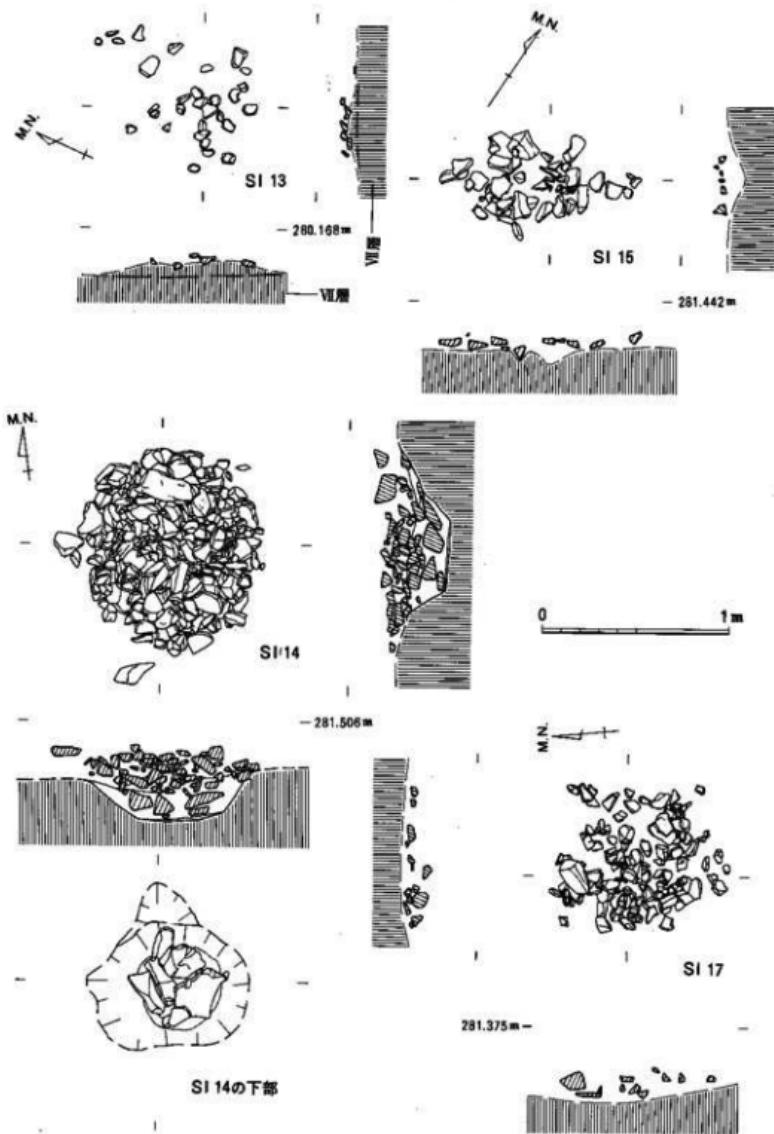
S I 8は、8cm以下の大さがほぼそろった丸い河原石を用いる。赤変し割れたものは量的に少なく、炭化物も数個の礫の下側に付着しているのみである。掘り込みはみられない。S I 9は、VI層最下部で検出された。3~8cmの丸っこい小振りの河原石を用い、いずれも赤変したり黒変したりしている。また、1/3程の礫にはスス状の炭化物が付着している。礫は積重ならず面上的に広がる。下部に掘り込みは見られない。S I 10は、5cm程度の礫から20数cmの礫を用いている。偏平で角の丸い河原石またはその割れたものである。殆ど赤変し、スス状のものが付着している礫がかなりある。掘り込みは明確ではないが、礫周辺の柔らかい土を取り除くと浅い落ち込み状になった。底はVII層に達する。S I 11は、少量の拳大よりやや大きめの角張った河原石が面上的に広がるもので、下部に掘り込みは見られない。いずれの礫も脆く赤変し、炭化物が点々とあるいは広範囲に付着している。カシワバン直下で検出。S I 12は、15cm前後の河原石1個のほかはすべて10cm以下の小振りの河原石を用いている。小振りの礫は、脆くやや赤変し、割れたものが多い。炭化物の付着は少ない。大きめの河原石は黒色の付着物が多い。礫間に焼土面があり、赤く焼けた薄い上層とその下に黒色の硬い層が見られる。掘り込みは見られない。

S I 13~S I 15・S I 17(第7図)

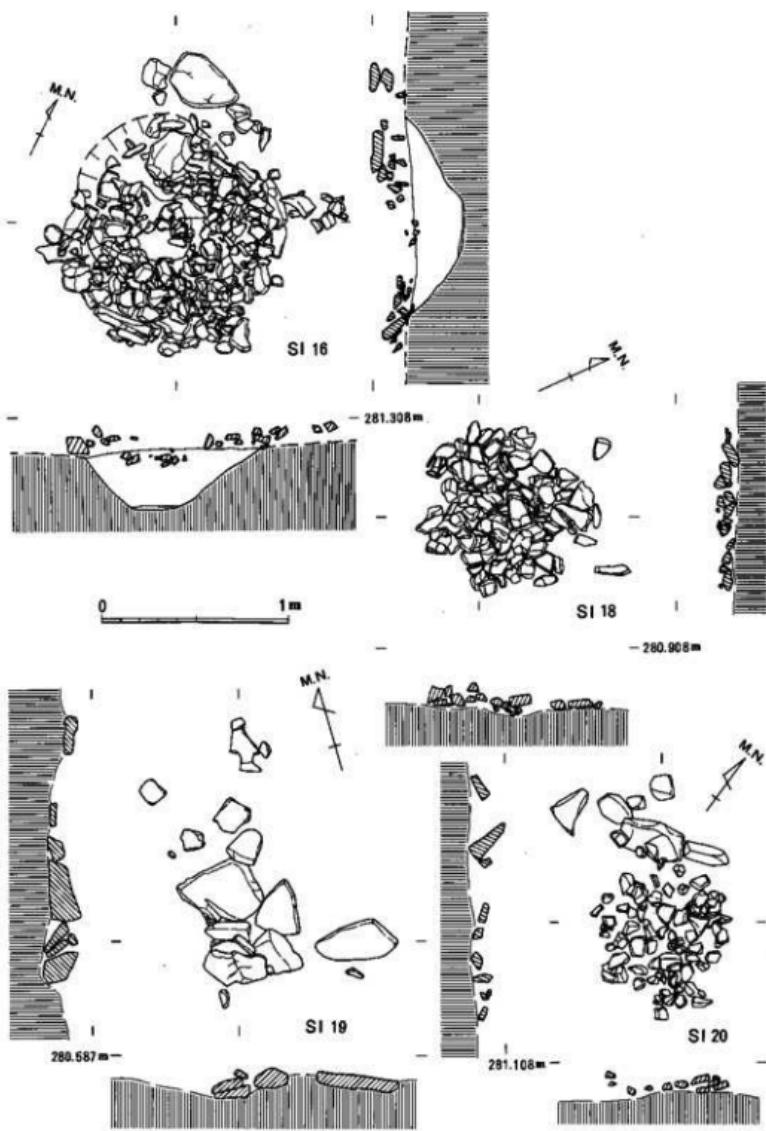
S I 13は、VI層最下部で検出され、主に8cm以下の丸い河原石が面上的に広がる。礫は殆ど赤変しているが、炭化物の付着したものは見られない。また、下部に掘り込みも見られない。S I 14は、当遺跡の中で最も本格的な集石遺構といえる。VI層最下部で検出した。上部は、5~10数cm程の角の丸い河原石を使用。下部には、大きな割れた石などを用いている。これらの石を除去し、VI層と同色の柔らかい土を取り除くとVII層(漆黒色)の上面で半球状の掘り込みが確認できた。礫の状況からみて掘り込みはVI層から掘り込まれたものと考えられる。遺構内の礫は、割れたものがかなり多くいずれも赤変している。黒色の付着物のある礫はそう多くない。III区南端部一帯には散礫が見られた。そこで比較的まとまった状態で検出された礫群が次のS I 15である。VI層最下部で検出。下部に明確な掘り込みは見られないが、部分的なくぼみが数箇所見られた。礫は5~17cm程の大きめの河原石を用い、そのうち半数は赤変や黒変している。割れたものも多い。炭化物の付着は見られない。S I 17もIII区南端部の散礫群にあって、平均5~10数cmの礫が比較的集中していたものである。礫はいずれも河原石で割れたもの赤変したものが多い。炭化物や黒変のあるものは少ない。遺構はVI層最下部で検出したが、礫除去後、VII層上面は浅いくぼみ状になった。

S I 16・S I 18~S I 20(第8図)

S I 16は、III区南端の散礫群中で検出された。直径約1.2mの円形を呈する。河原石は大小様々で割れているものが多い。いずれも薄く赤変し顯著なものもみられる。礫の周囲はVI層の土であったが、礫下はVII層に似ているが柔らかい土である。この土を除去したところ梢円形の



第7図 築石遺構実測図(3) VI層



第8図 集石造構実測図(4) VI層

落ち込みとなつた。底はⅦ層に近く、暗黃白色土が見られる。S I 18はVI層最下部、Ⅶ層上面で検出された。10数cm～15cm前後の礫が直径90cm程に集積している。いずれも赤変しひび割れて脆い河原石である。礫間及び周囲はVI層の土で掘り込みは見られない。S I 19は、ほかの集石造構とは異なり、大きな河原石がⅦ層上面に集積した状態で検出された。礫はひび割れて少し赤っぽい感じであるが、顕著な赤変は見られない。人為的に組み合わされた状態ではなく、ここでは一応集石造構をして取り上げておく。下部に掘り込みは見られない。S I 20は、VI層最下部で検出された。河原石を用いているが、脆くひび割れし赤変の目立つものが多い。炭化物の付着したものは少ない。下部に掘り込みは見られない。直下はⅦ層上面である。

S I 21～S I 24 (第9図)

S I 21は5～10数cm大の丸っこい河原石を用いる。いずれも赤変が顕著である。黒変のあるものやスヌ状の炭化物が多く付着した礫も見られる。造構はVI層下部で検出され、掘り込みは見られない。S I 22は、大きめの河原石と割れた小さな角礫の大小の礫が見られる。いずれも薄く赤変している。下部の黒く柔らかい土を除去するといびつな落ち込みになった。S I 23は、上部に15cm前後の河原石が集積し、その下部には4個の偏平な河原石が配置されていた。割れたものは少なく、薄く赤変したものが多い。礫間はVI層の土で直下は柔らかい土であったが、これを除くと不定形の浅い落ち込みになった。S I 24は、IV区のⅦ層上面で5～10数cm程の河原石が集積した状態で検出された。礫は赤変し脆くなつたものが多い。下部に掘り込みは見られない。

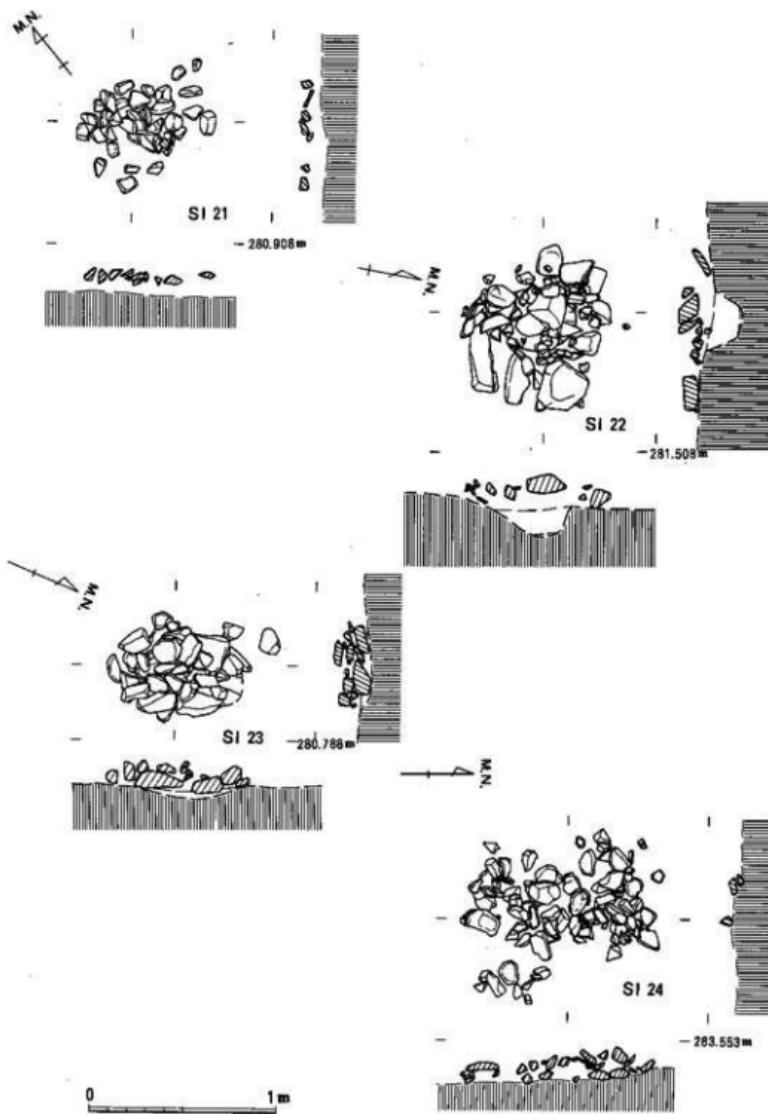
2. 土器 (第10図～第24図)

VI層は再三述べたとおり面積的には最も時間的制約を受けて発掘した層である。この良好な包含層から少量ずつながら様々な種類の土器が出土している。しかし、今回は土器についての平面的な分布状況、層位的検討などを行えなかつたので、現地での観察所見を若干述べておく。まず、第10図1は、II区のS I 1周辺でVI層下部から主に出土しており、第12図21や第22図130などはIII区のV層直下で、第17図70～72は同区のVI層最下部からⅦ層上面あたりで出土している。図化した土器は、各類各地区から主なものを選択したものであるが、観察表のグリッド欄を参照されれば大体の分布傾向は押さえられると思う。

さて、出土土器については次のとおりに分類した。個別の観察所見は表を参照されたい。

I 類土器

「前平式土器」とよばれているものである(1～7)。器形はバケツ形の円筒形をなすもの(1～5・7)や角筒形(6)もある。文様は、口縁端部には縦の連続押圧文を、その下には主に貝殻腹縁による横方向の太い条痕文を施す。口唇部には刺みを施すものと刺みのないものがある。また、口縁端部も連続押圧が1段のものと2段のものがある。1は、この2段の連続押圧文の途中に細く浅い沈線で境界線を引き、その下に太い貝殻条痕文を丁寧に施している。

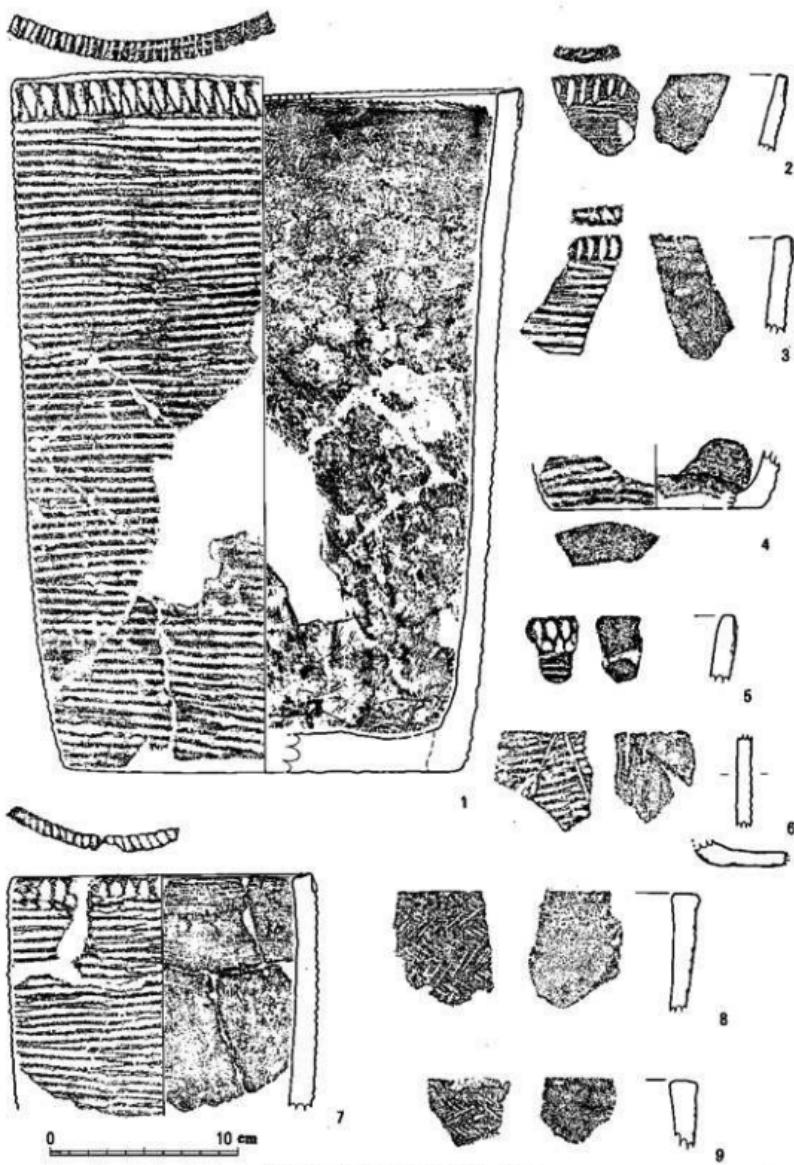


第9図 集石遺構実測図(5) VI層

縄文土器観察表(1)

(〃は同上)

図面号	出 土 地 区 グリッド	文 様	画 整	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外表面	内表面		
1	II b-27	口縁部に押圧刻み。口縁部に2段の連續押圧文。いずれもヘラ状工具。その下に区画の浅い沈鉢文。	外表面は太い日経条痕文。内部は上部が削り、下部はナデ。	黒	黒	2ミリ以下の砂粒が多い。	
2	III f-6	口縁部に神社工具による短沈鉢。その下に条縞文(クシ状工具)。	内外面ともナデ。	褐	灰	浅黄褐	1ミリ以下の砂粒が多い。
3	〃 f-2	口縁部にごく浅い押圧文。口縁部に連續押圧文。	外表面は太い日経条痕文。内部はナデ。	灰	黄	褐	において黄褐色
4	〃 e-2	—	外表面は太い日経条痕文。内部、表面はナデ。	黄	褐	—	細砂粒が多い。
5	IV j-3	口縁部に神社工具による、2段の押圧刻み。下部は条縞文で消される。	外表面は日経条痕文。内部はナデ。	において褐	において黒	—	
6	〃 f-3	ヘラ状工具による沈鉢文。内部に貝殻腹側工具による刻突文。	外表面は太い日経条痕文。内部は削り。	において	において	—	1ミリ以下の砂粒が多い。 角筒土器。
7	〃 d-2	口縁部にヘラ状工具による押圧刻み。口縁部に神社工具による連續押圧文。	外表面はてのひねい日経条痕文。内部は口縫付近がナデ。その下は削り。	において褐	黒	—	3ミリ以下の砂粒が多い。 外面上にスス。
8	III c-3	貝殻腹縫による彫杉文。	外表面はナデ。内部はてのひねいナデ。	淡	黄	白	4ミリ以下の砂粒、1ミリ以下の雲母が多い。
9	〃 e-3	—	内外面ともナデ。	黑	褐	において黄	2ミリ以下の砂粒、雲母が多い。 外面上にスス。
10	〃 d-4	ヘラの彫杉文。口縁部に貝殻腹縫文。口縁部下部に貝殻腹側工具による刻突文。	外表面は上部がナデ、下部は貝殻腹縫文。内部はナデ。	黒	黒	—	穿孔あり付。
11	〃 d-3	口縁部に貝殻腹側刻突文。その下にヘラ彫杉文。	外表面はナデ。内部はてのひねいナデ。	〃	黄	褐	2ミリ以下の砂粒が多い。
12	〃	ヘラ彫切沈鉢文。	内外面ともナデ。	褐	灰	褐	2ミリ以下の砂粒が多い。
13	IV j-2	カシ状工具による連續鋸歯文。	内外面ともナデ。	において	において	黄褐色	3ミリ以下の砂粒が多い。 外面上部にスス。
14	〃 k-3	カシ状工具による連續鋸歯文。	外表面はナデ。内部はミガキ。	において	において	黄褐色	2ミリ以下の砂粒が多い。 13と同一個体と思われる。
15	III d-3	カシ状工具による波状文。	外表面はナデ。内部は口縫部がヘラナデ、削りはラミガキ。	において	において	黄褐色	2ミリ以下の砂粒、雲母が多い。
16	〃 〃	—	外表面は下部、底面はヘラミガキ。内部はてのひねいナデ。	において	において	黄褐色	2ミリ以下の砂粒が多い。 底面に白色物質。13と同一個体。
17	〃 〃	—	外表面はナデ。内部はラミガキ。	において	において	黄褐色	2ミリ以下の砂粒、雲母が多い。
18	IV m-3	—	外表面は上部がナデ、下部がてのひねいナデ。内部はてのひねいナデ。	黒	黒	—	
19	III d-3	先の平らなヘラ状工具による浅い羽状文。	内外面ともナデ。	において	において	黄褐色	2ミリ以下の砂粒、雲母が多い。
20	IV f-2	貝殻腹縫または棒状工具による浅い斜縫文。	外表面は口縫部がナデ。その下は貝殻条痕文。内部はナデ。	において	褐	灰	1ミリ以下の砂粒が多い。
21	III d-4 e-4	口縫部にヘラ状工具による押圧刻み。先の平らなヘラ状工具による浅い彫杉文。	外表面はナデ。日経条痕文の後ナデ、貝殻腹縫文。	明	赤	褐	2ミリ以下の砂粒、雲母が多い。
22	〃 f-2	口縫部にヘラ状工具による押圧刻み。先の平らなヘラ状工具による浅い斜縫文。	内外面ともナデ。	灰	褐	褐	5ミリ以下の砂粒が多い。 波状口縫と思われる。内部にスス。
23	〃 d-4	口縫部にヘラ状工具による刻み。ヘラ状工具による浅い彫杉文。	内表面はナデ。	灰	黄	褐	1ミリ以下の雲母が多い。
24	〃 c-11	口縫内面に凹凸縫文、外表面に押圧刻み、その下浅い凹凸縫文。いずれも先の平らなヘラ状工具。	内外面ともナデ。	において	黒	褐	—
25	〃 〃	口縫内面、外表面に凹凸縫文、その下に浅い凹凸縫文。いずれも先の平らなヘラ状工具。	外表面はナデ。内部はてのひねいナデ。	淡	黄	褐	において黄褐色
26	〃 f-2	口縫部にヘラ状工具による押圧刻み。先の平らなヘラ状工具によると思われる浅い斜縫文。	内表面はナデ。	において	において	黄褐色	—
27	〃 〃	—	—	黒	黄	褐	3ミリ以下の砂粒が多い。 外面上にスス。26と同一個体と思われる。



第10図 繩文土器実測図(1) VI層

器面調整は、内面はナデまたは削りで、明るい橙色系の色調のものが多い。

II類土器

胴部に比べて口縁部が肥厚しやや内湾気味に直立、底部は狹まる器形のものである。内面調整はナデまたはミガキである。口唇部の形、文様や施文具の違いから2類に分けられる。

a類

口唇部が平坦で横方向に綾杉文を施す土器である（8～12）。口唇部に刻みなどは見られない。このうち、8・9は貝殻腹縁で10～11はヘラ状工具で綾杉文を施し、10には貝殻腹縁の刺突文や縦の短沈線文も見られる。前者の文様は「下剥峰式土器」の胴部文様に類似するものと思われる。また、12は同類と見てここに入れた。

b類

口唇部はやや丸みを帯び、クシ状工具で横方向の羽状文もしくはその簡略化されたような縦方向の連続鋸歯文と思われる文様（13・14）あるいは波状文（15～18）を施す土器である。「桑ノ丸式土器」と呼ばれるものと思われる。19は先端が平らなヘラと思われる施文具で横方向の羽状文を施すもので、20も同様の文様を見て一応この類に入れておく。しかし、施文具や調整、口縁端部の様子など多少異なっているので別類の可能性もある。

III類土器

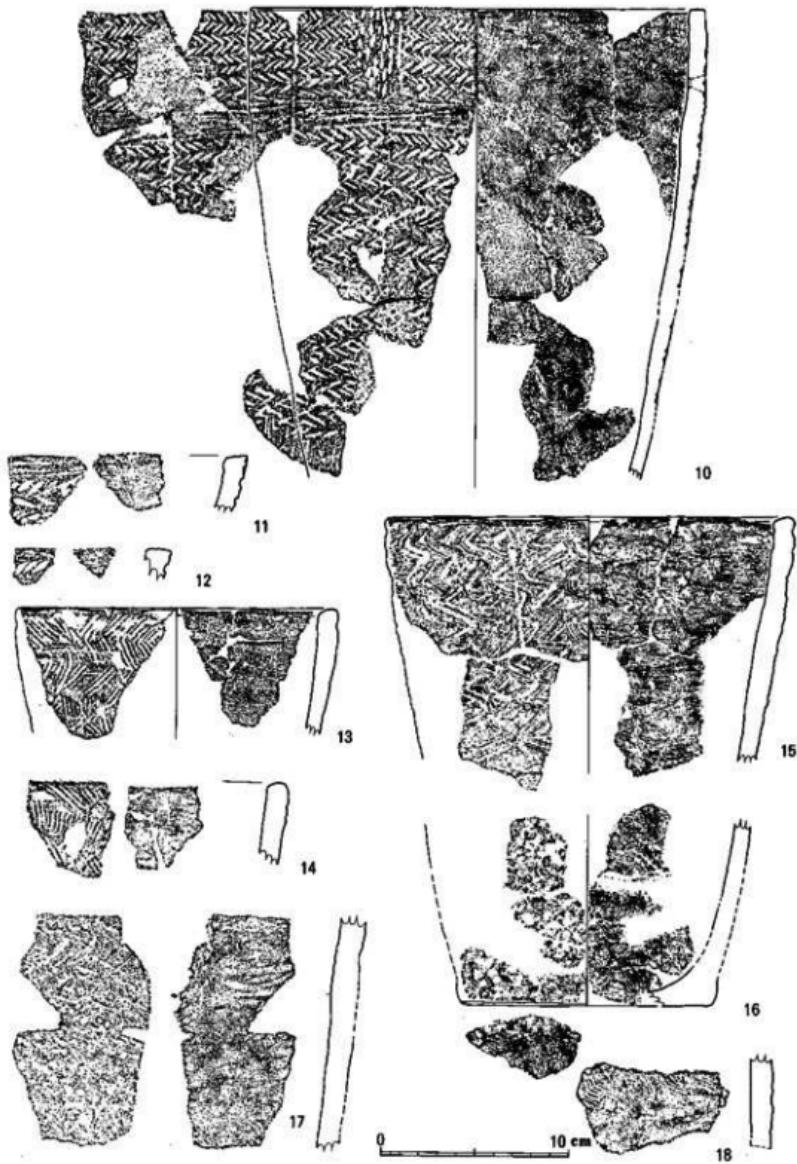
わずか1点のみであるが、II類と同様の器形で口縁部が内湾気味に直立し、底部付近は狹まる。しかし、器壁の厚さはあまり変わらず口唇部は丸く成形される土器である（21）。口縁端部外面には刻みを施し、胴部には先端の平らなヘラ状工具と思われる施文具で縦方向の綾杉文が施される。内面は貝殻条痕文の上をナデしている。この胴部文様は「石板式土器」の胴部文様に類似するものである。

IV類土器

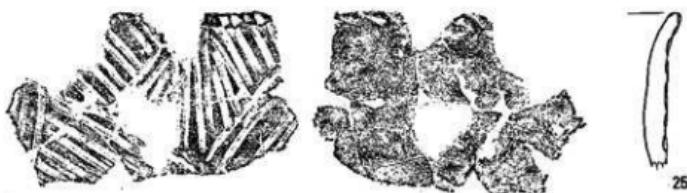
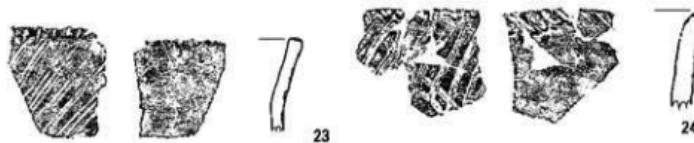
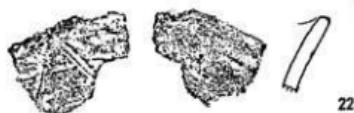
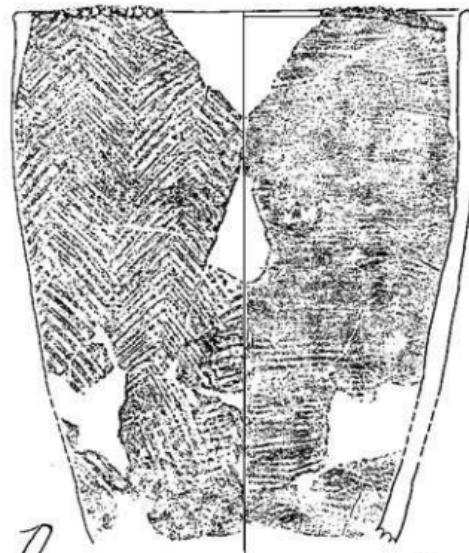
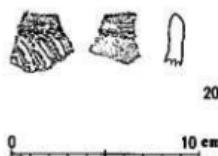
口縁部が外反または外傾する土器で、口縁端部あるいは口唇部に刻みを施し、胴部は先端が平らなヘラ状工具と思われるもので浅い曲線文や斜線文を施す（22～27）。器面調整はナデである。このような文様の土器は、鹿児島県山崎日遺跡や大分県下菅生B遺跡・右京西遺跡のものに類似すると思われるが、県内では清武町赤坂遺跡のものに近い。ただ、赤坂遺跡の土器は内面の調整は同じであるが文様の施文間隔が狭く、器面に微隆起線文状の細い粘土の盛り上がりが見られる。

V類土器

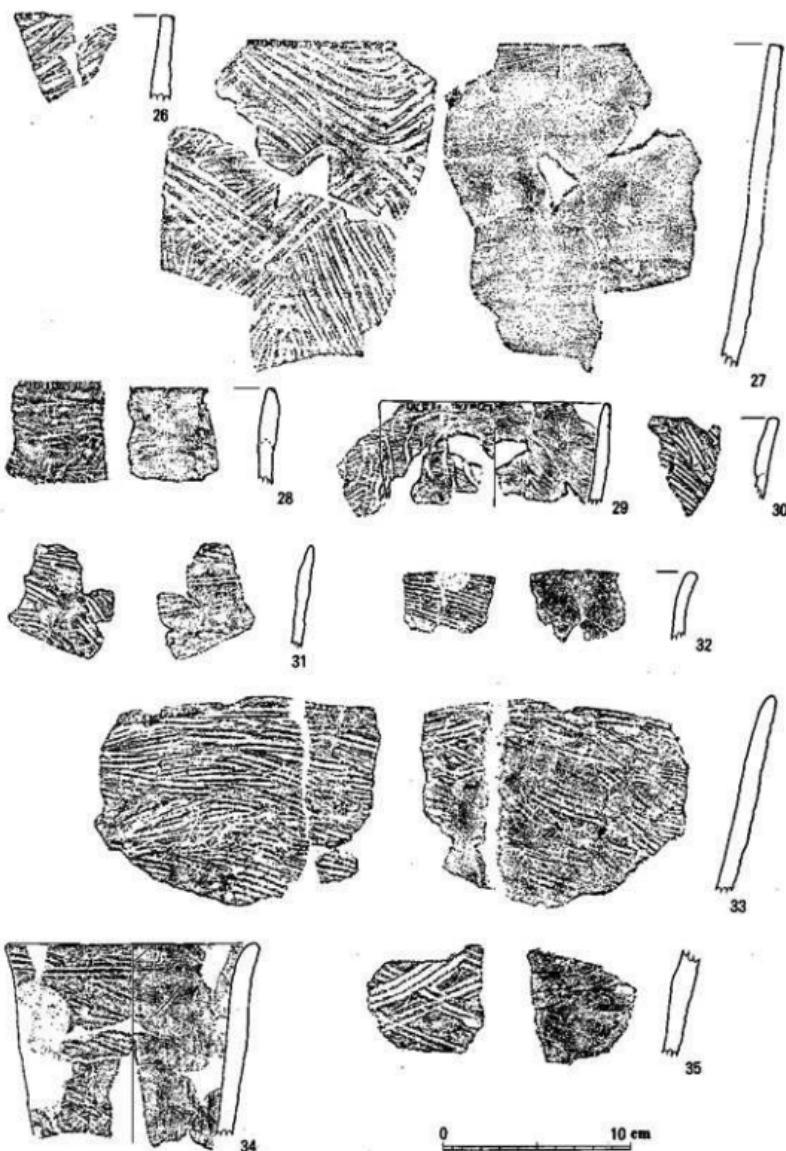
全体形を知り得るのはわずかに1点であるが、器形は、底部から胴部が直線的に外傾し口縁部で外反するもので、胴部に2～3条単位の斜格子文を施すもの（35～37）。36は口縁端部に貝殻腹縁による刻みを施し、胴部には同施文具による刻みを施した部分的な貼付突帯が見られる。このような同部文様は貝殻文系の塞ノ神式土器によく見られる文様であり、貼付突帯は下



第11図 縄文土器実測図(2) VI層



第12図 繩文土器実測図(3) VI層



第13図 縄文土器実測図(4) VI層

縄文土器觀察表 (2)

器番号	出土地 ダーリット	文 様	調 整	色 調		胎 土の特徴	備 考
				外表面	内表面		
28	III d-4	口縁部へラ状工具による不規則な押 圧跡み。その下に貝殻飾文。と思わ れる工具によるごく浅い追跡刻文。	内外面ともナデ。	におい黄 灰 黄	におい黄 灰 黄	2ミリ以下の雲母を 含む。	外側にスス。
29	" e-4	口縁部面にへラ状工具による 押圧跡み。その下に棒状工具によ る浅い曲線文。	外表面は貝殻飾文。 内表面は貝殻飾文の後 ナデ。	におい褐 灰 褐	-	-	外側上部にスス。
30	" f-4	-	外表面は貝殻飾文。 内表面はナデ。	におい褐 灰 褐	-	-	
31	" "	-	外表面はナデ。貝殻飾文。 内表面は貝殻飾文の後ナデ。	棕	におい黄	-	外側にスス。
32	" e-2	-	外表面は貝殻飾文。 内表面は上部がナデ、下部がへ ナデでないかなナデ。	浅黄 棕	灰 褐 灰	-	外側にスス。
33	" d-9	口縁端部にへラ状工具による浅 く不規則な押圧跡み。	内表面と内貝殻飾文。 内表面はナデ。	淡 黄	におい黄	-	外側上部にスス。
34	" d-3	-	外表面は貝殻飾文。内表面 は上部がナデ、下部がへ ナデ。口縁部はナデ。	浅黄 棕	灰 黄	におい褐	-
35	IV k-2	棒状工具によるとと思われる3条 単位の斜格子文。	内外表面ともナデ。	におい褐 褐	におい褐 褐	3ミリ以下の砂粒が 多い。	
36	III e-7	口縁部に貝殻飾文による押圧跡み。 その下に貝殻飾文による棒状工具によ る斜格子文。貝殻飾文のある追跡刻文。	-	におい褐	におい褐	4ミリ以下の雲母を 含む。	外側上部にスス。 下部から底面に 白色物質。
37	"	2条単位の斜格子文。	-	におい褐 灰	におい褐 灰	5ミリ以下の砂粒が 多い。	外側上部にスス。 36と同一個体。
38	" f-9	口縁部に貝殻飾文による押圧跡み。 その下に貝殻飾文による棒状工具によ る斜格子文。その下に貝殻飾文によ る追跡刻文。	外表面は上部がナデ、下 部は貝殻飾文の部分 あり。内表面はへラ削り。	浅黄 棕	灰 黄	-	外側上部にスス。 内面下部に炭化 物。
39	IV k-3	口縁端部に貝殻飾文による追跡 刻文。その下に貝殻飾文によ る追跡刻文。	内外表面ともナデ。	におい褐 褐	におい褐 褐	2ミリ以下の砂粒が 多い。	内面に炭化 物。
40	" "	貝殻飾文による追跡刻文。そ の下に追跡刻文。	-	"	淡 黄	2ミリ以下の雲母を 含む。	
41	III e-11	比較文の下に刻実列点文。そ の下は比較文で区画された中に捲 文。	内表面はナデ。	棕	におい褐	-	外側上部にスス。
42	" d-11	3条の比較文の下に刻実列点文。 その下は比較文で区画された中 に捲文。	-	"	棕	-	
43	I e-15 e-18	沈縫文の両側に捲文。	内外表面ともナデ。	棕 におい褐	*	-	
44	III e-10	沈縫文で区画された中に捲文。	-	棕	灰 褐	-	
45	" d-11	-	内表面はナデ。	褐 灰	浅黄 棕	1ミリ以下の砂粒が 多い。	外側にスス。
46	IV h-3	-	外表面はナデ。 内表面は削りと思われる。	棕 黄	棕 褐	2ミリ以下の砂粒が 多い。	
47	III f-6	4条の沈縫文の上に、1条の齒 縫文(いわゆる浅い)。その下は 網目状捲文と思われる。	内外表面ともナデ。	におい黄 褐	におい褐 褐	極く細かい雲母を含 む。	
48	" "	沈縫文の下は網目状捲文と思 われる。	内表面はナデ。	"	灰 黄	-	47と同一個体と 思われる。
49	" f-3	網目状捲文。	内外表面ともナデ。	におい黄 褐	浅黄 棕	1ミリ以下の砂粒が 多い。	外側にスス。
50	" f-3	網目状捲文の上に沈縫文。	-	淡 黄	浅黄 棕	2ミリ以下の砂粒が 多い。	外側にスス。 45と同一個体と 思われる。
51	f-3	-	内外表面ともナデ。	灰 黄	におい黄	1ミリ以下の砂粒が 多い。	外側にスス。 45と同一個体と 思われる。
52	" "	-	-	灰	灰モリーブ	2ミリ以下の砂粒が 多い。	外側にスス。 45と同一個体と 思われる。
53	" "	-	-	"	暗 灰 黄	1ミリ以下の砂粒が 多い。	外側にスス。 45と同一個体と 思われる。
54	" d-7	腹部と肩部にへラ状工具によ る追跡刻文。肩部にへラ搔きの 浅い沈縫文。	外表面は削り状のナデ。 内表面はへラ削り。	におい黄 褐	におい褐	-	外側にスス。



第14図 縄文土器実測図(5) VI層

剥峰式土器に見られるという突起に類似するものかも知れない。

VI類土器

「柏田式（三代寺式）土器」と呼ばれる貝殻文系の塞ノ神式土器である（38～40）。貝殻腹縁により口縁端部に刻み、その下に連続刺突文が施される。器形はV類に類似する円筒形のもの（38）と頸部でく字形に屈曲するもの（39～40）とがある。38の胸部には2本の太い沈線で区画された中に条線文が見られる。

VII類土器

器形は、頸部がく字形に屈曲し、胸部はやや膨らんだ円筒形、底部は若干上げ底または平底を呈するものと思われる。撚糸文・繩文・沈線文・連続刺突文（刺突列点文）などを組み合わせた文様が施される土器でいわゆる撚糸文系の塞ノ神式土器である。文様によって4類に分けられる。

a類

2本の太い沈線文で区画された中に撚糸文・繩文帯が見られるもの（41～46）。口縁部の形はわからないが、頸部で屈曲すると思われ、そこに棒状工具による沈線文と刺突列点文が見られる。

b類

撚糸文帯が沈線文で区画されないもの（47～53）。縦方向の撚糸文帯に沈線文が組み合わされる。

c類

ヘラ状工具による連続刺突文や沈線文の組み合せという割合単純な文様のもの。胸部が屈曲するもの（54～55）と円筒形になると思われるもの（56～57）がある。後者は口唇部に丁寧な刻み目や短沈線文などが見られる。62～67はこの類の頸部付近と思われる。

d類

口縁部片のみであるが、ヘラ状工具による沈線文や刻み目のある微隆起線文が見られ、口縁部の途中で再度屈曲するいわゆる二重口縁状になる土器である（58～61）。施文はいずれもごく浅い。口唇部に浅い丁寧な刻み目が見られる。

底部

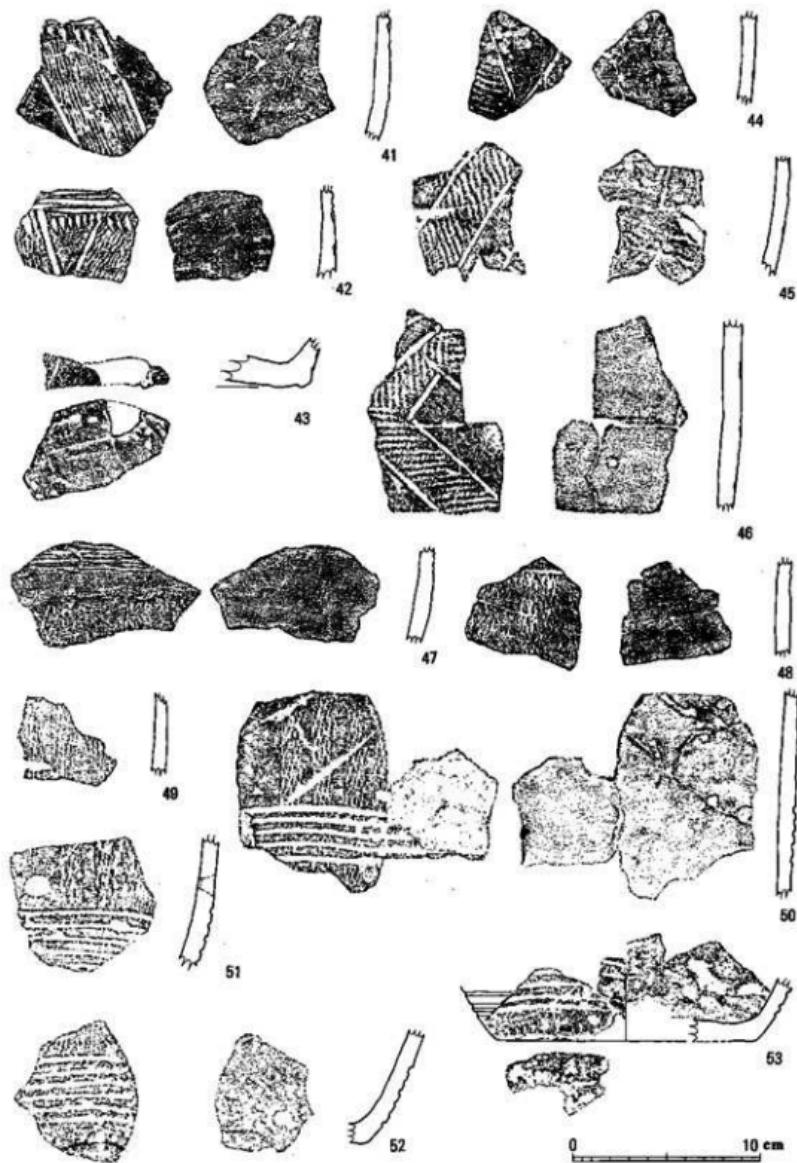
68～69は比較的器壁が薄く若干上げ底または平底に近いものでこのVII類の底部と考えられる。

VIII類土器

撚糸文・押型文土器である。施文原体の違いから2類に分けられる。しかし、70と73～78とは施文部位・器形など類似点が多い。

a類

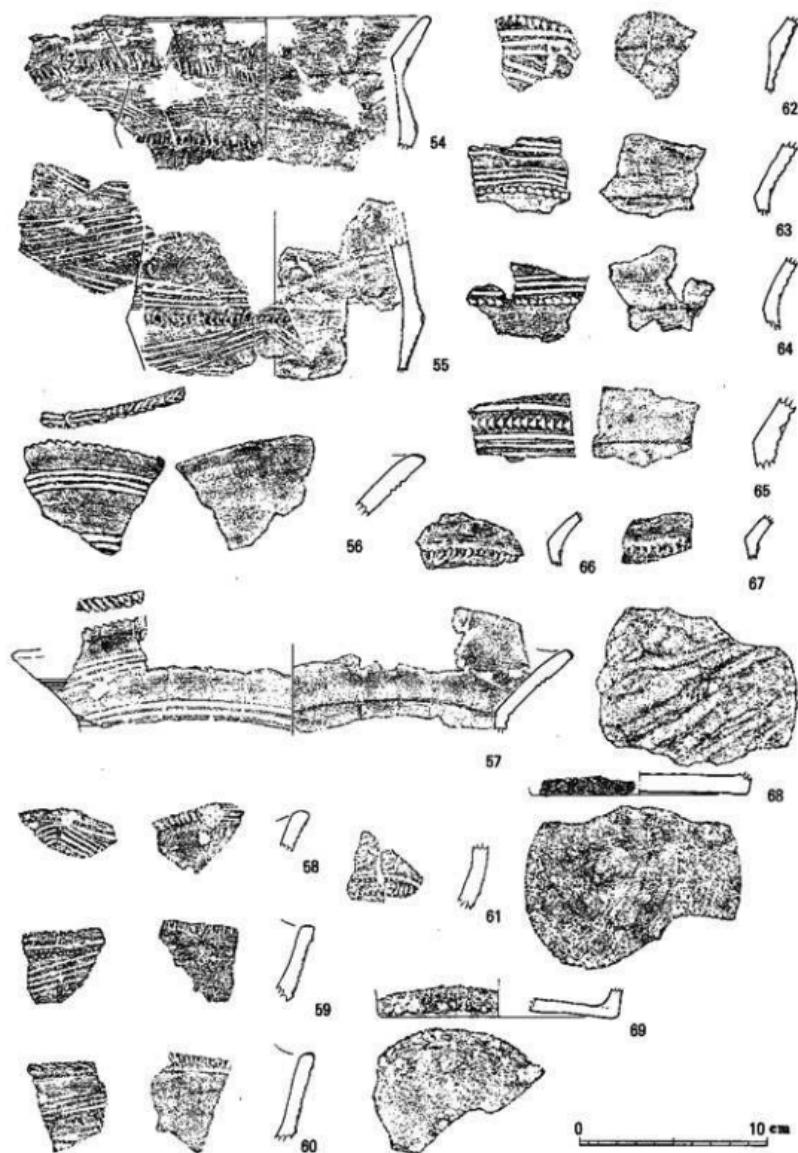
撚糸文を施すもの（70～72）。器形は、底部付近が狭まり胸部がやや膨らんで口縁部はわず



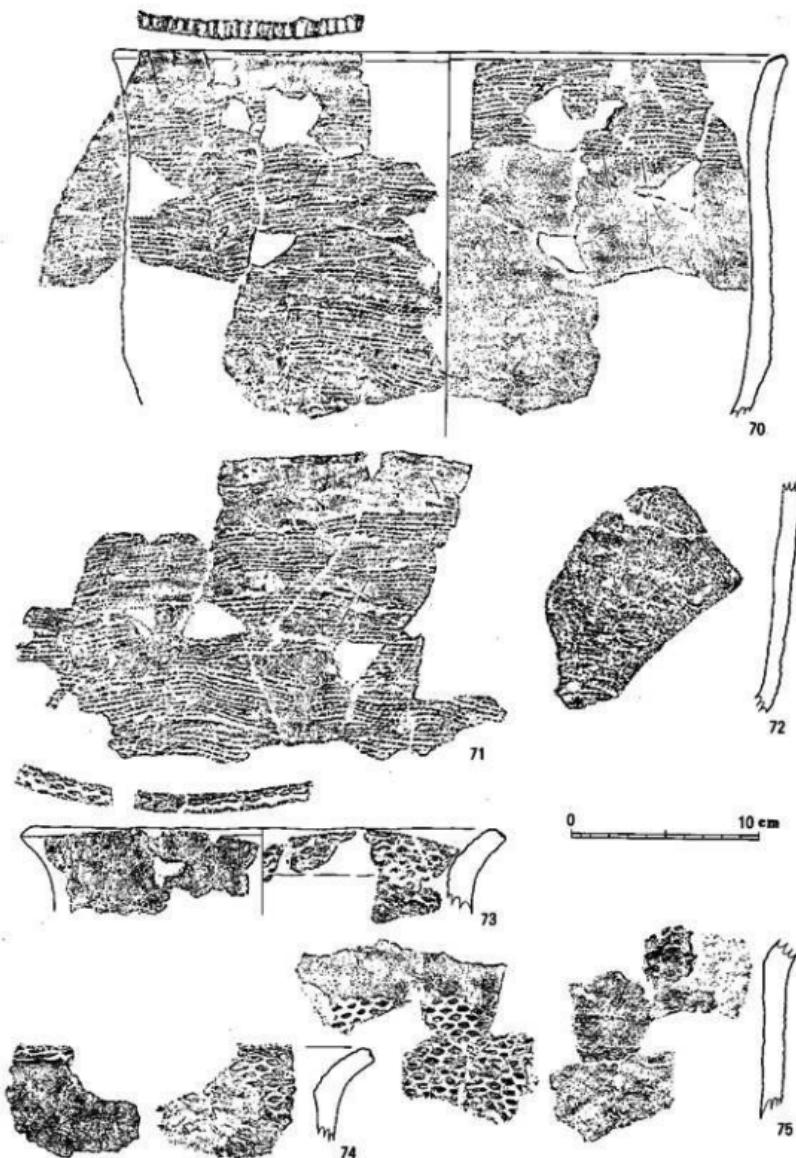
第15図 繩文土器実測図(6) VI層

縄文土器觀察表 (3)

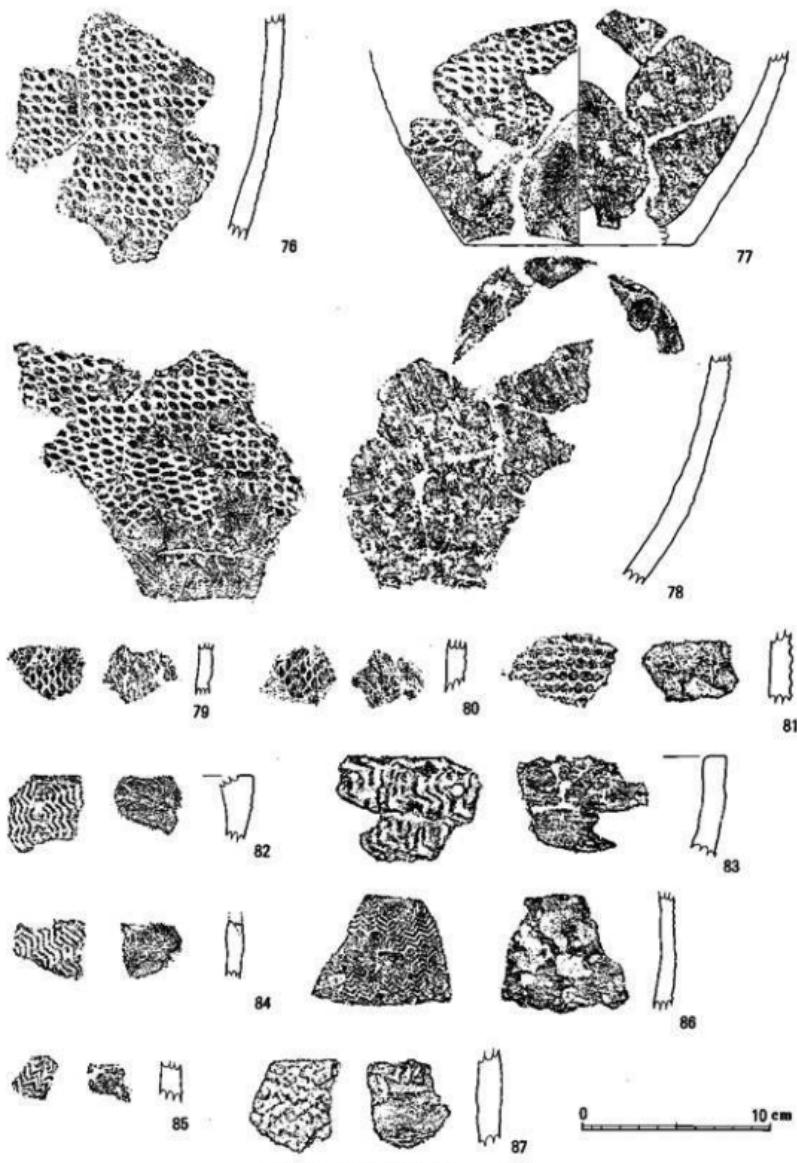
番号	出土地 名	文 様	調 査	色 調		胎 土の特 徴	備 考
				外表面	内表面		
55	■ d-7	腹部にヘラ状工具による連続刻突文。その下はヘラ削きの浅い縦文。	外面はナデ。内面は削りまたは深いナデと思われる。	桜	に深い桜 に深い桜	-	外表面下部にスス。
56	" e-8	口唇部にヘラ状工具による沈線文と押圧刻み。口唇部折れも押圧刻み。その下に5重の沈線文。	内外面ともナデ。	に深い桜	に深い桜	1ミリ以下の砂粒が多い。	外表面にスス。長い波状口縁。
57	d-9 e-8	"	外面はナデ。内面はヘラナデ。	"	"	-	低い波状口縁。 56と同一個体。
58	" E-3	口唇部にヘラ状工具による沈線文と押圧刻み。口唇部折れも押圧刻み。その下に5重の沈線文。	内面はでないなナデ。	"	"	1ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縁。
59	d-3~4	口唇部にヘラ状工具による沈線文と押圧刻み。口唇部折れも押圧刻み。口唇部折れも押圧刻み。その下に5重の沈線文。	外面はナデ。内面はヘラナデ。	桜	"	"	55と同一個体。
60	" E-3	口唇部にヘラ状工具による沈線文と押圧刻み。口唇部折れも押圧刻み。口唇部折れも押圧刻み。その下に5重の沈線文。	外面はナデ。内面はでないなナデまたはヘラナデ。	"	緑 灰	"	"
61	" "	ごく浅い沈線文。その下に刻目 跡起線文。	内面はナデと思われる。	"	桜	"	"
62	B e-26	ヘラ状工具による刻突列点文の下 に沈線文。	内外面ともナデ。	灰 黄 桜	に深い青緑	-	
63	■ d-7	沈線文。その下に刻突列点文(無 文具は貝殻か)。	外面はナデ。内面は削り。	碧 に深い青緑	黄 桜	-	
64	" "	"	"	に深い青緑	青 貝 骨 に深い青緑	-	63と同一個体と 思われる。
65	IV h-3	沈線文。その下に先端三角すい状 の工具による刻突列点文。その下 に沈線文。	内外面ともナデ。	に深い青緑	浅 黄 桜	1ミリ以下の砂粒が多い。	
66	II	低い突堤上に連続刻み。	"	桜	明 桜 灰	-	
67	" c-21	"	"	"	桜	-	66と同一個体と 思われる。
68	" d-23	抛糸文と思われる。	内外面ともナデ。底 面は強い削り状のナ デとミカゲ状の調整。	灰 黄 桜	"	2.5ミリ以下の砂粒、 底面にスス、白 色物質。	
69	■ f-2	-	内外面ともナデ。	に深い桜	に深い青緑	3ミリ以下の青母が 多い。	上げ底。
70	" d-5	口唇部に棒状工具による押圧刻み。 内外面とも押圧文。	"	桜	碧 桜	1ミリ以下の砂粒が 多い。	
71	" "	"	"	-	-	-	70と同一個体。 拓本のみ。
72	" "	撚糸文。	内面はナデ。	桜	暗 灰 黄	1ミリ以下の砂粒が 多い。	70と同一個体。
73	I c-16	口唇部から口縫部内面に棒円押型 文。	外面はでないなナデ。内面はヘラ削り。	"	に深い桜	4ミリ以下の砂粒が 多い。1ミリ以下の 砂粒を含む。	
74	" "	"	"	"	"	2ミリ以下の砂粒が 多い。1ミリ以下の 砂粒を含む。	73と同一個体。
75	" "	口唇部内面、外面唇部に棒円押型 文。	"	"	桜	2ミリ以下の砂粒が 多い。	"
76	" "	棒円押型文。	外面はナデ。内面はヘラ削り。	に深い桜	に深い桜	2ミリ以下の砂粒が 多い。2ミリ以下の 砂粒を含む。	"
77	c-16 d-16	"	外面はナデ。内面は上 部がヘラ削り、下部が ナデ。	桜	"	3ミリ以下の砂粒が 多い。	"
78	c-16	"	"	に深い桜	"	2ミリ以下の砂粒が 多い。	"
79	■ f-6	"	内面は削り。	"	に深い桜	2ミリ以下の砂粒、 青母が多い。	
80	" d-6	"	"	"	"	"	79と同一個体。
81	IV k-2	"	内面はナデ。	淡 黄 桜	3ミリ以下の砂粒が 多い。		



第16図 横文土器実測図(7) VI層



第17図 繩文土器実測図(8) VI層



第18図 線文土器実測図(9) VI層

かに外反する。口唇部に刻み、口縁部内面と口縁部下半以下に撻糸文が横方向に施文される。

b類

押型文を施すもの（73～87）。73～78は、平底の底部から大きく広がり脣部は直立、口縁部で強く外反する器形である。口唇部・口縁部内面・頸部以下に梢円押型文が施される。82～83は口縁部が直立するものでⅡ類土器の口縁部形態に類似する。87は格子目と思われる押型文土器である。

IX類土器

「手向山式土器」と呼ばれるものである。器形は、胴部が屈曲し口縁部は緩やかに外反する。口縁部内面に押型文と思われるものが見られ、口縁端部には刻みが施される。地文に粗大な山形押型文を施しその上に棒状工具による曲線文や直線文、胴屈曲部には突帯を巡らし押圧刻みを施すもの（88～97）と、微隆起線文が見られるもの（98～99）、沈線文と胴屈曲部にへら刻みが施されるもの（100）などが見られる。このうち100は、VIIc類の54と同類の可能性もあるが、沈線が54より深く一応この類に含めておく。

X類土器

「平桟式土器」と呼ばれるものである。やや膨らんだ胴部から頸部でわずかにくびれ口縁部が長く伸びて外反する器形である。口縁部形態や文様などから3類に分けられる。

a類

口縁部が玉縁状に厚く肥厚するものである（101～107）。棒状工具による刺突文と沈線文、刻み目のある貼付突帯などを組み合わせて施文する。このうち101の口縁部文様はIX類88の曲線文と類似性が見られる。また、106の胴部片は103に比べると無文部が見られる。

b類

a類程ではないが口縁部がやや長めに肥厚するもので、文様から次の2類に細分できる。

b 1類

棒状工具による刺突文や沈線文、刻み目のある突帯などがa類に比べて割合密に施されるものである（108～112）。113～114は突帯と刺突文の、115～118は沈線文や刻み目のある突帯などの施文法の類似性からこの類に含めた。

b 2類

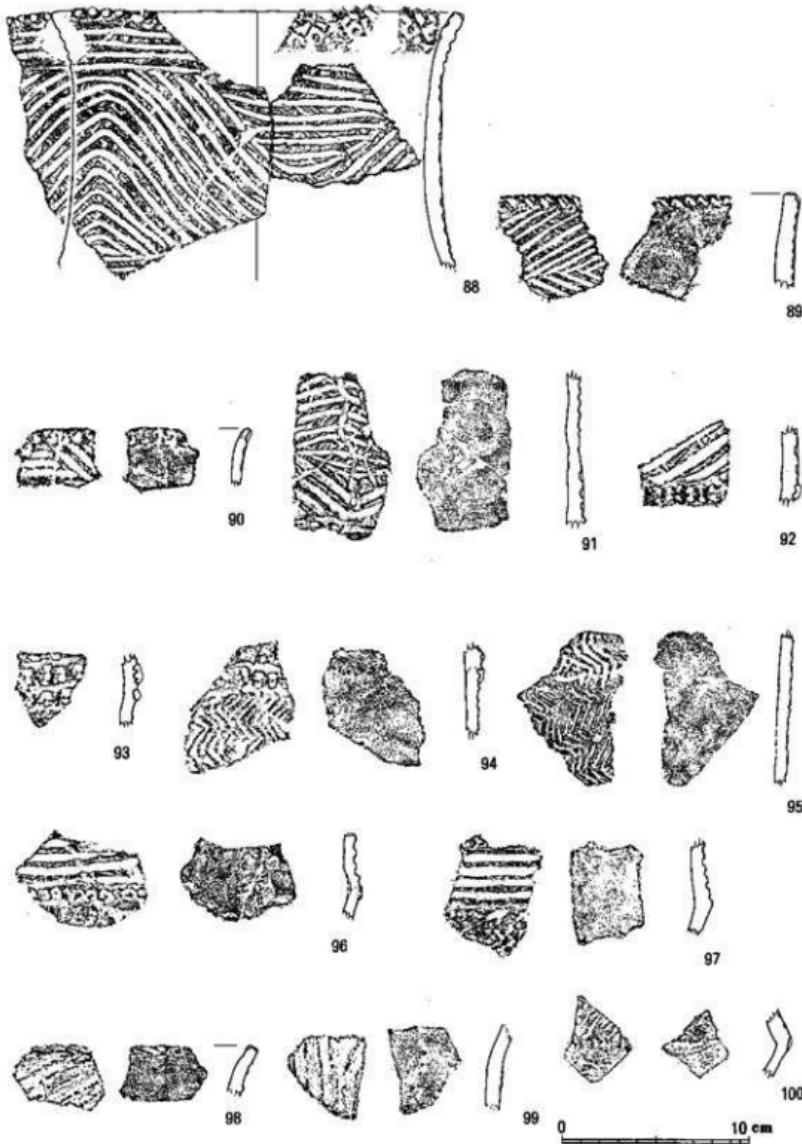
胴部文様に繩文が見られ、口縁部は無文のもの（119～125）。119は頸部付近に120は刻み目突帯の下部にごく浅い繩文がみられ、121・122・124・125には繩文の結節部が見られる。

c類

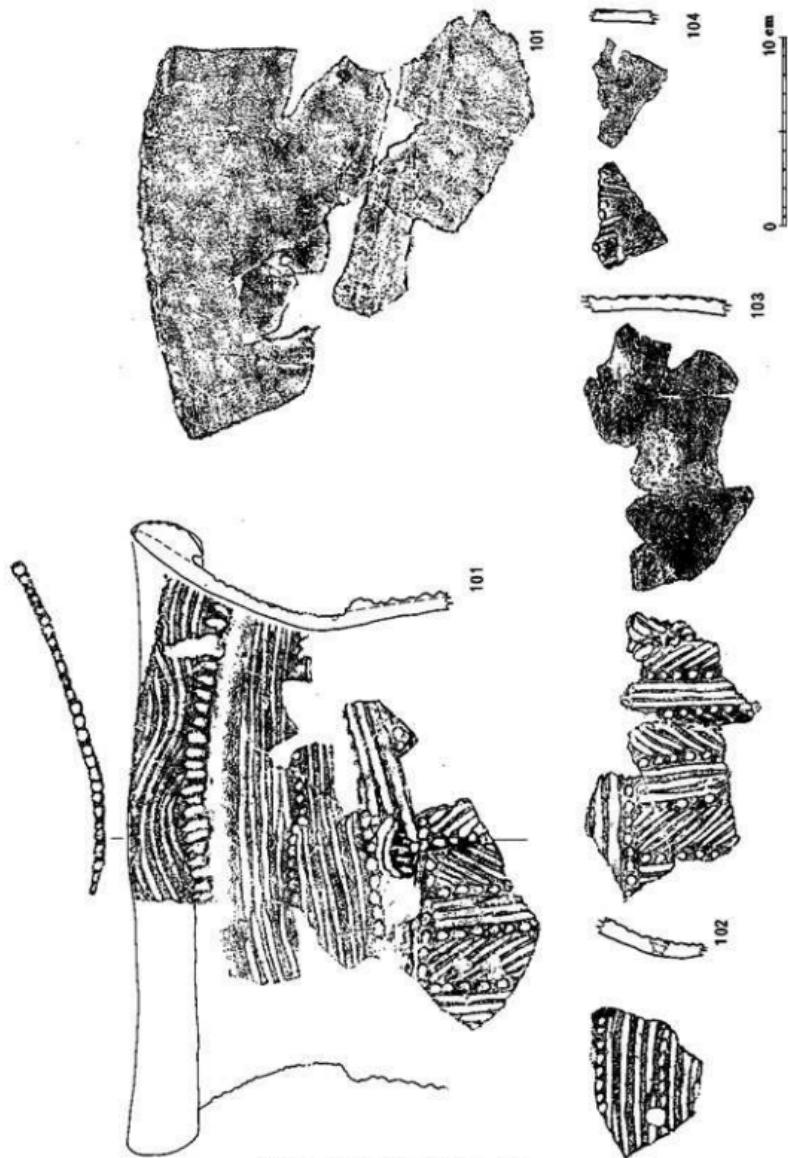
口縁部がa・b類のように肥厚せず、若干内湾気味に伸びるもの（126～134）。刺突文と沈線文が交互に組み合わされて施される。このうち、127には刻み目突帯が貼付されている。また、130～133は頸部がく字形に屈曲していることなどVIIc・d類土器に類似しているが、文

縄文土器観察表(4)

器名	古 名 片 グリッピ	文 様	調 整	色 調		胎 土 の特 徴	備 考
				外表面	内表面		
82	N j-2	山形押型文。	内面、口唇部はていねいなナデ。	にぶい橙	にひいまき	2ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	
83	" -	粗大な山形押型文。	内面はナデ。 口唇部はミガキ。	褐	"	2ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	
84	Ⅲ d-4	山形押型文。	内面はナデ。	にぶい橙	にひいまき	2ミリ以下の砂粒、 1ミリ以下の菱母が 多い。	
85	" d-3	"	内外面ともナデ。	褐	淡黄	2ミリ以下の砂粒が 多い。	外面にスス。
86	" f-3	"	内面はナデ。	にぶい橙	浅黄	-	
87	N f-3	格子目押型文。	"	褐	褐	-	
88	Ⅱ g-3	口縁底部に兩圧刻み。外面は山形押型文の上に沈刻文。(いずれも棒状工具)口縁底部も押型文。	内外面ともナデ。	灰	浅黄	粗黄	-
89	" d-4	口縁部に連続押型文。口縁底部に押型刻み。山形押型文の上に棒状工具による沈刻文。	"	にぶい橙	褐	-	
90	" -	口縁底部内側部に連続押型文。外面は棒状工具による押型文。	"	淡黄	淡黄	-	
91	" d-8	山形押型文の上に棒状工具による沈刻文。その下は突带上に連続刻印文。	"	黄	碧	にひいまき	
92	" "	"	"	褐	"	-	91と同一個体と 思われる。
93	" "	貼付突带上に連続刻印文。その下は山形押型文と思われる。	"	"	"	-	"
94	" "	突带上に連続刻印文。その下は山形押型文。	"	"	"	-	"
95	" "	山形押型文。	"	"	"	-	内面に炭化物。
96	" e-2	棒状工具による回轉文の下は、突带上に青状工具による刻印点文。	"	浅黄	褐	浅黄	-
97	" "	回上。その下は山形押型文と思われる。	内面はナデ。	淡黄	"	-	96と同一個体と 思われる。
98	" "	口唇部に押型文。その下は張脛起綱文。	"	灰黄	褐	淡黄	-
99	" "	張脣起綱文。	"	淡黄	"	-	96と同一個体と 思われる。
100	" d-4	沈刻文の下へナデ。	内外面ともナデ。	にぶい黄	にひいまき	2ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	
101	1 c-9 d-9	口唇部に押型刻み。口縁部は山形押型文と連続押型文。粗大な沈刻文と斜めに削りあわせた押型文。いずれも棒状工具。	内面はていねいなナデ、下部は削り、ナデ。	にぶい橙	褐	1.5ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	低い波状口縁。
102	" b-18	棒状工具による刻印点文と沈刻文。	内面上面はていねいなナデ、下部は削り。	褐	"	2.5ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	101と同一個体。 穿孔あり。
103	a-19 b-18	"	内面上面は削り気味のていねいなナデ、下部はナデ。	にぶい橙	"	3ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	"
104	" A-22	"	内外面ともナデ。	にぶい橙	にひいまき	2ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	101と同一個体の 脚部下半と思われる。
105	" b-19	口唇部に押型刻み。口縁部は沈刻文、斜めに削り点文、連続押型文。その下は沈刻文と斜め刻印点文。いずれも棒状工具。	内面はナデ、内面上面はへり状工具によるナデと 思われる。	にぶい橙	にひいまき	1ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	外面口縁部にス ス。
106	" b-18	棒状工具による沈刻文と斜め刻印点文。無文帶あり。	内面はナデ。内面上面は削り気味のていねいなナ デ、下部はナデ。	"	褐	2ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	101と同一個体と 思われる。
107	" a-19	回上。その後に押型刻みのある擦状尖端。	内面はナデ。	にぶい黄	にひいまき	1.5ミリ以下の砂粒、 菱母が多い。	外面にスス。101 と同一個体と思 われる。
108	IV i-3	棒状工具による刻印点文と沈刻文。肥厚下端部はヘラ状工具によ る削り。その下は口縫部に同じ。	内外面ともナデ。	"	"	-	



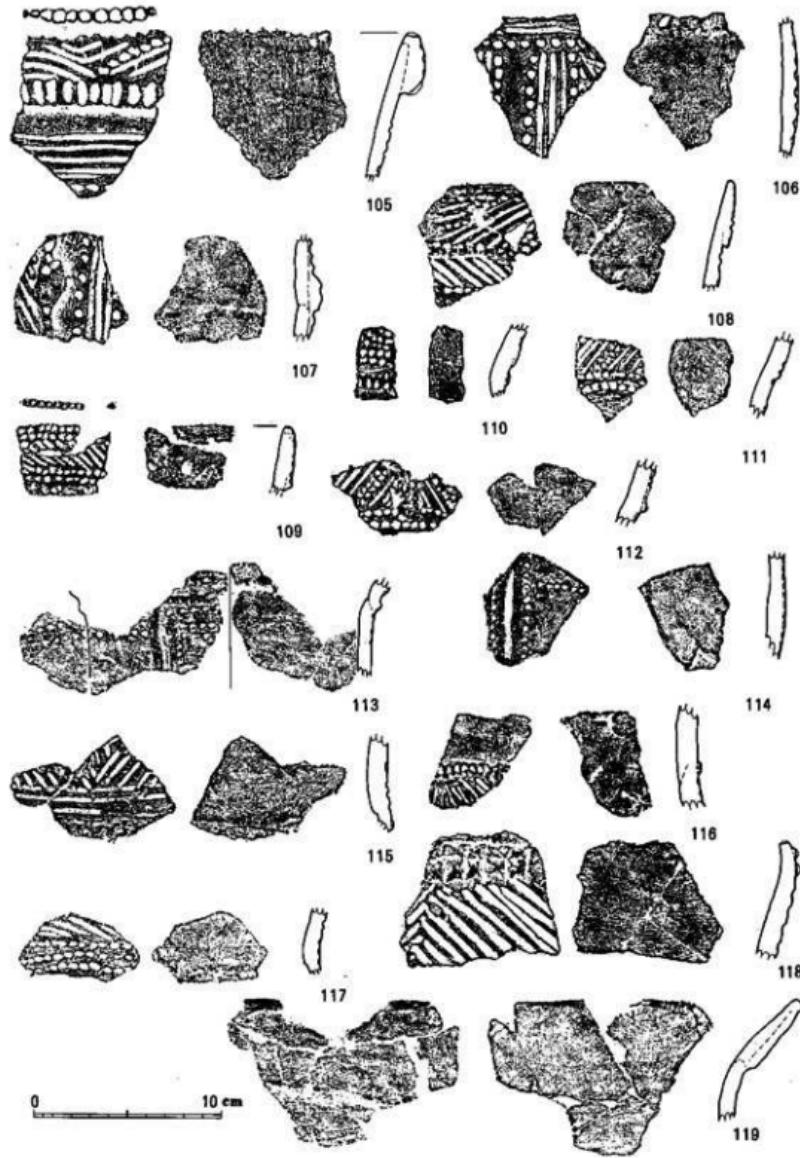
第19図 楽文土器実測図10 VI層



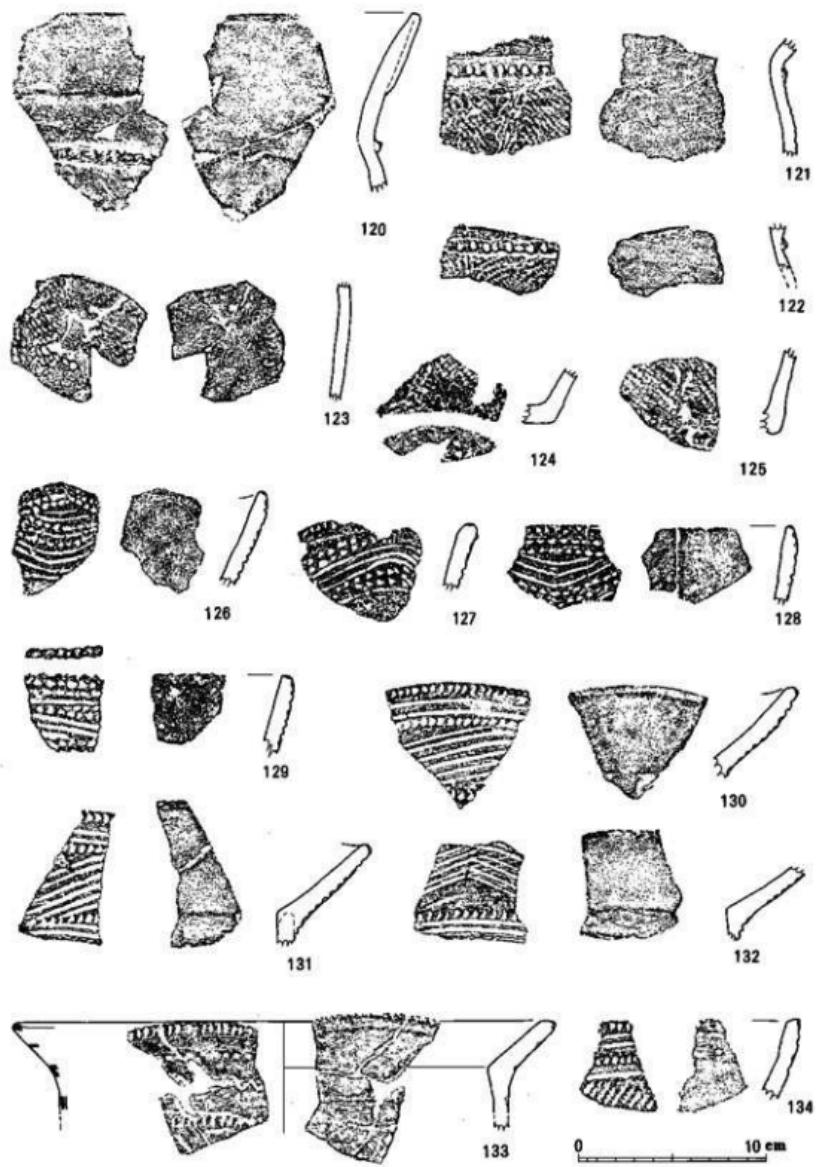
第20図 縹文土器実測図(11) VI層

縄文土器觀察表(5)

編番号	出土 場所 グリッド	文 様	調 整	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外表面	内裏面		
109	III d-5	口部に浅い押圧刻み。口縁部は 棒状工具による刺突列点文と沈線文。	内外面ともナデ。	淡 黄	淡 黄	-	肥厚口縁。
110	I e-19	骨状工具による刺突列点文の下に へら状工具による押圧刻みのある 點文。	-	にかい黃	灰 黃 褐	-	肥厚口縁付近。
111	III f-2	棒状工具による沈線文と刺突列点文。	-	-	にかい黃	-	-
112	" g-2	同じ上、中央に割り目のある低い貼 付突起。	-	にかい黃	灰 黃 褐	-	-
113	II d-24	刺突列点文と板・綫の貼付突起。綫 方向の突起の下側にも刺突列点文。	-	淡 黃 綫	淡 黃	-	-
114	" e-2	刺突列点文と綫・方向の貼付突起。 突起中央は凹線文。	-	-	淡 黃 綫	-	113と同一個体と 思われる。
115	III d-4	棒状工具による沈線文の下に、押 圧文のある貼付突起。	-	淡 黃	にかい黃	-	内裏下部に炭化物。
116	" e-2	棒状工具による刺突列点文のある 貼付突起の下に深い沈線文。	-	にかい黃	淡 黃	-	外面上部にスス。
117	IV i-3	沈線文と刺突列点文。いずれも棒 状工具。	外面はナデ。内裏はて いねいなナデ。	-	にかい黃	-	外面下部にスス。
118	" j-4	割りのある2歳の胎内突起。その下に 沈線文。いずれも棒状工具。	内外面ともナデ。	穢 にかい黒	にかい穢	-	-
119	III f-3	頭部附近に繩文。	-	にかい黃	黑 褐	1ミリ以下の砂母を 含む。	外面にスス。
120	" e-2 f-2	押圧刻みのある貼付突起。その下に 沈線文。	-	穢	穢	-	外面上部にスス。
121	" f-2	棒状工具による押圧刻みのある貼 付突起。その下は繩文と思われる。	-	にかい黃	穢	1ミリ以下の砂母を 含む。	外面上部にスス。 内裏下部に炭化物。
122	" e-2	へら状工具による押圧刻みのある 貼付突起。その下は繩文。	-	淡 黃	にかい黃	-	-
123	IV i-3	繩文。	内裏はナデ。	にかい穢	にかい褐	-	-
124	III d-6	"	内外面ともナデ。	淡 黃 褐	淡 黃	-	-
125	" e	結節繩文。	-	淡 黃	にかい黃	-	-
126	I d-18	口縁部にごく浅い押圧刻み。その 下に棒状竹管によると刺突列点文と 深い沈線文。	内裏はナデ。	にかい黃	灰 黃 褐	-	波状口縁。
127	" e-1	口縁部に押圧刻み、その下に刺突 列点文と棒状工具による刺突列 点文、曲輪文。その下に斜目点文。	-	穢	黃 褐 淡 黃	-	-
128	III f-2	口縁部にへら状工具による押圧刻 み。その下に棒状工具による刺突 列点文、沈線文を交互に施す。	内裏はていねいなナデ。	灰 黃	にかい黃	-	外面にスス。
129	" f-6	口縁部に押圧刻み。その下に棒状 工具による刺突列点文、沈線文を 交互に施す。	内裏はナデ。	にかい黃	穢	-	-
130	" d-6	口縁部にへら状工具による押圧 刻み。その下に棒状工具による沈 線文、刺突列点文を交互に施す。	外表面はナデ。内裏はて いねいなナデ。	-	-	-	-
131	" e-9	"	-	-	-	-	外面にスス。 130と同一個体。
132	" b-9	棒状工具による沈線文、刺突列点 文、沈線文の順に施す。	-	にかい穢	灰 黃 褐	にかい黃	-
133	" c-10	口縁部にへら状工具による押圧刻 み。その下に棒状工具による刺突 列点文と斜目点文と斜輪文。へら状工具によ る沈線文、斜輪文による沈線文。	内外面ともナデ。	褐 灰	褐 灰 黃	1ミリ以下の砂粒が 多い。	外面にスス。
134	IV h-3	CMB規則Cへの棒工具による押圧刻 み。その下に棒状工具による沈線文、曲輪文、 沈線文。	-	にかい黃	にかい黃	1ミリ以下の砂粒が 多い。	-
135	" k-m- 2-3	沈線文。	-	黑 褐	灰 黃 褐	2ミリ以下の砂粒が多 い。	-



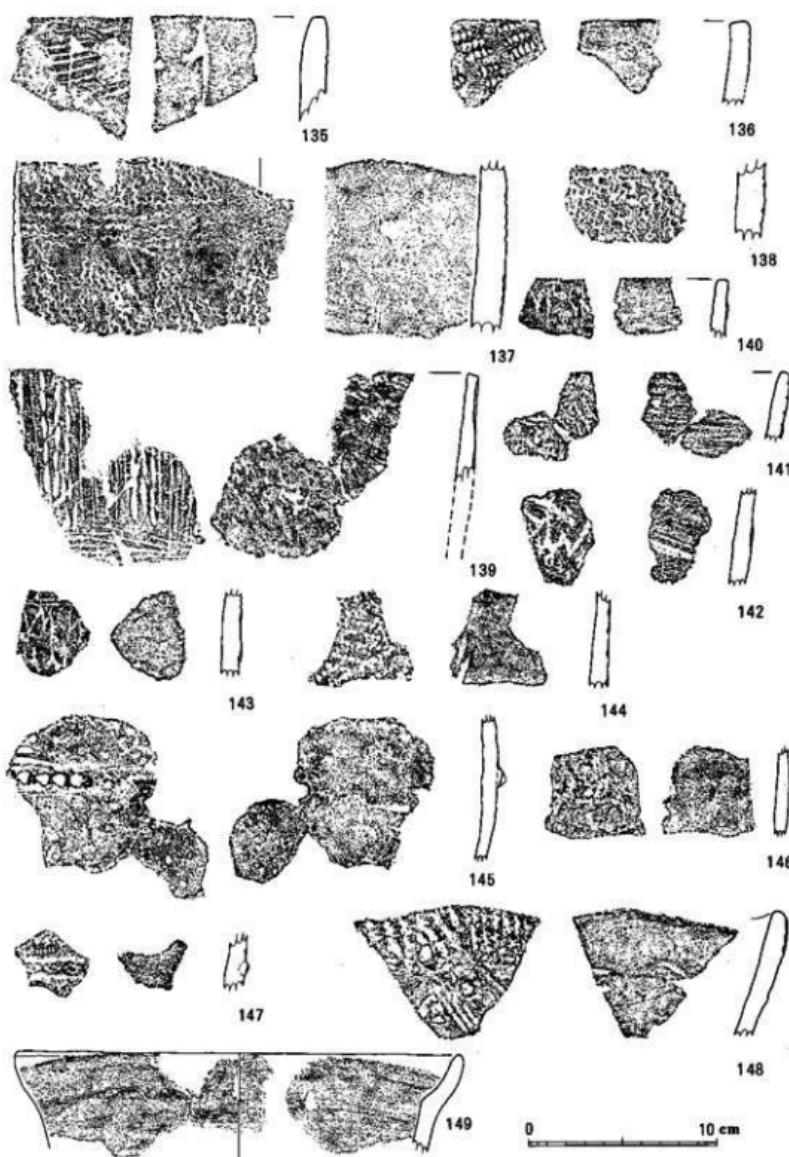
第21図 繩文土器実測図(12) VI層



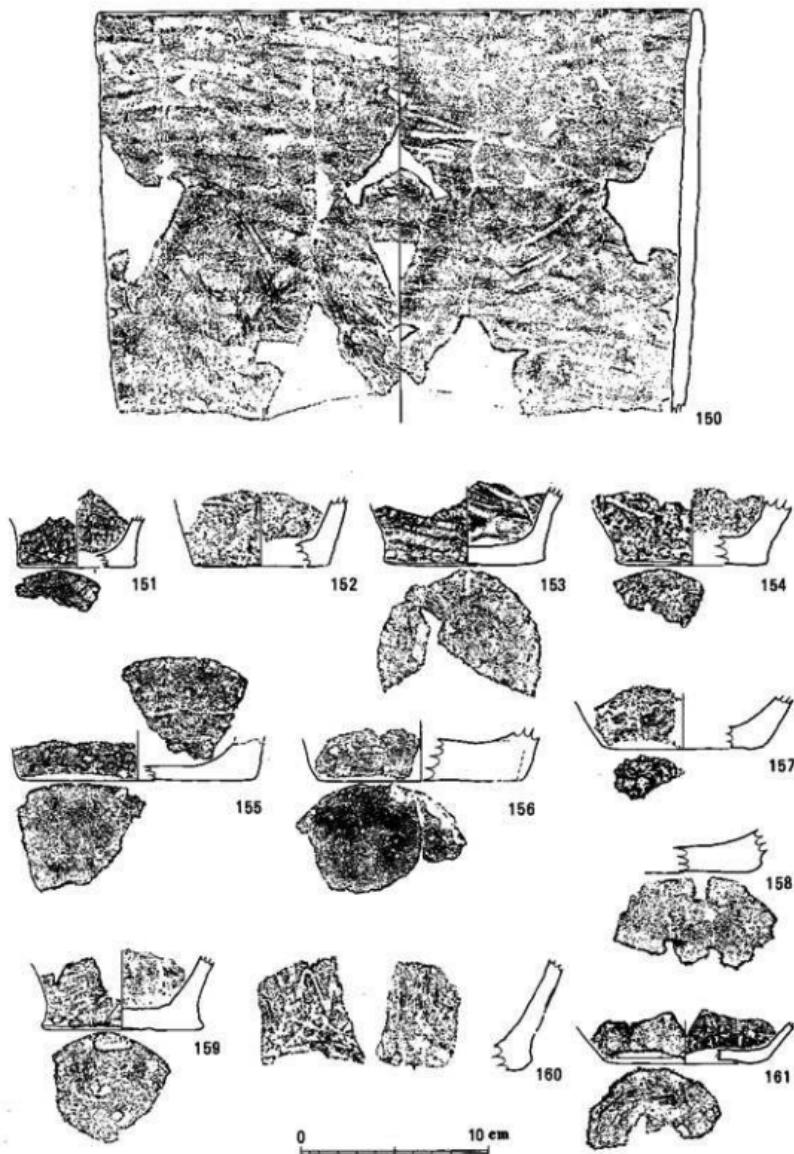
第22図 繩文土器実測図13 VI層

調文土器観察表 (6)

図版号	当 土 区 グリット	文 样	測 定	色 製		胎 土 の 特 徴	備 考
				外表面	内表面		
136	IV k-3	貝殻縫隙による刻文。	外表面はナデ。内表面はていねいなナデ。	において	灰 極	3ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。
137	II f-3	"	内外面ともナデ。	極	極	3ミリ以下の砂粒が多い。	
138	" g-3	"	"	において	において	-	
139	" f-2	口縁部に貝殻縫隙による刺突織文と棒状工具による板状織文。その下は筒上の斜交織文。	外表面はナデ。内表面はヘラナデ。	において	において	3ミリ以下の砂粒、雲母が多い。	
140	" d-5	貝殻縫隙によるロッキング。	内外面ともナデ。	灰 黑	"	-	外面にスス。
141	" d-4	"	外表面はナデ。内表面は上部がナデ、下部はナダ。下部は貝殻斜交織文の後ナデ。	において	"	3ミリ以下の砂粒、雲母が多い。	140と同一個体。
142	" d-5	"	"	"	"	"	外面上部にスス。
143	" d-4	"	外表面は上部が貝殻斜交織文、下部はナデ。内表面はナデ。	極	において	-	"
144	IV k-3	クレット工具による羽状文と重ねる。	外表面はナデ。内表面はヘラ工具によるていねいなナデ。	において	灰 黑 極	3ミリ以下の砂粒が多い。	
145	1 a-19 b-18	刺突文、沈織文の下に押圧刻みのある貼付実穴。いずれも棒状工具。	内外面ともナデ。	極	において	3ミリ以下の雲母が多い。	内面に炭化物。
146	" b-19	-	外表面は上部がやや強いナデ、下部はナデ。内表面はナデ。	"	灰 黑 極	"	145と同一個体。
147	" f-17	貝殻縫隙斜交織文の下に、貝殻縫隙による折みのある突起。	内外面ともナデ。	極 黑	灰 極	-	外面にスス。
148	IV k-3	口縁部に貝殻縫隙による連続刻突文。	外表面はナデの後、一部貝殻斜交織文。内表面はナデ。	において	において	-	波状口縁。
149	III e-6	-	内外面ともナデ。	において	において	-	内外面の口縁部にスス。
150	" c-3-9 d-3-7-9	-	内外面とも強いナデ。	極 黑	灰オーブ 黑 黄 例 黑 極	4ミリ以下の砂粒が多い。	外面の口縁部にスス。
151	" f-3	-	内外面ともナデ。底面は粗いナデ。	において	極 極 黑	3ミリ以下の砂粒が多い。	
152	" d-4	-	外表面は貝殻斜交織文とナデ。内表面はナデ。	極	において	-	
153	" f-2	-	内外面ともナデ。	において	において	3ミリ以下の砂粒が多い。	
154	" e-7	-	"	極	において	3ミリ以下の雲母を含む。	
155	" d-3	-	外表面はヘラミガキ。内表面はていねいなナデ。	において	"	3ミリ以下の砂粒が多い。	
156	IV k-3	-	外表面はていねいなミガキ。内表面はていねいなナデ。	極	極	-	
157	" -	-	内外面ともナデ。	において	において	4ミリ以下の雲母を含む。	内面に炭化物。
158	III c-9 d-9	-	"	灰 極	灰 黑 極	3ミリ以下の砂粒が多い。	底面に白色物質。
159	" d-6	-	外表面は貝殻斜交織文。内底面はナデ。	明 赤 黑	洗 黄 極	-	
160	IV f-3	浅い沈織文。	内外面ともナデ。	において	洗 黄 極	-	*
161	III d-8	-	"	において	極	-	上げ度。



第23図 縄文土器実測図(14) VI層



第24図 繩文土器実測図(15 VI層

様の充填の具合や施文方法から今回はこの類に含めた。

その他の少量出土の土器 (28・29・135~148)

28は無文地に貝殻腹縁によると思われる浅い刺突文が施される。29は貝殻条痕地に棒状工具によるごく浅い曲線文が描かれる。135は細いヘラ状工具で斜沈線文を施し、136は貝殻腹縁を斜めに押圧、137~138は同じく貝殻腹縁を横方向に刺突した上下に上部の数点を起点とした放射状の同刺突文を施すもので、これらはいずれもⅡ類土器に近い器形になるものと思われる。また、139の文様はII a類10の綾杉文以外の文様に類似するものである。140~143は同一個体であるが、貝殻のロッキングが見られる。144はクシ状工具を刺突して羽状文と思われる文様を施している。145~146は同一個体である。145の刻目突帯や沈線文はX類土器と関連があるものであろうか。147は貼付突帯上に貝殻腹縁による刻みが見られ、その上部に貝殻腹縁刺突文が施される胸部片である。148は貝殻腹縁の連続刺突文がある波状口縁土器である。

無文土器

どの類に伴うものかわからない無文の土器で器面調整が貝殻条痕文のもの(30~34)とナデのもの(149~150)とが見られる。149は口縁部内面が屈曲し段を有するものである。

VI層出土の底部

151~161。これらの底部は平底が多いが、やや外側へ張り出するもの(159)や上げ底のもの(161)も見られる。また、このうち155・156など調整が丁寧なナデもしくはミガキのものはⅡ類土器の底部である可能性がある。その他の底部はどの類の土器に伴うか不明である。

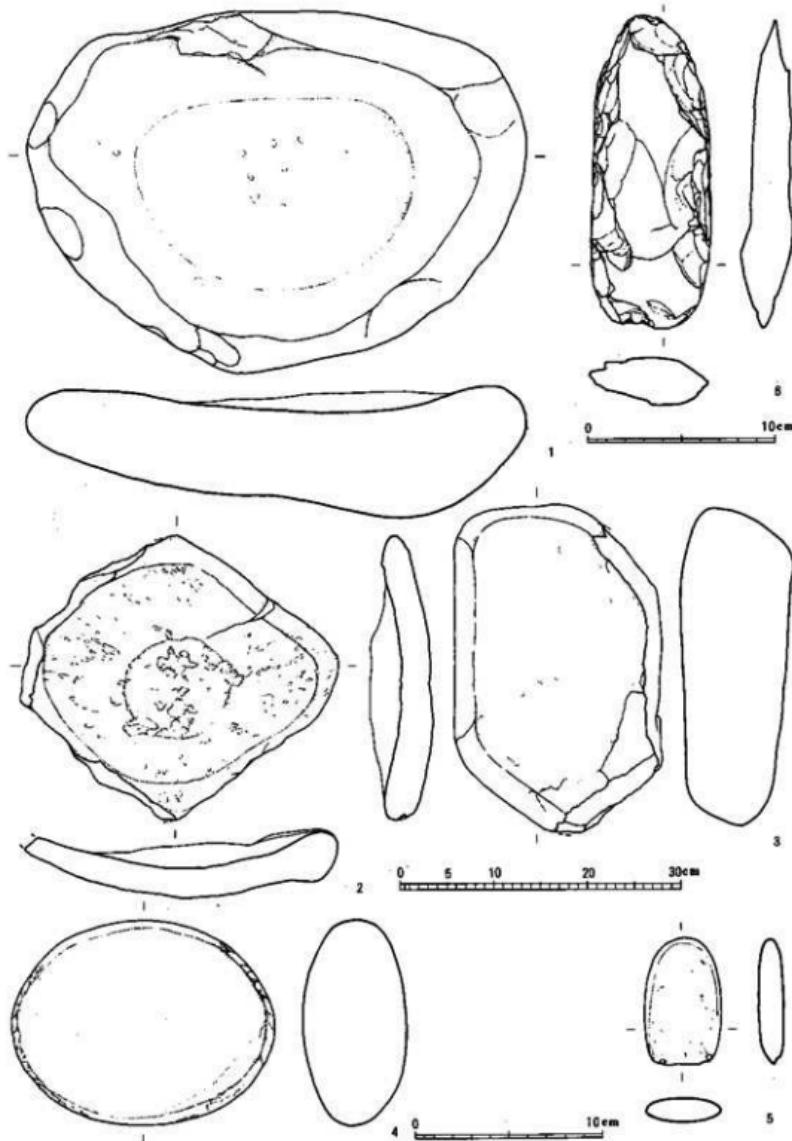
3. 石器 (第25図~第26図)

VI層の調査で石器は約230点出土している。その分布状況は検討できなかったが、このうち主なもの224点について計測表を作成した。内訳は次の石器組成表のとおりである。

石器組成表 VI層

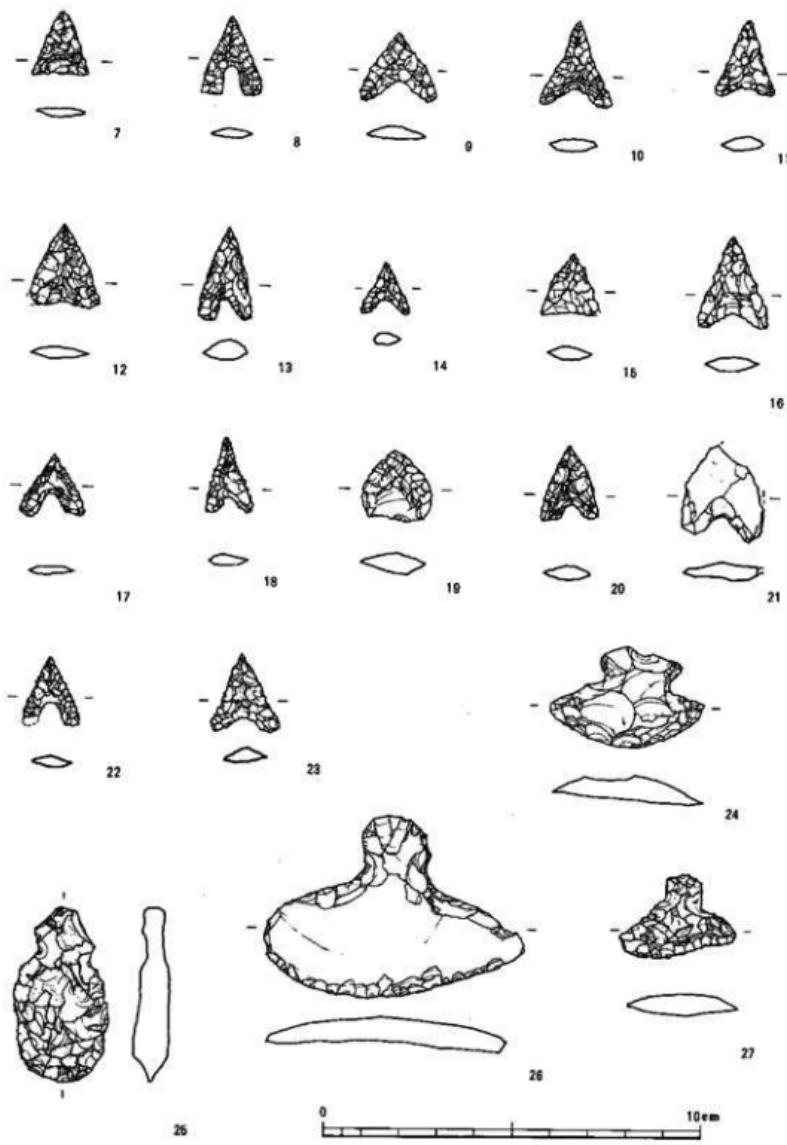
器種	石皿	台石	磨石	敲石	凹石	石斧			石鎌	尖頭器	石匙	スクレイバー	石錐	その他	計
						磨製	局部磨製	打製							
個数	8	3	9	0	2	1	1	0	146	10	9	9	6	20	224
%	3.6	1.4	4.0	0	0.9	0.4	0.4	0	65.2	4.5	4.0	4.0	2.7	8.9	100

最も多く出土したのは石鎌で全体の65.2%を占める。その殆どは黒曜石・チャート・流紋岩で、多い順に姫島産黒曜石が29.5%、チャートが25.3%、その他の黒曜石類が17.1%、流紋岩が13.7%となっている。また、その一方で石斧は0.8%と少なさが目立っている。使用された石材の特徴としては、磨石の2/3は砂岩であるが残り1/3は県中央部の尾鈴山塊付近で産出する尾鈴山酸性岩類を用いていること、凹石2点のうちの1点は霧島火山付近の輝石安山岩を用いていることなどが挙げられる。



第25図 石器実測図 (1) VI層

1~3縮尺1/6 4~6縮尺1/3



第26図 石器実測図(2) VI層

縮尺 2/3

石器計測表石材凡例

宍戸 章氏分類

A. 黒曜石

A 1. 姫島産

黒曜石

- ・乳白色を主体とし、灰～灰黑色を混える。

A 2. 産地不明

黒曜石類

- ・透明～黒色のガラス及びガラス質火山岩

B. チャート

C. 流紋岩

C 1. 流紋岩

- ・祖母系とみられる無斑晶流紋岩及び産地不明だが明らかな流理のある黒色流紋岩など。大部分は表面が風化し灰白～灰褐色を呈する。

C 2. 流紋岩 a

- ・一見片岩のような縞～片状で風化面が白っぽく全体に青白味のある黒色岩石。

- ・鏡下では、風化面はゴマシオ状のガラス質石基で時に有色鉱物（普通輝石？）が斑状をなす。新鮮な部分は、黒色ガラス質の岩石。

C 3. 流紋岩 b

- ・一見頁岩に似たみかけを呈し、時に紫味を帯びてホルンフェルス様でもあるが、剥離した面は頁岩等よりなめらかである。

- ・鏡下では、アメ色がかって密ガラス質な石基のみからなり、時に鉱物粒がみられる。また、表面には、石基中の斜長石が分解した黄白色粘土様のものが付着することがある。便宜上流紋岩に分類したが、本岩石には無斑晶安山岩、サヌカイト等とすべきものも含まれる。

D. 砂岩

- ・粗粒、中粒、細粒、極細粒。

E. 頁岩

- ・シルト質～泥質。

F. ホルンフェルス

G. 石英

- ・石英脈の石英と思われるもの及び玉髓。

G 2. 水晶

- ・石英の自然結晶。

H. 安山岩

- ・霧島火山産とみられる輝石安山岩。

I. 尾鈴山酸性岩類（溶結凝灰岩）

J. 凝灰岩

- ・四万十累層群中の緑色岩類。

L. 石英斑岩

※ 肉眼及び ×20 の実体顕微鏡による。

なお、この計測表の備考欄には欠損・残存部位ほかを記入したが、完形は特に記入していない。

VI 層 石 器 計 測 表 (1)

番号	測定 (出子場所)	断面高 (cm)	断面幅 (cm)	断面積 (cm ²)	石片 厚	石片 形	番号	測定 (出子場所)	断面高 (cm)	断面幅 (cm)	断面積 (cm ²)	石片 厚	石片 形	
1	石皿	(d-3)	63.50	38.60	14.00	4.200e	D	30	石	III	I (d-18)	15.90	15.90	D 片頭部欠損
2	"	(e-2)	33.50	30.36	5.20	4.700g	"	31	"	" (e-14)	23.80	14.10	4.90	2.400g
3	台石	(e-7)	34.80	22.00	11.70	14.300g	"	32	"	" (b-16)	36.40	23.70	4.20	5.500g
4	磨石	(e-3)	14.10	11.00	5.60	1.250g	"	33	"	" (e-8)	22.20	16.50	6.80	2.550g
5	磨製石斧	(e-3)	6.80	4.00	1.30	0.4 C 1		34	台石	III (f-7)	41.60	27.60	9.30	14.980g
6	圓形磨石斧	(f-2)	16.70	2.80	34.92	F		35	"	" (f-12)	46.20	28.60	12.4	20.000g
7	石核	(d-26)	1.70	1.55	0.25	0.45 A 2		36	椭石	II (f-17)	10.27	8.53	4.50	6.10g
8	"	" (-)	2.10	1.65	0.25	0.50 B		37	"	" (d-4)	11.83	10.08	5.40	8.58g
9	"	" (e-24)	1.80	2.05	0.35	0.65 A 1		38	"	" (e-11)	10.20	8.53	5.03	6.99g
10	"	" (e-23)	2.30	1.90	0.30	0.70	"	39	"	" (e-2)	11.15	8.80	7.02	9.90g
11	"	I (b-18)	2.03	1.60	0.40	0.85 C 3		40	"	" (e-7)	9.62	6.11	4.79	5.69g
12	"	" (-)	2.20	2.83	0.30	0.85 B		41	"	" (d-4)	10.26	9.40	4.18	5.17g
13	"	" (e-17)	2.45	1.40	0.55	1.10 C 1		42	"	" (e-4)	8.40	7.64	4.40	5.84g
14	"	" (e-16)	1.40	1.30	0.30	0.25 C 2		43	"	" (e-4)	10.53	9.70	4.46	6.72g
15	"	(e-10)	1.65	1.90	0.35	0.65 C 3		44	凹石	I (e-15)	9.08	8.18	3.97	3.41g
16	"	" (d-3)	2.40	1.85	0.35	1.25	"	45	"	" (e-2)	11.73	9.06	4.98	7.78g
17	"	" (d-11)	1.70	1.70	0.30	0.60 B		46	石核	II (d-26)	13.22	11.58	0.53	11.10 A 2 片頭部欠損
18	"	" (-)	2.00	1.25	0.30	0.50	"	47	"	" (e-27)	11.73	11.45	0.36	10.50 "
19	"	" (f-4)	1.90	1.85	0.50	1.80 C 1		48	"	" (d-23)	21.15	18.84	0.47	11.10 A 1 先端部・片頭部欠損
20	"	" (e-2)	2.00	1.50	0.35	0.75 A 1		49	"	" (a-22)	2.66	1.66	0.34	1.40 B 片頭部欠損
21	"	" (-)	2.55	2.30	0.45	3.25 C 2	先端部欠損	50	"	" (e-23)	2.09	2.64	0.40	1.50 "
22	"	IV (e-3)	1.80	1.40	0.30	0.45 B	右側部欠損	51	"	" (e-22)	1.67	1.31	0.34	0.50 A 1
23	"	" (f-3)	2.10	1.30	0.35	0.70 C 2		52	"	" (b-21)	1.80	1.63	0.38	0.60 片頭部先端部欠損
24	石器	I (e-15)	2.65	4.06	0.70	5.90	" 槌型	53	"	" (b-22)	1.89	1.52	0.42	0.70 C 2 先端部・片頭部欠損
25	"	" (-)	4.60	2.50	0.95	10.90 G 1	錐型	54	"	" (a-23)	2.15	1.45	0.51	1.10 A 1 "
26	"	" (e-11)	4.80	6.90	0.65	20.90 A 1	錐型	55	"	" (-)	2.74	1.80	1.40	C 2 "
27	"	" (-)	2.25	3.10	0.60	5.10	"	56	"	" (a-22)	2.61	1.60	0.28	0.90 G 1 片頭部欠損
28	石器	I (b-17)	9.70	10.00	0.60	62.88 D	一部残存	57	"	" (c-27)	2.18	1.29	0.32	1.00 "
29	"	" (d-15)	17.60	9.50	5.60	1.500g	" 先端部欠損	58	"	" (e-25)	1.96	1.37	0.31	0.50 B 片頭部欠損

備考

石 器 計 測 表 (2) VI 層

番号	種別	測定部位	横径 (mm)	縦径 (mm)	高さ (mm)	石材	番号	種別	番号	種別	横径 (mm)	縦径 (mm)	高さ (mm)	石材	備考
59	石	口 (b=24)	(2.81)	(1.16)	0.54	(0.90)	68	石	68	石	0.54	(0.91)	0.28	(0.20)	A 1 開削部欠損
60	"	" (b=27)	3.00	1.28	0.37	1.30	G 1	"	89	"	" (c=11)	(2.63)	0.51	(1.42)	B 片側部欠損
61	"	" (c=27)	(1.26)	1.30	0.31	(0.70)	"	90	"	" (d=11)	(1.34)	0.27	(0.25)	A 1 片側部先端欠損	
62	"	" (")	2.01	0.99	0.32	0.70	B	91	"	" (e= 6)	(1.63)	0.55	(1.20)	C 2 先端部・両側部欠損	
63	"	" (")	2.98	1.67	0.43	1.10	G 1	92	"	" (e= 6)	(1.69)	0.41	(0.50)	A 1 片側部欠損	
64	"	" (e=24)	(2.59)	(1.36)	0.36	0.70	A 1	93	"	" (e=)	(1.38)	0.41	(0.35)	" 先端部・両側部欠損	
65	"	" (e=21)	2.86	1.23	0.31	1.00	B	94	"	" (d= 8)	(1.23)	0.36	(0.50)	" 片側部欠損	
66	"	" (")	1.65	1.36	0.24	0.40	A 1	95	"	" (d= 9)	(1.63)	0.41	(0.50)	" 先端部・片側部欠損	
67	"	" (d=23)	(2.74)	(1.73)	0.38	(0.90)	C 2	96	"	" (e= 7)	1.89	0.34	0.80	B	
68	"	" (a=22)	(2.89)	(1.54)	0.34	(0.80)	B	97	"	" (e= 2)	(1.49)	0.30	(0.40)	C 1 片側部欠損	
69	"	" (e= 24)	(1.68)	(2.02)	0.37	(0.80)	C 2	98	"	" (e=)	(0.98)	0.28	(0.36)	B 先端部欠損	
70	"	" (")	1.56	1.92	0.32	(0.50)	A 1	99	"	" (e=)	(1.49)	0.37	(0.55)	" 先端部・片側部欠損	
71	"	" (")	(1.67)	1.99	0.46	(0.90)	"	100	"	" (e=)	(1.35)	0.33	(0.60)	C 3 先端部欠損	
72	"	" (e=25)	(1.51)	2.38	0.38	(0.80)	B	101	"	" (e= 2)	(2.59)	2.03	0.33	B "	
73	"	" (b=23)	(1.78)	(1.25)	0.36	(0.60)	A 1	102	"	" (e= 3)	1.24	0.28	0.30	A 2	
74	"	" (d=22)	(1.72)	(1.55)	0.54	(1.60)	"	103	"	" (e= 4)	(1.38)	0.38	(0.45)	B 先端部・両側部欠損	
75	"	" (d=27)	(1.90)	1.79	0.29	(0.70)	C 2	104	"	" (e=)	(1.19)	0.24	(0.30)	A 1 先端部・片側部欠損	
76	"	I (b=15)	(2.18)	(1.97)	0.31	(0.65)	"	105	"	" (e= 3)	(1.74)	0.26	(0.40)	" 片側部欠損	
77	"	" (a=15)	(2.35)	(1.70)	0.40	(1.15)	A 1	106	"	" (e=)	(1.71)	1.62	0.29	0.55 C 2	
78	"	" (d=15)	(2.36)	(1.52)	0.40	(0.95)	"	107	"	" (e=)	(2.01)	1.26	0.43	D 片側部欠損・右斜面欠損	
79	"	" (a=17)	1.90	1.45	0.43	0.75	C 2	108	"	" (e= 3)	(1.19)	1.29	0.41	(0.60) A 2 片側部先端欠損	
80	"	" (a=15)	(1.30)	(1.17)	0.23	(0.20)	A 1	109	"	" (d=3+4)	1.53	1.96	1.10	"	
81	"	" (")	(2.06)	(1.63)	0.40	(0.65)	C 2	110	"	" (d= 3)	1.71	1.62	0.50	"	
82	"	" (b=15)	(1.50)	(1.32)	0.41	(0.45)	A 1	111	"	" (d= 4)	(1.50)	0.25	(0.40)	" 同上	
83	"	" (c=16)	(1.91)	(1.27)	0.29	(0.55)	C 2	112	"	" (e=)	(1.30)	0.27	(0.35)	" 片側部欠損	
84	"	" (e=15)	(1.47)	(1.39)	0.35	(0.70)	"	113	"	" (e=)	(1.62)	0.34	(0.50)	"	
85	"	" (e=19)	(2.31)	(0.45)	(0.31)	(0.55)	B	114	"	" (e=)	(1.96)	0.34	(0.70)	" 片側部先端欠損	
86	"	III (")	(1.66)	(1.59)	0.28	(0.50)	"	115	"	" (e=)	(2.01)	1.34	0.36	B 同上	
87	"	" (")	(1.27)	(1.32)	0.30	(0.35)	A 1	116	"	" (e=)	(1.69)	0.46	(0.90)	C 2 先端部・片側部欠損	

石器計測表(3) VI 層

番号	種別	標本番号	標本名	標本大さ	標本小さ	標本形状	標本構造	標本別	参考		資料	
									厚さ(μ)	幅(μ)	長さ(μ)	
1117	石 織	(-)	(1.68)	(1.26)	0.31	(0.45)	A 2 片織部欠損	146	石 織	III (f-2)	1.56	0.43
1118	N	(f-11)	(2.56)	(1.71)	0.33	(1.30)	B 両織部欠損	147	"	f (-)	(1.59)	(1.16)
1119	N	(f-6)	(1.98)	(1.28)	0.28	(0.45)	" 片織部欠損	148	"	f (d-4)	1.58	1.64
1210	N	(f-2)	(2.27)	(1.20)	0.57	(1.36)	B 両織部・先端部欠損	149	"	f (-)	(1.89)	(1.47)
1211	N	(f-2)	(2.55)	(1.51)	0.49	(1.45)	B 両織部欠損	150	"	f (f-6)	(1.68)	1.59
1212	N	(f-2)	(2.64)	(1.38)	0.33	(0.90)	" 片織部・先端部欠損	151	"	f (e-2)	(1.94)	(2.10)
1213	N	(f-4)	(2.6)	(1.47)	0.47	(1.25)	A 2 両織部・織部欠損	152	"	f (")	(1.75)	(1.55)
1214	N	(f-3)	(1.78)	(1.42)	0.45	(0.90)	B 両織部欠損	153	"	f (-)	(2.27)	(1.89)
1215	N	(")	(1.15)	(1.45)	0.37	(0.35)	A 1 先端部欠損	154	"	f (")	(1.54)	(0.80)
1216	N	(d-4)	(3.28)	(1.72)	0.60	(2.45)	C 2 片織部欠損	155	"	f (")	(1.27)	(1.79)
1217	N	(d-6)	(1.52)	(1.34)	0.36	(0.40)	A 1 片織部・先端部欠損	156	"	f (e-4)	(1.70)	(1.49)
1218	N	(f-8)	(1.65)	(1.67)	0.41	(0.40)	" 先端部・片織部欠損	157	"	f (-)	(1.52)	(1.23)
1219	N	(e-2)	(1.87)	(1.19)	0.29	(0.40)	A 2 片織部欠損	158	"	f (-)	(1.51)	(1.23)
1310	N	(-)	(1.67)	(1.16)	0.26	(0.40)	" 片織部欠損	159	"	f (-)	(1.50)	(1.65)
1311	N	(-)	(1.38)	(1.21)	0.23	(0.35)	"	160	"	f (d-4)	(1.45)	(1.87)
1312	N	(-)	(1.66)	(1.69)	0.34	(0.45)	A 1 "	161	"	f (-)	(1.33)	1.57
1313	N	(f-10)	(1.94)	(1.44)	0.36	(0.55)	" 先端部欠損	162	"	f (d-4)	(1.75)	(0.71)
1314	N	(d-11)	(2.03)	1.23	0.42	0.60	"	163	"	f (-)	(1.66)	(0.82)
1315	N	(e-8)	3.39	1.45	0.39	1.30	"	164	"	f (-)	(1.31)	(0.88)
1316	N	(f-2)	(1.28)	0.28	0.26	"	片織部欠損	165	"	f (e-8)	(1.06)	(1.05)
1317	N	(f-2)	(1.78)	1.81	0.37	0.60	"	166	"	f (-)	(1.45)	(1.60)
1318	N	(e-2)	(2.62)	(1.48)	0.37	(1.20)	C 1 前面・片織部欠損	167	"	f (d-11)	2.87	1.80
1319	N	(f-3)	(1.33)	(1.09)	0.36	(0.30)	A 1 先端部・片織部欠損	168	"	f (e-m-2)	(1.94)	(1.48)
140	N	(")	2.05	1.40	0.48	1.00	C 1 "	169	"	f (")	(1.40)	(1.02)
141	N	(e-2)	(1.86)	(0.98)	0.35	(0.40)	B 片織部欠損	170	"	f (-)	(2.96)	(1.63)
142	N	(f-1)	(1.69)	(1.19)	0.31	(0.36)	A 2 "	171	"	f (e-5)	(3.51)	(1.96)
143	N	(f-3)	(2.27)	(1.47)	0.25	(0.50)	A 1 "	172	"	f (-)	2.31	1.33
144	N	(-)	(1.56)	(1.82)	0.50	(2.55)	C 3 片織部欠損	173	"	f (e-m-2)	(0.98)	1.22
145	N	(f-2)	(2.22)	(1.56)	0.61	(1.26)	A 1 片織部欠損	174	"	f (e-m-3)	(2.05)	(1.80)

石 器 計 測 表 (4) VI 層

番号	種 別	形態	長さ(m)	幅さ(m)	高さ(m)	重さ(kg)	材質	備考	番号	種 別	長さ(m)	幅さ(m)	高さ(m)	重さ(kg)	材質	備考
175	石 砕	■ (-)	2.08	1.31	1.17	1.20	B		204	細石核	■ (-)	1.72	1.49	1.18	C ₄	A 2
176	"	" (d-8)	2.62	1.71	0.70	2.80	"		205	"	" (-)	1.97	1.47	1.16	3.55	"
177	"	" (e-2)	(1.96)	1.47	(0.47)	(1.10)	A1	先端部欠損	206	"	" (-)	2.22	1.42	0.99	3.50	"
178	"	" (d-4)	3.10	2.29	1.67	3.90	C ₃		207	"	" (f-3)	1.65	1.25	1.25	2.90	"
179	"	" (")	2.34	0.98	0.66	0.90	A1	先端部欠損	208	"	JV (e-2)	2.10	2.21	1.01	4.60	"
180	"	" (")	2.20	1.76	0.66	1.80	A ₂		209	"	" (a-m-1.5)	1.93	2.15	1.44	5.30	"
181	石 砕	I (d-16)	2.47	(4.28)	0.93	(8.80)	B	橢型、刃部欠損	210	細石刃	■ (e-2)	1.49	0.62	0.23	0.20	"
182	"	" (f-18)	3.66	6.80	1.11	19.80	C ₂	橢型	211	尖頭器	II (e-27)	(2.61)	2.14	0.87	(3.26)	B 基部欠損
183	"	" (f-5)	3.06	(5.76)	(0.81)	(10.70)	"	橢型、刃部欠損	212	"	" (-)	2.55	1.11	6.30	"	
184	"	" (d-6)	7.51	4.57	0.82	24.10	"	橢型、つまみ歯欠損	213	"	I (e-17)	2.91	2.07	0.75	6.10	A 1
185	"	" (a-m-2.5)	1.67	0.35	2.36	1.35	B	橢型	214	"	■ (e-11)	1.38	1.38	0.28	0.40	B
186	X (e-4)	I (f-14)	4.68	3.76	1.02	17.15	A ₂	サイ F	215	"	" (e-7)	(2.11)	(1.48)	(0.52)	(1.56)	A 2 繰り返し回
187	"	■ (-)	1.58	1.93	0.59	1.40	G ₁	"	216	"	" (c-9)	(4.03)	2.23	0.72	(6.40)	C 3 先端部欠損
188	"	" (e-2)	1.86	2.42	0.60	3.10	B	"	217	"	" (d-4)	(1.91)	(2.14)	0.83	(2.30)	B 基部欠損
189	"	" (")	2.59	0.69	6.90	C ₃	サイ F、エン F		218	"	" (-)	1.37	1.13	0.78	0.90	A 2
190	"	" (")	2.34	3.35	1.50	25.20	"		219	"	" (-)	1.83	1.40	0.68	1.40	G 1
191	"	" (a-m-3.8)	5.70	3.52	1.08	21.50	"	サイ F、刃部欠損	220	"	" (a-m-2.5)	1.70	1.17	0.63	0.70	B
192	"	■ (f-2)	4.66	5.11	1.02	17.90	"	エン F	221	次加工跡片	I (d-14)	3.74	3.25	1.05	14.00	C 1
193	"	" (e-2)	3.57	6.47	0.82	20.60	D	"	222	"	" (f-14)	3.20	2.18	0.71	4.30	A 2
194	"	" (d-4)	5.14	6.72	1.76	63.95	C ₃	エン F、刃部欠損	223	"	■ (c-8)	7.45	3.56	1.18	21.90	A 1
195	石 棱	I (f-14)	3.02	2.76	1.82	14.30	A ₂		224	"	JV (f-3)	1.30	1.05	0.64	1.00	C 3
196	"	IV (k-2)	3.19	2.50	1.28	8.30	C ₁		225	原 石	III (d-11)	9.40	9.47	2.19	66.30	A 1
197	"	" (a-m-3.8)	1.84	1.30	1.26	2.70	A ₂		226	"	" (e-7)	3.64	2.29	1.38	9.70	A 2
198	"	" (")	1.70	1.58	1.51	2.40	"									
199	"	" (")	1.33	1.13	0.88	1.40	"									
200	細石核	II (e-22)	2.86	2.04	1.71	10.10	"									
201	"	■ (-)	1.70	1.33	1.03	2.50	"									
202	"	" (e-7)	2.13	1.94	1.53	6.90	"									
203	"	" (d-7)	1.62	1.27	0.94	2.40	"									

3. IV層の遺構と遺物

IV層からは、上下2層の降下軽石及び火山灰層に挟まれて、県内においては調査例があまりない縄文時代前期から中期（一部後期）の遺物が確認された。そこで時間的制約の中、できるだけ広い面積を調査することに努めた結果、多量の遺物とこの時期の集石遺構11基、配石遺構7基を検出できた。また、このIV層中では掘り込まれた遺構の検出は困難であり、V層上面まで掘り下げて漸くIV層の土が埋土の土坑3基を確認できた。しかし、IV区については発掘面積を広げることを優先し、掘り下げはIV層下部で中止したため土坑などのIV層中から掘り込まれた遺構の確認はできなかった。

今回は、報告書作成期間の都合上、遺物の分布範囲や出土傾向など検討できなかったため現地での観察所見を若干述べておく。土器の分布は、特にⅢ区東側からⅣ区にかけて集中して出土している。土器は類別に包含層中で顕著に出土層位がわかるということではなく混在していた。ただ、H類土器などはⅣ区東側のⅢ層直下からⅣ層上部には限定して出土している。また、配石遺構もこの範囲に集中している。石器では石鐵の出土点数が特に多くⅣ区はとりわけ出土量が多い。土器片鱗と切目石錐は、Ⅳ区西側のⅣ層上部で出土した。

1. 集石遺構

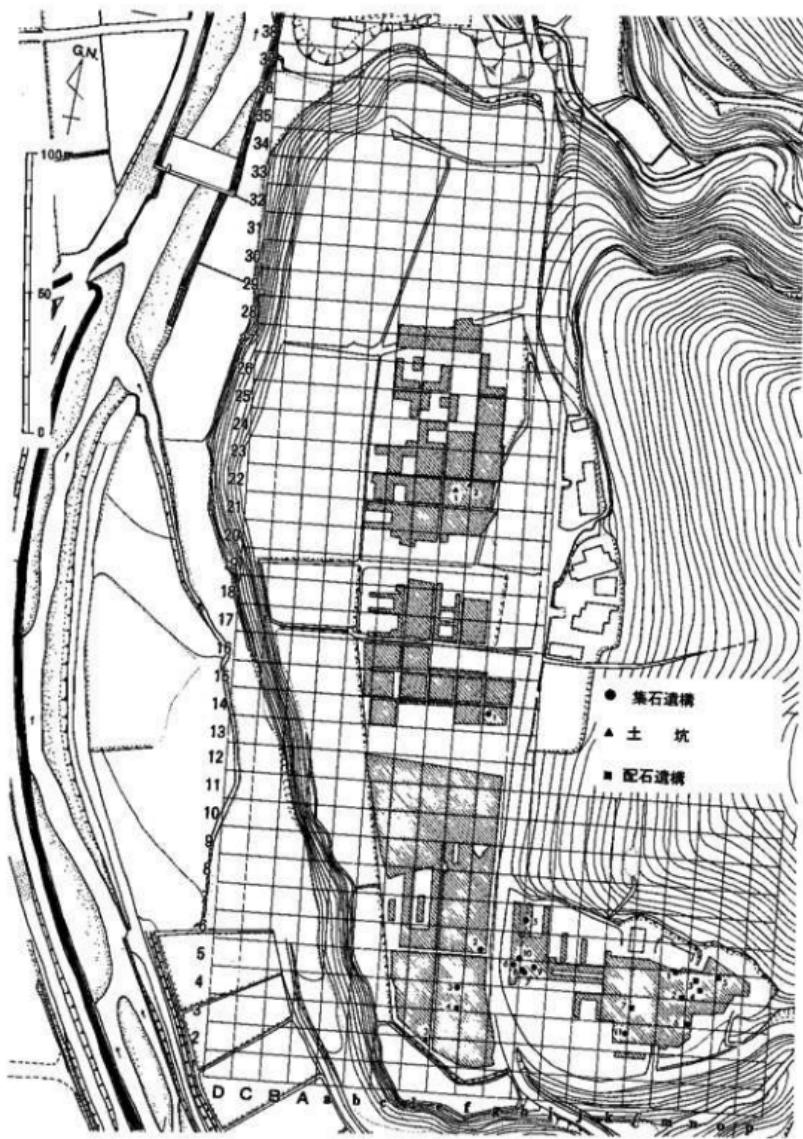
IV区西側を中心に計11基検出した。殆どIV層下部のV層に近い位置で、早期の集石遺構に比べて小振りなものが多い。また、VI層と同じく包含層中に大きな河原石が数多く見られたが、IV区東側の河原石は表面上部が熱を受けたように赤変したものも多い。

S I 1～S I 6 (第28図)

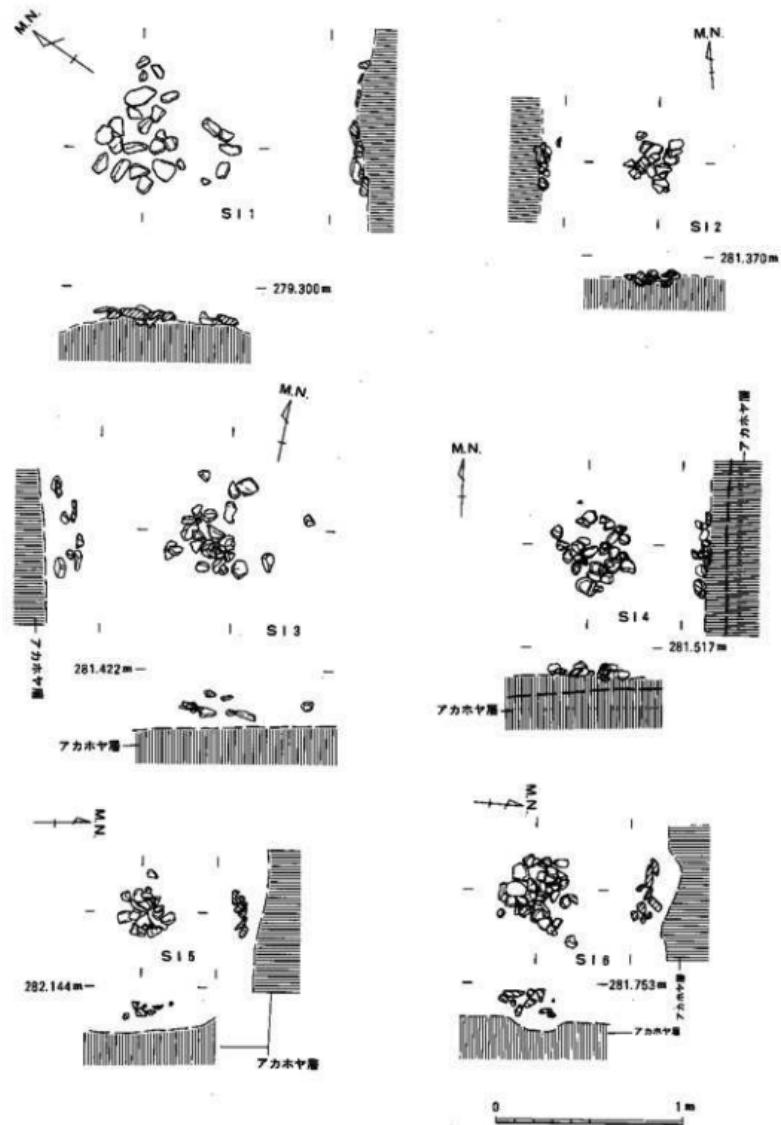
S I 1は約25個の河原石からなる。他の集石遺構に比べてやや広がりを持つ。IV層下部で検出。掘り込みは見られない。S I 2は約20個の丸っこい河原石からなる。IV層下部検出。いずれも赤く焼けており、そのうち13個は黒いスヌ状の炭化物が付着している。掘り込みは見られない。S I 3もIV層下部で検出された。5～10数cmの丸っこい河原石約26個を用いている。割れたものが多い。礫は赤変しスヌ状の炭化物が点々とあるいは広範囲に付着している。下部に掘り込みは見られない。S I 4もIV層下部検出。ほぼ大きさのそろった丸い河原石約30個を用いている。礫は赤変し所々にスヌ状の炭化物が付着している。掘り込みは見られない。S I 5は、直径約30cm程の範囲に約20個の丸っこい河原石が集積している。いずれも赤変し、黒い炭化物が付着したものもある。IV層下部で検出。掘り込みは見られない。S I 6もIV層下部で検出された。大小の丸い河原石を用いている。いずれも赤変し、約1/4に炭化物の付着が見られる。明確な掘り込みはないが、V層上面でIV層の土を取り除くと浅い落ち込みになった。

S I 7～S I 11 (第29図)

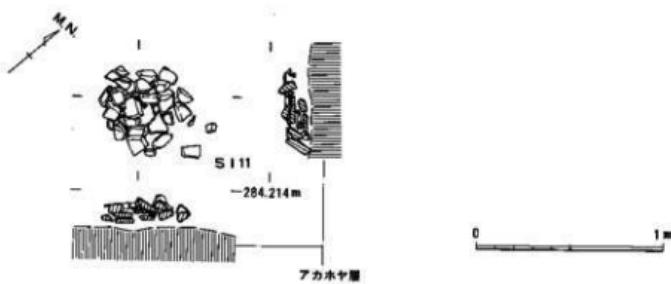
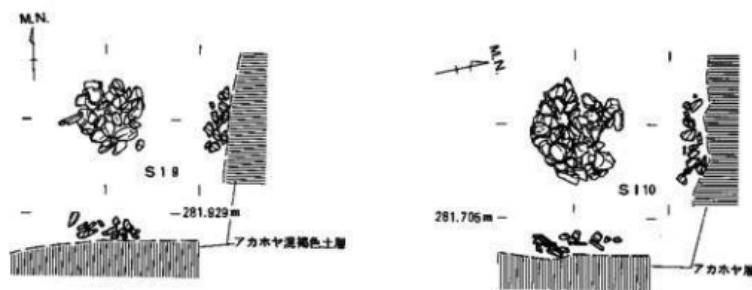
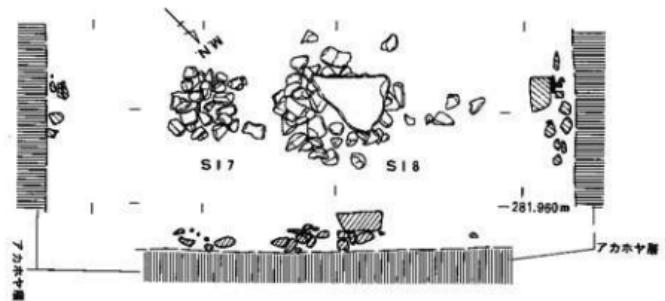
S I 7・8はIV層最下部、V層の直上で隣あわせに検出された。このうちS I 8は、直上に三角形の大きな河原石がのっていた。いずれの集石遺構も赤変した丸っこい河原石が集積して



第27図 IV層調査区の設定及び遺構分布図



第28図 集石造構実測図(1) IV層



第29図 集石造橋実測図(2) IV層

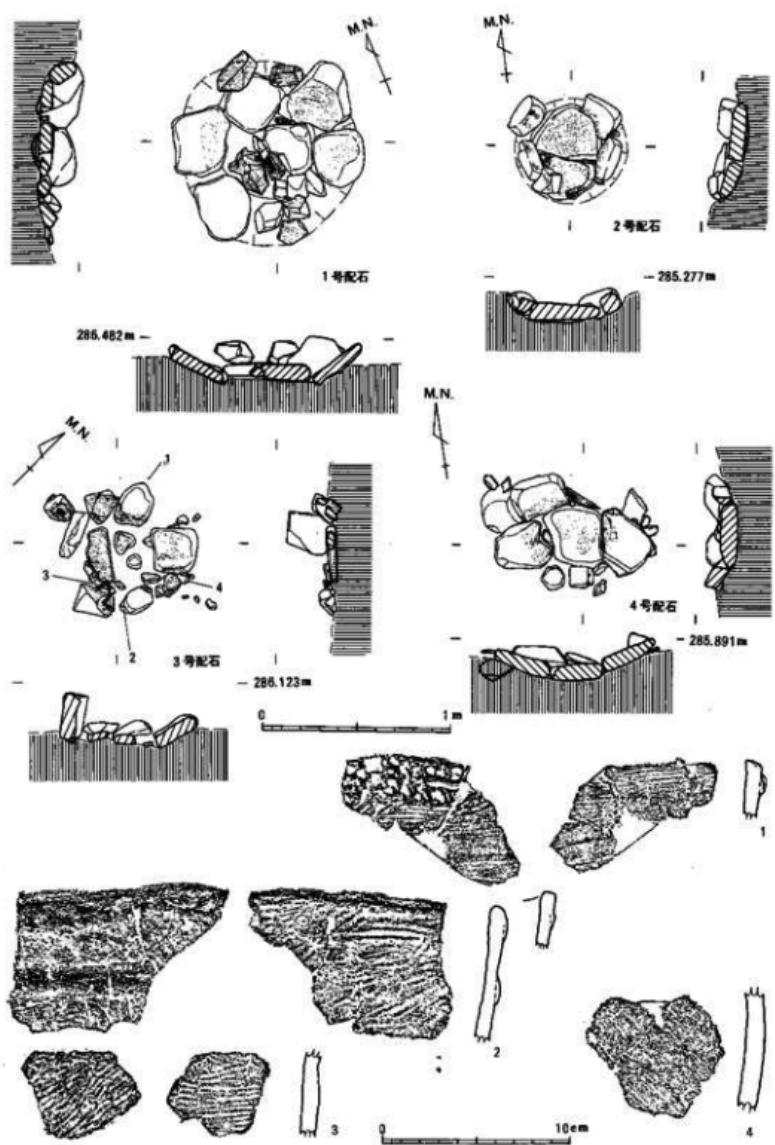
おり、黒変したものも多い。S I 8の下部、V層上面には炭化物粒が検出されている。掘り込みは見られない。S I 9は、IV層下部のV層との漸移層的な位置で検出された。直径約40cm程の範囲に約35個の河原石が集積している。いずれも赤変し、炭化物の付着も見られる。下部に掘り込みは見られない。S I 10もIV層下部のV層との漸移層的位置で検出されている。直径約50cm程の範囲に60個以上の赤変した丸っこい河原石が集積しており、そのうちの約2/3は炭化物が付着している。下部に明確な掘り込みは見られないが、最も集積した所の下部には炭化物粒を多く含む浅い落ち込みが見られた。S I 11は、IV層下部で検出された。赤変した約45個のやや角張った10cm前後の河原石を用いている。下部に掘り込みは見られない。

2. 配石遺構

配石遺構は、約30cm四方程もある大きな河原石を用い、中央に数個水平に据えてその周りにもやや斜めに立て掛けるように石を配しているものである。IV区の東側IV層上部で検出された。いずれも石を据えた明確な掘り込みは確認できなかった。また、中央の石の上面及び周囲の石の内側下部は薄く赤変し、熱を受けた痕跡が見られた。しかし、集石遺構とは異なり炭化物の付着したものは確認できなかった。そのほか、2・6号配石の近くには地面に熱を受けた痕跡が、5号配石の近くには焼土が、3・4号配石の周囲には散礫群が確認された。

1号配石～4号配石（第30図）

1号配石は、中央に大きな2個の河原石と小振りの割れた河原石9個を置き、南を除く三方に河原石を斜めに配置している。明確な掘り込みは見られないが、斜めに立て掛けた石はIV層中に掘り込んだくぼみの斜面に置いたものであろう。石の上面はIII層下部に接していた。2号配石は大きな河原石2個を中心置き、北を除く周囲は5～6個の立て掛けた石で囲んでいる。中央の石は上面、周囲の石は内側下部のみ赤変している。掘り込みは不明。この遺構の北東1mの地面には、熱を受けたと思われる円形の赤変した箇所が見られた。3号配石は、中央の大小の河原石がIV層上面にまばらに置かれており、その周囲の河原石は第3図上の土層断面図中に見られるIV'層中に立て掛けた。南西側の河原石の立石は熱を受けた様子は見られないと、そのほかの河原石は薄く赤変している。この3号配石の周囲及び直下には焼石の散礫群が見られた。遺物は9点程出土したが、このうち4点を図化した（第30図下）。1は図中1の石の下から、3は図中3の石の下から、2・4はそれぞれ図中の同番号の箇所から出土した。1は波状口縁土器と思われ、内外面ともに浅い貝殻条痕文を施す。内面はその後ナデている。口唇部には貝殻腹縁によると思われる連続押圧刻みが施され、口縁部は同工具による連続刻みの貼付突帯がみられる。外面は灰褐色、内面はにぶい赤褐色を呈する。4は胎土・色調の類似から同一個体と思われるが、外面は浅い貝殻条痕文の上をナデ、内面はナデの器面調整である。色調はにぶい赤褐色～暗赤褐色を呈する。2は外面ナデ、内面貝殻条痕文の波状口縁の土器である。口縁部下に2条の無文の貼付突帯がある。外面はにぶい橙色～灰褐色、内面はにぶい褐



第30図 配石造構及び出土土器実測図(1) IV層

色を呈する。3は内外面ともに貝殻条痕文が見られる同部片である。上端部には、貝殻腹縁と思われる施文具による横方向の刺突文があり、そこで割れている。色調は内外面ともにぶい橙色を呈する。4号配石は、中央に1個の大きな河原石を置き、周囲には斜めに河原石を立て掛けている。中央の石の上面と周囲の石の内側下部は薄く赤変し、東西の斜めの河原石の下は土が赤褐色に変色していた。この4号配石の下にも3号配石同様に散疊群の一部と思われる疊が見られた。

5号配石～7号配石（第31図）

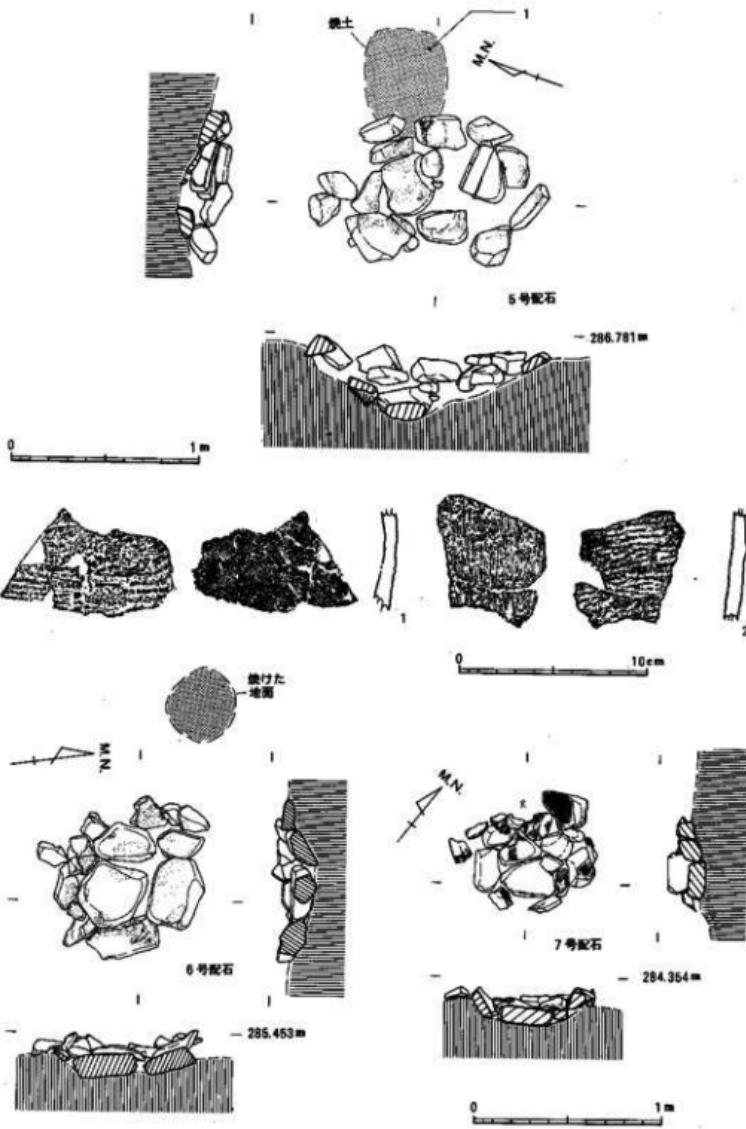
5号配石は、IV区東端部の傾斜がやや急な地点で検出された。周囲には他の配石遺構と同じく大きめの土器片が多く出土している。また、遺構の東側の河原石の下には焼土の堆積した箇所が検出された。遺構は明確な掘り込みは見られないが、IV層のくぼんだ面に河原石が張り付いたような状況で検出されている。北西側の河原石には中央及び斜めの石の内側下部に薄い赤変が見られるが、そのほかの石は赤変箇所が不規則であり、原位置を動いた可能性もある。遺構内から出土した遺物のうち2点を図化した（第31図中）。1は焼土の下から出土し、2は一括取り上げの土器である。1～2とも胴部片である。1の外面は粗い貝殻条痕文が施され暗赤褐色を呈し、内面は丁寧なナデで灰褐色を呈する。2は内外面ともに貝殻条痕文が見られ、外面は橙色、内面はぶい褐色を呈する。6号配石は、中央の河原石がIV層上面に、周囲の河原石はIV'層に立て掛けている。遺構の北西約50cmの地面は円形に熱を受けた痕跡が見られた。7号配石は、5号配石と同じく赤変箇所が不規則であり、原位置のままかどうか疑問が残る。配石の状態としては、中央の大きな河原石の三方に斜めに石を配している点、ほかの配石遺構の状況とほぼ同様である。

3. 土坑

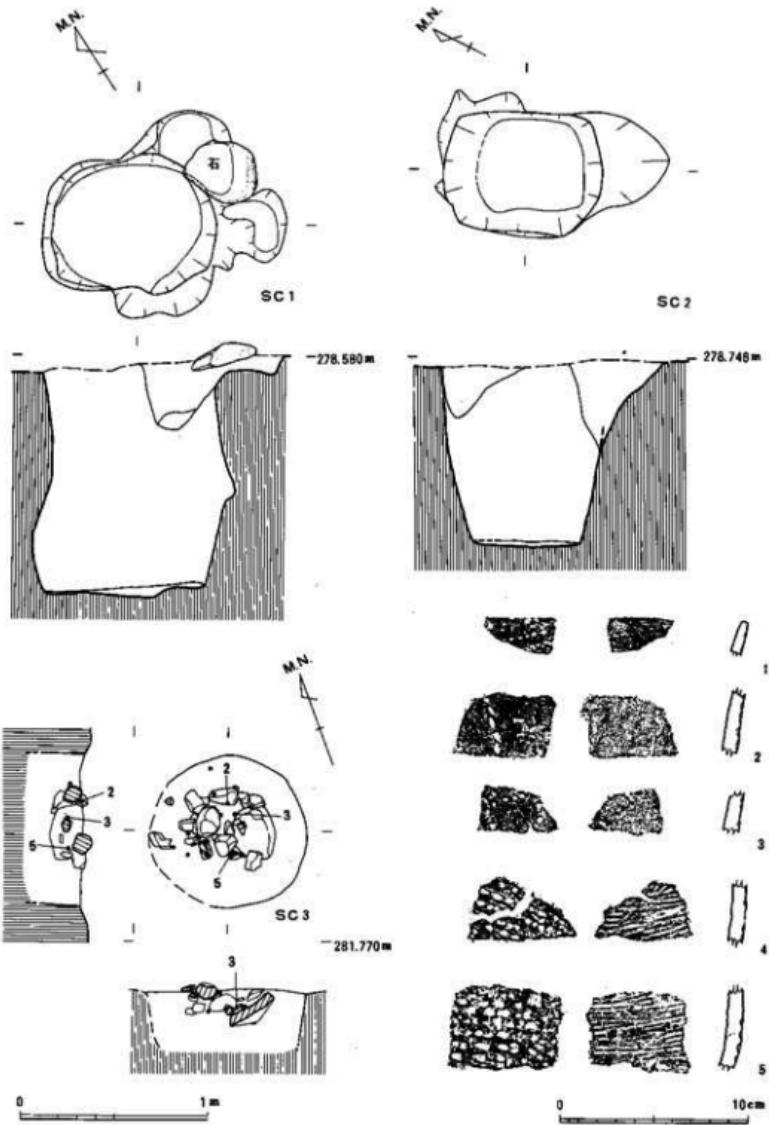
IV層は、遺構の掘り込み面を確認することが困難であり、アカホヤ層（V層）上面まで掘り下げて漸くIV層の土が埋土になっている土坑を3基検出できた。しかし、IV区については前述のとおり未確認である。

SC1～SC3（第32図）

SC1・2はII区で検出された。埋土はIV層と同色同質の土である。SC1は長径92cm、短径68cmの精円形である。検出面のV層上面からの深さ約120cmを測り、断面形はやや袋状になる。遺構の東側の輪郭は乱れが見られ、河原石が斜めに落ちかかるような状態で検出されている。遺物は壁際上層で石片が1点出土している。SC2は長軸85cm、短軸66cmの隅丸長方形を呈する。底は幅が狭くなり、検出面からの深さは約95cmである。埋土はIV層より若干炭化物粒が多い。土器片が1点出土したが、図化に耐えなかったため割愛した。SC3は、III区南端のV層上面で検出された。遺構の輪郭は不明瞭でわかりにくくやや掘りすぎた嫌いがある。直径約80cmの円形を呈する。埋土はIV層と同色同質であるが、遺構を掘り下げる際に不注意から底面を掘り抜いてしまい、底の形がわからなくなってしまった。しかし、VI層上部のカシワバ



第31図 配石造構及び出土土器実測図(2) IV層



第32図 土坑及び出土土器実測図 IV層

ンまでの掘り込みであったと考えられる。埋土上部から大小の河原石と遺物が11点出土した。主な土器を図化した（第32図右下）。2・3・5は造構実測図中の同番号に一致し、1・4は造構内一括取り上げの土器である。1は内外面ともナデ調整で、外面に棒状工具と思われるもので斜め方向に2列の浅い連続刺突文を施している。色調は外面が橙色で内面にはぶい橙色を呈する。2も内外面ともナデ調整が見られ、外面に棒状工具による縦1列の連続刺突文が施される。色調は外面にぶい赤褐色、内面橙色である。3は同じく器面調整がナデで、外面に棒状工具による縦及び斜め方向の連続刺突文が見られる。外面にぶい赤褐色、内面にぶい褐色を呈する。4は、外面がナデでにぶい赤褐色、内面は貝殻条痕文でにぶい橙色を呈し、外面に棒状工具による斜め方向の6列の連続刺突文が施される。5も外面はナデ調整されて褐灰色を呈し、内面は貝殻条痕文が見られにぶい褐色を呈している。外面に棒状工具による横方向の連続刺突文が施されている。

4. 土器（第33図～第60図）

IV層の土器の出土状況については「3. IV層の造構と遺物」の概要で述べたので省略する。出土土器は量的には多いほうで、しかも県内では初出の資料が多かったので時間の許す限り図化に努めた。しかし、図化にあたっては類別に各区毎に選択したので、特に出土量の多かったIV区などは掲載できなかった資料の方が多い。土器は次のように分類した。個別の観察所見についても土器観察表を参照されたい。

A類土器

貝殻条痕文で器面調整し粘土紐の貼付突帯を主文様とする土器である。器形により2類に分類できる。

AⅠ類

胴部が丸く膨らんで張り出し肩部でくびれて口縁部が直口するもの（162）。IV区西側でわずかに1個体しか出土していない。胴部には断面三角形の突帯が貼付され、口縁部外面には数段の低い稜線が見られる。

AⅡ類

口縁部が外傾しながら直口するもの（163～184）。突帯の形状と貼付方向に次のようなもののが見られる。

- a. 指先でつまんだような低く細いミズ腫れ状の突帯を横方向に貼付するもの（163～168）。口縁部直下から貼付するものと下部から貼付するものがある。
- b. 同様の方法で断面三角形のやや高いミズ腫れ状突帯を横方向に貼付するもの（169～176）。ほぼ口縁部直下から貼付する。
- c. 断面三角形の横方向の貼付突帯の両脇をナデしているもの（178～179）。178は口縁部直下に、179は胴部に突帯を貼付する。

・土器実測図について

IV層出土土器の実測にあたっては、できる限り全体形がわかるように復元し、拓本も文様等がわかるように多少手を入れた箇所がある。

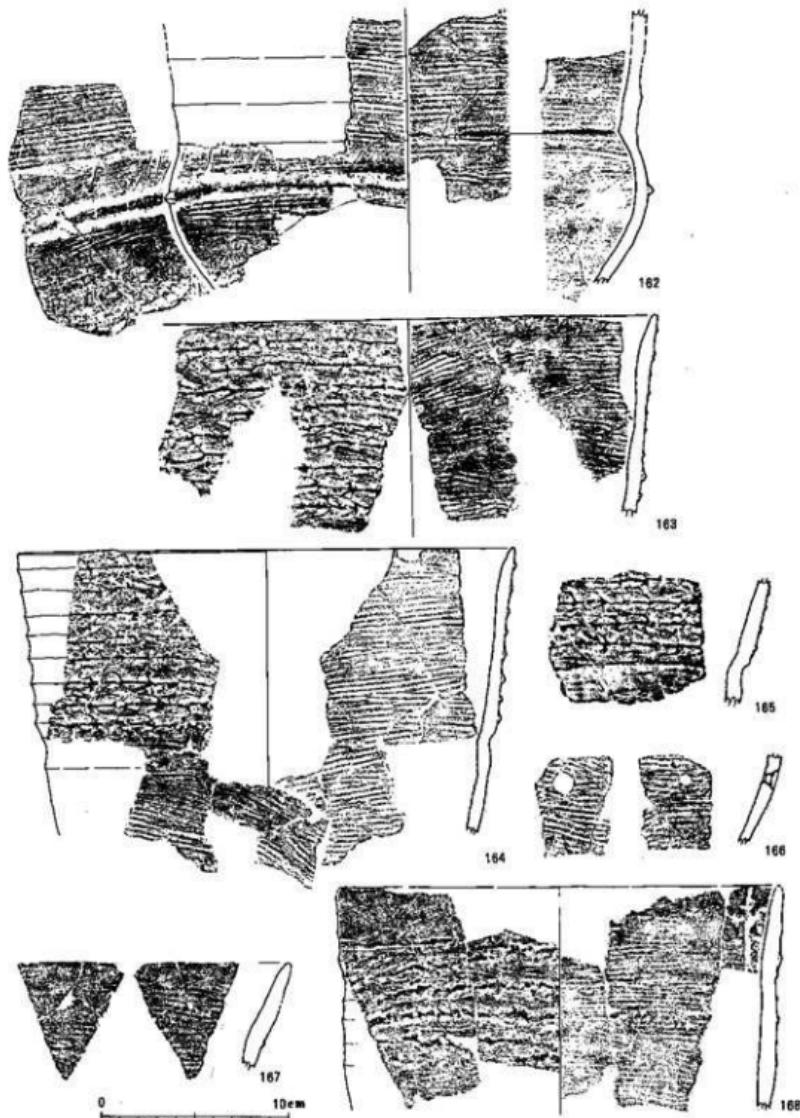
・沈線文について

原則として、幅広で断面形がU字状の円いものについては棒状工具と表記し、幅狭のV字状または底が平坦な箱状のものについてはヘラ状工具と表記した。

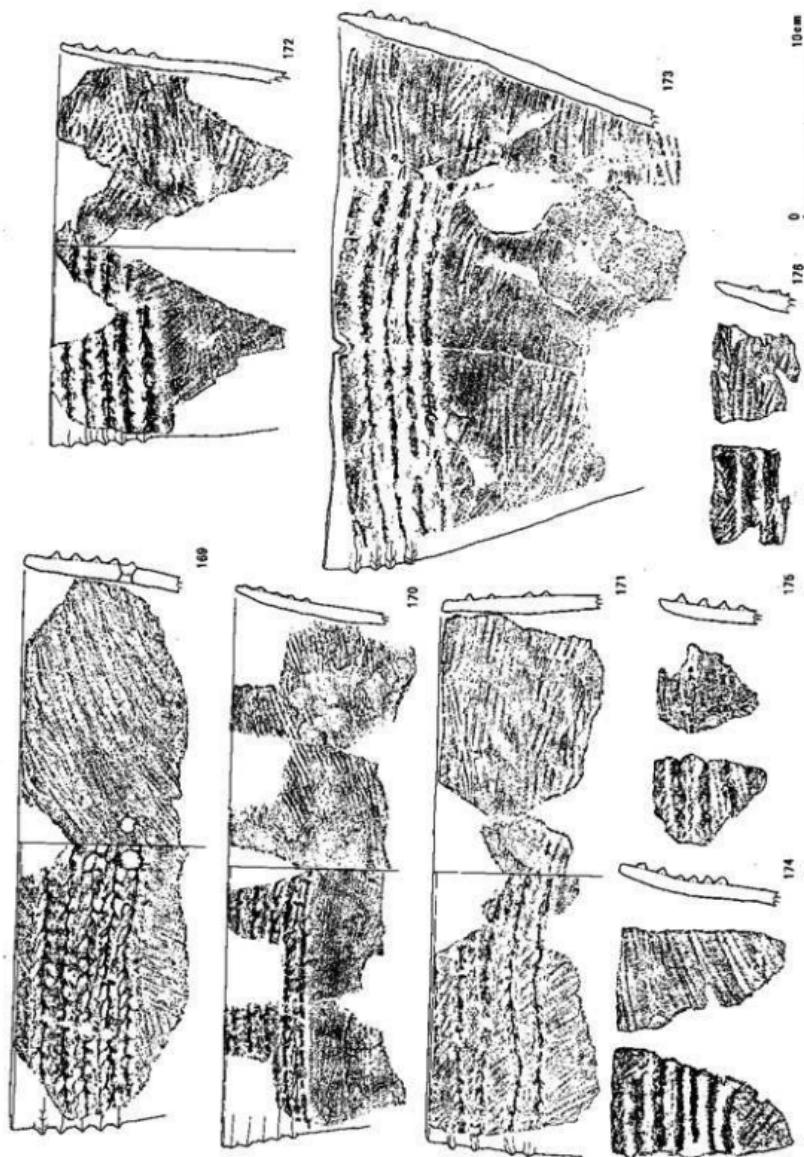
繩文土器観察表(7)

(「は同上」)

器名	出 土 地 区 グリッフ	文 様	調 整	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外表面	内表面		
162	IV b-5 b-6	胸部に断面三角形の貼付突帯。	内外面ともナデ。	灰 褐 に赤い縁	橙 に赤い縁	2ミリ以下の砂粒が多い。質厚を含む。	外面にスス。 内面に炭化物。
163	II b-20 b-21	ミミズバレ状の低い貼付突帯。	内面は貝殻条痕文。	に赤い縁	褐	-	外面にスス。
164	" b-20 b-21 c-20	"	内外面ともナデと貝殻条痕文。	黒 褐 に赤い縁	褐	-	15と同一個体。 外面にスス。
165	" b-21	"	"	に赤い縁	褐	-	" "
166	" b-20	-	内外面とも貝殻条痕文。	に赤い縁	褐	-	内面に炭化物。 穿孔あり(1)。
167	II -	ミミズバレ状の低い貼付突帯。	内外面ともナデと貝殻条痕文。	灰 褐 灰	褐 褐	-	外面にスス。
168	" c-21-22 d-22 e-22	"	内外面ともナデと貝殻条痕文の後、ナデ。	灰 黄 褐 灰 黄 褐	明 黄 褐 灰 黄 褐	-	外面上にスス。
169	III f-10	断面三角形のミミズバレ状の貼付突帯。	外面はナデと貝殻条痕文、内面は貝殻条痕文の工具による削り状のナデ。	に赤い縁 灰	明 黄 褐	-	外面上にスス。 内面下部に炭化物。 穿孔あり(1)。
170	II c-10 c-11	断面三角形の低い貼付突帯。	外面はナデと貝殻条痕文の後、ナデ。内面はナデと貝殻条痕文。	に赤い縁 灰 灰	褐 褐 褐	-	外面上にスス。
171	IV g-6 h-6	断面三角形の貼付突帯。	外面はナデと貝殻条痕文の後、ナデ。 内面は貝殻条痕文。	灰 黄 褐	灰 黄 褐	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面上にスス。
172	" g-6	"	"	黑 褐	黑	"	外面上部にスス。
173	" h-6	断面三角形の低い貼付突帯。	"	に赤い縁 灰	に赤い縁 灰	-	外面上部にスス。
174	" "	断面三角形の貼付突帯。	内外面ともナデと貝殻条痕文の後、ナデ。	に赤い縁	に赤い縁 灰	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面上にスス。
175	" "	"	外面は貝殻条痕文。 内面は削りナデ。	に赤い縁	に赤い縁 灰	"	174と同一個体と思われる。
176	" g-6 h-6	断面三角形のミミズバレ状の貼付突帯。	外面は貝殻条痕文の後、ナデ。 内面は貝殻条痕文。	黄 灰	灰 黄 褐	"	外面上にスス。
177	III f-6	口縁部にヘラ状工具による削り、口縫部に部分的に貝殻条痕文。その下にヘラ状工具による押さえのある貼付突帯。	内外面ともナデと貝殻条痕文。	に赤い縁 灰 灰	に赤い縁 灰	-	"
178	II d-23	断面三角形の貼付突帯。	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。	黑 褐	灰 黄 褐	1ミリ以下の砂粒が多い。	外面上にスス。
179	" d-22 d-23	胸部に断面三角形の貼付突帯。	外面は貝殻条痕文とナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	褐	に赤い縁	-	



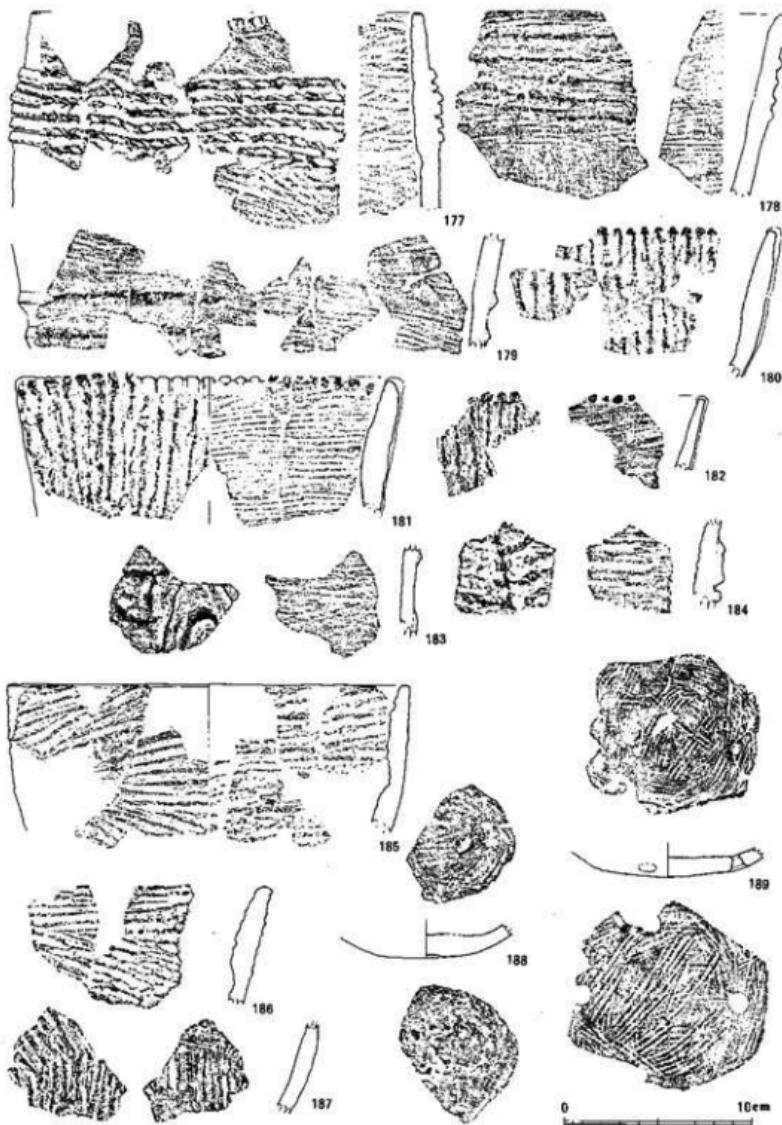
第33図 楽文土器実測図 (16) IV層



第34図 繩文土器実測図 (17) IV層

繩文土器観察表(8)

部番号	生 地 区 グラフ	文 様	調 整	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外表面	内表面		
180	II d-25 e-22	縦方向の貼付突帯。	内面はていねいな貝殻条痕文とナデ。	黒 褐	にい青 褐	-	外面にスス。
181	" e-22	"	"	黒 褐	明 黄 褐	-	180と同一個体。
182	" e-22	口縁部に貼付突帯。口縁部にも続けて貼付突帯。	内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	"	褐 灰	-	
183	IV k-5	貼付突帯による曲線文。	外面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	黒	におい褐	1ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。
184	III f-5	螺旋状の貼付突帯。	内外面とも貝殻条痕文。	におい黄褐	におい青	2.5ミリ以下の砂粒が多い。	
185	" f-7	-	内外面とも粗く太い貝殻条痕文。	橙	濃 におい褐	-	外面上部にスス。
186	" f-6	-	外面は粗く太い貝殻条痕文。内面は同上の後、一部ナデ。	"	橙	-	外面にスス。 186と同一個体。
187	" e-5	-	内外面とも粗く太い貝殻条痕文。	におい青 灰 褐	黒 褐	-	外面にスス。 内面に炭化物。
188	III e-22	-	外面はナデ。内面はナデ。貝殻条痕文が残る。	黄 灰	暗 灰 褐	-	丸底。
189	" b-25	-	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。	におい黄褐 灰 黄	におい青 褐 黄	-	丸底。 穿孔あり(4)。
190	IV f-4	微隆起突帯による曲線文。	内外面ともナデ。突帯の両端は平行のナデ。	におい褐 灰	におい褐 棕	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。
191	III b-23 d-23-24	微隆起線文による三角形状の文様。	外面はナデ。突帯の両端は平行のナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	黒 褐	明 赤 褐	-	外面上部にスス。 穿孔あり(1)。
192	IV f-4	ごく低い貼付突帯及び棒状工具によるごく浅い弦紋。	内外面ともナデ。突帯の輪は平行のナデ。	におい褐	におい黄褐	-	外面にスス。
193	" m-4	低い貼付突帯2条。平行して棒状工具によるごく浅い弦紋。	外面はナデ。突帯の両端は平行のナデ。内面は貝殻条痕文の後、一部ナデ。	"	灰 褐	-	内面に炭化物。
194	" m-4	低い貼付突帯1条。平行して棒状工具によるごく浅い弦紋。	外面はていねいなナデ。突帯の両端は平行のナデ。内面は貝殻条痕文の後、一部ナデ。内面は貝殻条痕文。	橙	におい褐	-	
195	" m-4	一種削り跡のある貼付突帯とその間の浅い弦紋。	外面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	浅 黄 褐	におい黄褐	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。 内面に炭化物。
196	" f-4	不規則な押圧跡みのある螺旋起突帯の両端にごく浅い弦紋。	外面はナデ。突帯の両端は平行のナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	灰 褐	淡 黄 褐	3ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。
197	" k-4	外端は深い突帯。両端に棒状工具によるごく浅い弦紋。内面は棒状工具による押引きの浅い弦紋。	内外面とも粗いナデ。突帯の両端は平行のナデ。	灰 褐	におい黄褐	2ミリ以下の砂粒が多い。	"
198	" m-4	凸面は深い突帯。その端に棒状工具によるごく浅い弦紋。内面は凹面。	内外面ともナデ。突帯の輪は平行のナデ。	におい褐	におい褐	-	
199	" m-4	低い突帯に平行した斜行する弦紋。突帯の削引跡不可視。内面は棒状工具による押引き状の通過痕。	内外面ともナデ。	におい青褐	におい褐	1ミリ以下の砂粒が多い。	内面に炭化物。
200	" g-5 g-7	口縁部は分離的削込み。内外面とも貝殻条痕文によるローランギ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。突帯の両端は平行のナデ。	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。突帯の両端は平行のナデ。	黒 褐	におい褐	-	波状口縁。外面下部にスス。 内面下部に炭化物。
201	" k-3 d-3	D形端子状突起による所持跡。D形端子と丁度合致する押引き跡による斜行する弦紋。	外面はていねいなナデ。内面は貝殻条痕文が残る。内面はナデ。	におい褐	におい褐	-	外面にスス。 内面下部に炭化物。
202	II c-27-28 d-28	棒状工具による削引き及び斜方向の押引き突起。その上に棒状工具による押引きのある貼付突帯。	内外面ともナデ。	淡 黄 褐	淡 黄 褐 灰 褐	-	外面にスス。
203	" c-28 d-28	"	"	淡 黄 褐	淡 黄 褐	-	203と同一個体。
204	" c-28	棒状工具による押引きまたは連続刻突起。	外面下部はミガキ状のていねいなナデ。	"	"	-	外面上部にスス。 202と同一個体。



第35図 拝文土器実測図 (18) IV層

d. 口縁下部から横方向に太い粘土紐の両側をヘラ状工具と思われるもので押さえて貼付するもの（177）。口唇部に刻みが、口縁部には部分的な斜めの細沈線文が見られる。

e. 上記以外の突帯が貼付されるもので、180～182は縦方向の、183は曲線文の、184は葉脈状の突帯が見られる。182は口唇部と口縁部側とが別個に貼付されていると思われるものである。

その他

185～187は粗い貝殻条痕文が施されており、器形や調整が類似するためA II類土器に含めた。

底部

188～189は丸底の底部である。器面調整に貝殻条痕文が見られこの類と思われる。189は焼成後穿孔が4箇所見られる。

B類土器

器形は単純な深鉢形と思われる。文様は微隆起突帯文を主に細沈線文や連続刺突文、貝殻腹縁による相交弧文（ロッキング）などが加味される。器面には貝殻条痕文も一部に残るが最終調整はナデである。量的には少ない。文様によって次のように細分できる。

a. 口縁部に平行あるいは斜めに微隆起突帯文のみ施すもの（190～191）。

b. 微隆起突帯文と浅い細沈線文とを組み合わせせるもの（192～196）。このうち、195～196は微隆起突帯上に不規則な刻みを施す。

c. 外面はb類と同文様であるが、内面には棒状工具による押引き状の連続刺突文を施すもの（197～199）。これらはいずれも口縁部付近であり、b類の口縁部である可能性もある。

d. 1点のみであるが貝殻腹縁によるごく浅い相交弧文を施し、その後微隆起突帯文を施すもの（200）。口縁部内面にもごく浅い相交弧文が施される。

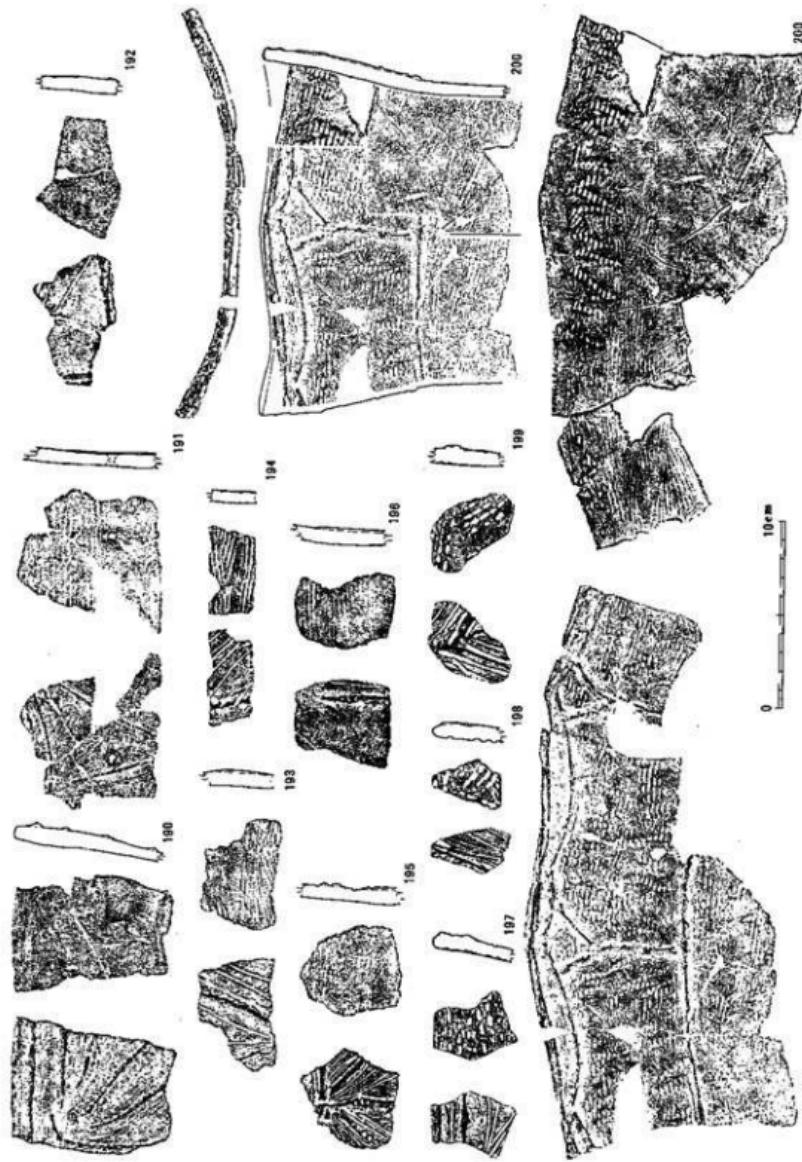
C類土器

文様は、管または棒状の工具による押引き状の連続刺突文を施した後、その上に刻み目突帯を貼付するもの（201～211）。器形は釣り鐘形の丸底になると思われる。器面はナデ調整されていて明るい色調を呈している。量的にはごく少ない。連続刺突文は、201では口縁部と底部付近に横方向に、そしてその上下をつないで縦方向に施され、この縦方向の文様と文様の間にはX字状に交差する刺突文が施される。202～211は同一個体で口縁部が不明であるが、縦方向の文様と文様の間は斜め方向に刺突文が施されている。

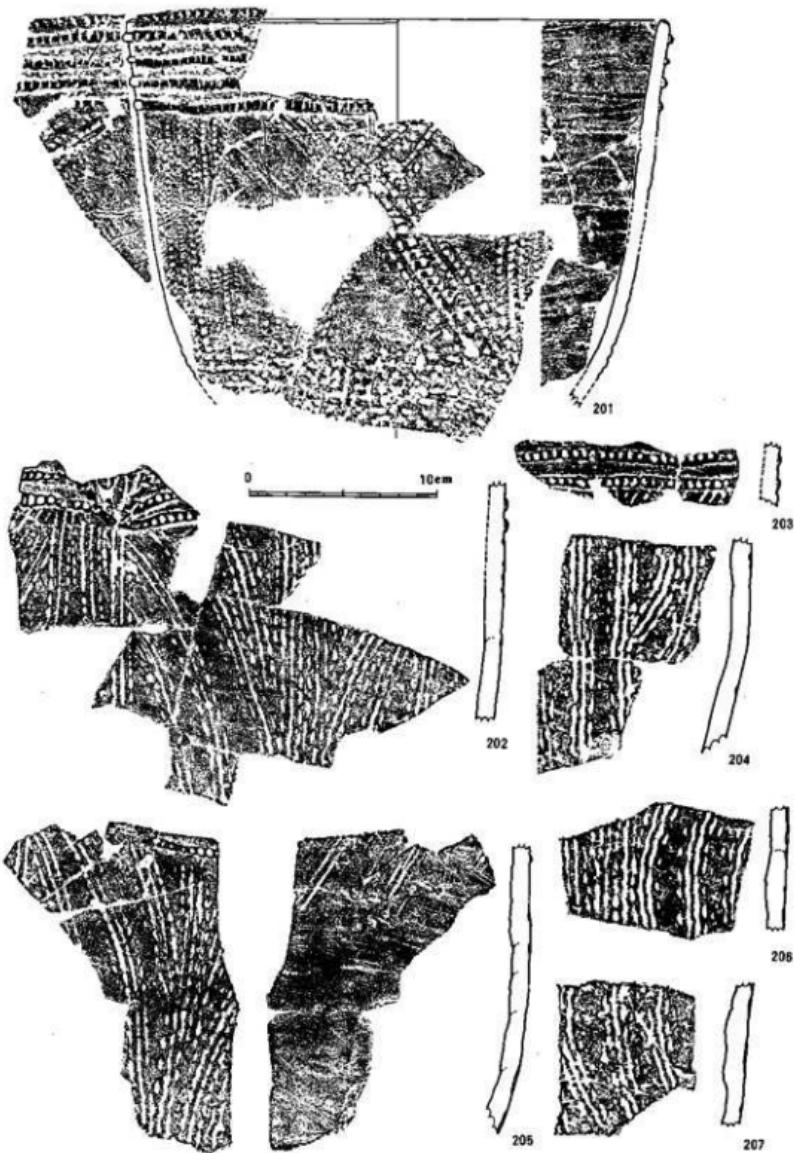
D類土器

管または棒状工具による押引文や連続刺突文などが見られる土器である。全体形のわかるものはあまりないが器形は単純な深鉢形になると思われる。器面調整には貝殻条痕文を用いるものの最終調整はナデである。量的には少ない。施文部位や口縁部の形態などにより3類に分類した。

a. 口縁部に連続刺突文、胴部に押引文を施すもの（212）。213～215は胴部片であるが、



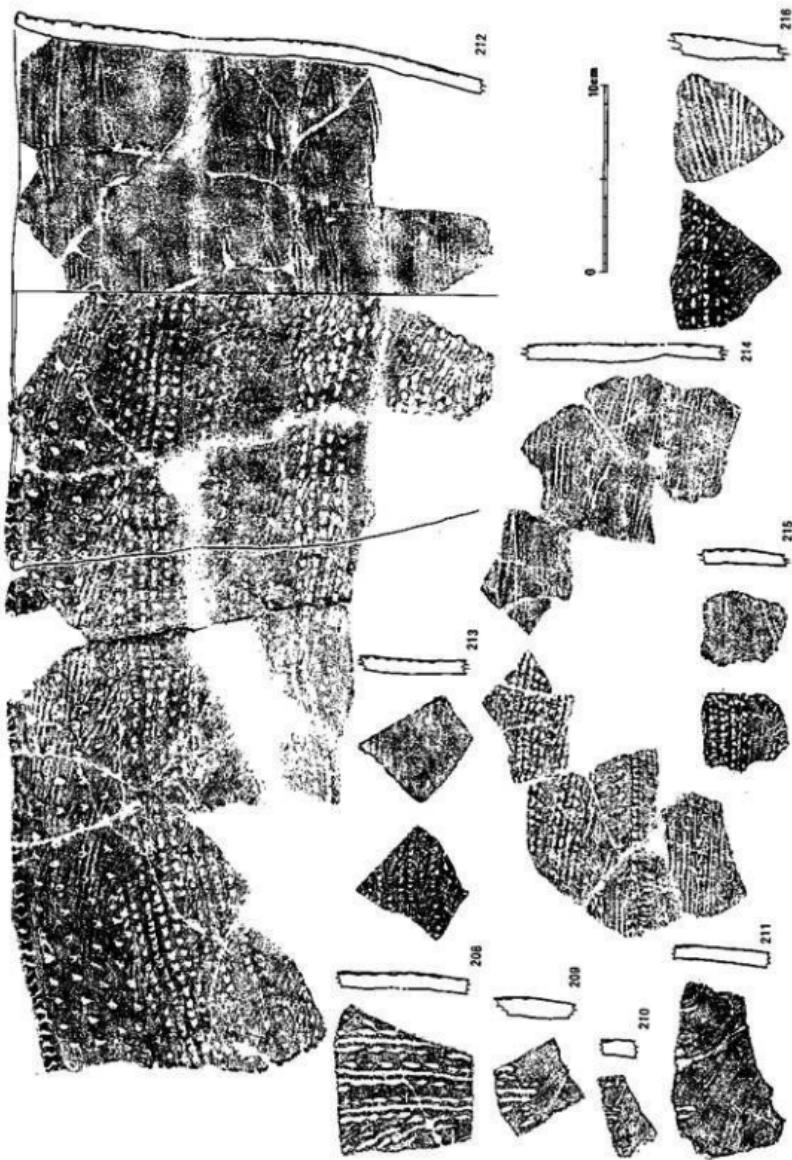
第36図 縄文土器実測図(19) IV層



第37図 繩文土器実測図 (20) IV層

縄文土器觀察表(9)

器形	出 土 場 所 名	文 様	調 査	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外表面	内表面		
205	II c-28	202と同じ。	外面はナデ。内面はナデ。一部に貝殻条痕文。	淡 黄 褐	に bei 黄 灰 褐	-	外添上部にスス。 202と同一個体。
206	" d-28	204と同じ。	内外面ともナデ。	淡 黄 褐	に bei 黄 灰 褐	-	外面にスス。 202と同一個体。
207	" "	"	"	"	"	-	外添上部にスス。 202と同一個体。
208	" "	"	"	"	に bei 黄 灰 褐	-	202と同一個体。
209	" c-28	"	"	"	に bei 黄 灰 褐	-	"
210	" "	"	外面は1ガキ状のていねいなナデ。	"	板 黄	-	内面に炭化物。 202と同一個体。
211	" d-28	"	外面は貝殻条痕文の後、1ガキ状のていねいなナデ。内面はナデ。	淡 黄 褐	に bei 黄 灰 褐	-	202と同一個体。
212	b-25-27 c-27	口縁部は貝殻条痕文による押引き文。脚部は棒工具による押引き文(箇文等あり)。	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。	に bei 黄 灰 褐	-	-	外面にスス。 内面に炭化物。
213	III f-6	骨状工具による押引き文、または連續刻突文。	外面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	に bei 黄	に bei 黄	-	
214	" e-3	上半部は骨状工具による押引き文、下半部は貝殻条痕による連續刻突文。	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。	に bei 黄	"	-	外面にスス。
215	" "	棒状工具による押引き文、または連續刻突文。	外面は貝殻条痕文の後、ナデ。内面はナデ。	"	に bei 黄	-	内面下部に炭化物。
216	" f-2	"	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。	板 黄	"	-	
217	" -	口縁部に貼付突起。内外面とも棒状工具による押引き状の深い連續刻突文。	"	灰 褐	灰 褐	1ミリ以下の砂粒が多い。	
218	" e-5	内外面とも棒状工具による押引き状の深い連續刻突文。	"	に bei 黄	に bei 黄	-	外面にスス。
219	" e-4	"	外面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	褐 灰	に bei 黄	-	外面にスス。 穿孔あり且。
220	" e-3	内外面とも棒状工具による連續刻突文、または押引き文。	"	に bei 黄	"	-	
221	" "	棒状工具による押引き状の連續刻突文。	内外面ともナデ。	"	に bei 黄	-	外面にスス。 内面に炭化物。
222	" j-3	連續刻突文及び押引き文。骨状またはクシ状工具によるものか。	"	に bei 黄 褐 灰	に bei 黄 褐 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	
223	IV -	"	"	"	に bei 黄	2ミリ以下の砂粒が多い。	
224	II d-23	口縁部は連續刻突文。口縁帶5列の連續刻突文(中央のはく状になら)。いずれも小さな骨状工具。	外面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	黑 褐	褐	-	外面にスス。
225	" c-27	口縁部は沈線文。その下に沈線文と並行の連續刻突文。いずれも骨状工具。	内外面ともナデ。	明 赤 褐	に bei 黄	-	"
226	" d-28	"	"	赤 褐	"	-	225と同一個体。
227	b-25 e-24-25	口縁部は平行弦棱文。その下は平行模文。最下部は平行模文に横文を加える。いずれも骨状工具。	"	に bei 黄 灰 褐	-	-	外面に多量のスス。 内面に炭化物。
228	" e-24 e-26	"	"	"	に bei 黄 褐 灰	-	227と同一個体。
229	IV m-4	口縁部に押圧刻み。その下はヘラ状工具による平行模文。	(内面はていねい)。	に bei 黄 灰 褐	3ミリ以下の砂粒が多い。	-	沈線内に赤色筋料。外面にスス。



第38図 純文土器実測図 (21) IV層

押引文または押引文に近い連続刺突文を施しており、同類と思われる。器面には貝殻条痕文が残る。214には貝殻腹縁の連続刺突文も見られる。これらの文様はいずれも浅く施文されるものが多い。

b. 口縁部内外面に一部押引き状になる連続刺突文を施すもの（216～223）。a類に良く似た文様であるが、短い押引きを若干の間隔をあけて繰り返す点が異なっている。216・221は胸部片であるが、文様の特徴が類似するためこの類に含めた。内面には文様は見られない。a類に比べると216を除いて貝殻条痕文の残り方は少ない。

c. 口縁部をやや肥厚させて文様帯とするもので、形態的には上記と異なる。文様は小さな管状の工具により連続刺突文のみを施すものである（224）。

E類土器

沈線文または沈線文と刺突文を組み合わせて施文する土器である。器面はナデ調整される。文様やその構成に次のようなものが見られる。

a. 口唇部に沈線文を施し、外面は沈線文とその脇に連続刺突文を施すもの（225～226）。内面は無文である。ごく少量の出土。

b. 弧状沈線文を施すもの（227～237）。227～228・233～234は弧文と直線文が組み合わされる。器形は227～232が単純な深鉢形、233～237は小さな鉢形を呈すると思われる。229の口唇部には刻みが施されている。また、233には滑石が混入され、229・234・236～237は外面及び沈線の一部に赤色顔料が少量付着している。

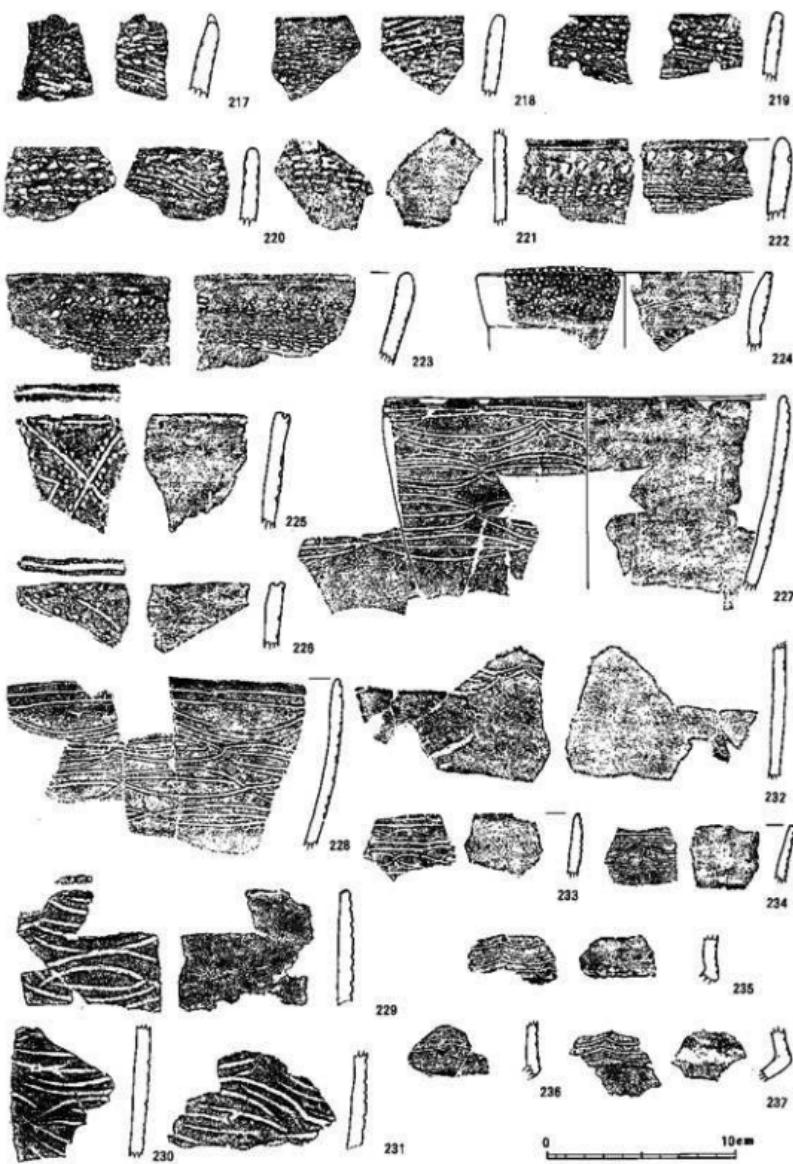
c. 口縁部外面に上から連続刺突文・横方向の沈線文の順に施文されるもの（238～245）。内面は同様の文様か単純な連続刺突文である。240～241は238と同一個体と思われる胸部片である。244は連続刺突文の下に有軸の羽状文が見られ、その下は平行沈線文とその間に折帶文と思われるものが見られる。器形は単純な深鉢形と思われる。

d. 口縁部外面に連続刺突文が見られず横または斜め方向の沈線文が施されるもの（246～262）。246は胸部に折帶文が、247～248は四角組み合わせ文に類似する文様が施される。251・257は横方向の沈線文のみが見られる。また、259～261は他と異なり厚手のものであるが、260など折帶文かと思われる文様も見られ、262も貝殻腹縁の刺突ではあるが器面調整や内外面の施文法や施文部位など共通するところがあり、極めて在地的な要素の強いものであろう。

e. 口縁部外面に縦方向の沈線文が見られるもの（263～268）で、263～266は短沈線文、267～268は長い沈線文と横方向またはX字状の沈線文が組み合わされる。前者は内面無文で、後者は横方向の沈線文が見られる。

胸部

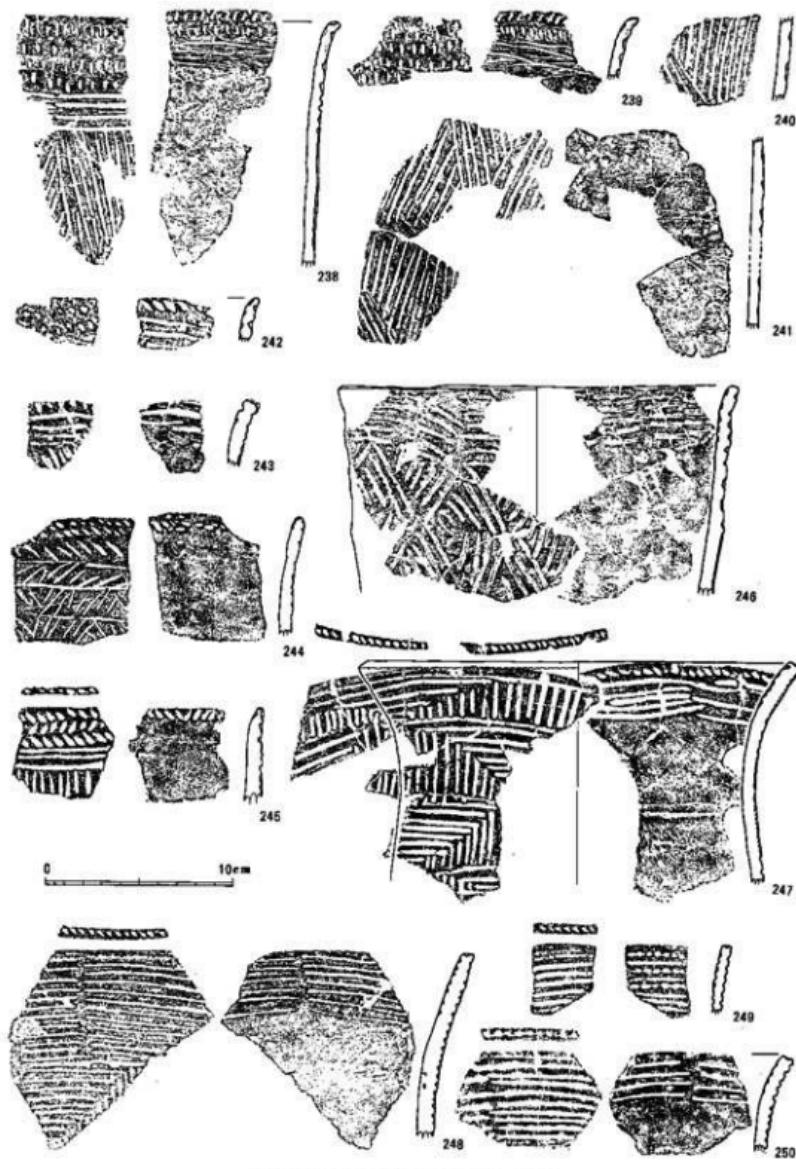
269～297はE類土器の胸部片である。このうち、269～274には滑石が混入されており、269～270は弧文と思われる。274は無文であるが滑石が見られることからこの類に含めた。280～



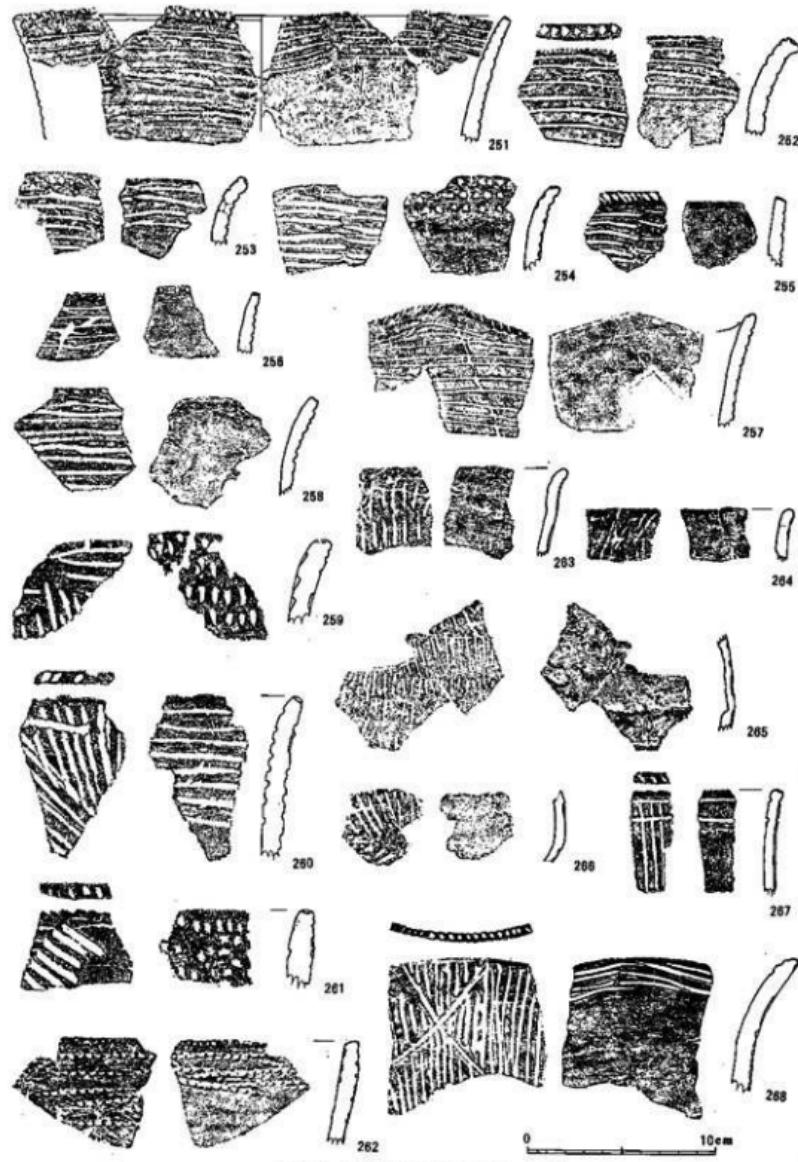
第39図 繩文土器実測図 (22) IV層

縄文土器観察表 00

順序	出土場所 グリッド	文様	調査	色調		胎土の特徴	備考
				外表面	内表面		
230	IV k=4	ヘラ状工具による平行彫文。	内外面ともナゲ。 (内面はていねい)	灰 褐	におい穂	-	外面にスス。 229と同一個体。
231	m=5 n=5	"	" (内面はていねい)	におい穂	におい穂	-	" "
232	II d=25 e=25-26	ヘラ状工具による彫文か。 上部にも沈継文。	(内面はていねい)	におい穂	におい黄青 褐	-	外面にスス。
233	" e=28	口唇部はヘラ状工具による削み。 その下は棒状工具による長い平行 沈継文及び複合状文。	"	明赤 褐	穂	滑石混入。	外面にスス。 小型の鉢形土器 か。
234	" e=25	ヘラ状工具による上下の平行沈継 文の間に平行彫文。	"	黒 褐	におい穂	-	沈継文に赤色顔料。 小型の鉢形土器か。
235	" "	ヘラ状工具による平行彫文。	"	穂	穂	-	小型の鉢形土器 か。
236	" "	"	内外面ともていねいな ナゲ。	灰 褐	褐 灰	-	外面にスス。 沈継文に赤色顔料。 小型の鉢形土器か。
237	" "	ヘラ状工具による平行彫文。	内外面ともていねいな ナゲ。	灰 褐	におい穂 褐	滑石混入。	上面にススと赤色 顔料。小柄の棒状土器 か。238と同一個体。
238	I a=16 e=13-14	外面は透続刻文。平行沈継文。折带文。 内面は透続刻文。並れた長い 横彫り彫文。いずれもヘラ状工具か。	内外面ともナゲ。	黒 褐	褐 褐	-	外面にスス。
239	" e=13	"	"	"	におい穂	-	238と同一個体と 思われる。
240	" -	ヘラ状工具による平行彫文。 思われる。	(内面はていねい)	"	灰 褐	-	外面にスス。 238と同一個体。
241	" d=16 e=15 e=13	ヘラ状工具による上下の折帶文。	"	"	"	-	外面にスス。 238と同一個体。
242	III -	外面は管状工具による透続刻文。 内面は棒状工具による透続押汗文、 平行沈継文。	(内面はていねい)	明 褐 灰	穂 灰	2ミリ以下の砂粒が 多い。	外面にスス。
243	" e=13	外面は管状工具による透続刻文。 その下に平行沈継文。内面は平 行沈継文。いずれも棒状工具。	"	灰 褐	1ミリ以下の砂粒が 多い。	-	外面にスス。 238と同一個体と 思われる。
244	IV E=5	外面は透続刻文。その下は透続押汗文。平 行沈継文。内面は透続押汗文。内面は透 続刻文。いずれも棒状工具。	"	灰 褐	におい穂	-	
245	" E=3	外面は透続刻文。平行沈継文。 内面は透続押汗文。いずれも棒状 工具。	外面はナゲ。 内面は削り状のナゲ。	浅 黄 褐	浅 黄 褐	1ミリ以下の砂粒が 多い。	非常に明るい焼 上がり。
246	I d=16 E=16 T=16	外面は平行沈継文。折帶文。 内面は平行沈継文。いずれも棒状 工具。	内外面ともナゲ。内面 は透続押汗文が残る。	におい穂 におい黄青 褐	におい穂 におい黄青 褐	2ミリ以下の砂粒が 多い。	外面にスス。
247	IV k=5	口唇部は長い透続押汗文。内面は平行沈継文。 内面は棒状工具による透続刻文。内面は透続押汗文。 その下は平行沈継文。いずれも棒状工具。	内外面ともナゲ。	におい穂	におい穂	-	"
248	II e=27	口唇部は透続刻文。内面は平行沈継文。 内面は削り込みや沈継文で充てんに充てん。 下部は透続押汗文。いずれも棒状工具。	内外面とも削合ていねい なナゲ。	黒 褐	黒 褐	-	
249	" -	[口唇部は透続刻文。内面は平行沈継文。 内面は削り込みや沈継文で充てんに充てん。 下部は透続押汗文。いずれも棒状工具。	内外面ともナゲ。	穂	におい穂	-	外面にスス。
250	I -	口唇部は透続押汗文。内外面とも 長い平行沈継文。いずれもヘ ラ状工具。	(内面は削合ていねい)	浅 黄 褐	におい穂	1ミリ以下の砂粒が 多い。	
251	IV k=4 m=3-4	口唇部はヘラ状工具による削み。 内外面ともヘラ状工具による長い 平行沈継文。	"	におい穂	におい穂	-	外面にスス。
252	" E=4	口唇部は透続刻文。内面は平行 沈継文。いずれも平行沈継文。	"	におい穂	"	-	
253	" "	口唇部は透続刻文による長めの平行沈 継文。内面とも長い平行沈継文。い ずれもヘラ状工具。	"	におい穂	におい穂	-	穿孔ありなし。
254	" k=2	口唇部は管状工具による透続押汗文。 内面は棒状工具による長い平行沈 継文。内面は管状工具による透続押 汗文。	"	におい穂	におい穂	-	



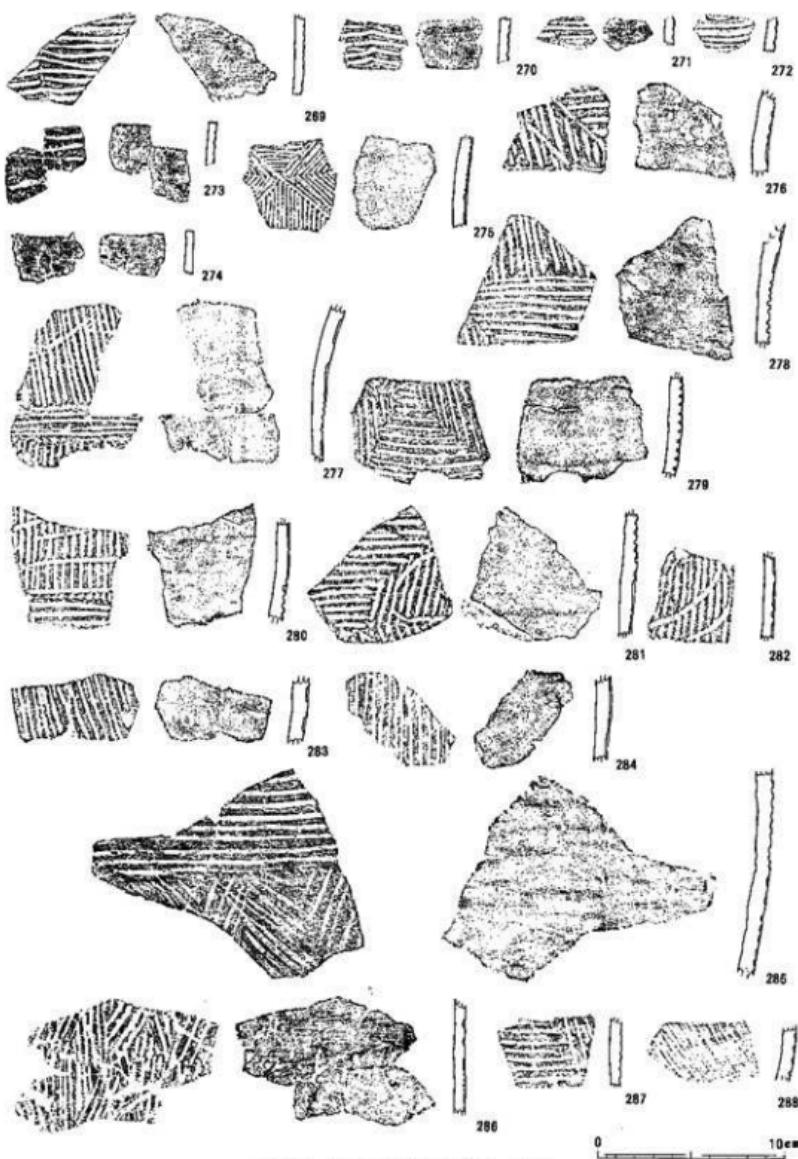
第40図 繩文土器実測図 (23) IV層



第41図 桶文土器実測図 (24) IV層

縄文土器觀察表(II)

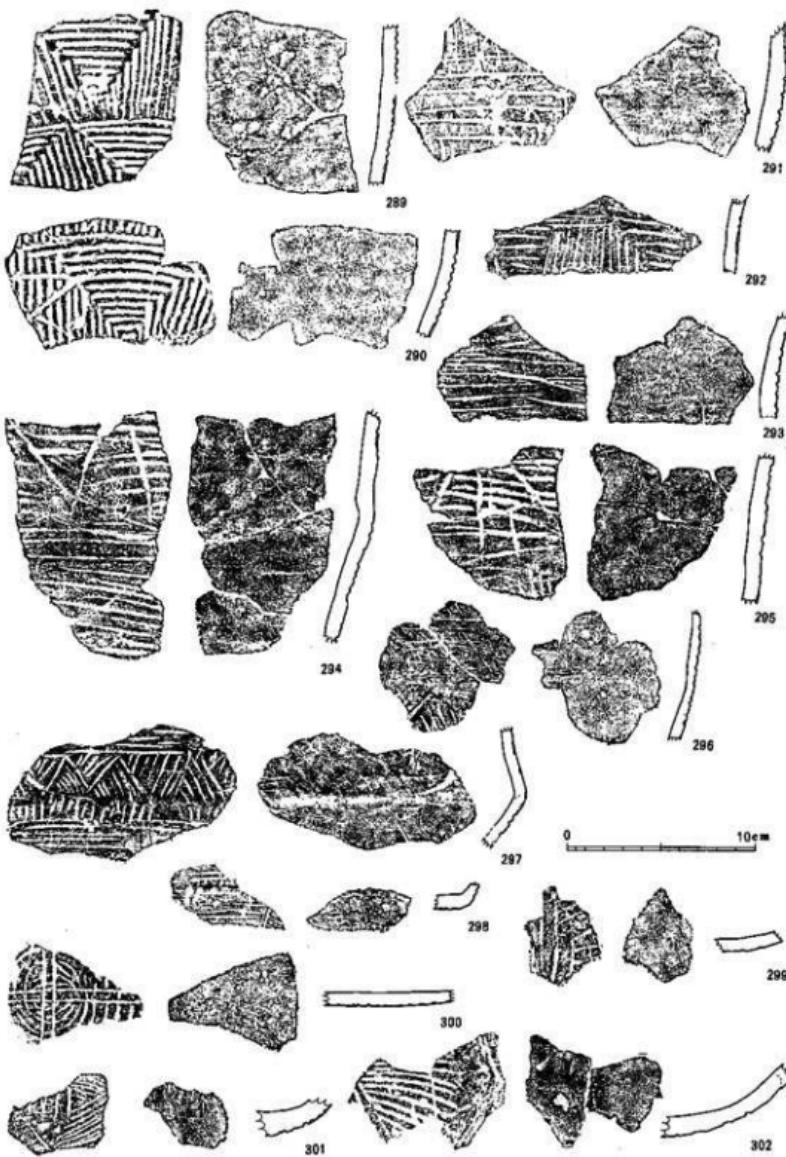
編號	出 土 地 區 ダ ラ ッ ド	文 様	質 感	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外 面 面	内 面 面		
256	IV j-4	口唇部は連續齊正文。外面は長めの平行彎折線文。いずれもヘラ状工具。	内外面ともナデ。	明 赤 褐	に bei に bei に bei	-	外面にスス。
256	" m-3	口唇部は崩み。その下に長めの平行彎折線文。いずれもヘラ状工具。	"	に bei に bei	に bei に bei	-	
257	" o-5	口唇部は連續齊正文。その下に平行彎折線文。いずれもヘラ状工具。	"	"	"	-	外面にスス。 板状口縁。
258	" k-5	口唇部は長い連續齊正文。その下に先端の平らな工具による長い平行彎折線文。	"	に bei に bei	に bei に bei	-	外面にスス。
259	" f-4	外面は平行、近比線文。口唇部下面は連續齊正文。いずれも棒状工具。	内外面とも割合でいね いナデ。	に bei に bei	に bei に bei	2ミリ以下の砂粒が 多い。	唇壁が分厚い。
260	" f-3	口唇部は不規則な齊正文。外面は新文文。内面は平行彎折線文。いずれも棒状工具。	内外面とも粗いナデ。	灰 褐	灰 褐	-	"
261	" f-4	口唇部は連續齊正文。外面は崩めの近比線文。内面は連續齊正文。いずれも棒状工具。	内外面ともナデ。 (内面はていねい)。	褐	褐	3ミリ以下の砂粒が 多い。	"
262	" f-3	口唇部内外端部に強い連續齊正文。内外面とも貝殻散紋による平行彎折線文。	内外面ともナデ。	に bei に bei	に bei に bei	1ミリ以下の砂粒が 多い。	外面上部にスス。
263	I g-15	先端の丸らなヘラ状工具による継 続の短比線文。	"	黄 褐	黄 褐	"	
264	" a-15	継位のくわらなヘラ状工具。ヘラ 状工具。	"	灰 黄 褐	灰 黄 褐	-	外面にスス。
265	" b-15	継位の短比線文。ヘラ状工具と混 われる。	"	"	"	3ミリ以下の砂粒が 多い。	外面にスス。 264と同一個体。
266	" a-15	ヘラ状工具による斜めの短比線文。	"	"	褐 灰		
267	IV k-2	口唇部は連續齊正文。外面は継位の 平行彎折線文の後、横位の平行彎折線文。内 面は平行彎折線文。いずれも棒状工具。	"	に bei に bei	に bei に bei	1ミリ以下の白っぽ い砂粒が多い。	外面にスス。
268	" f-4	口唇部は連續齊正文。外面はX形彎折線文 の後、継位の平行彎折線文。内面は長めの且 れた平行彎折線文。いずれも棒状工具。	"	"	灰 褐	に bei に bei	"
269	" m-4	棒状工具による浅い張りの彎折線文。	"	に bei に bei	に bei に bei	滑石混入。	"
270	" f-4	"	"	灰 褐	灰 褐	"	
271	" m-4	"	"	褐 灰 褐	灰 褐	"	
272	" "	"	"	に bei に bei	灰 褐	"	
273	" f-4	"	"	"	"	"	
274	" m-5	"	"	に bei に bei	に bei に bei	"	外面にスス。
275	II d-27	ヘラ状工具による密な沈線文。	内面はナデ。	黑 褐	灰 褐 褐	-	外面下部にスス。
276	" c-27	棒状工具による四角組合文か。	内外面ともていねいな ナデ。	褐	褐	-	赤っぽい焼き上 がり。
277	" d-27 e-27	ヘラ状工具による、横、横、継位 の沈線文。下部の沈線は先端二又 のヘラ状工具。	内外面ともナデ。 (内面はていねい)。	灰 黄 灰 褐	褐 黄 褐	-	外面下部にスス。
278	" "	ヘラ状工具による継位の沈線文。 及び四角組合文。	"	褐 黄	黄 灰	-	
279	" c-27	西角組合文及び折番文か。	"	に bei に bei	褐	-	



第42図 楩文土器実測図 (25) IV層

縄文土器觀察表 12

番号	出 土 地 区 グリッド	文 様	調 整	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外 面 部	内 面 部		
280	II c-27	ヘラ状工具による縦位の沈縞文の後、横位の沈縞文。	外面はナダ。内面は相応のヘラナダ。状のていねいなナダ。	淡 黄 褐	褐 灰 褐	-	外面下部にスス。
281	" c-28	ヘラ状工具による四角組合文の後、曲線文。	外面ともナダ。(内面は割合ていねい)	淡 黄 褐	淡 黄 褐	-	外面下部にスス。 290と焼成が類似。 同一個体か。
282	" c-27	ヘラ状工具による縦位の沈縞文の後、平行曲縞文。	(" ")	淡 黄 褐	灰 黄 褐	-	外面にスス。 280と焼成が類似。 同一個体か。
283	" b-26	ヘラ状工具による斜位の沈縞文。	外面ともナダ。	に bei 棕	灰 褐	-	
284	" d-28	ヘラ状工具による縦位の沈縞文。	"	黑	灰 黄 褐	-	
285	b-27 c-28	上半部はごく浅い平行沈縞文。下半部はごく深い山形文。いずれも先端の平らなヘラ状工具。	外面はナダ。内面は削り状のナダ。	褐 灰	に bei 棕	-	外面上部にスス。 内面に炭化物。
286	I e-13	ヘラ状工具による乱れた折唇文。	外面はナダ。	に bei 棕	灰 黄 褐	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。 内面に炭化物。
287	III f-2	ヘラ状工具によるごく浅い沈縞文。	外面ともナダ。	褐	褐	-	赤っぽい焼き上がり。
288	" f-3	ヘラ状工具による新・横位の沈縞文。	外面ともていねいなナダ。	棕	棕	-	
289	IV j-4	先端の平らなヘラ状工具による四角組合文。	外面ともナダ。	"	に bei 棕	-	
290	" k-5	棒状工具による四角組合文の後、曲線文と斜沈縞文。	"	"	に bei 棕	-	
291	" k-3	ヘラ状工具による、紙・模・縦位の沈縞文。	"	に bei 棕	に bei 棕	-	
292	" l-4	ヘラ状工具による四角組合文。	外面とも割合ていねいなナダ。	に bei 棕	灰 黄 褐	1ミリ以下の砂粒が多い。	
293	" k-3	ヘラ状工具による長めの稍い平行沈縞文。	外面ともナダ。	に bei 棕	に bei 棕	-	
294	" l-3	上半部は棒状工具による短い平行沈縞文の後、稍い折唇文。下半部はヘラ状工具による平行沈縞文。	"	に bei 棕	に bei 黄褐	7ミリ以下の砂粒が多い。	表面が分離し、胎上に水の痕の凹版と出われるものあり。
295	" k-3	棒状工具による短い平行短沈縞文の後、斜行沈縞文。	"	明 褐 灰	に bei 棕	3ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。 胎上に分離し、294と同一個体か。
296	" l-3	ヘラ状工具による細縫縞文。下端部は棒状工具による沈縞文。	"	に bei 棕	"	-	
297	" h-6	平行沈縞文、折唇文、縦位の短沈縞文、平行沈縞文の間に施文。いずれもヘラ状工具。	" (内面下部はていねい)	黑	褐 褐 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。 細縫する調査。
298	II d-28	ヘラ状工具による平行沈縞文。底部は有輪羽状文。	"	棕	明 黄 褐	-	平底の底部か。
299	" "	先端の平らなヘラ状工具による、ごく浅い沈縞文。	内面ともナダ。(内面は割合ていねい)	棕	黑 褐	-	底部付近か。 磨耗している。
300	I f-14	ヘラ状工具による浅い同心円文の後、底文する平行沈縞文。	"	に bei 棕	黑 褐 黄	2ミリ以下の砂粒が多い。	底部。 磨耗している。 外面にスス。
301	IV l-4	ヘラ状工具による浅い折唇文。	"	に bei 棕	灰 黄 褐	-	底部付近。
302	" k-3 l-4	先端・又状のヘラ状工具による2本の輪を持つ羽状文。	"	淡 黄 棕	淡 黄 棕	-	底部と思われる。
303	" b-5 l-5	ヘラ状工具による縦または斜位の細縫縞文。	外面は日輪彌文の後、ナダ。内面は貝殻条痕文の上を一層ナダ。	棕	に bei 棕	-	土器片残。断面片を横的に使用。重さ31.0g(復元石膏含む)
304	" "	ヘラ状工具による縦位の細縫縞文。	外面は貝殻条痕文の後、ナダ。内面は貝殻条痕文。	に bei 棕	灰 黄 褐	-	土器片残。断面片を横的に使用。重さ24.0g(復元石膏含む)



第43図 繩文土器実測図 (26) IV層

282は同一個体と思われるものであるが、281～282には曲線文が見られる。285は先端が平たいヘラ状工具で非常に浅い沈線文を施しており、この類の中では多少異質なものである。294～295はd類の259～261と同様に厚手のもので、粗い沈線文が施される。296は上部が細沈線文で下部は通常の太さのものである。この細沈線文は303～305の土器片錐の文様に類似するものである。297は胸部が張り出すものである。これは胴屈曲部を水平にして見た場合の傾きで図化したものであるが、器形的には浅鉢形であろう。

底部

298～302はE類土器の底部と思われる。298は平底に近く、299・301～302は丸底と思われる。

土器片錐

IV層中からは、IV区西側のh・i-5グリッドの一括取り上げではあるがE類土器296の細沈線文に類似の文様を持つもの3点とヘラ状工具による鋭い沈線文が見られるもの1点の計4点の土器片錐が出土している。このうち、303は横長の同部片を用い、折帶文が退化したような文様が見られる。304～306は縱長の胸部片を用いている。しかし、これらの器面には、外面は貝殻条痕文の上をミガキに似たナデ、内面は一部ナデを施したものも見られるが貝殻条痕文が強く残っていて、E類土器のナデ調整とは異なっている。

F類土器

クシ状工具または貝殻と思われる工具で外面に縦方向の条線文が施され、その上に沈線文や刺突文を組み合わせるもの（307～310）。量的にはごく少ない。307～308の外面はナデ調整の後縦方向に条線文を施し、309～310の外面は貝殻条痕文とクシ状工具による条線文とが見られるようである。

G類土器

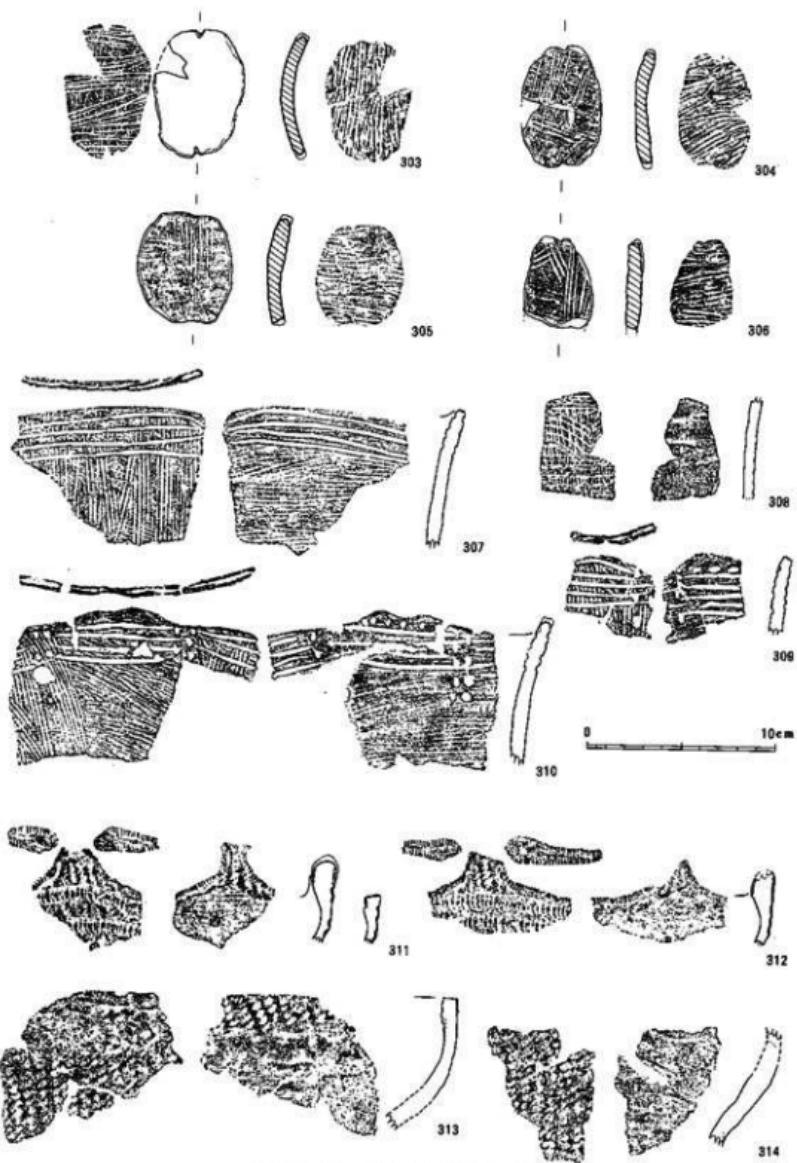
九州東南部ではごく少ない地文に繩文や撚糸文が見られる土器である。内面調整は殆どナデか削りで、口縁部が内湾するいわゆるキャリバー状の器形である。主にⅢ区の南側からⅣ区で出土している。地文の違いにより2類に細分する。

a. 地文が繩文のもの（311～317）。311～312は波状口縁の波頂部内外面に繩文が、口縁端部と口縁部外面に爪形文が施される。また、ともに波頂部側面に両側から穿孔が見られるが、311は未貫通で312は小さな貫通孔がある。313は口縁部内面のやや肥厚した部分と外面に繩文が見られるが、外面のはごく浅い。この313～314は他と胎土が異なり焼きも堅い。317は口縁部に波状の刻み目突帯を貼付している。

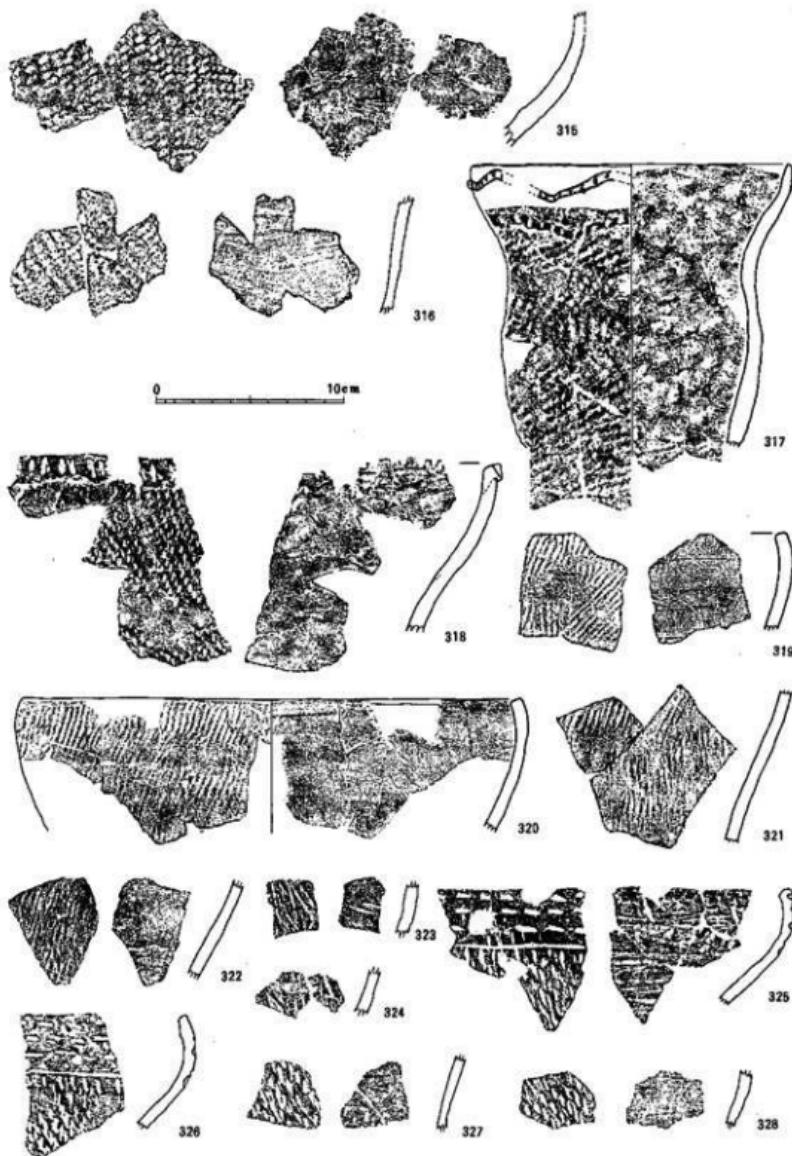
b. 地文が撚糸文のもの（318～335）。318は口縁上端部に刻み目突帯が見られる。319～322は0段の撚糸文と思われる。323～324も同様のものか。325～326は口縁部ナデの上に横長の連続刺突文を3列施し、その下に沈線文、沈線文の下には縦長の連続刺突文を1列巡らせている。この沈線文付近から下は撚糸文である。334～335は外面に撚糸文が見られるものの、ほ

縄文土器觀察表 (3)

器類名	出 土 地 区 グリッド	文 様	圖 案	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外 面 部	内 面 部		
305	IV h-5 i-5	ヘラ状工具による縦位の繩紋線文。	外表面は日輪条文の後、ナデ。内面は日輪条文の後、一部ナデ。	にない種	黒 灰	-	土器形態。耐熱片を被覆に使用。重さ31.4g。
306	" "	ヘラ状工具による縦位の繩紋線文。	外表面は日輪条文の後、ナデ。内面は日輪条文の後。	褐 灰	褐 灰	-	" 重さ17.1g。
307	E-5	青筋は日輪条文またはタシ状工具による層。青筋は日輪条文の後、縦位の繩紋線文。口周部に施加した墨文。内面は日輪条文。	外表面はナデ。一部凹穂条文の後、縦位の繩紋線文の後。内面は日輪条文の後。	にない種	にない種	21.9以下の中っぽい砂粒が多い。	
308	k-2 k-4	タシ状工具によると思われる縦・横位または波状の墨文。	内外面ともナデ。	灰 灰	灰	-	
309	E-5	口付部は弦文。外表面は日輪条文によると思われる施加した墨文。沈鉢部は弦文。内面は斜矢文。波状部は弦文。	"	褐 灰	にない青筋	2ミリ以下の白っぽい砂粒が多い。 青筋を含む。	波状口縫。
310	E-5 m-5	外表面の一部はタシ状工具による斜位の墨文。口周部は弦文。内面ともタシ状工具による施加工具による墨文。沈鉢部は弦文。	内外面とも日輪条文の後、ナデ。	灰 灰	灰	21.9以下の白っぽい砂粒が多い。 青筋を微量含む。	斜位口縫。外側にスス。 内側に青筋。
311	m-5	口部、脚部、周縁部に斜矢文。内面は斜矢文。内面は波状部に施加した墨文。	外表面はナデ。内面は削り状のナデ。	褐 にない種	にない種	21.9以下の砂粒が多い。	波状口縫。 外側にスス。 内面は青筋。
312	m-4	311と同じ。 刻突孔は貫通。	311と同じ。	灰 灰	灰 灰	21.9以下の砂粒が多い。	斜位口縫。 外側にスス。 内面は青筋。
313	" "	外表面はごく浅い縦位の繩文。内面下部の肥厚部に施加した墨文。	内外面ともナデ。	灰 灰	灰 黄	6ミリ以下の砂粒が多い。	外面上にスス。 内面は青筋。
314	E-4	ごく浅い縦位の繩文。	"	灰 黄	灰	5ミリ以下の砂粒が多い。	外面上にスス。 内面は青筋。
315	m-5	"	"	灰 灰	灰 黄	3ミリ以下の砂粒が多い。	外面上部にスス。
316	H d-24	浅い斜位の繩文か。	内面は削り。	にない青筋	褐 灰 にない青筋	3ミリ以下の砂粒と、黒いガラス質の結物を多く含む。	外面上半にスス。 内面上部に青化物。
317	IV h-6	縦位の繩文の後、縄文底体によると思われる押圧跡みのある波状の斜位実突。	内面はナデ。	にない青筋	-		
318	" "	施文。口縫部部に斜位工具による押圧跡みのある突起。	内面はミガキ状のナデ。	灰 灰	灰 灰	4.5ミリ以下の砂粒が多い。	
319	E-5	施文(O型)。	内面はていねいなナデ。	褐 灰	にない種	21.9以下の白っぽい砂粒が多い。	外面上部にスス。
320	e-4 f-4-5-6	"	"	にない青筋	-		外面上にスス。 319と同一個体と思われる。
321	f-5	"	外表面はナデの後、墨あわ。内面上面はいねいなナデ、下部は削り跡跡のナデ。	灰 黑 にない青筋	灰 黑 灰	-	"
322	IV g-6 h-6	"	外表面はナデの後、墨あわ。内面は削り跡跡のナデ。	褐 灰	にない種	-	"
323	E-4	"	内外面ともナデ。	褐 灰	黑	-	
324	" "	"	内外面ともナデ。	にない青筋	灰 黄	-	
325	f-4-5-6	ヘラ状工具による連続斜突文。花摩文、縦位複列の連続斜突文。その下は施文。	外表面はナデ。内面は削り。	にない種 にない青筋	にない種	-	外面上にスス。
326	E-6 E-7	"	"	にない種	褐 灰	-	325と同一個体と思われる。
327	e-10	施文。	"	にない種	にない青筋 灰 黄	-	"
328	E-6	"	"	にない青筋	褐	-	325と同一個体と思われる。
329	e-6	"	内面上部は削り、下部はナデ。	黑 褐	にない青筋	-	外面上にスス。



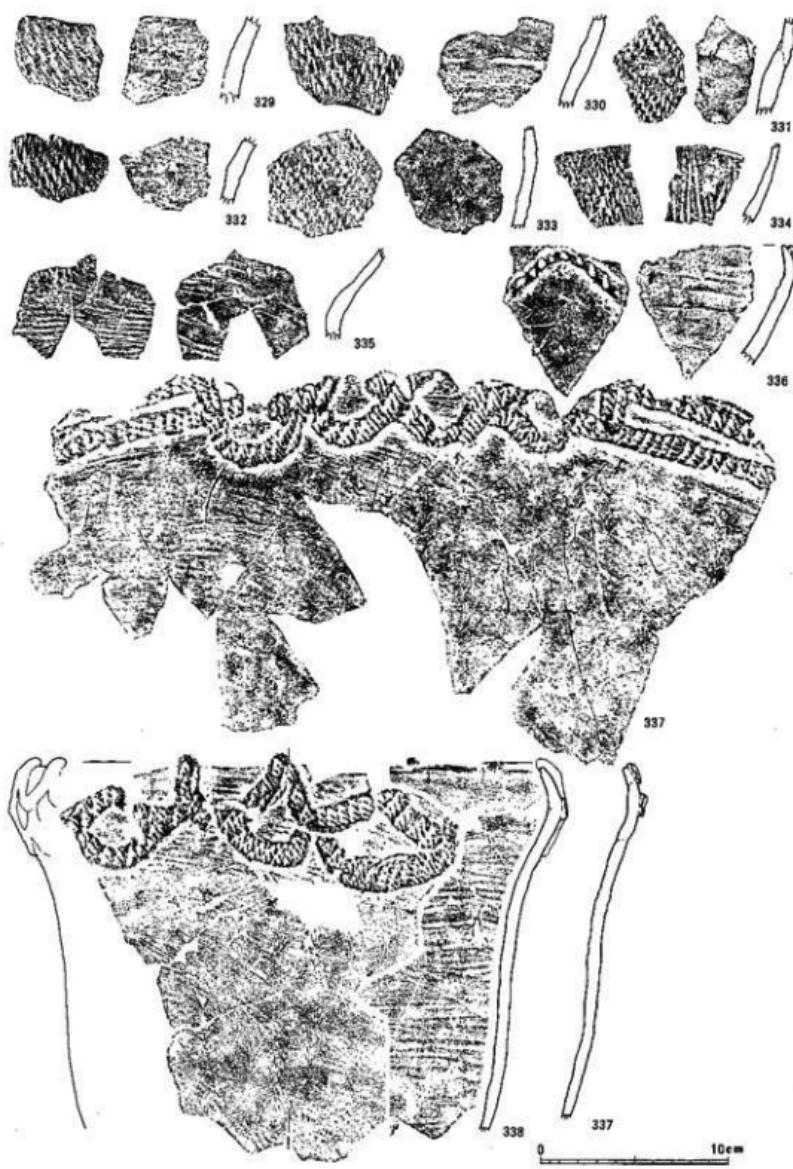
第44図 繪文土器実測図 (27) IV層



第45図 繩文土器実測図 (28) IV層

調査土器観察表 (II)

調査番号	生 地 区 ダ リ ッ フ	文 標	調 整	色 製		胎 土 の 特 徴	備 考
				外 壁 面	内 壁 面		
330	IV g - 5	透水文。	-	外壁はナデ。内面上面はナデ、下部は削り。	黒 極 に い ず れ	4ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。
331	g - 6 h - 6	"	内外面ともナデ。	灰 福 明 灰 福	-	"	
332	g - 5 h - 5	"	外壁はナデ。内面は削り欠缺のナデ。	" 明 灰 福	-	"	
333	" "	"	内外面ともナデ。	浅 黄 福 に い ず れ	-	明るい焼き上がり。	
334	V d - 10	"	内面は貝殻表面文の後、一部ナデ。	淡 黄 灰 黄 灰	-	外面上部にスス。	
335	" f - 6	上端部に透水文。	外壁上面はナデ、下部は貝殻表面文。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	に い ず れ 灰 黄 福	-	外面にスス。	
336	IV E - 6	棒状工具による削み目、波状貼付突帯。	内外面ともナデ。	に い ず れ 灰 黄 福	-	"	
337	" m - 5	貝殻表面による削み目のある平行及び連続△形状の貼付突帯。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	橙 黑 福 に い ず れ	-	"	
338	" "	△形の貼付突帯の上部は口唇部で突起となる。	"	" "	-	337と同一個体。	
339	" n - 4	口唇部に貝殻表面によるとと思われる押圧跡。外壁は同じくの刻みのあるX字状貼付突帯。	内外面とも貝殻表面文の後、ナデ。	灰 福 灰 福	0.5ミリ以下のガラス質の結晶粒が多い。	外面にスス。	
340	" n - 5	△形の貼付突帯。突帯上にはヘラ状工具による複数の浅い押圧跡。	内外面ともナデ。	" "	4ミリ以下の砂粒が多い。	焼成堅紙。	
341	" k - 4	貝殻表面による押圧削み目、波状貼付突帯。突帯上部は口唇部で突起となる。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	灰 福 に い ず れ	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。	
342	" m - 4	口唇部に貝殻表面による押圧跡。口唇部は貝殻表面文のある貼付突帯。突帯頂部は口唇部で突起となる。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	福 灰 福	"	波状口縁。	
343	" m - 3	口唇部に波状貼付突帯。突帯上には口唇の圧痕か、凹部は同じく上部で突起となる。その下に貝殻表面文の複数の押圧跡。	外壁はナデ。一部貝殻表面文がある。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	灰 福 に い ず れ	-	外面にスス。	
344	" n - 5	口唇部はヘラ状工具による刻み。口唇部は平行状の押圧跡。突帯上部は貝殻表面文の後、下部は貝殻表面文。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面上面は削り、下部はナデで残る。	福 灰 に い ず れ	3ミリ以下の高色っぽい砂粒が多い。	波状口縁。外面にスス。	
345	" g - 5 h - 5	内面は貝殻表面文削み目貼付突帯。内面は貝殻表面文の後、ナデ。内面上面は削り、下部は貝殻表面文。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	福 灰 に い ず れ	-	外壁にスス。内面下部に灰化物。	
346	" n - 5	口唇部は波状工具による通底圧延。内面は貝殻表面文の後、ナデ。内面上面は削り、下部は貝殻表面文。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	灰 福 に い ず れ	-	口唇部を肥厚。外壁下部にスス。内面下部に灰化物。ぬれ跡。	
347	" m - 4	口唇部に貝殻表面による通底圧延。底部はY字状貼付突帯。その下部は貝殻表面文の後、ナデ。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面は貝殻表面文の後、ナデ。	に い ず れ 灰 福	-	口唇部を若干肥厚。波状口縁。外面にスス。	
348	" m - 5	貝殻表面による貝殻表面削み目貼付突帯。その下に貝殻表面削み目貼付突帯。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面上面はナデ、下部は貝殻表面文。	灰 福 に い ず れ	1ミリ以下の砂粒が多い。	"	
349	"	貝殻表面による貝殻表面削み目貼付突帯。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。内面上面はナデ、下部は貝殻表面文。	に い ず れ 灰 福	3ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。	
350	"	口唇部は押圧跡み。口唇端部は貝殻表面削み目貼付突帯。	内外面ともナデ。	浅 福 に い ず れ	-	明るい焼き上がり。	
351	" o - 5	棒状工具による押圧削み目貼付突帯。	(外壁は強いナデ)	に い ず れ に い ず れ	3ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縁か。外面にスス。	
352	" n - 5	口唇部は貝殻表面による通底押圧跡。その後に、削み目の貼付突帯。	内外面とも貝殻表面文の後、ナデ。	に い ず れ 灰 福 浅 福	8ミリ以下の砂粒が多い。	外面にスス。	
353	" f - 5	ヘラ状工具による押圧削み目貼付突帯。	内外面ともナデ。(内面に削り状の凹面あり)	明 赤 福 に い ず れ	2ミリ以下の砂粒が多い。	"	
354	" m - 5	口唇部に4側の突起を持つ貼付突帯。口唇端部に貝殻表面削み目貼付突帯。	外壁は貝殻表面文の後、ナデ。	に い ず れ 灰 福	-	外面にスス。穿孔あり!!	



第46図 縹文土器実測図 (29) IV層

かのG I類の調整と異なり貝殻条痕文が顕著に残っている。

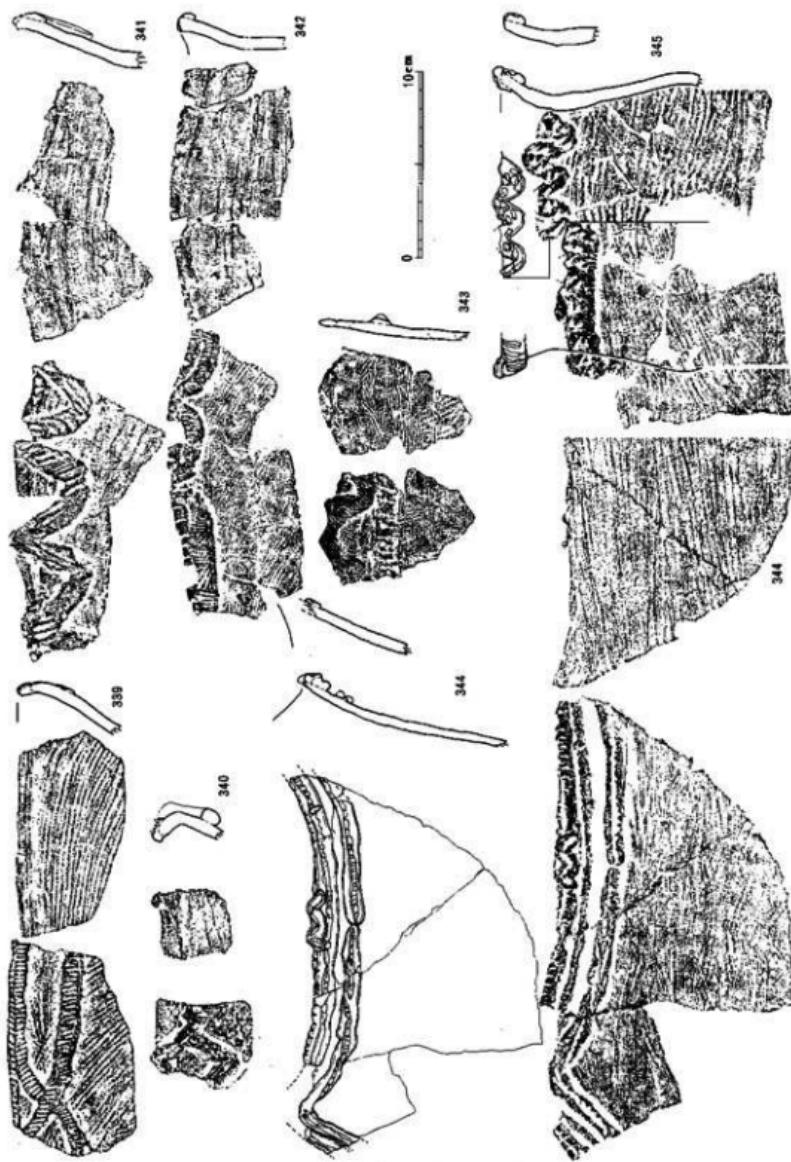
H類土器

殆どIV区を中心出土している。県内でまとまって出土したのは今回が初めてである。従来、鹿児島県で「春日式土器」と呼ばれているものも含まれる。器形は、口縁部が内湾するいわゆるキャリバー状の土器を中心に直口または外反のものも見られ、平口縁と波状口縁がある。器面調整は貝殻条痕文またはナデが主である。文様には、(刻み目) 突帯文・沈線文・刺突文などが見られ、文様構成から大きく次の通りに分けられる。

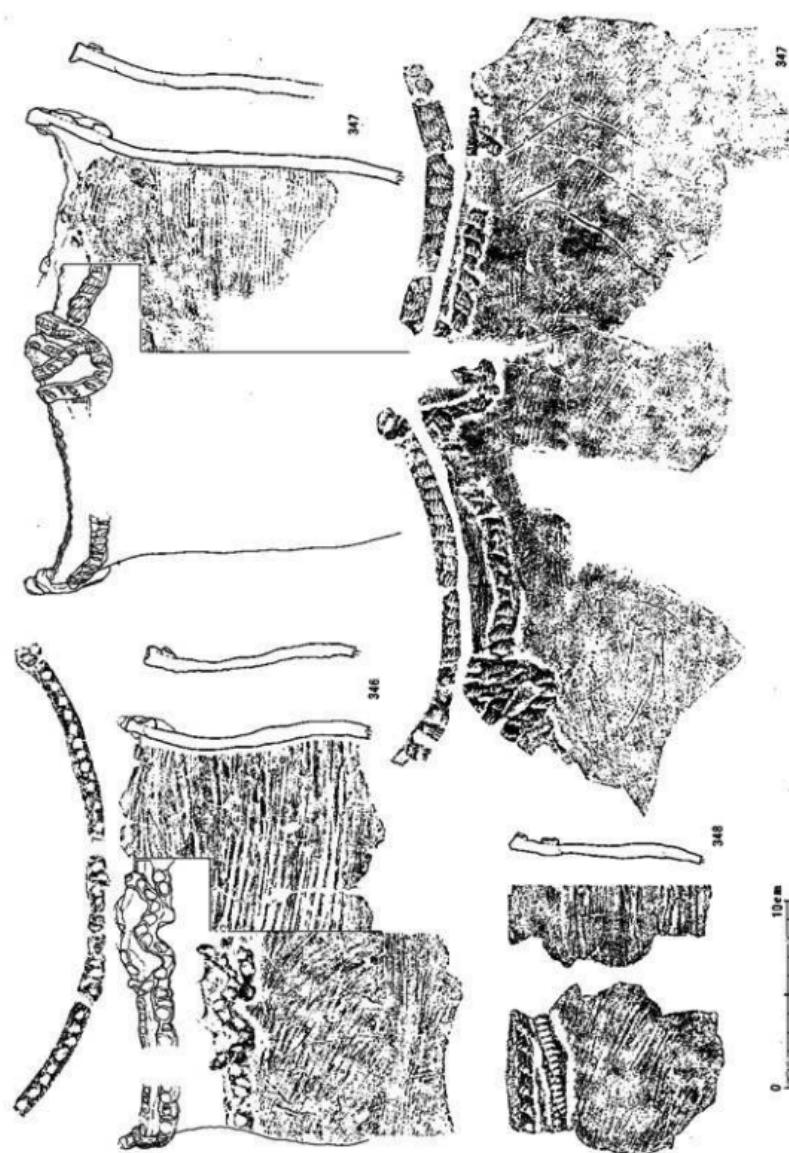
H I類

刺突や押圧による刻み目のある突帯を貼付するもの(336~364)。文様は、口縁部に平行な突帯を貼付するものには、ア. 波状や∞状の突帯が見られるもの(336~343)、イ. 文様の集約部があり、そこに小さなM字状やW字状、Y・U字状の突帯が貼付されるもの(344~347)、ウ. 1~2条の単純な突帯のみが見られるもの(348~357・359)などがある。また、このほかに、エ. 突帯が口縁部を巡らずに部分的に貼付されるもの(358・360~364)などもある。突帯上の刻み目は貝殻で施文されるものが多く、管状(棒状)工具やヘラ状工具も使用されている。

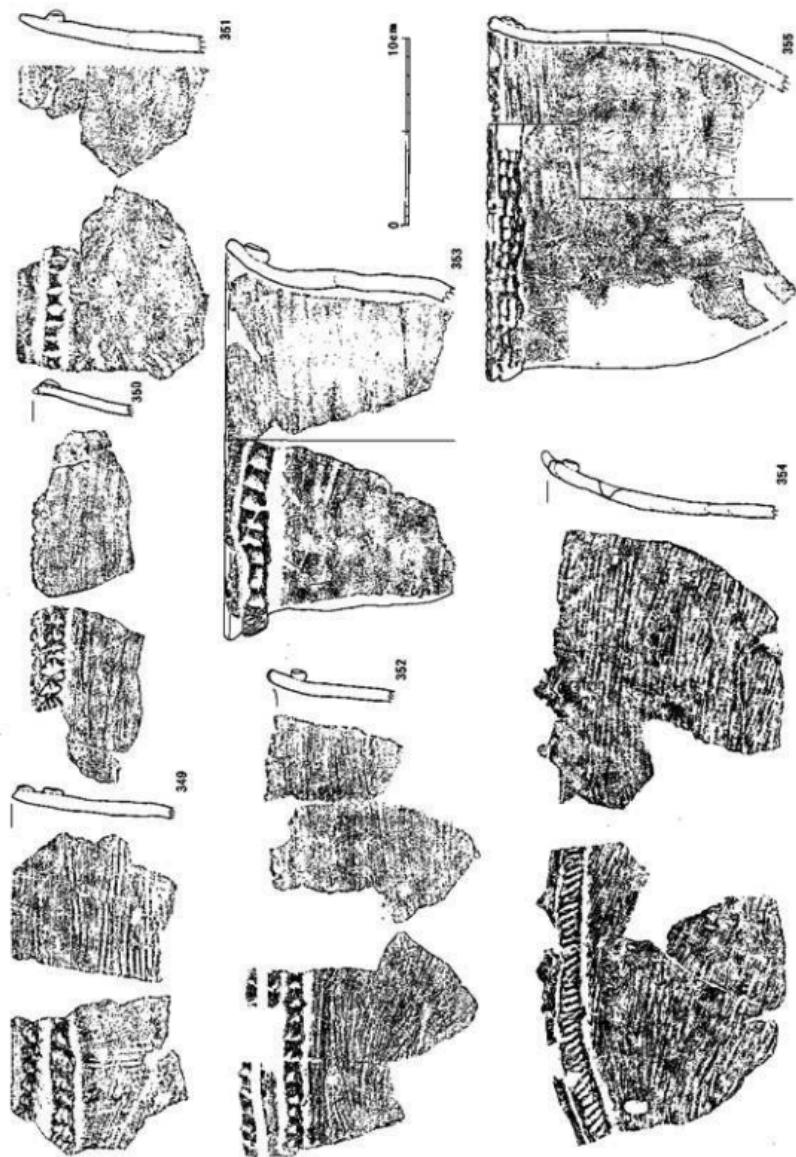
アの口縁部には、内湾、く字形、外反、直口などが見られる。336はG a類土器317の文様に類似して波状の文様になると思われる。337~338は同一個体であるが、337は∞を連ねたような文様の横は口縁端部に平行突帯が貼付される。そして、338では∞状の文様の頂部や途中の交差部が口縁部の上に突出している。340は口縁部がかなり内湾してく字形に屈曲する。これらのうち、339と342は口唇部に刻み目が施されている。イは殆どが外反する口縁部を持つ。334は口縁部に平行な2条の突帯を巡らし、波底部にM字状の貼付突帯が見られる。口唇部には刻み目を施す。345は外面口縁端部に1条の突帯、内面に2個の波頂部を持つ波状突帯を貼付している。その頂部は口縁部の上に突出している。346~347は口唇部に刻み目を有するが、346は口唇部を若干肥厚させて、347は口唇部をく字形に内側へやや拡張させて刻み目を施している。ウは、直口または外反するものが多い。このうち、小破片のものはイ類の一部である可能性もある。350・352・355・357は口唇部に刻み目が見られる。354は口唇部に4個の波頂部を持つ波状の貼付突帯が見られる。357は口縁端部が直立し、359はく字形に屈曲してその上面に貝殻縁による複合山形文を施す。エのうち361~363は、口縁部に平行する刻み目突帯はみられないが、刻み目のある突帯を部分的に貼付し、口唇部には刻み目が見られるものである。この突帯はI字・U字状や小波状のものが見られる。362は平口縁に復元したがややいびつであり、低い波状口縁の可能性もある。また、358は器形的にはウの359に類似し、360もく字形に屈曲し、屈曲部に刻み目が、屈曲部上面には複合鋸歯文及び貼付突帯が見られる。364は刻み目の見られない粘土縫を張り付けただけのやや異質なものである。突帯貼付という点で一応この類に含めておいた。



第47図 縄文土器実測図 (30) IV層



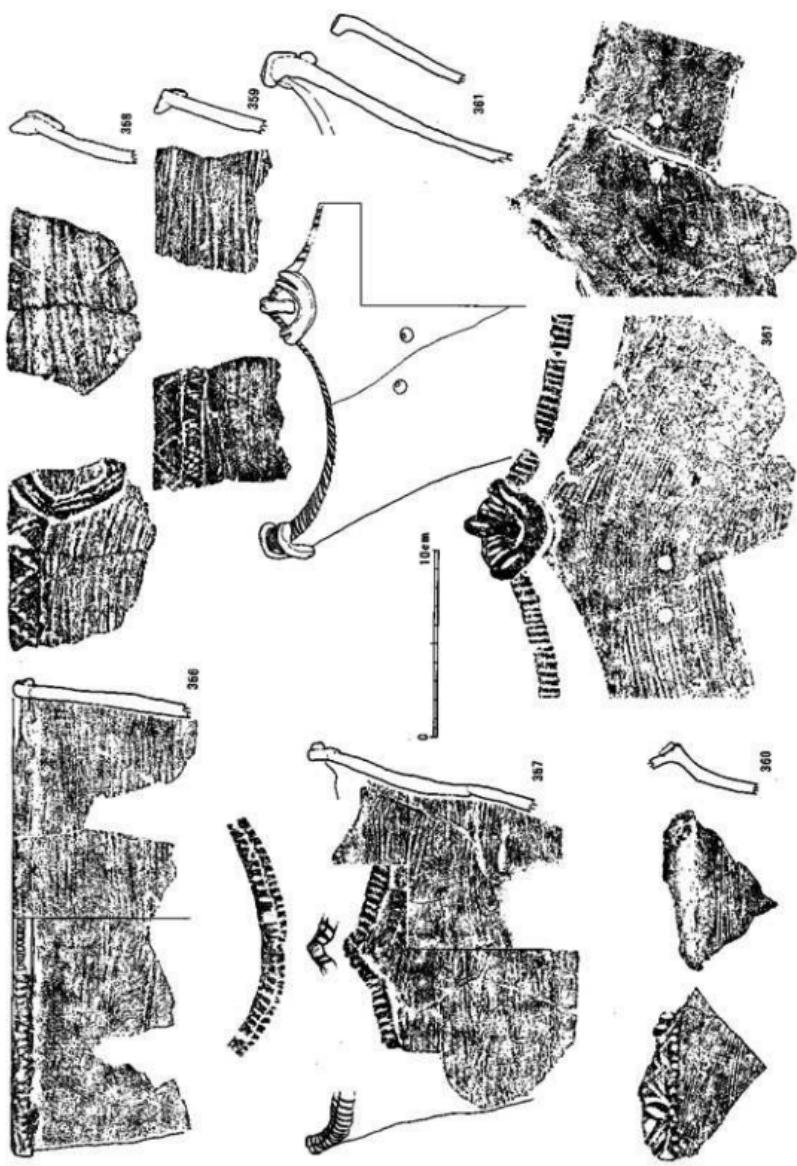
第48図 楢文土器実測図 (31) IV層



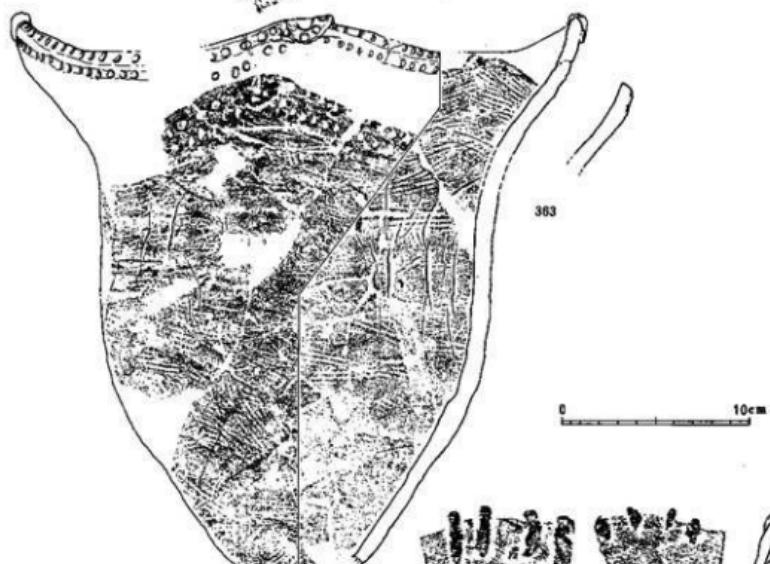
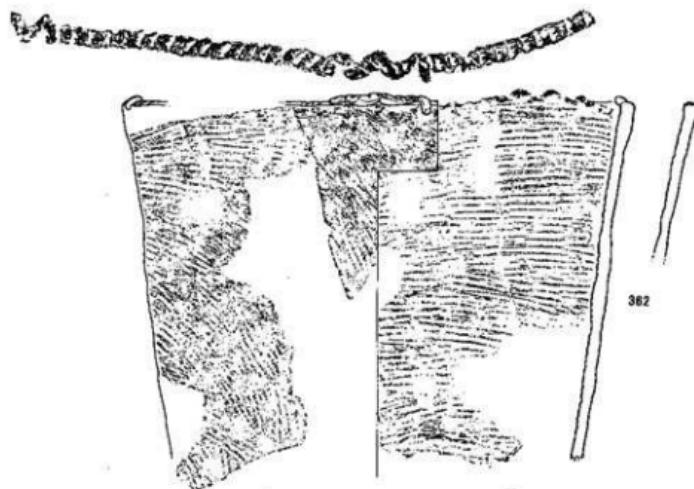
第49図 縄文土器実測図 (32) IV層

縄文土器觀察表 (15)

器名	出 土 地 点 グリッド	文 様	調 査	色 調		胎 土 特 徴	備 考
				外 面 面	内 面 面		
355	IV o-4	口輪部は貝殻織紋による連続押圧刻み。その下に同工具による押引き状の押圧痕みと貼付実常。	外面はナデ。内面上面は貝殻織紋によると思われる壳吸込み、その下は貝殻織紋の痕。ナデ。内面下面はナデ。その下は貝殻織紋の痕。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	外面上部にスス。
356	" k-6 n-5	口縁端部に貝殻織紋の横位の押圧文による貼付実常。	馬鹿足貝殻織紋の痕。ナデ。内面上面はナデ。その下は貝殻織紋の痕。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面上にスス。
357	" m-3 m-5	口輪部に貝殻織紋による連続押圧刻み。口縁端部に同前みの貼付実常。	口縁端部に貝殻織紋の痕。ナデ。その下は貝殻織紋の痕。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	纖細なガラス質物粒が多い。	波状口縁。外面上にスス。内面下部に炭化物。
358	" m-5	口縁端部に貝殻織紋による交互の文。口縁部に同工具による機械的神文による貼付実常。	内面上面はナデ。その下は貝殻織紋の痕。内面下面は貝殻織紋の痕。ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	-	外面上にスス。
359	" g-5	口縁端部に貝殻織紋押圧による交互の文。口縁部に同工具による押引き状と貼付実常。	外面はナデ。内面は貝殻織紋の痕。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	"
360	" k-6	口縁端部に貝殻織紋押圧による交互の文。口縁部に同工具による押引き状と貼付実常。	外面上部はナデ。その下は貝殻織紋の痕。ナデ。内面上面はナデ。内面下面はナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	2ミリ以下の砂粒が多い。	内面に炭化物。
361	" g-5	口輪部はハッタ工具(またはタシキ?)による貝殻織紋及び工具による横位の貝殻織紋による貼付実常。	外面上部はナデ。その下は貝殻織紋の痕。ナデ。内面はナデ。内面下面はナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縁。口輪部外面上にスス。胎部孔と認められる穿孔跡。
362	" m-4	口輪部に貝殻織紋の連続押圧刻み及び貼付みのある貼付実常。	口輪部はナデ。外面上は貝殻織紋の痕。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	-	長い波状口縁。口輪部若干肥厚。外面上にスス。
363	" g-4	口縁端部に竹管状工具による2列の通縫縫合実常。波状部都付に同文様のものと字形の貼付実常。	外面上部は貝殻織紋の痕。ナデ。内面上面は貝殻織紋の痕。一部ナデ。下部はナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縁。外面上部にスス。
364	" m-5	口輪部内面から外面上にかけて、縦位の波状貼付実常。	内外面ともナデ。一部貝殻織紋痕が残る。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	2.5ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縁。
365	" n-m-3-6	口輪部に貝殻織紋による押引き状の連続押圧刻み。	内外面とも貝殻織紋。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	4ミリ以下の砂粒が多い。	口輪部若干肥厚。外面上にスス。内面下部に炭化物。穿孔あり。
366	" g-5	口輪部に棒状工具によると思われる太い押圧刻みがあり、その横は貝殻織紋の神文。	内面は貝殻織紋の痕。ナデ。脚部はやや太い押圧刻みの跡。内面下面はナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	2ミリ以下の砂粒が多い。	胎壁が薄い。外面上部にスス。
367	" m-3	口輪部に小底状の太い押圧刻みがあり、その底部分は貝殻織紋と混ざる工具の痕。	外面上部も口輪部はナデ。灰。内面は貝殻織紋。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	4ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縁。胎土帶部分により粘着部外側。外面上にスス。
368	" g-5	口輪部に貝殻織紋による押引き状の連続押圧刻み。	外面上部は貝殻織紋の痕。ナデ。内面は貝殻織紋の痕。一部ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	-	口輪部若干肥厚。外面上にスス。内面下部に炭化物。
369	" m-5	口縁端部に貝殻織紋による連続押圧刻み。	外面上部は貝殻織紋の多いナデ。内面はナデ。内面下面は貝殻織紋の痕。ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	2ミリ以下の砂粒が多い。	外面上部にスス。
370	" g-5	口輪部に貝殻織紋による連続押圧刻み。	外面上部は貝殻織紋の痕。ナデ。内面は貝殻織紋の痕。ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	-	外面上部にスス。
371	" g-3	口縁部に棒状工具による押引き状の通縫縫合による平行W字状吹抜孔。	外面上部は貝殻織紋の痕。ナデ。内面は貝殻織紋の痕。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	3ミリ以下の砂粒及び纖細なガラス質の結晶物粒が多い。	口縁端部の一辺が内奥へ突出する。外面上にスス。
372	" n-5	波状部に押圧。口縁部に平行W字状吹抜孔。貝の吹抜孔の痕。平行W字状吹抜孔。また先端の削いた痕。	内面はナデ。内面は貝殻織紋の痕。後、一部ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縁。外面上にスス。焼成堅壁。
373	" g-4	先端が丸い鋸歯三角形状のV字状工具による押引き状の痕。下端のV字形と平行W字状吹抜孔。	外面上部はナデ。内面は貝殻織紋の痕。ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	-	波状口縁(平盤の一部が山形に變ずる)。外面上にスス。
374	" k-4	同上工具によるV字形と下端のV字形と平行W字状吹抜孔。	外面上部はナデ。一部に貝殻織紋が残る。内面は貝殻織紋。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	-	外面上にスス。373と同體。
375	" g-5 m-4	内面は貝殻織紋の痕。その下に貝殻織紋と平行W字状吹抜孔。内面は貝殻織紋。	外面上部はナデ。内面は貝殻織紋の痕。ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	4ミリ以下の砂粒が多い。	胎壁が薄い。内面にスス。内面下部に炭化物。内面の一部に燒成堅壁。
376	" k-3	口輪部は棒状工具による押圧刻み。	外面上部はナデ。その下は貝殻織紋。内面は貝殻織紋の痕。ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	3ミリ以下の砂粒及び纖細なガラス質の結晶物粒が多い。	波状口縁。
377	" g-4	棒状工具による側突実点文、平行W字状。	内外面とも粗いナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	5ミリ以下の砂粒及び纖細なガラス質の結晶物粒が多い。	波状口縁。外面上部にスス。
378	" g-3	棒状工具による沈線文、連続刺突文。	-	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	5ミリ以下の砂粒が特に多い。	外面上部にスス。焼成堅壁。
379	" h-6	ヘラ状工具による曲線文。	外面上部は貝殻織文。そのほかはナデ。内面は貝殻織文の後、ナデ。	明 赤 褐 灰 褐 灰	赤 褐 灰 灰 褐 灰	-	外面上部にスス。焼成堅壁。



第50図 縄文土器実測図 (33) IV層



第51図 縄文土器実測図 (34) IV層

無文土器（365～370）

H I 類土器の器形に類似するが、口唇部に刻み目のみを施す無文土器が見られる。H I 類土器に伴う可能性があるので一応ここに含めておく。

H II 類

2～3条の沈線による弧文、波状文、曲線文、平行線文などと刺突文が組み合わされて施文されるもの（371～384）。器形は口縁部が内湾するキャリバー状のものが主である。H I 類ほど多くは出土していない。371は沈線文が押引状に施され、口縁部に内側へ突き出た波頂部が見られる。372～374は他に比べてやや太い棒状工具で深めの沈線文を施す。焼きは堅く引き締まる。372は波状文の下に継方向の短沈線文を条線文のように施している。375は沈線文の脇に連続刺突文を施し、胴部の一部には赤色顔料が付着している。やや器壁が薄い。384は外面に継方向の沈線文を条線文のように施文し、内面にも同様の文様と波状文と思われるものが見られる。これはII層出土の第65図458に類似する。

H III 類

突帯で平行線文や波状文、弧文、渦文などを貼付したり刺突文、沈線文と組み合わせて施文されるもの（385～391）。口縁部が内湾したキャリバー状の器形で、量的にはごく少ない。385～386・390～391は突帯の上側を連続刺突しており、後者には短沈線文が、387には3条の沈線文が見られる。

H IV 類

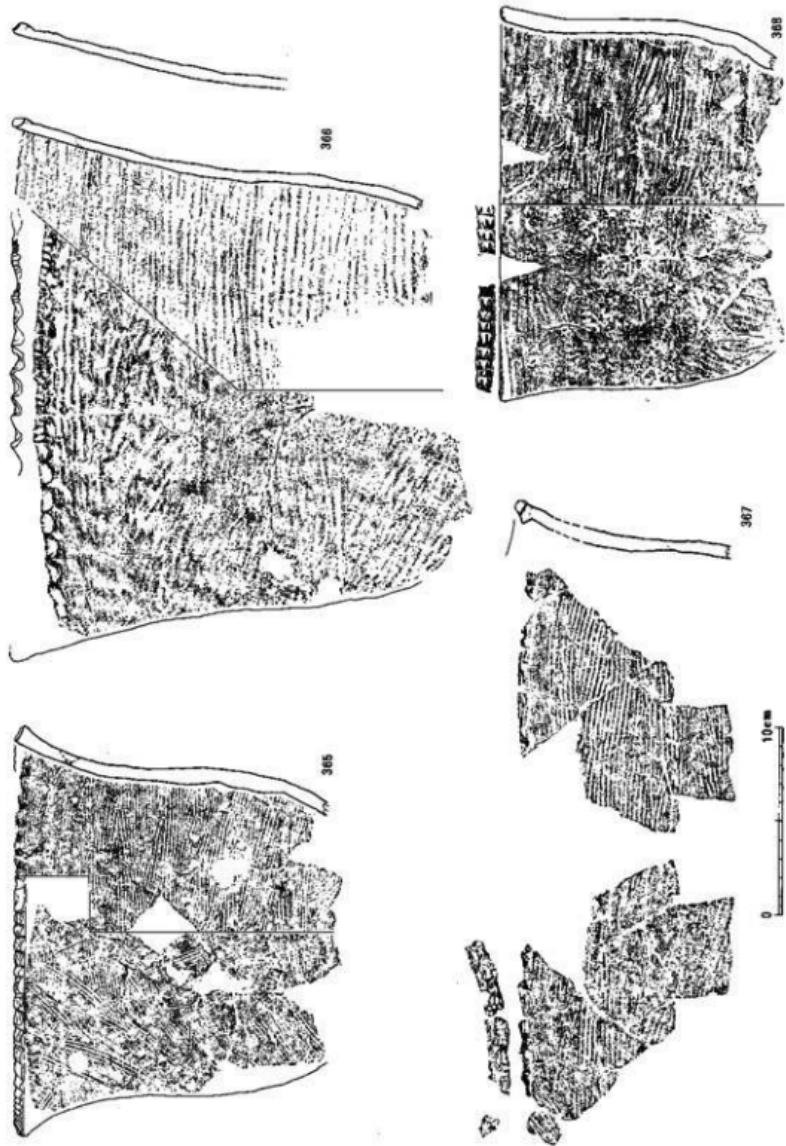
ほかのH類土器と施文手法や施文部位、器形が類似しているものを一括した（392～400）。量的にはごく少ない。これらはいずれもキャリバー状の口縁部が退化したような口縁部で、く字形に近く屈曲したもの、間延びしたもの、口縁端部のみ内湾するものなどがある。392～394は沈線文の上（中）を刺突している。これは沈線文の脇を刺突する手法に近い。器面調整の貝殻条痕文は他のものに比べて細いものである。396は沈線文による複合鋸歯文を施す。これは波状文の変形したものであろう。397は押引状に沈線文を施す。398は鋸歯文と思われる文様が見られ、第65図461～462などII層出土の土器に類例が見られる。また、400は、貝殻腹縁の連続刺突文または押引文と管状工具による円形の連続刺突文が見られる土器である。

I 類土器

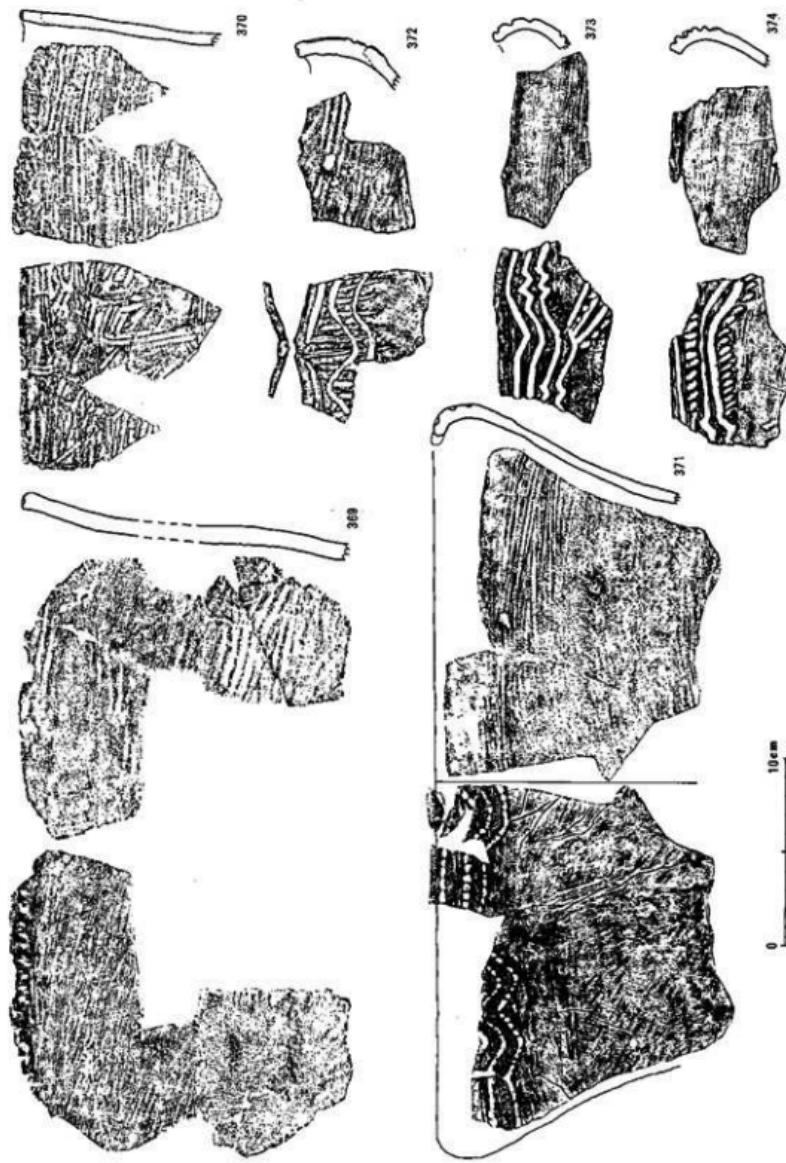
口縁部を肥厚させて文様帶とする土器で、出土量は少ない。施文部位には次のようなものがある。

a. 口縁端部外面を肥厚させて施文する（401～405）。401は強いて復元したもので単純な深鉢形をなし押引状の沈線文が見られる。402～403は平行沈線文。404～405は管状工具による円形の連続押圧文を施す。

b. 口縁部内面を上面が平らになるように肥厚させたり口唇部をやや肥厚させてそこに沈線



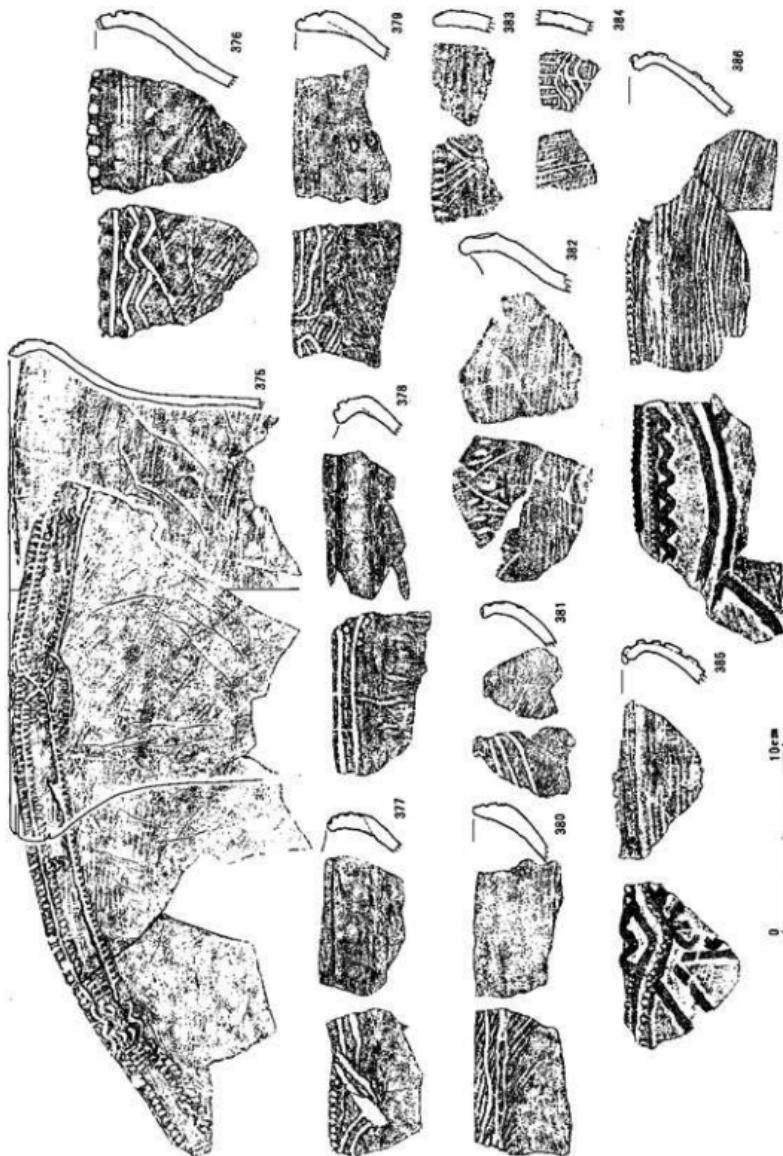
第52図 横文土器実測図 (35) IV層



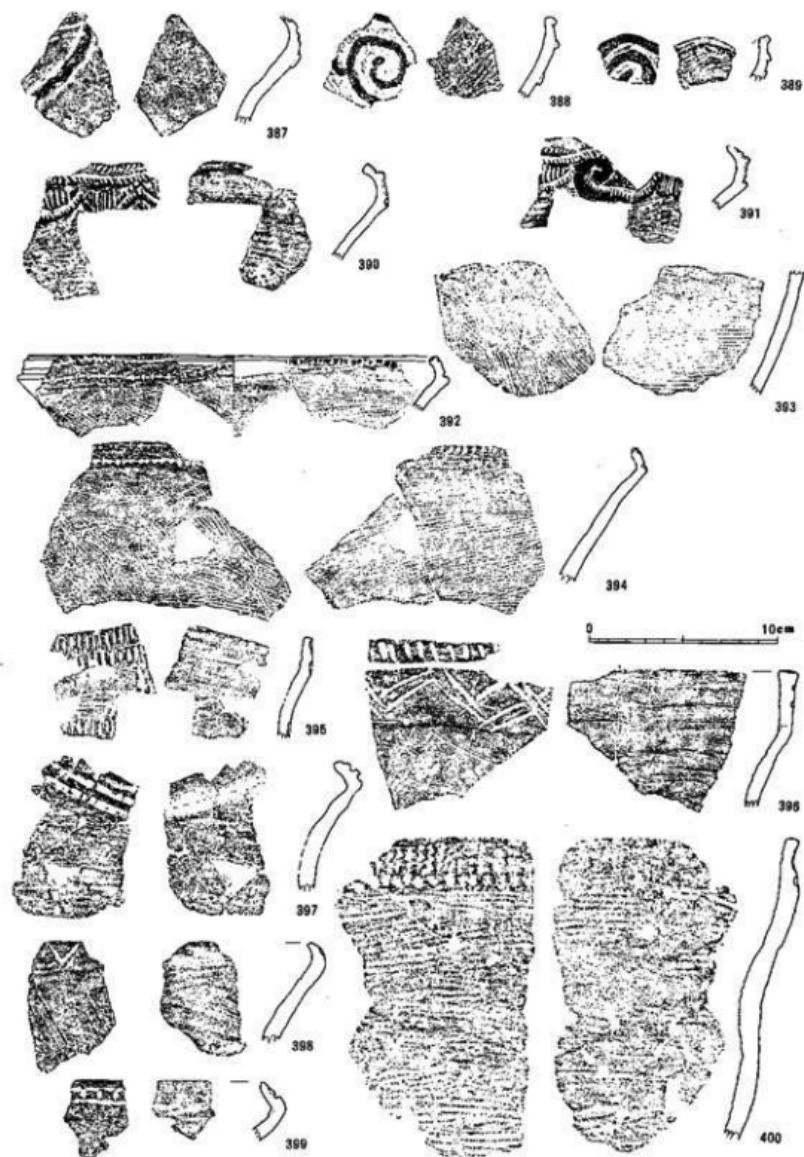
第53図 横文土器実測図 (36) IV層

調文土器観察表 06

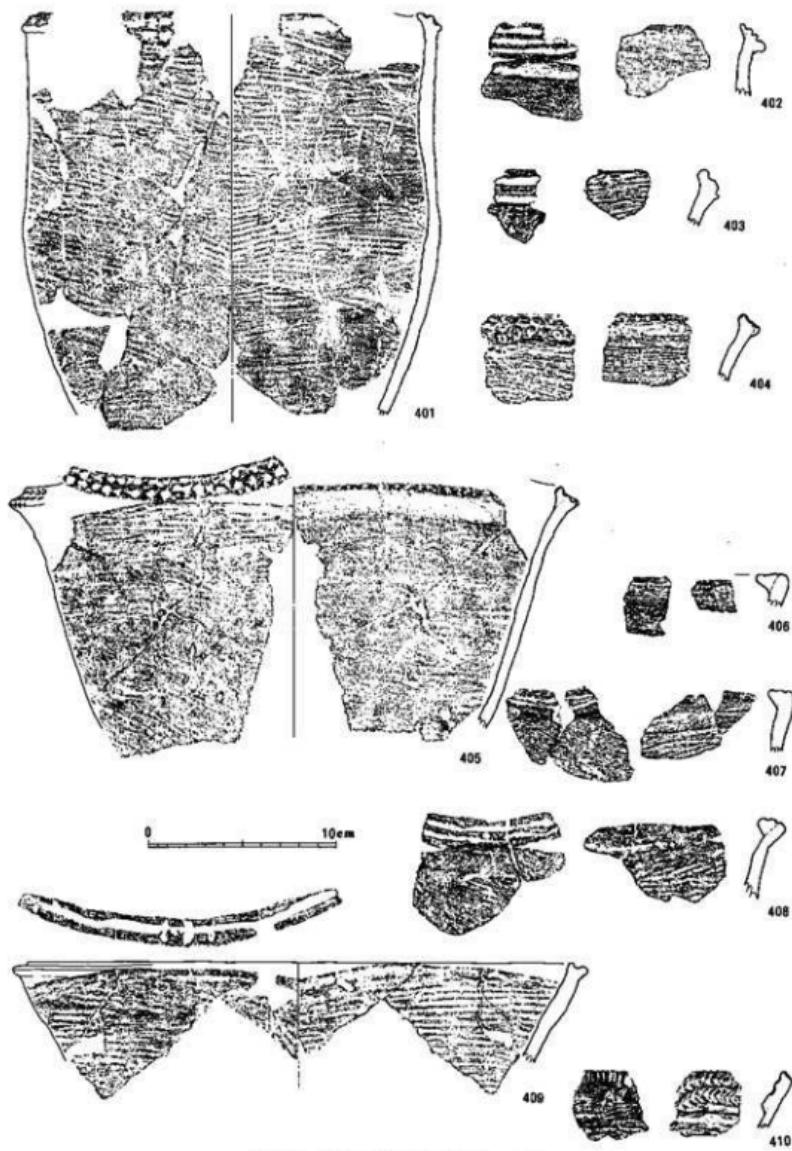
説明番号	土 壤 区 グリット	文 標	調 整	色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				外表面	内表面		
360	IV h-6	ヘラ状工具による曲線文。	外表面は貝殻魚鱗文、その下にはナデ。内表面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	暗 黄 灰	灰 灰	5ミリ以下の砂粒が多い。	外表面にスス。焼成度。379と同一個体。
361	Ⅲ e-6	□縦部に貝殻魚鱗による押正刻み。 □縦部は棒状工具による曲線文。	内外表面ともナデ。	に bei 灰	に bei 灰	-	外表面にスス。
362	" e-7	彼面部の内面に貝殻魚鱗文。その下にはV字形の刻み。その上には貝殻魚鱗押正刻み。いずれも棒状工具による曲線文がある。	内外表面とも貝殻魚鱗文の後、ナデ。	に bei 黄	に bei 黄	2ミリ以下の砂粒が多い。	波状口縫。外表面にスス。
363	Ⅲ f-3	口縦部部はヘラ状工具による刻み。その下は、半横竹状工具による横山彫文で、左端にはあらげたため、凹面彫文である。	内表面はナデ。内面は太い貝殻魚鱗文。	浅 黄 灰	浅 黄 灰	-	明るい性き上がり。
364	Ⅲ f-8	外表面はヘラ状工具による縦位の枕彫文。内面は、同工具による横位及び平行波状波彫文。	内外表面とも貝殻魚鱗文の後、ナデ。	褐 灰	灰 灰	-	外表面にスス。II層の458に類似。
365	IV f-4	斜側面部にV字形彫文、書道文、平行彫文。上半部は横竹状工具による横山彫文。左端にはあらげたため、凹面彫文である。	内表面はナデ。内面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	に bei 黄	に bei 黄	-	表面が合厚い。外表面にスス。
366	" m-4	口縦部部は、棒状工具による連続刻引文のある貼付突部。その下は貼付突部による小波状文、平行文。	内表面はナデ。一部貝殻魚鱗文が残る。内面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	灰 灰	灰 灰	-	" 385と同一個体。
367	Ⅲ d-6	斜行貼付突部の後、先端の平らなヘラ状工具による3条の波彫文。	内外表面ともナデ。	に bei 黄	灰 黄 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	外表面にスス。内面に炭化物。
368	IV h-5	貼付突部による溝彫文。口縦部部も貼付突部。	内外表面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	灰 灰	灰 灰	-	波状口縫。外表面にスス。内面に炭化物。
369	" k-3	"	内外表面ともナデ（内面の地は貝殻魚鱗文か）。	暗 黄 灰	灰 灰	-	" 386と同一個体。
370	" j-6	ヘラ状工具による横山彫文、書道文。その下端に連続刻引文。軽く削除され、表面が粗面。その下端部は連続刻引文の跡が残る。	内外表面とも口縫上部はナデ、その下は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	灰 黄 灰	暗 黄 灰	-	外表面にスス。内面に炭化物。
391	" k-4	貼付突部による溝彫文がある。	"	暗 黑 灰	灰 灰	-	" 380と同一個体。
392	Ⅲ f-8	口縦部に貝殻魚鱗による押正刻み。 口縦部はヘラ状工具による波彫文。	内外表面とも口縫上部はナデ、その下は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	淡 黄	淡 黄	1ミリ以下の砂粒が多い。	外表面にスス。
393	" f-7	-	内外表面とも貝殻魚鱗文。	淡 黄	淡 黄	1ミリ以下の砂粒が多い。	393と同一個体。
394	IV h-7	392と同じ。	外表面はナデ、その下は貝殻魚鱗文。内面は細い貝殻魚鱗文の後、ナデ。	褐 灰	灰 黄 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	392と同一個体と思われる。
395	II d-25	口縦部と脚部にヘラ状工具による縦位の連続押正刻。	内外表面ともナデ。	褐	黑 灰	微細な雲母を含む。	波状口縫と思われる。外表面にスス。
396	IV m-5	口縦部は棒状工具による押正刻。口縦部はヘラ状工具による平行山形波彫文。	内表面はナデ、下部の一帯に細い貝殻魚鱗文がある。内面は削り跡の凹凸が残るナデ。	灰 黄 灰	に bei 黄	2ミリ以下の白っぽい砂粒が多い。	口縫が肥厚。外表面にスス。
397	" f-5	棒状工具による押引き状の3条の波彫文。	内外表面ともナデ。	に bei 黄	に bei 黄	-	波状口縫。外表面にスス。
398	" o-4	口縦部部にヘラ状工具によるV字形波彫文。	内外表面ともナデ。一部に貝殻魚鱗文が残る。	暗	暗	2ミリ以下の砂粒が多い。	II層の461~462に類似。明るい性き上がり。
399	" j-4	先端と丸いヘラ状工具による平行波彫文。その間を連続刻引文。	内外表面ともナデ。	に bei 黄	に bei 黄	1ミリ以下の砂粒が多い。	外表面にスス。焼成堅壁。
400	" n-5	口縦部部に貝殻魚鱗による連続押正刻及び押引き文。その下に、管状工具による波突列点X。	内表面は貝殻魚鱗文。内面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	に bei 黄	に bei 黄	1ミリ以下の砂粒が多い。	外表面にスス。
401	B b-22	管状工具による押引き状波彫文。	外表面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。内面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。その下は貝殻魚鱗文。	淡 黄	黄 灰	-	"
402	IV n-5	ヘラ状工具による波彫文。	内外表面ともナデ。	に bei 黄	に bei 黄	-	"
403	" b-5	棒状工具による波彫文。	内表面はナデ。内面は貝殻魚鱗文の後、ナデ。	に bei 黄	灰 黄 灰	1ミリ以下の砂粒が多い。	
404	" n-5	口縫部に管状工具による波突列点X。その上部は管状工具による波突列点X。口縫部に貝殻魚鱗文と合わせた工具による連続刻引文。	内外表面とも貝殻魚鱗文の後、ナデ。	褐	褐	1ミリ以下の砂粒が多い。胎土が赤っぽい。	IIの463に類似。外表面にスス。焼成堅壁。



第54図 繩文土器実測図 (37) IV層



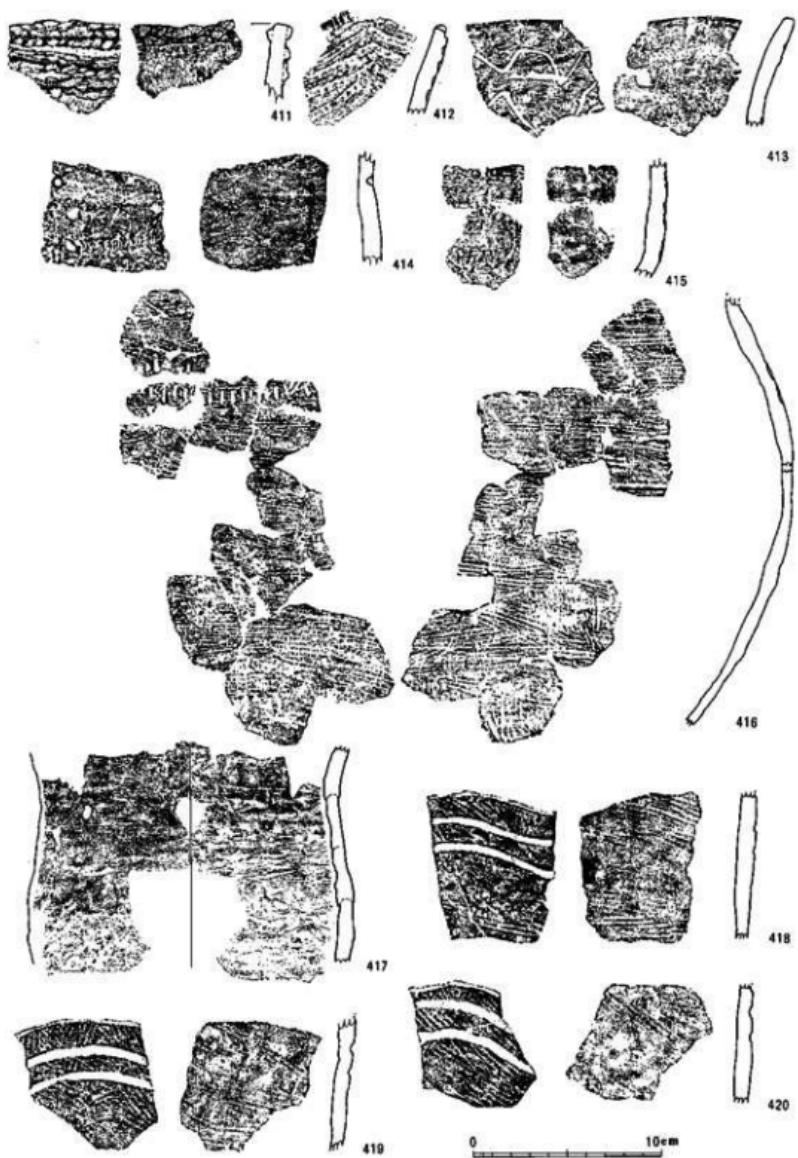
第55図 繩文土器実測図 (38) IV層



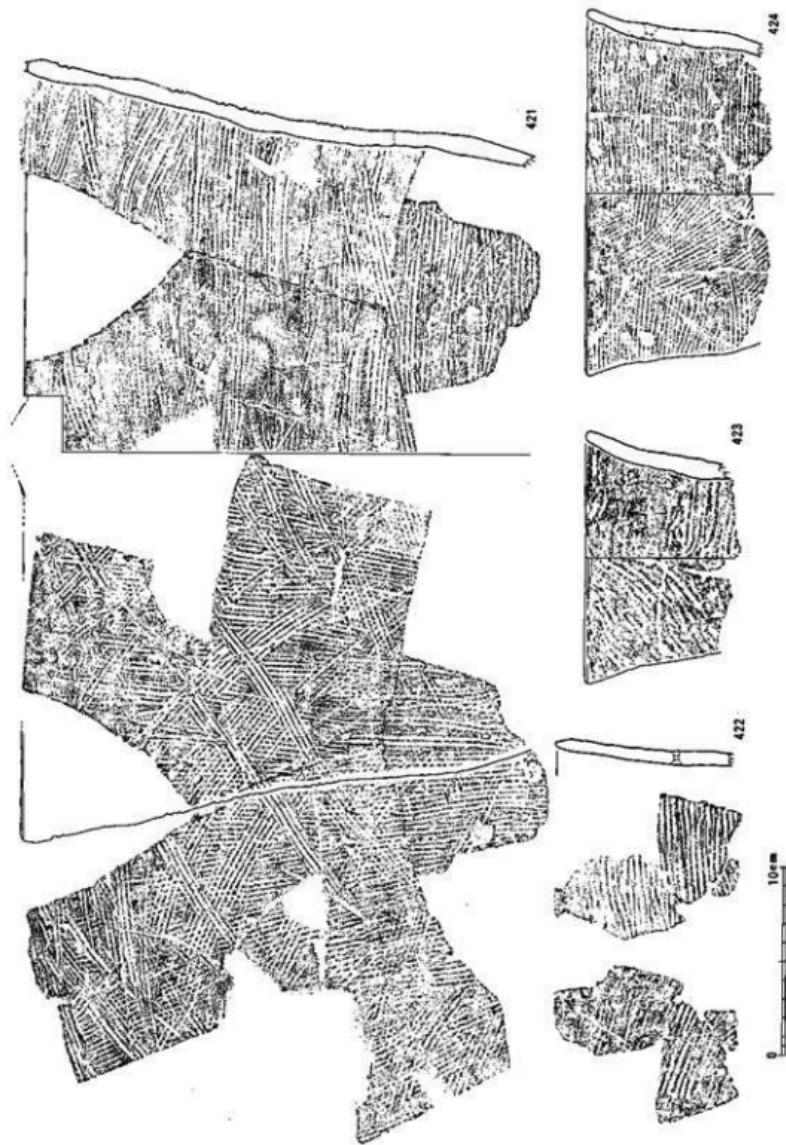
第56図 縄文土器実測図 (39) IV層

縦文土器觀察表 (II)

図版号	古 土 器 名 号 グリット	文 横	圖 形	色 製		胎 土 の 特 徴	備 考
				外 部 面	内 部 面		
406	IV m - 5	同上及び厚部下端に目状腹縫による不規則な連続押圧割込み。	内外面とも目状条文の後、ナデ。外側に指頭大の压痕が付く。	灰 黒 灰 灰	灰 灰 灰 灰	1ミリ以下の砂粒が多い、胎土が赤っぽい。	波状口縫と思われる。404と同一個体と思われる。
406	" h - 5	ヘラ状工具による沈縫文。	内外面ともナデ。	灰 灰	灰 灰	-	明るい焼き上がり。
407	" n - 5	先端に筋の付いたヘラ状工具による沈縫文。	外側面部はナデ、その下山腹部は直交する3条の短沈縫文。ナデ、内面はナデ、下端へ吹き出しが付く。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	微細なガラス質の結物が多い。	外側にスス。
408	"	"	外側面部はナデ、その下山腹部は直交する3条の短沈縫文。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	407と同一個体と思われる。
409	" E - 4	口縫部に平行なヘラ状工具による沈縫文、直交する3条の短沈縫文。	口縫部はナデ、外側は直交する3条の短沈縫文の後、ナデ。内面は目状条文。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	外側にスス。
410	"	口縫部内面と外側に両脇を爪またはヘラ状工具で押さえた貼付突起。	外側面部はナデ、その下は目状条文。内面はミガキ状のていねいなナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒もあれば、微細な白っぽい砂粒が多く、胎土は赤っぽい。	波状口縫か、成型堅板。
411	II d - 28	口縫部内面と外側に両脇を爪またはヘラ状工具で押さえた貼付突起。	内外面ともナデ。	明 黄 褐 明 黄 褐	明 黄 褐 明 黄 褐	-	表面は明るい色調の焼き上がり。
412	III e - 3	口縫部はヘラ状工具による刺込み。内面はミガキ状のていねいなナデ。	外側面部はナデ。内面はミガキ状のていねいなナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	波状口縫。外側にスス。
413	IV f - 3	ヘラ状工具による曲縫文。	内外面ともナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	
414	III d - 5	先端の丸いヘラ状工具か爪状の工具によるロッキング。	"	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	内面に炭化物。外側に木質過孔あり。
415	" e - 3 f - 3	貝殻散縫による3段のロッキング。	"	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	焼成堅板。
416	" c - 10 d - 10	ヘラ状工具による浅い短沈縫文。	外側は目状条文の後、ナデ。内面は目状条文。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	外側にスス。内面に白色物質。
417	II b - 26	-	内外面ともナデ。(下部は粗い)	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	外側にスス。内面に炭化物。
418	IV k - 4	縫状工具による3条の縫の狭い回縫文。	内外面とも目状条文の後、ナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	" "
419	" k - 3	"	"	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	外側にスス。418と同一個体か。
420	" "	"	"	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	418と同一個体か。
421	" E - 24 m - 4	縫位の魚痕文の後、斜格子状の縫文。工具は貝殻の背面及びクシ状のもの。	口縫部はナデ。外側はナデの後、魚痕文。内面は目状条文またはその他の工具による魚痕文。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	口縫部に部分的な変形あり。外側にスス。
422	III e - 4	-	内外面ともナデ。内面は目状条文の後、一部ナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	外側にスス。
423	IV n - 5	-	口縫部ナデ。外側は目状条文の後、一部ナデ。内面は目状条文の後、ナデ。下部は目状条文。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	外側上面にスス。内面に炭化物。
424	" "	-	口縫部付近はナデ。内面とも目状条文。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	外側にスス。穿孔あり。
425	" m - 3	-	外側は貝殻条文の後、ナデ。内面は太い貝殻条文の後、一部ナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	微細なガラス質の結物が多い。	表面が薄い。外側上面にスス。
426	III e - 3	-	内面は貝殻条文の後、ナデ。内面は太い貝殻条文の後、一部ナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	外側にスス。
427	" f - 7	-	外側はナデ。内面は太い貝殻条文の後、ナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	外側上面にスス。
428	" f - 6 f - 7	-	"	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	-	外側にスス。
429	II c - 22	-	内外面とも目状条文の後、ナデ。	灰 灰 灰 灰	灰 灰 灰 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	"



第67図 繩文土器実測図(40) IV層



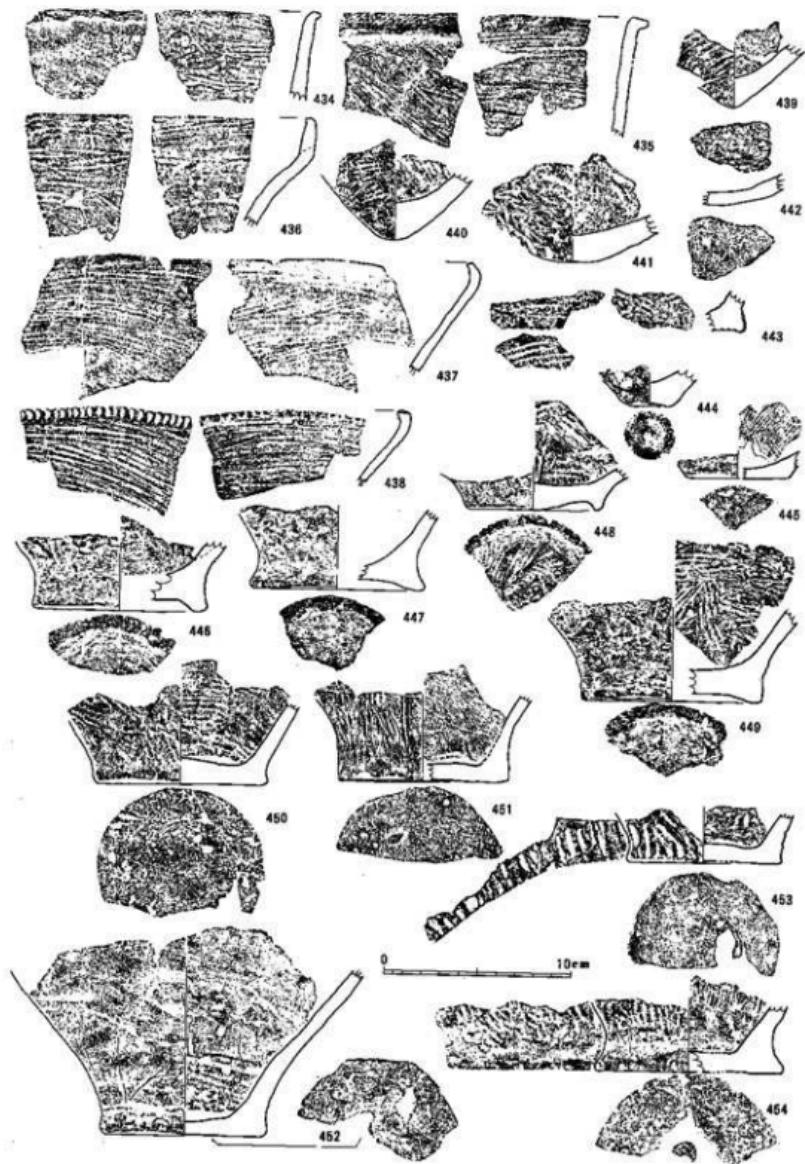
第58図 横文土器実測図(41) IV層



第59図 繩文土器実測図 (42) IV層

開文土器観察表 08

開文号	出土地 名及 地図	文 様	調 整	色 調		胎 土の特 徴	備 考
				外表面	内表面		
430	III e-4	-	外表面はナデ。内面は上部はナデ、下部は板状工具によるナデ。	明 褐	褐	-	板状口縁。外面上にスス。
431	IV k-6	-	外表面はナデ。一部貝殻条痕文と思われるものが残る。内面はナデ。	において黄褐色	において黄褐色	2ミリ以下の砂粒が多い。	穿孔あり付。
432	III e-21	-	内外面ともナデ。	において黄褐色	において黄褐色	-	外面上にスス。
433	" e-3	口唇部にヘラ状工具による底の平らな底跡文。	内外面とも上部はナデ、下部は貝殻条痕文の後、ナデ。	において黄褐色	において黄褐色	-	"
434	IV m-4	-	外表面はナデ。内面は上部はナデ。その下部は貝殻条痕文か。	灰 褐	において黄褐色	6ミリ以下の砂粒が多い。	口縁部肥厚。口唇部、内面上部にスス。
435	" m-5	口縁部上面に貝殻条痕文と思われるごく小さい連續押圧文。	口縁部も口縁部はナデ、その下部は貝殻条痕文の後、ナデ。	褐	褐 灰	1.5ミリ以下の砂粒が多い。	口縁部肥厚。スス。
436	" j-4	-	口縁部はナデ。外側は貝殻条痕文、一部貝殻条痕文による底跡文。	黑 褐	において橙 灰 褐	黒褐色なガラス質の結晶物が多い。	外面上にスス。
437	" m-3	-	内外面とも口縁部はナデ。その下部は貝殻条痕文の後、ナデ。	褐 灰 褐	において黄褐色	0.5ミリ以下の砂粒が多い。	外面上にスス。
438	" k-4	口唇部にヘラ状工具による連續押圧跡。	内外面とも貝殻条痕文。	において黄褐色	灰 褐	金色の薺母が多い。	外面上にスス。内面上に炭化物。
439	III l-7	-	外表面は貝殻条痕文の後、ナデ。内面はナデ。	において黄褐色	灰 褐	1ミリ以下の砂粒が多い。	尖底。白色物質。
440	IV h-5	-	外表面はナデ。一部貝殻条痕文がある。内面はナデ。	において黄褐色	において黄褐色	-	" "
441	III e-4	-	外表面はナデ。内面はナデ。	において黄褐色	において黄褐色	3ミリ以下の砂粒が多い。	丸底。白色物質。底に小さな木葉形印痕がみられる。
442	" e-5	-	内外面ともナデ。内面に指の圧痕と思われるもの。	灰 黄	灰	3ミリ以下の白色ガラス質の結晶物が多い。	丸底。
443	IV m-5	-	外表面はナデ。底面と内面は板状工具によるナデ。	において黄褐色	において黄褐色	-	角張った底端と思われる。底面端部に白色物質。
444	" m-3	-	外表面はいねいなナデ。内面はナデ。	黄 褐 灰	褐 褐	1ミリ以下の砂粒が多い。	小さな上げ底。
445	" m-5	-	外表面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	褐	黄 灰	4ミリ以下の砂粒、1ミリ以下の薺母が多い。	割合でいねいな造り。
446	" o-6	-	内外面ともナデ。	黄 褐	灰 黄	3ミリ以下の砂粒が多い。	上げ底。
447	" n-5	-	"	において橙 浅黄 褐	において橙 浅黄 褐 黄 褐	2ミリ以下の砂粒が多い。	底面端部に白色物質。
448	" j-5	-	外表面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	褐	黄 灰	-	上げ底。中央は厚い。底面端部に白色物質。
449	" n-5	-	外表面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	において黄褐色	褐 灰	3ミリ以下の砂粒が多い。	上げ底。底面端部に白色物質。
450	" n-4 o-4	-	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。底面はナデ。一部貝殻条痕文の後、ナデ。	褐	褐 灰 褐	4ミリ以下の砂粒が多い。	平底。 "
451	" n-5	-	外表面は貝殻条痕文の後、ナデ。底面と内面はナデ。	褐	において黄褐色	-	外面上にスス。
452	" m-5	-	外表面はナデ。指の圧痕あり。底面はナデ。内面は貝殻条痕文の後、ナデ。	褐 において黄褐色	明赤 褐	2ミリ以下の砂粒が多い。	底面端部に白色物質。
453	" k-3	底部付近にヘラ状工具による底の平らな短辺跡。	外表面はいねいなナデ。内面はいねいなナデ。	明 赤 褐	において黄褐色	-	内面上に炭化物。
454	" o-5	-	内外面とも貝殻条痕文の後、ナデ。底部付近と底面はナデ。	褐	褐	3ミリ以下の砂粒が多い。	底面端部に白色物質。



第60図 縄文土器実測図 (43) IV層

文を施すもの（406～409）。

c. 口縁部内面を肥厚させて文様帶とし、そこに連續刺突文を施すもの（410）。1点しか出土していない。

IV層出土のその他の土器

量的には少なく類別の困難なものを一括して説明する。411はII区d-28グリッド出土のもので、突帯を外面に3条、内面に1条貼付する。突帯は爪またはヘラ状工具で押えたような痕跡が見られる。A II類土器と異なるのは、内面に突帯があること、突帯幅が広く不格好であること、ヘラ状の工具で押さえていることなどで、A II C類177に類似する点もあるが色調は全く異なっている。412はヘラ状工具で押引状の沈線文を施している。これは、H II類土器にも見られる手法である。413は上下に弧状沈線文が見られる。414～420は胴部片である。このうち、416は胴部が球形に張るものである。417は無文の胴部、418～420は貝殻条痕文にナデ調整がなされ、幅の広い3条の平行曲沈線文が見られる。

J類土器

無文土器である（421～438）。次の3類に分ける。

a. 器面調整に条痕文が見られ、口縁部が直口する深鉢形土器（421～429）。421はナデの後、縦方向の条痕文を施し、その上に斜格子条痕文を施している。一見、VI層出土の早期土器のようであるが、縦条痕文はいわゆる条線文のようでもあり、出土状況も安定した状態であったため、このIV層と同時期の所産と見てよいと思われる。

b. 口縁部が直口する深鉢形土器で器面調整がナデのもの（430～432）。

c. 器面調整が条痕文またはナデでその他の口縁部（433～438）。433は直口する口縁部であるが、口唇部に沈線文が見られる。口縁端部は肥厚せずこれといった特徴もないでこの類にいれた。434～435は口縁端部が鉤状に外側へ折れ曲がるもので、435の上面にはごく浅い連續押圧文が見られる。436～438は口縁部が内湾するキャリバー状の土器で、H類土器に伴う可能性もある。

底部

IV層出土の底部のうちどの類に伴うか不明なものをここにまとめた（439～454）。439～442は尖底あるいは丸底の底部である。A類土器に伴うものか。443は小破片であるが角底をなすと思われるものである。446～449は上げ底になる。453には短沈線文と思われる文様が見られる。

5. 石器（第61図～第64図）

IV層の調査で石器は約570点出土した。しかし、その詳細な分布状況については検討できなかった。このうち、主なもの564点の計測表を作成したので参照されたい。石器の内訳は次の石器組成表のとおりである。

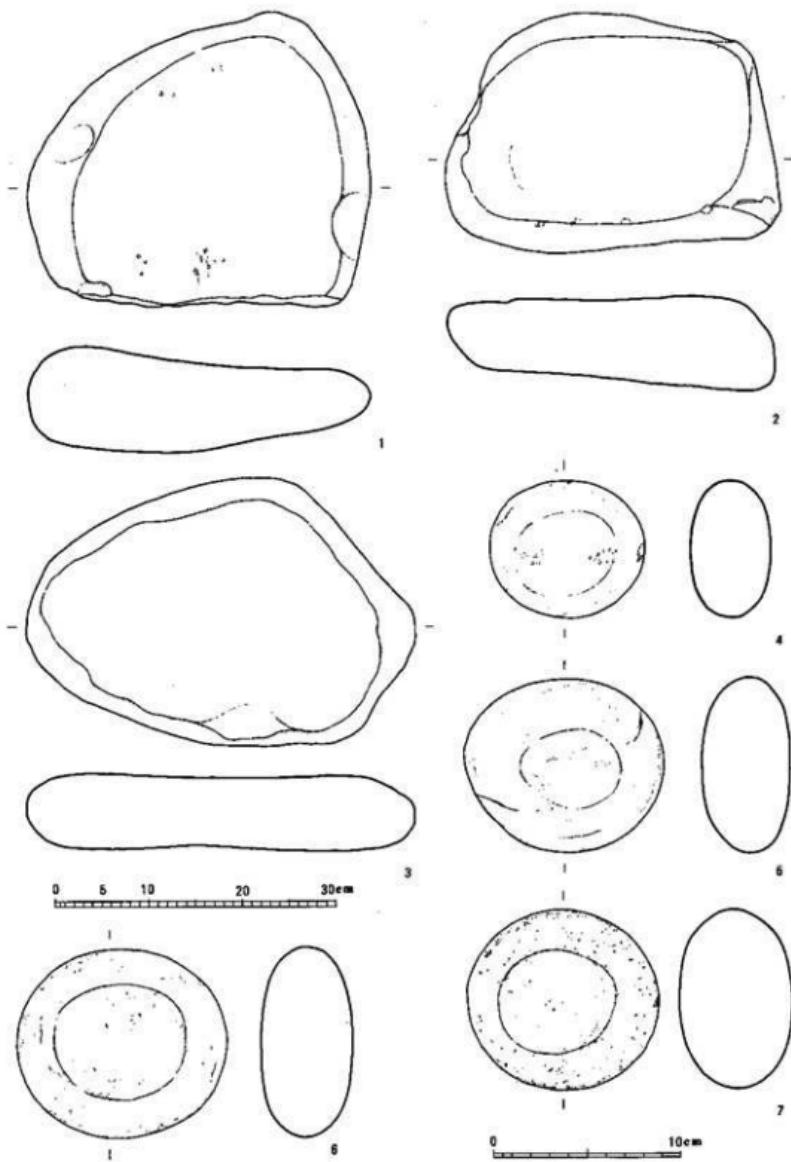
石器組成表 IV層

器種	石皿	台石	磨石	敲石	凹石	石斧			石鑿	尖頭器	石匙	スクレイバー	石錐	石鏟	その他	計
						磨製	局部磨製	打製								
個数	5	9	12	3	7	5	1	1	328	44	41	41	23	3	41	564
%	0.9	1.6	2.1	0.5	1.2	0.9	0.2	0.2	58.1	7.8	7.3	7.3	4.1	0.5	7.3	100

IV層には砂岩の大きな河原石がたくさん含まれていたが、この層は本来そのような石を包含する層ではないので、これらは人為的に持ち込まれたものと考えられる。しかし、今回はその中で敲打面や磨面などの使用面が見られるものを台石とし、これらの自然石と区別して扱った。台石は石皿程には使用痕が顕著でなく、使用期間が短期間であったと考えることもできる。また、IV区の概要でも述べたように、IV層からは石鑿がかなり多く出土し、その次が尖頭器で、この2種を合わせて全体の約2/3を占めている。次に目立つのは石匙やスクレイバーでそれぞれ7.3%、そして石錐の4.1%である。これらの石器組成を概観して解るのは、狩猟及びその関連用具の比重が極端に高いということである。

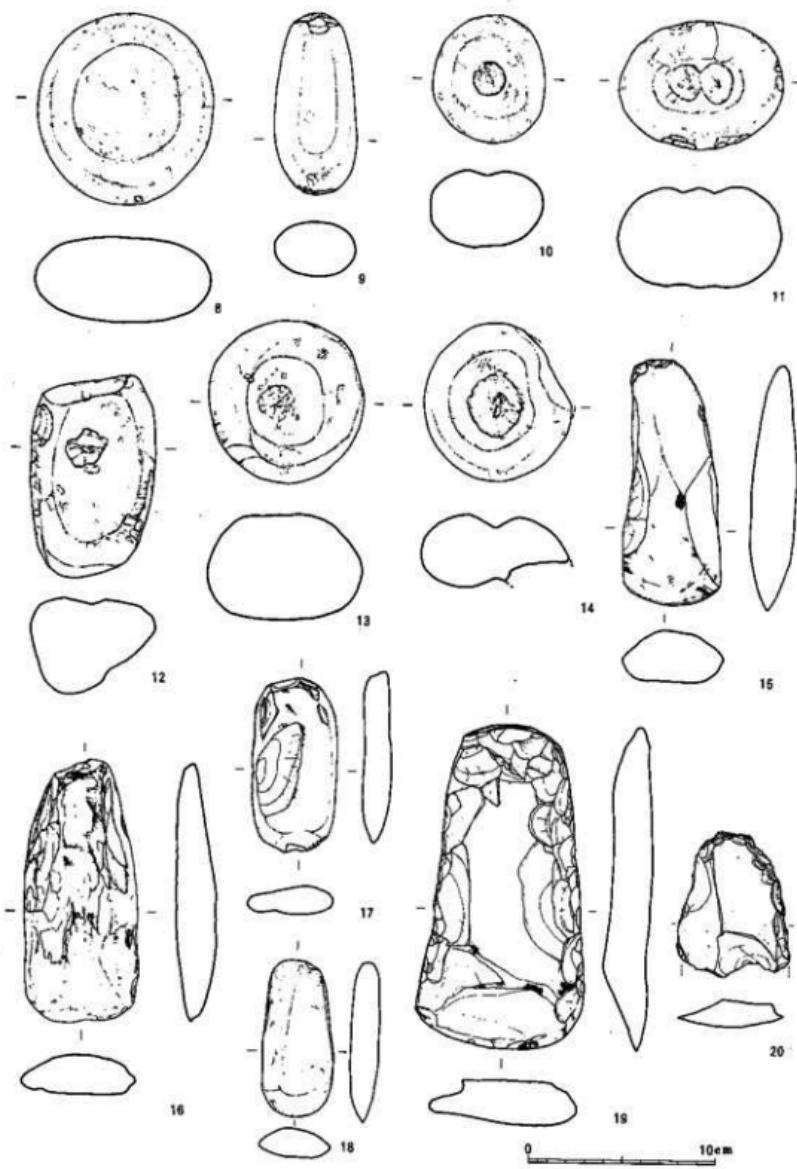
IV層は縄文時代前期の土器や中期の土器が混在していた。石器についても、層位的検討を行っていないため、どの石器がどの時期のものか明確に区別することは困難である。また、時間的にあまり固化できなかったので主なもののみ説明したい。

1～3は、砂岩の河原石を利用した台石である。片面がやや凹面をなし研磨面が見られる。しかし、石皿程には凹面も深くなく研磨痕も顕著ではない。1は、重さが18.2kgもあり持ち運びが困難なほどの重さである。このほか、石皿5点を含む台石類はすべて砂岩を用いており、近くの境川の河原に散乱している砂岩の河原石を持ち込んだ可能性がある。4～8は、磨石である。いずれも手のひら大の手頃な大きさの石である。石材はその約9割が早期の磨石にも見られた県中央部の尾鈴山塊付近で産出する尾鈴山酸性岩類である。この石は河原石の原石自体やや滑らかな表面を持っており、磨石の使用面と自然面との違いは、若干使用面の方がきめが細かいという程度である。ここでは磨石の石材としてのみ持ち込まれたものようである。9は敲石である。長軸両端部に敲打痕が見られる。砂岩を用いているが、表面は非常に滑らかである。10～14は、すべて砂岩製の凹石である。殆ど円錐を用いているが、12は断面が三角形のいびつな河原石で、表面に1箇所、裏面に深浅2箇所のくぼみが見られる。また、11は両面ともくぼみが2箇所連なっており、10は表面にはやや深く裏面には浅いくぼみが見られる。13は浅い敲打痕が表面に見られ、敲石としてもよいかもしれない。14には深い凹面が裏面に見られる。15～20は石斧である。15～18は磨製石斧であるが、15は両刃で刃部の片端部が摩耗していて、16～18は片刃に近い刃部である。また、19は刃部付近のみ研磨してあり他は剥離面がのこる。20は打製石斧の欠損品と思われる。これら石斧類は主にホルンフェルスを用いている。21～56は石鑿の一部である。38や50のような基部が平らなものに比べると圧倒的に凹基盤が多い。



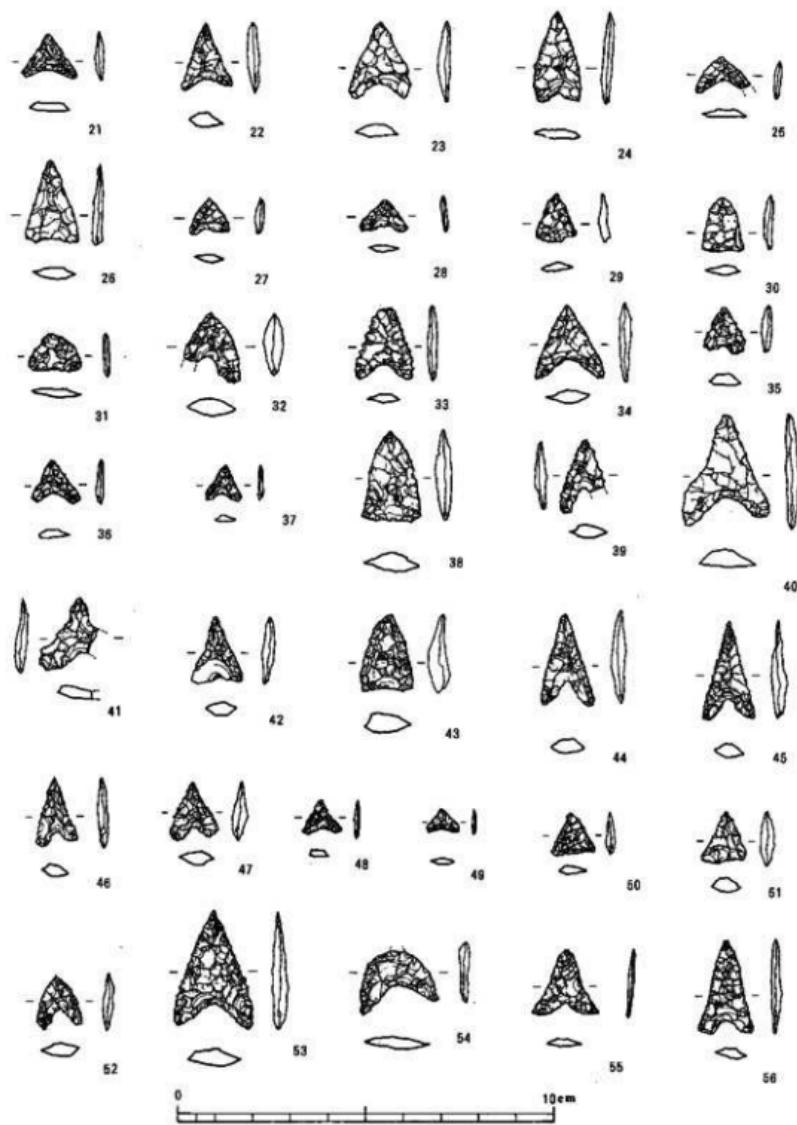
第61図 石器実測図(3) IV層

1~3縮尺1/6 4~7縮尺1/3



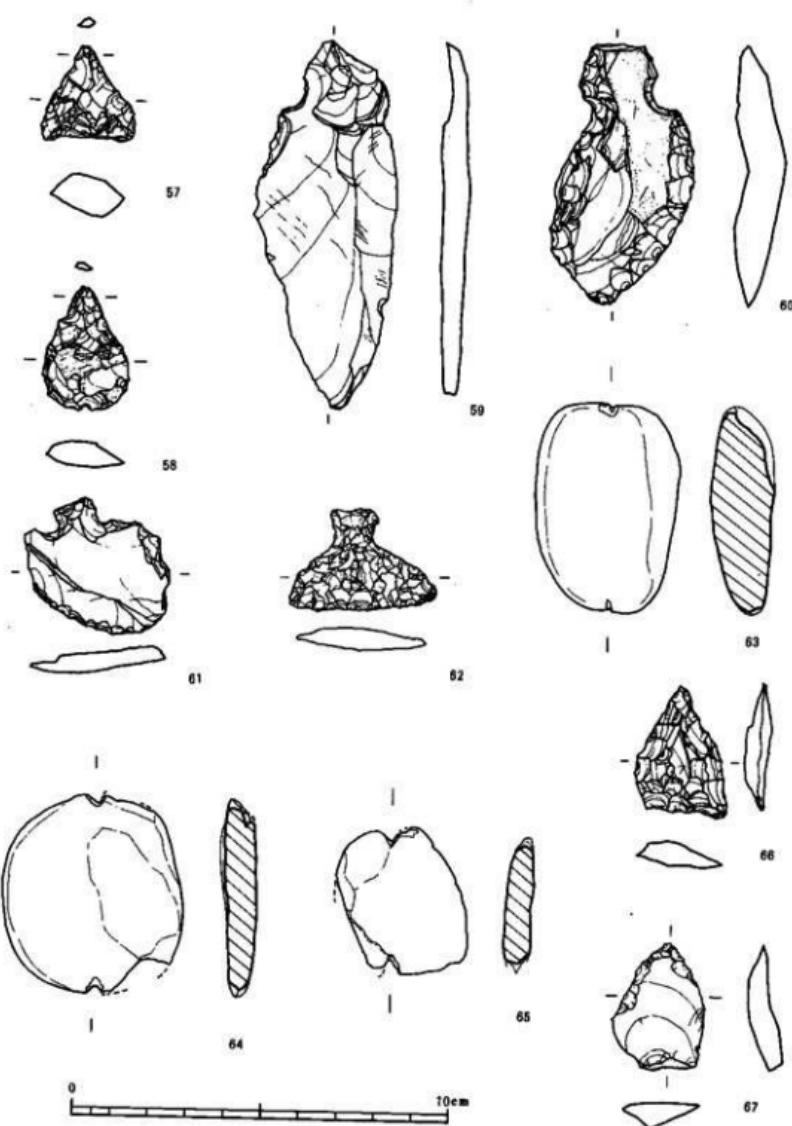
第62図 石器実測図(4) IV層

縮尺1/3



第63図 石器実測図(5) IV層

縮尺 2/3



第64図 石器実測図 (6) IV層

縮尺 2/3

特徴的な石器としては大きさが1cm未満のごく小さなものが出土している(37・48~49など)。今回は分類が間に合わず計測値しか報告できなかった。石器に用いられている石材としては、黒曜石が約43%、チャートが約29%、流紋岩が約24%で、この3種類だけで石器全体の約96%を占めている。57~58は石錐と思われる。57は先端部に摩耗は見られないが、基部の方は肉厚である。58は一応石錐としたが、刃部の調整等石器の可能性もある。59~62は石匙である。使用された石材としては、チャートがその46.3%を占め、ついで流紋岩の31.8%と続く。IV層の石匙の特徴として59のような粗製品の存在があげられる。つまり作り出す以外にはあまり調整や加工を施さないか、それらの粗いものである。63~65は切目石錐である。IV区西側から3点のみ出土した。「4. 土器」の中で説明した土器片錐が出土した付近である。周辺からはA I・A II b・B d・E・G a・G b・H II・H III・I bの各類土器が出土している。どの類に伴うものか不明である。石材はすべて頁岩である。66~67は尖頭器としたものであるが、大きめの石器と見ることもできる。67は打面、打点ともに残したまま剥片の形を大きく変えることなく製品化している。

これらのほかに、IV層では原石が多少出土している。計測表にのせたものでは産地不明の黒曜石が4個、水晶が2個ある。石器の石材別組成表は次のとおりである。

石器石材別組成表 IV層

石材	石器				石斧		石錐				石匙		その他		計		
	石錐	台石	磨石	敲石	圓石		磨製	風化磨耗	打製	尖頭器	石錐	尖頭器	石匙	スカラベ	石錐		
黒 島 石 産地不明										74	3	3	3	2		2	87
										67	6	1	4			24	102
チャート										96	19	19	6	6		4	150
流 紋 岩										13	4	9	9	4		3	42
流 紋 岩 a										17		2	1				20
流 紋 岩 b				1						48	9	4	15	8		6	91
砂 岩	5	9		2	7					1	1	1	2			1	29
頁 岩						1				7	1			1	3	1	14
カルンフルス						3	1	1									5
石 英										2	1	2	1	2			8
水 晶																	0
安 山 岩		1								1							2
尾 鉱 酸性岩類		11															11
凝 灰 岩										1							1
ハンレイ岩					1												1
石英斑岩									1								1
計	5	9	12	3	7	5	1	1	328	44	41	41	23	3	41	564	

(石材見例は切面の凡例参照)

石 器 計 測 表 (5)

番号	種別	(出力規格) (mm×mm)	幅(mm)	高さ(mm)	厚さ(mm)	石材	備考	番号	種別	(出力規格) (mm×mm)	幅(mm)	高さ(mm)	厚さ(mm)	石材	備考
1	合 石	III (b-12)	36.70	31.40	11.40	18.20/kg	D	30	石 磚	I (d-15)	1.45	1.10	0.25	0.40 C 1	石材は東海山岩層?
2	n	n (f-8)	34.10	25.40	9.70	14.40/kg	n	31	n	n (b-16)	1.00	1.40	0.25	0.25 A 2	
3	n	n (a-5)	41.70	28.50	8.20	14.90/kg	n	32	n	n (b-19)	1.75	1.50	0.45	0.95 B	左脚部欠損
4	磨 石	II (- -)	8.30	7.35	4.30	33/kg	I	33	n	n (d-5)	1.90	1.50	0.25	0.60 n	先端部欠損
5	n	n (a-23)	10.70	9.30	4.70	68/kg	n	34	n	n (f-5)	1.95	1.80	0.38	0.70 E	
6	n	1 (- -)	11.25	10.30	4.90	95/kg	n	35	n	n (e-10)	1.30	1.10	0.30	0.30 B	
7	n	III (d-12)	10.25	9.70	6.00	90/kg	n	36	n	n (- -)	1.15	1.35	0.25	0.20 A 1	
8	n	IV (m-5)	10.35	9.90	4.55	67/kg	n	37	n	n (f-6)	0.95	1.00	0.15	0.10 n	
9	麻 石	II (d-23)	9.75	4.40	2.95	18/kg	D	38	n	n (e-3)	2.40	1.60	0.55	1.40 C 3	
10	四 石	II (d-22)	6.85	6.00	4.10	24/kg	n	39	n	n (d-4)	1.95	1.20	0.36	0.40 n	右脚部欠損
11	n	n (a-23)	6.90	8.80	5.30	44/kg	n	40	n	n (f-6)	2.95	2.25	0.46	1.75 n	
12	n	n (a-23)	10.90	6.70	5.10	43/kg	n	41	n	n (e-3)	1.90	1.50	0.30	0.55 n	右脚部欠損
13	n	III (d-7)	8.65	8.30	6.70	56/kg	n	42	n	IV (n-5)	1.75	1.40	0.40	0.55 B	
14	n	IV (f-3)	8.40	7.90	3.90	31/kg	n	43	n	n (o-6)	2.00	1.40	0.60	1.50 n	
15	磨製石斧	II (a-22)	13.20	5.30	2.45	24/kg	F	44	n	n (e-7)	2.45	1.40	0.40	0.75 n	
16	n	1 (d-14)	14.10	6.20	2.10	24/kg	K	45	n	n (- -)	2.55	1.85	0.40	0.70 C 3	
17	n	IV (o-5)	9.35	4.60	4.50	10/kg	F	46	n	n (k-3)	1.70	1.10	0.35	0.35 A 2	
18	n	n (- -)	8.40	3.60	1.60	78/kg	E	47	n	n (j-5)	1.55	1.80	0.40	0.45 B	
19	局部磨製石斧	II (a-22)	17.40	9.00	2.60	50/kg	F	48	n	n (f-6)	0.90	1.10	0.20	0.15 A 2	
20	打製石斧	IV (m-3)	7.80	6.15	1.55	78/kg	F	49	n	n (- -)	0.60	0.90	0.15	0.05 A 1	
21	石 磚	II (a-21)	1.20	1.50	0.20	0.20/kg	A 2	50	n	n (m-3)	1.15	1.15	0.23	0.25 C 3	
22	n	n (b-23)	1.75	1.35	0.40	0.45 n	n	51	n	n (m-4)	1.35	1.20	0.40	0.40 A 1	
23	n	n (- -)	2.06	1.70	0.35	0.75 C 2		52	n	n (h-5)	1.45	1.20	0.36	0.40 B	
24	n	n (a-23)	2.40	1.25	0.25	0.65 B		53	n	n (g-5)	3.15	2.10	0.45	1.90 A 2	
25	n	n (d-22)	1.00	1.40	0.20	0.15 A 2		54	n	n (o-4)	1.70	2.05	0.30	0.70 C 2	先端部欠損
26	n	1 (d-18)	2.20	1.40	0.35	0.75 C 2		55	n	n (e-3)	1.70	1.80	0.20	0.35 B	
27	n	n (b-15)	0.95	1.10	0.20	0.15 A 1		56	n	n (- -)	2.45	1.45	0.28	0.70 n	
28	n	n (a-16)	0.85	1.30	0.20	0.20 A 2		57	石 磚	IV (b-6)	2.53	2.45	1.15	4.56 C 3	
29	n	n (- -)	1.30	1.05	0.25	0.25 n		58	n	n (o-5)	3.25	2.30	0.70	4.10 n	

石 器 計 測 表 (6) IV 層

番号	種別	出土地點 (リツク)	標高 (cm)	標高 (cm)	重さ (g)	重さ (g)	石料	種類	測定 (cm)	測定 (cm)	測定 (cm)	測定 (cm)	石材	備考	
59	石 耙	IV (d-4)	9.75	3.80	0.80	16.60	D	石	(d-10)	8.10	7.55	4.70	30kg	D 約1/2欠損	
60	"	" (b-6)	6.90	3.70	1.33	26.30	B	石	"	8.15	6.97	5.80	45kg	"	
61	"	" (m-4)	3.60	3.90	0.83	6.65	n	磨製石斧	(d-2)	5.95	4.15	2.43	74.70	F 約1/2欠損	
62	"	" (b-5)	2.80	3.90	0.60	5.35	n	石 繩	(d-22)	0.85	0.98	0.19	0.10	A 2 片側面欠損	
63	切目石縄	IV (b-6)	5.50	3.70	1.60	51.50	E	石	" (e-23)	1.51	1.22	0.32	0.10	"	
64	"	" (e-1-5)	5.30	4.50	0.80	31.75	"	石	(d-23)	1.47	1.37	0.30	0.30	"	
65	"	" (g-7)	4.10	3.00	0.70	11.50	n	石	(d-22)	1.40	1.10	0.30	0.50	"	
66	尖頭器	III (e-1)	3.40	2.40	0.55	4.65	n	石	(d-22)	1.22	0.98	0.28	0.25	B 片側面欠損	
67	"	IV (o-4)	3.35	2.40	0.70	5.20	C1	石	(d-21)	1.22	0.93	0.30	0.20	A 2	
68	石 Ⅲ	II (d-28)	35.00	28.49	9.50	12.250g	D	一端欠損	石	(d-23)	1.50	0.95	0.28	0.25	"
69	"	I (d-17)	10.20	8.40	4.90	60.00g	n	石	(d-21)	1.01	1.30	0.30	0.30	"	
70	"	IV (k-3)	47.60	31.60	18.30	28.500g	n	石	(e-21)	1.23	1.48	0.30	0.15	B "	
71	"	" (m-5)	35.50	32.00	10.90	18.250g	n	石	(e-21)	1.60	1.62	0.26	0.25	L "	
72	"	" (m-4)	35.50	35.20	7.60	13.310g	n	石	(e-21)	1.03	1.14	0.24	0.20	A 1	
73	合 石	III (e-5)	41.60	28.90	8.40	15.100g	n	石	(d-20)	1.40	1.40	0.27	0.45	B 片側面欠損	
74	"	" (f-6)	37.30	29.60	12.80	16.150g	n	石	(e-28)	1.87	1.83	0.34	1.10	"	
75	"	" (d-6)	25.30	19.60	7.30	6.550g	n	石	(b-27)	(1.81)	(1.33)	0.42	(2.70)	A 2 片側面欠損	
76	"	" (d-10)	27.60	24.90	6.20	6.000g	n	石	(d-22)	(1.11)	(0.96)	0.25	(0.20)	A 1 片側面欠損	
77	"	IV (k-4)	33.80	14.40	11.70	6.750g	n	石	(e-21)	(0.92)	(1.37)	0.23	(0.20)	A 2 片側面欠損	
78	"	" (n-)	35.50	20.70	9.10	9.450g	n	石	(d-21)	1.03	1.35	0.30	G 1	片側面欠損	
79	磨 石	I (f-13)	9.50	8.40	4.50	525g	1	石	(b-21)	(1.33)	(1.12)	0.25	(0.25)	A 2 片側面欠損	
80	"	" (d-13)	10.60	9.20	5.00	71.0g	n	石	(e-21)	0.93	1.25	0.24	0.20	"	
81	"	III (d-12)	9.70	9.15	4.50	60.6g	n	石	(d-22)	(1.52)	(1.4)	0.30	(0.40)	A 1 片側面欠損	
82	"	" (e-4)	10.50	9.00	4.10	55.6g	n	石	(e-23)	(2.02)	(1.17)	0.42	(0.60)	A 2 片側面欠損	
83	"	IV (n-5)	10.65	9.20	4.40	68.7g	n	石	(d-23)	1.30	(1.1)	0.30	(0.30)	"	
84	"	" (f-5)	9.75	9.27	4.50	63.0g	n	石	(e-21)	(2.00)	(1.16)	0.28	(0.35)	C 3 片側面欠損	
85	"	" (o-5)	11.50	9.20	4.40	57.2g	H	石	(e-24)	1.26	1.55	0.40	0.80	A 2 片側面欠損	
86	敲 石	IV (m-5)	11.40	9.10	6.00	81.7g	D	磨石と擦用か	石	(e-23)	1.06	1.81	0.27	0.40	A 2 先端欠損
87	"	" (o-5)	4.98	4.99	3.03	100g	C 3	"	石	(e-21)	1.80	1.49	0.29	0.60	C 2 片側面欠損

石 器 計 測 表 (7) IV 層

番号	種 別	(出土地點) (アリバ)	高さ(高さ) (cm)	幅(幅) (cm)	厚(厚) (cm)	材質 (石等)	備 考	番号	種 別	(出土地點) (アリバ)	高さ(高さ) (cm)	幅(幅) (cm)	厚(厚) (cm)	材質 (石等)	備 考
高さ(高さ) (cm)	幅(幅) (cm)	厚(厚) (cm)													
1117 石 繩 II (d-21)	1.23	1.97	0.26	0.50	C 1	木製はね山人形 先端部・片側部欠損	146 石 繩 I (f-14)	1.09	1.21	0.27	(0.30)	B	先端部、片側部欠損		
1118 n n (d-23)	1.52	1.37	0.27	0.40	B		147 n	n	(e-16)	(0.57)	(0.91)	0.22	(0.10)	A 2	片側部欠損
1119 n n (e-)	2.67	1.59	0.44	1.30	A 1		148 n	n	(d-6)	(1.15)	(1.07)	0.39	(0.30)	n	片側部欠損
120 n n (e-25)	1.52	1.16	0.26	0.30	C 3	片側部先端欠損	149 n	n	(d-9)	(1.29)	1.29	0.31	(0.40)	C 1	先端部欠損
121 n n (e-27)	1.87	1.38	0.27	0.40	B		150 n	n	(e-11)	2.16	1.75	0.31	0.75	C 3	
122 n n (e-23)	1.31	1.42	0.32	0.40	A 2		151 n	n	(e-12)	(1.12)	(1.10)	0.22	(0.30)	A 2	片側部欠損
123 n n (d-22)	1.24	1.54	0.31	0.21	B	先端部欠損	152 n	n	(d-12)	1.12	1.12	0.20	"		
124 n n (d-23)	0.88	1.28	0.23	0.10	n	片側部先端欠損	153 n	n	(d-10)	1.37	1.20	0.26	0.30	B	
125 n n (e-27)	1.35	1.34	0.26	0.35	n		154 n	n	(e-3)	(1.36)	(1.24)	0.32	(0.30)	n	片側部外側欠損
126 n n (d-9-22)	0.86	0.68	0.18	0.10	A 2	先端部のみ残存	155 n	n	(n)	(2.04)	(1.44)	0.26	(0.45)	E	石材はシルト質
127 n n (n) (0.71)	1.09	0.23	0.15	0.15	B	先端部・片側部欠損	156 n	n	(d-9)	(1.43)	(0.94)	0.33	(0.35)	A 1	側面欠損
128 n n (d-22)	0.65	0.52	0.22	0.06	B	先端部のみ残存	157 n	n	(f-6)	(1.82)	(1.27)	0.33	(0.60)	n	片側部欠損
129 n n (d-23)	1.45	1.47	0.28	0.50	B	先端部欠損	158 n	n	(e-3)	(2.15)	(1.28)	0.30	(0.56)	n	両端部欠損
130 n n (n) (n)	0.79	1.16	0.31	0.20	A 2	片側部のみ残存	159 n	n	(f-6)	(1.20)	(1.37)	0.42	(0.56)	n	片側部欠損
131 n n (n) (1.03)	0.65	0.65	0.17	0.10	n	先端部のみ残存	160 n	n	(n)	(1.33)	(1.14)	0.33	(0.30)	C 2	先端部・片側部欠損
132 n n (-) (0.76)	1.45	0.25	0.20	0.20	C 1	木製はね山人形 先端部欠損	161 n	n	(e-10)	(1.58)	(1.19)	0.31	(0.45)	A 1	"
133 n n (e-22)	1.26	1.66	0.27	0.40	J	片側部欠損	162 n	n	(d-9)	(1.83)	(1.30)	0.25	(0.30)	C 3	片側部欠損
134 n n (e-21)	2.05	1.45	0.68	1.10	D		163 n	n	(f-6)	(1.54)	(1.25)	0.39	(0.40)	A 1	"
135 n 1 (a-15)	1.25	1.06	0.20	0.23	A 2		164 n	n	(n)	(1.97)	(1.42)	0.32	(0.50)	C 1	"
136 n n (e-18) (1.16)	1.35	0.44	0.55	0.11	A 1	先端部欠損	165 n	n	(n)	(2.20)	1.17	0.33	0.20	A 2	
137 n n (e-16)	1.37	1.29	0.29	0.32	B	片側部欠損	166 n	n	(e-6)	(2.02)	1.93	0.40	(1.10)	C 1	先端部欠損
138 n n (f-15)	1.96	1.35	0.54	1.10	H	先端部欠損	167 n	n	(e-B)	1.61	1.11	0.44	0.40	B	
139 n n (f-18)	0.86	1.08	0.20	0.10	A 2	片側部先端欠損	168 n	n	(f-6)	(2.24)	(1.34)	0.37	(0.90)	C 3	片側部欠損
140 n n (f-17)	2.05	1.09	0.29	0.75	C 3		169 n	n	(e-3)	(1.38)	(1.14)	0.27	(0.30)	B	先端部近辺溝から
141 n n (f-16)	1.67	1.45	0.38	0.45	A 1		170 n	n	(n)	(1.41)	(0.87)	0.27	(0.30)	A 2	"
142 n n (f-18)	1.60	1.63	0.31	0.50	B		171 n	n	(f-6)	(1.26)	(1.25)	0.30	(0.40)	C 1	"
143 n n (f-13)	1.45	1.56	0.31	0.70	n		172 n	n	(d-11)	(1.10)	(1.22)	0.24	(0.20)	A 1	片側部欠損
144 n n (f-17)	2.06	1.19	0.39	0.60	A 1	先端部・片側部欠損	173 n	n	(f-6)	(1.86)	(0.90)	(0.33)	C 3	"	
145 n n (f-14)	1.35	1.28	0.25	0.45	B	両側部欠損	174 n	n	(f-5)	(2.16)	(1.97)	(0.33)	(1.10)	n	

石器計測表(8) 層IV

石 器 計 測 表 (9) IV 面

番号	種 別	(参考)	横 大 幅 (cm)	横 小 幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	不規	番 号	種 別	横 大 幅 (cm)	横 小 幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	不規	番 号	種 別	横 大 幅 (cm)	横 小 幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	不規	参考
233	石 磨	IV (1-5)	1.53	1.24	0.40	0.40	B	262	石 磨	IV (4-4)	1.44	1.20	0.23	(30)	B	片 鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
234	n	n (n)	(1.09)	1.29	0.20	(0.20)	n	263	n	n (n)	(1.93)	(1.05)	0.45	(0.80)	n	-	-	-	-	-	-	
235	n	n (1-4)	(2.89)	(1.22)	0.38	(0.80)	C 3 片鋸齒欠損	264	n	n (n)	(1.75)	(1.17)	0.33	(0.90)	n	先鋸齒・片鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
236	n	n (2-3)	1.87	1.43	0.25	0.40	B	265	n	n (2-5)	(1.97)	(1.70)	0.44	(1.10)	C 3 両鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-	
237	n	n (n)	1.49	1.07	0.26	0.20	A 2	266	n	n (n-3)	(1.90)	(0.96)	0.28	(0.90)	B	片鋸齒のみ残存	-	-	-	-	-	-
238	n	n (n)	(1.18)	(1.24)	0.27	(0.80)	n	267	n	n (n)	(2.19)	(1.84)	0.32	(0.90)	C 1 片鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-	
239	n	n (n)	(1.91)	(1.53)	0.31	(0.40)	A 1	268	n	n (n)	(2.11)	(1.28)	0.31	(0.90)	C 3	-	-	-	-	-	-	
240	n	n (n)	(1.33)	(1.17)	0.35	(0.30)	A 2	269	n	n (n)	(1.69)	(0.93)	0.34	(0.40)	B	-	-	-	-	-	-	
241	n	n (m-4)	(2.49)	(2.26)	(0.51)	(2.10)	C 2 先鋸齒・片鋸齒欠損	270	n	n (m-4)	1.25	1.03	0.25	(0.20)	A 1	両鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
242	n	n (o-5)	(1.50)	(1.06)	(0.32)	(0.30)	A 1 両鋸齒欠損	271	n	n (n)	(2.33)	(1.60)	0.64	(1.70)	n	片鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
243	n	n (n-4)	1.74	1.51	0.35	0.50	n	272	n	n (n-5)	(1.11)	(1.08)	0.19	(0.10)	n	片鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
244	n	n (k-5)	(1.66)	(1.72)	0.30	(0.70)	n	273	n	n (n-4)	(1.83)	(1.17)	0.40	(0.90)	n	-	-	-	-	-	-	
245	n	n (k-2)	(2.12)	(2.11)	0.29	(0.70)	C 3 先鋸齒・片鋸齒欠損	274	n	n (n)	(1.39)	(0.97)	0.28	(0.20)	n	-	-	-	-	-	-	
246	n	n (n)	(1.76)	(1.03)	0.28	(0.30)	A 1 両鋸齒欠損	275	n	n (o-5)	(1.85)	(1.18)	0.33	(0.50)	n	片鋸齒・先鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
247	n	n (n)	(1.40)	(1.07)	0.34	(0.30)	n	276	n	n (m-3)	(1.89)	(1.26)	0.49	(0.80)	B	先鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
248	n	n (k-4)	(1.11)	(1.26)	0.38	(0.36)	A 2 片鋸齒欠損	277	n	n (n)	(1.48)	(0.91)	0.20	(0.20)	A 1 片鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-	
249	n	n (n)	(1.46)	(1.28)	0.33	(0.40)	n	278	n	n (g-5)	1.70	1.42	0.33	(0.50)	A 2	両鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
250	n	n (k-2)	1.52	1.08	0.27	0.30	A 1	279	n	n (i-5)	(2.50)	(1.49)	0.66	(2.90)	C 2 両鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-	
251	n	n (n)	(1.96)	(1.82)	0.61	(1.30)	C 1 先鋸齒欠損	280	n	n (i-3+4)	(1.44)	(1.16)	0.32	(0.40)	B	先鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
252	n	n (k-3)	(1.28)	(1.09)	0.26	(0.20)	A 2 両鋸齒欠損	281	n	n (i-5)	2.00	1.68	0.44	1.20	C 3	-	-	-	-	-	-	
253	n	n (n)	(1.78)	(1.38)	0.56	(1.00)	A 1 両鋸齒欠損	282	n	n (m-4)	2.25	1.24	0.33	0.70	n	-	-	-	-	-	-	
254	n	n (n)	(1.63)	(1.17)	0.37	(0.50)	A 1 先鋸齒・片鋸齒欠損	283	n	n (i-3)	(1.84)	(1.10)	0.46	(0.80)	B	両鋸齒欠損・先鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
255	n	n (n)	(0.82)	1.06	0.26	(0.10)	n	284	n	n (-)	(2.39)	(1.35)	0.39	(0.80)	A 1 先鋸齒・片鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-	
256	n	n (n)	(0.79)	(0.98)	0.15	(0.10)	C 2 片鋸齒欠損	285	n	n (i-3)	0.98	1.36	0.21	0.26	A 2	-	-	-	-	-	-	
257	n	n (n)	(1.25)	(0.96)	0.29	(0.20)	A 2 片鋸齒欠損	286	n	n (b-5)	1.85	1.24	0.41	0.70	C 3	-	-	-	-	-	-	
258	n	n (n)	(1.26)	(0.99)	0.35	(0.30)	n	287	n	n (m-5)	1.76	1.36	0.37	0.70	n	-	-	-	-	-	-	
259	n	n (n)	(1.12)	(1.12)	(0.38)	(0.30)	n	288	n	n (i-3)	(1.65)	(1.25)	0.25	(0.30)	B	片鋸齒欠損	-	-	-	-	-	-
260	n	n (n)	(2.06)	(1.13)	0.32	(0.50)	A 1 片鋸齒欠損	289	n	n (i-4)	1.14	1.22	0.32	0.30	n	-	-	-	-	-	-	
261	n	n (k-4)	1.51	1.36	0.47	0.70	B	290	n	n (g-5)	2.20	1.36	0.40	1.20	C 3	-	-	-	-	-	-	

石 器 計 測 表 (10) IV 層

番号	種 別	出土場所 (リバーフロア)	標高 (m)	標高 (cm)	石種 (kg)	石種 (kg)	番号	種 別	番号	種 別	番号	種 別	番号	種 別	参考		
281	石 破	IV (m-3)	1.74	1.48	0.34	0.60	B		320	石 破	IV (m-4)			1.44	1.28	0.34	0.50 B
292	"	" (m-4)	(1.89)	(1.61)	0.31	(0.80)	"		321	"	" (k-6)			(1.76)	(1.61)	0.39	(0.90) C 3
293	"	" (k-1-5)	1.98	1.11	0.38	0.60	"		322	"	" (k-6)			(1.41)	(1.27)	0.30	(0.50) B 片脚先端部欠損
294	"	" (i-4+5)	1.66	1.47	0.43	0.60	A 1		323	"	" (k-5)			1.50	1.04	0.26	0.30 A 2
295	"	" (k-3)	1.34	1.17	0.26	0.40	C 3		324	"	" (w)			(1.50)	(1.08)	0.24	(0.40) B 片脚先端部欠損
296	"	" (h-6)	(1.9)	(1.38)	0.29	0.60	A 1		325	"	" (w)			1.56	1.36	0.35	0.60 "
297	"	" (g-5)	(3.52)	(1.87)	0.56	(2.40)	C 2		326	"	" (w)			1.53	1.78	0.44	1.00 "
298	"	" (i-1-5)	(2.38)	2.20	0.37	(1.75)	C 3		327	"	" (w)			1.36	1.08	0.28	0.30 A 2
299	"	" (n-4)	(1.77)	0.96	0.36	(0.50)	A 1		328	"	" (w)			(1.65)	(1.26)	0.33	(0.50) A 1 片脚部欠損
300	"	" (k-5)	(1.26)	1.27	0.34	(0.50)	"		329	"	" (w)			1.30	1.34	0.38	0.50 "
301	"	" (m-3)	(2.19)	(1.81)	0.46	(1.40)	C 3		330	"	" (n-5)			(1.56)	(1.29)	0.34	(0.50) "
302	"	" (m-3)	(2.50)	(1.65)	0.46	(1.30)	"		331	"	" (h-5)			1.50	1.32	0.36	0.40 A 2
303	"	" (k-6)	(1.75)	(1.24)	0.25	(0.49)	"		332	"	" (i-2-5)			1.40	1.39	0.27	0.40 A 1
304	"	" (j-4)	1.73	1.43	0.65	(1.00)	A 2		333	"	" (w)			1.39	1.20	0.27	0.30 C 3
305	"	" (k-2)	1.10	1.20	0.29	0.30	"		334	"	" (w)			1.26	1.18	0.27	0.30 B
306	"	" (k-3)	2.11	1.56	0.48	1.20	C 3		335	"	" (g-1-6)			1.57	1.15	0.47	0.70 B
307	"	" (")	1.83	1.16	0.31	0.50	B		336	"	" (-)			(1.77)	1.98	0.38	(1.40) C 3 先端部欠損
308	"	" (")	(0.61)	(1.06)	0.18	(0.10)	A 2		337	"	" (i-3-4)			(1.33)	(1.18)	0.31	(0.30) A 2 片脚先端部欠損
309	"	" (k-4)	(1.74)	(1.20)	0.29	(0.40)	B		338	"	" (w)			1.81	1.20	0.25	0.60 B
310	"	" (")	1.38	1.04	0.33	0.30	"		339	"	" (i-1-3)			1.32	1.32	0.26	0.30 A 1
311	"	" (")	(1.88)	(0.97)	0.28	(0.40)	E		340	"	" (w)			(1.66)	(1.22)	0.44	(0.70) C 3 片脚部先端部欠損
312	"	" (")	(1.78)	(1.19)	0.35	(0.40)	A 1		341	"	" (k-3)			(1.91)	1.64	0.46	(0.90) A 1 先端部欠損
313	"	" (")	1.38	0.99	0.34	0.40	A 2		342	"	" (n-4)			1.25	1.15	0.45	0.30 "
314	"	" (m-3)	1.16	1.43	0.40	0.60	B		343	"	" (k-6)			1.50	1.17	0.36	0.40 A 2
315	"	" (m-4)	(2.44)	(1.54)	0.27	(0.70)	"		344	"	" (h-6)			(2.19)	(1.16)	0.41	(0.70) B 片脚部先端部欠損
316	"	" (m-5)	(1.97)	(1.36)	0.35	(0.60)	"		345	"	" (m-3)			1.76	1.54	0.34	0.50 E
317	"	" (")	(1.22)	(1.10)	0.24	(0.30)	A 1		346	"	" (n-5)			(1.65)	(1.36)	0.45	(0.80) C 3 先端部・片脚部先端部欠損
318	"	" (n-4)	1.22	1.38	0.26	0.20	"		347	"	" (w)			1.41	1.33	0.19	0.40 B 片脚部先端部欠損
319	"	" (")	1.52	1.37	0.41	0.60	"		348	"	" (k-3)			(1.19)	(1.19)	0.26	(0.20) A 2 片脚部先端部欠損

石器計測表 (11) IV 層

石器計測表(12) IV層

番号	圖別	出土地點	標高(m)	標高(m)	石剣	石刀	石鋸	石刀	石錐	石鑿	石器	備考
407	石	II (e-23)	3.56	6.47	0.88	10.50	B	鑽型	456	石 肩	IV (e-5)	(6.88) 3.62 1.33 (30.40) C 1 條型先端部欠損
408	石	I (b-18)	2.71	2.87	0.79	4.90	"	鑽型	457	石 肩	IV (e-5)	4.34 3.50 0.87
409	石	I (e-17)	3.71	4.69	0.84	11.70	C 1	鑽型	458	石 肩	IV (e-5)	3.88 4.67 1.01 (22.10) C 2 條型先端部欠損
410	石	I (e-15)	3.87	(5.69)	0.93	18.70	C 1	鑽型—茎部欠損	459	石 肩	IV (e-5)	5.74 2.41 1.13 16.56 B 條型
411	石	I (b-15)	4.34	(4.81)	0.77	13.30	C 1	"	460	石 肩	IV (e-5)	6.31 0.73 0.99 16.56 C 3
412	石	III (d-11)	3.11	4.60	0.91	8.50	"	鑽型—茎部欠損	441	石 肩	I (e-17)	(1.26) 1.58 (0.65) A 2 右サイ F、下部欠損
413	石	I (e-3)	4.05	5.49	0.76	14.80	B	"	442	石 肩	I (e-23)	(3.22) 2.40 (0.63) (3.90) " 右サイ F、側面欠損
414	石	I (e-8)	3.18	5.15	0.96	11.26	"	鑽型	443	石 肩	I (e-27)	4.36 3.59 0.94 14.70 C 3 左サイ F
415	石	I (e-6)	2.42	2.68	0.46	20.50	G 1	鑽型—茎部欠損	444	石 肩	I (e-27)	3.79 3.97 1.03 12.80 C 1 右サイ F
416	石	I (e-3)	6.29	3.55	1.09	22.80	C 2	鑽型	445	石 肩	I (e-21)	3.16 2.30 0.44 2.60 " 左サイ F
417	石	I (e-6)	4.61	2.98	0.93	8.80	C 1	" 先端部欠損	446	石 肩	I (e-6)	5.71 1.71 0.98 12.70 G 1 右サイ F
418	石	I (e-2)	5.15	2.96	1.12	18.40	C 3	"	447	石 肩	I (d-24)	7.09 3.46 1.21 35.60 C 3 左サイ F
419	石	IV (j-4)	2.23	2.31	0.72	2.70	G 1	鑽型	448	石 肩	I (e-13)	3.37 4.14 1.09 14.30 B 間サイ F
420	石	I (m-4)	2.59	(3.72)	0.89	(6.80)	A 1	鑽型—茎部欠損	449	石 肩	I (d-9)	3.23 5.88 0.60 11.26 D x シ F
421	石	I (e-3)	1.30	(1.84)	0.34	(3.02)	"	"	450	石 肩	I (d-2)	4.06 6.20 0.84 27.90 C 3 シン F
422	石	I (n-5)	2.11	(2.84)	(0.71)	(3.30)	A 1	鑽型—茎部欠損	451	石 肩	I (e-10)	9.05 5.17 1.79 57.20 " 頭サイ F
423	石	I (k-3)	(4.99)	2.45	0.81	8.10	B	鑽型先端部付近欠損	452	石 肩	I (e-3)	(2.42) 2.69 0.64 (5.90) " 右サイ F、下部欠損
424	石	I (e-2)	(2.41)	1.55	(0.83)	(2.60)	"	鑽型先端部欠損	453	石 肩	I (e-4)	(3.1) 3.18 0.94 (7.96) " 左サイ F
425	石	I (k-4)	5.17	3.45	0.80	11.00	C 3	鑽型	454	石 肩	I (d-12)	(3.8) 2.57 0.82 (9.30) A 1 右サイ F
426	石	I (k-5)	(4.30)	(2.01)	(1.10)	(9.20)	A 1	鑽型先端部欠損	455	石 肩	I (e-4)	(2.86) (2.21) (0.66) (3.95) C 3 左サイ F、上部欠損
427	石	I (e-4)	1.60	1.81	0.43	1.00	B	鑽型	456	石 肩	I (e-3)	(1.41) 1.19 (0.31) (0.40) B 左サイ F、右側面欠損
428	石	I (e-5)	3.73	(3.64)	0.89	(10.40)	"	鑽型片割面欠損	457	石 肩	I (d-10)	(1.79) (1.69) 0.61 (1.38) C 3 左サイ F、下部欠損
429	石	I (m-4)	3.14	2.67	0.42	3.35	C 3	鑽型	458	石 肩	I (e-3)	(2.73) 1.79 0.67 (2.90) " 右サイ F、下部欠損
430	石	I (n-5)	3.54	(5.36)	0.74	(1.20)	B	鑽型先端部欠損	459	石 肩	I (e-2)	(2.70) 1.36 0.42 (1.20) " 頭サイ F、先端部欠損
431	石	I (e-5)	5.13	3.20	0.49	6.10	C 1	鑽型	460	石 肩	I (b-10)	3.75 2.34 1.06 9.10 A 2 國サイ F
432	石	I (-3+4)	6.26	1.97	0.79	6.90	C 2	"	461	石 肩	I (e-9)	3.71 2.69 0.82 7.55 B 両サイ F
433	石	I (e-2)	(2.84)	(3.69)	0.79	(7.60)	B	鑽型先端部付近欠損	462	石 肩	I (e-5)	1.67 3.67 0.77 5.80 C 1 左サイ F
434	石	I (e-2)	(4.75)	4.46	1.22	(22.90)	C 1	鑽型先端部付近欠損	463	石 肩	I (k-4)	(4.85) (7.07) 1.61 (38.20) " エンド、右側面欠損
435	石	I (o-1)	4.12	2.24	0.65	4.70	B	鑽型	464	石 肩	I (k-4)	11.98 6.76 1.43 44.00 C 3 両サイ F

石器計測表(13) IV 層

石器計測表 (14) IV 層

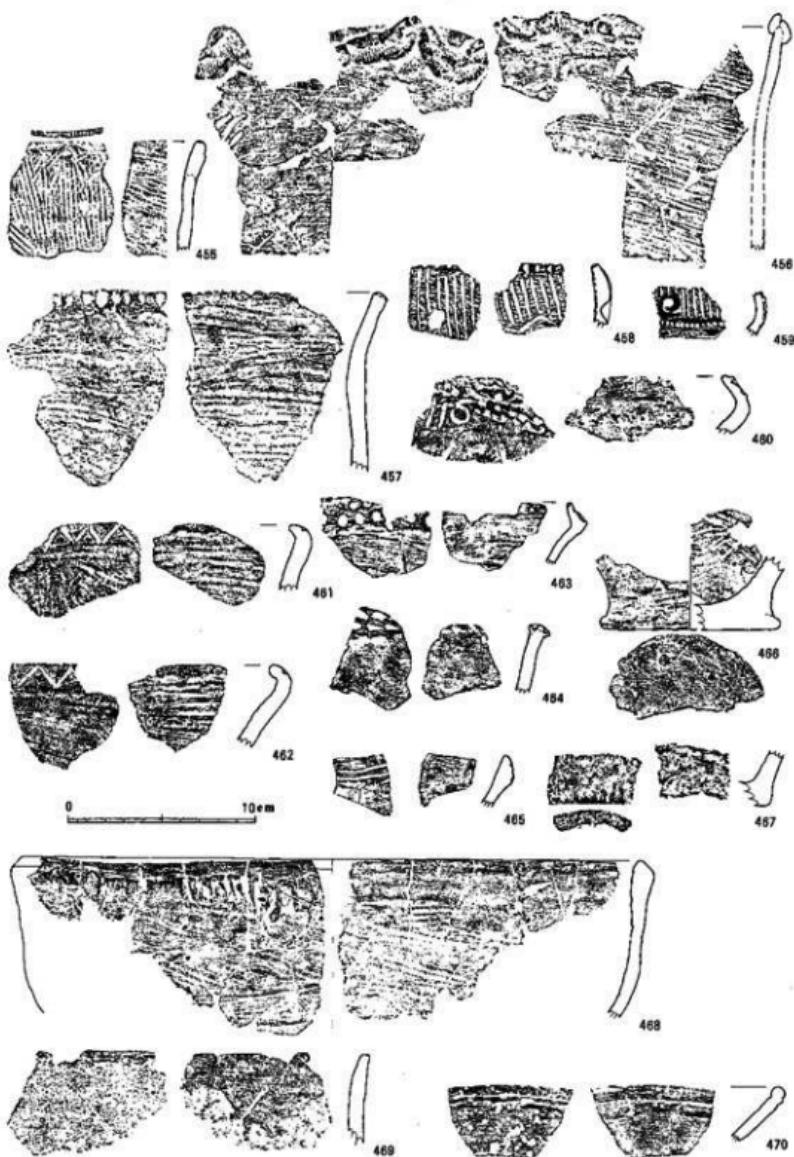
番号	種類	測定部位	測定方法	測定値 (cm)	測定部位	測定方法	測定値 (cm)	測定部位	測定方法	測定値 (cm)	測定部位	測定方法	測定値 (cm)	測定部位	測定方法	測定値 (cm)	測定部位	測定方法	測定値 (cm)	測定部位	測定方法	測定値 (cm)	備考
523	尖頭器	IV (d-2)	(2.49)	1.75	0.62	3.50	B	尖端部欠損	二重刃形斜面	IV (d-3)	2.67	1.37	0.69	1.70	A 1								
524	"	" (d-3)	(3.09)	2.37	0.79	5.30	"	先端部、下端部欠損	"	5.53	3.58	1.89	1.07	7.70	C 3								
525	"	" (d-4)	(1.36)	1.81	0.51	1.75	C 1	下端部欠損	"	5.64	1.62	1.61	0.92	2.60	A 1								
526	"	" ("")	2.32	1.26	0.62	1.90	B	片面刃欠損	"	5.55	2.36	1.84	0.74	2.80	B								
527	"	" ("")	2.79	2.21	1.00	4.40	"	"	" (m-5)	5.66	3.42	2.74	0.97	7.90	C 3								
528	"	" (d-5)	1.94	1.37	0.70	1.50	"	"	"	5.67	"	"	" (n-4)	3.45	3.43	0.40	4.60	E					
529	"	" (m-5)	(1.09)	1.55	0.34	(1.50)	A 2	先端部欠損	"	5.58	"	"	" (n-4)	4.82	3.45	1.19	16.30	B					
530	"	" ("")	2.16	1.68	0.36	1.60	A 1	"	"	5.69	"	"	" (n-5)	4.07	2.93	1.36	11.20	C 3					
531	"	" (m-4)	(6.18)	2.48	1.69	(16.80)	C 3	先端部欠損	"	5.60	"	"	" (n-6)	1.30	0.92	0.61	0.55	A 2					
532	"	" (n-4)	(1.66)	1.45	0.51	1.10	B	"	"	5.61	"	"	" (o-4)	1.64	1.43	0.51	0.60	"					
533	"	" ("")	(2.44)	(2.09)	0.75	(2.98)	C 1	先端部、下端部欠損	"	5.62	"	"	" (o-4)	3.24	2.40	1.04	5.90	C 3					
534	"	" (n-5)	2.17	1.31	0.57	1.20	A 2	"	"	5.63	"	"	" (o-4)	3.56	2.94	1.14	11.30	"					
535	"	" (o-5)	(3.35)	1.49	1.26	(4.20)	B	先端部欠損	"	5.64	"	"	" (o-5)	1.70	1.98	0.69	2.70	B					
536	"	" ("")	(1.44)	(1.15)	(0.48)	(0.60)	A 2	基部、側面欠損	"	5.65	原 石	口	" (o-22)	2.70	2.12	0.96	5.30	A 2	石材はガラス質火成岩				
537	"	" (m-3)	(2.13)	(2.13)	0.80	(1.27)	"	基部欠損	"	5.66	"	"	" (o-4)	2.66	1.66	1.32	4.05	"					
538	"	" (h-5)	2.74	1.81	0.95	3.85	"	"	"	5.67	"	"	" (n-4)	3.71	3.32	1.70	13.50	"					
539	"	" (m-4)	1.13	1.31	0.68	0.90	A 2	"	"	5.68	"	"	" (n-5)	3.21	3.00	1.62	14.30	"					
540	"	" (e-5)	(2.09)	1.38	0.52	(1.30)	"	先端部欠損	"	5.69	"	"	" (n-4)	2.07	1.60	1.40	4.90	G 2					
541	"	" ("")	(2.98)	(1.54)	(0.44)	(2.20)	C 3	基部欠損	"	5.70	"	"	" (n-4)	4.70	4.70	0.95	7.80	"					
542	二次刃形斜面	II (e-35)	2.35	1.49	0.85	2.90	A 2	"	"														
543	"	" (d-22)	2.18	1.18	0.89	0.49	"	"	"														
544	"	" ("")	1.53	0.61	0.45	0.46	"	"	"														
545	"	" (e-35)	3.60	1.45	0.53	2.20	C 1	"	"														
546	"	" (e-23)	1.55	1.13	0.40	0.70	A 2	"	"														
547	"	" (d-23)	2.40	1.98	0.77	3.00	C 1	"	"														
548	"	" (e-21)	1.91	1.46	0.41	0.70	A 2	"	"														
549	"	" (e-21)	1.52	1.18	0.54	0.75	"	"	"														
550	"	" (k-4)	2.91	1.60	0.80	3.60	B	"	"														
551	"	" ("")	1.96	1.28	0.85	1.10	A 2	石材はガラス質火成岩	"														

4. II層の遺構と遺物

II層からは、弥生時代の竪穴住居跡1軒、歴史時代の掘立柱建物跡50棟、土塁128基、溝状遺構27条などが、I～III区では主にII層下部またはIII層上面で検出され、IV区ではII層上面で検出された。また、出土遺物は主に中世の物が多いが、III区では表土直下で縄文時代晚期の土器が、III・IV区ではII層下部、III層上面でIV層出土の縄文土器に類似した土器が出土している。弥生土器は、主としてII区中央部の竪穴住居跡付近とIV区東側に包含されていた。

1. 縄文時代の遺物（第65図）

出土量は少ない。455は、IV区II層下部出土。口唇部に貝殻殻表による押圧刻み、外面は縦あるいは斜め方向の貝殻条痕文である。内面は貝殻条痕文の後ナデを施す。内外面ともににぶい赤褐色を呈し、内面には薄く炭化物が見られる。456はIV区II層下部出土。口縁部外面には貝殻の押圧刻みを施した貼付突帯による連弧文を頂部が口縁部の上に出るように施している。内面も同様である。外面の一部には3条の沈線文と思われる文様が見られる。内面は貝殻条痕文、外面は貝殻条痕文の上をナデ調整されススの付着が見られる。外面褐色、内面にはにぶい褐色を呈する。457は、IV区のIII層直上出土。口唇部に貝殻腹縁による連続押圧刻みを施し、内面は貝殻条痕文、外面は貝殻条痕文の上をナデ調整されている。白っぽい砂粒が多く含まれる。内外面とも黒褐色。外面にスス付着。458はIII区のIII層上面出土。H II類384に類似するもので、口唇部は押圧刻み、内外面に条線文、内面には波状文も見られる。いずれもヘラ状工具による施文である。内面は黄灰色で貝殻条痕文、外面は黒褐色で貝殻条痕文の上をナデ調整している。外面には未貫通の穿孔が見られる。459はIV区表土下出土。外面は灰褐色でヘラ状工具による条線文の上に渦文を貼付している。その下は連続刺突文。内面は褐灰色でナデである。460はIII区III層上面出土。外面には棒状工具による押引状の沈線文と短沈線文、円形の沈線文が見られ、ナデ調整でにぶい黄橙色。内面はナデで灰黄褐色を呈する。461～462はIV区II層下部出土。口縁端部にヘラ状工具による鋸齒文が見られ、461は外面ナデで灰褐色、内面貝殻条痕文の上をナデ、462は外面貝殻条痕文の上をナデ、内面貝殻条痕文で内外面ともに黒褐色を呈する。398に類似する。463はIV区出土。口唇部にヘラ状工具による刻み、口縁部には円形の棒状工具で連続刺突文を施す。2mm以下の砂粒を多く含み焼成堅致。464は管状工具による連続刺突文を施す。内外面ともナデ。褐色を呈する。IV区出土。465は三角形に肥厚する口縁部に3条の沈線文を施している。内外面ともナデで橙色を呈する。IV区i-5グリッドの表土直下出土。466～467はIV区出土の平底の底部である。468～470は晚期の土器と思われる。468は口縁部はナデ、その下は貝殻条痕文の上をナデで、469も外面に粗いナデが見られる。470は口縁部内外面に沈線文を巡らせる浅鉢形土器である。内外面ともヘラミガキで橙色を呈する。468・470はIII区、469はII区出土である。



第65図 梅文土器実測図 (44) II層

2. 弥生時代から古墳時代初頭の遺構と遺物

出土した遺構・遺物には、住居跡1軒、弥生土器、古墳時代初頭の土師器、磨製石鎌、砥石、磨石などがある。なお、IV区については、発掘調査の都合によりトレンチ調査で終ったため、IV区全体の様相を把握することはできなかった。

(1) 住居跡 (SA 1) (第67図)

b-22区の第Ⅲ層上面で検出された。

検出面からの残存状況があまり良好でなかったことや後世の掘り込み、最近の土取りなどにより住居の形態・大きさ・柱穴については確定できなかったが、焼土が數箇所認められることや多量の弥生土器が出土していることから住居跡として考えた。推定形態は不正円形と考えられ、径約3.8m、検出面からの深さは約0.20mである。

確実に住居に伴う遺物は少ないがその上層や周辺から多くの土器が出土し、これらの土器に大きな時期差は認められないことから住居の時期もこれらの土器とほぼ同時期（中期前半～中葉）と考えられる。

(2) 弥生土器

弥生土器は中期から後期後半の土器が出土している。中期土器の大部分はII区、特にSA 1周辺に集中しているが、大甕片や底部がIV区でも数点見つかっている。一方、後期以降の土器はIII・IV区から出土している。

ここでは、おおむね中期に位置付けできる土器について分類を行う。(第68～70図)

壺

I類 (1)

無頸壺で、胸部は球脛を呈すが下半はやや延び、底部は平底となる。外面はヘラミガキ調整。

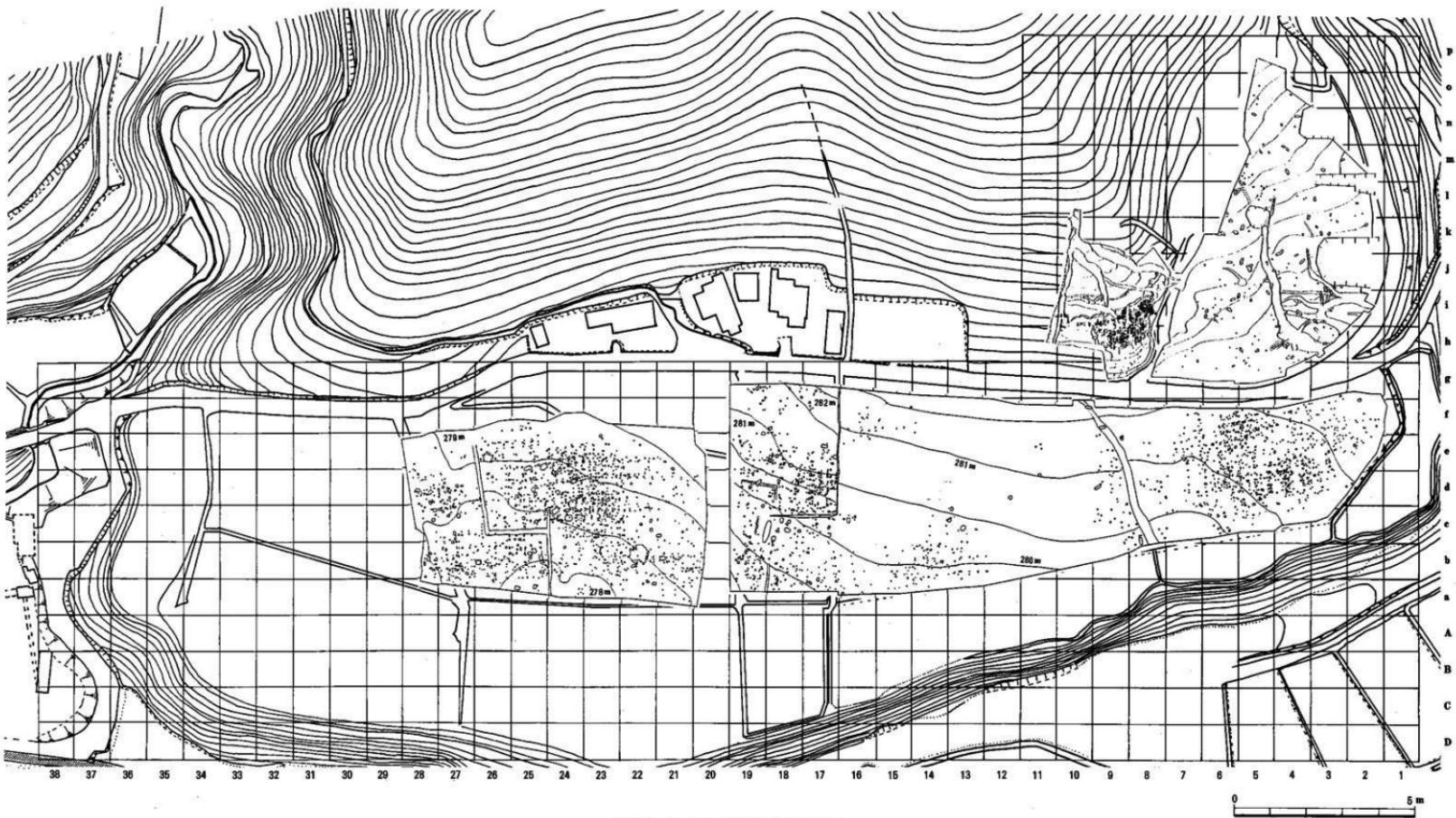
II類

広口壺で、口頸部が朝顔形に大きく開き、口縁端部は凹線状になる(2～4)。頸部から肩部にかけては、ゆるやかに胸部に移行し突帯が多条化するもの(9)や球脣を呈し、突帯のつくりがていねいなもの(10)などがある。

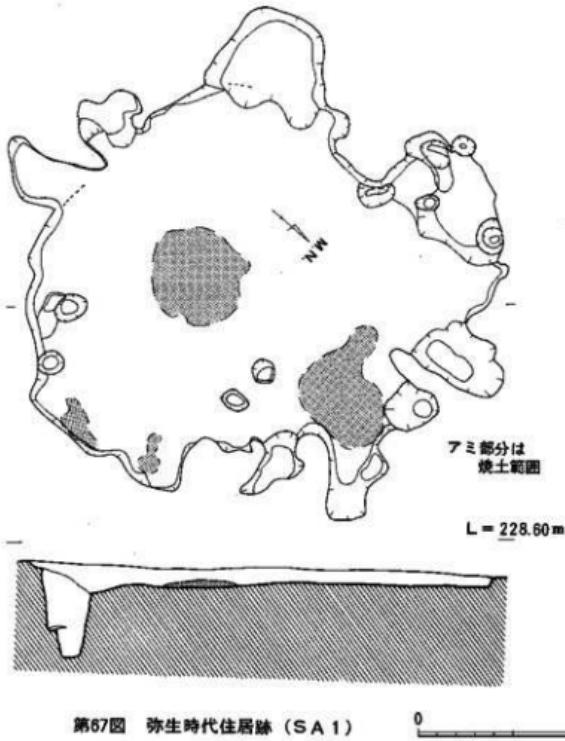
そのほか破片としては非常に胸が張り、肩部に浅い一条の沈線が施されるもの(5)や、肩部から胸部に重弧文が描かれているもの(6・7)などがある。

甕

甕形土器はA～Fの6類に大別でき、さらに口縁部の形態によって細分される。



第66圖 II、III層上面調查區及U造構分布



第67図 弥生時代住居跡 (SA 1)

0 1m

A類

口縁部に突帯がつきL字状をなす。

I類：小さな三角突帯がつく。突帯の多くには刻み目が施されるが、仕上げは粗く、接合部には接合線や指オサエ痕が残る。口径が最大径となり、一部には内湾するものもある。外面はハケメ、あるいはナデ。内面は指オサエ。a・b類に分かれるが、両者はb-28区の同一地点から重なるようにして出土している。

a類：胴部にも刻み目突帯がつき、外面はハケメ調整。（8）

b類：口縁部にのみ刻み目突帯がつき、内外面はナデ調整。刻み目がつかないものもある。
(9~19)

II類：長めの三角突帯がつき、やや下方に垂れる。刻み目は施されない。胴部上半はやや内湾し、口縁部下約3.5cmのところに数状の沈線や突帯がつく。（20・23・36）

III類：口縁部突帯は台形状を呈し、端部は凹む。突帯の接合部分は比較的ていねいに仕上げられるが稜をなす。また、一部には突帯の粘土帯が口縁上部にまでかぶってくるものもみられる。体部はやや胴が張り、沈線や突帯が施される。内面は指オサエのあと横ナデ調整。

a類：突帯上面が平坦面を呈するもの。そして、さらに突帯が1cm前後と2cm前後の大小に分かれる。（小：25・32～34・38 大：39・40・43・44・46）

b類：突帯が下方に垂れるもの。（24・31・41・42・45）

c類：突帯が長方形にちかいもの。（26～28・47）

IV類：口縁部には台形状の丸味をおびた幅広の突帯がつき、突帯端部の凹線も深くしっかりとしたものになる。胴上半は若干張るものや、強く内湾するものがある。また、胎土にF類甕と同様に黒雲母（金色）を含むものがみられ、調整・焼成ともていねいである。（48～55）

B類

口縁が外反し、端部が肥厚する。（56）

C類

口縁部が逆L字状を呈し、端部がふくらむ。薄手である。（57）

D類

口縁部が内外に張り出し、T字状を呈する。（58）

E類

口縁部は直口し、外面に一条の刻み目突帯が施される。口縁端部は丸みをおびて仕上げられている。（59～61）

F類

大型の甕で、突帯と口縁部との境が稜をもたずゆるやかに延び、口縁部下にタガ状の突帯をもつ。逆L字口縁からくの字口縁への移行期のものである。（70）

そのほかに、刻み目突帯をもつもの（67～69）や数条の沈線（62・63）や櫛描波状文（64～66）など施された胴部片が出土している。

鉢

甕A～II類と同様の口縁部に長めの三角突帯がつく。胴部上半は内湾し、口縁下約3.5cmのところに沈線が二条巡る。外面はハケメ、内面は指オサエが施されている。（21）

底部（第71図）

A類

底部の厚さが2cm前後のもの。

I類：底径が6cmを越え、平底あるいは若干上げ底になるもの。（72・73）

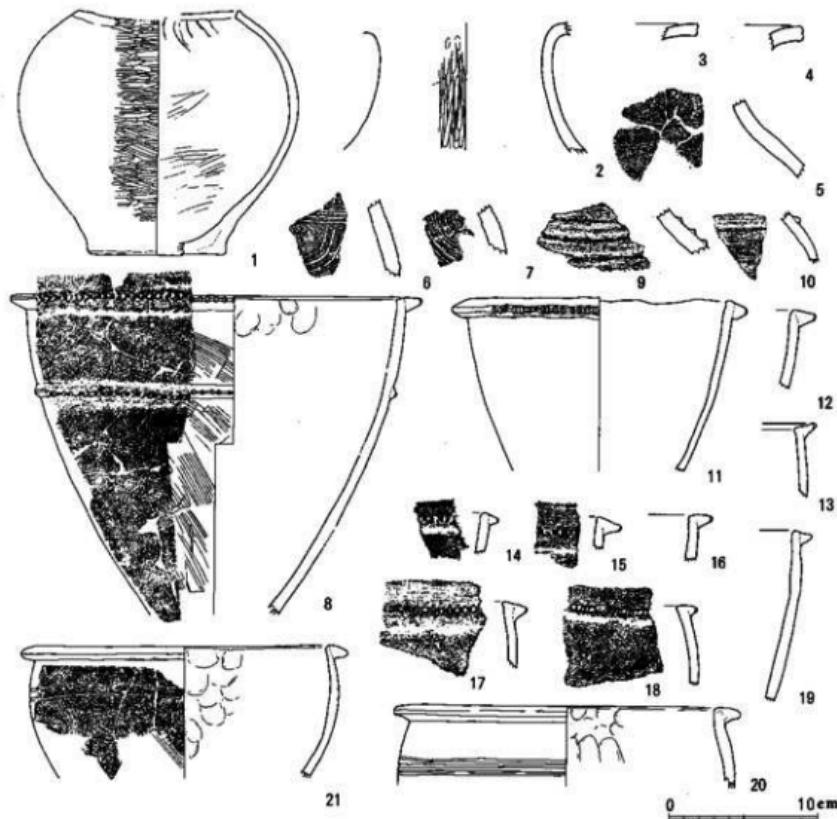
II類：底径が5cm前後で、平底になる。（75）

III類：上げ底になる。（74）

B類

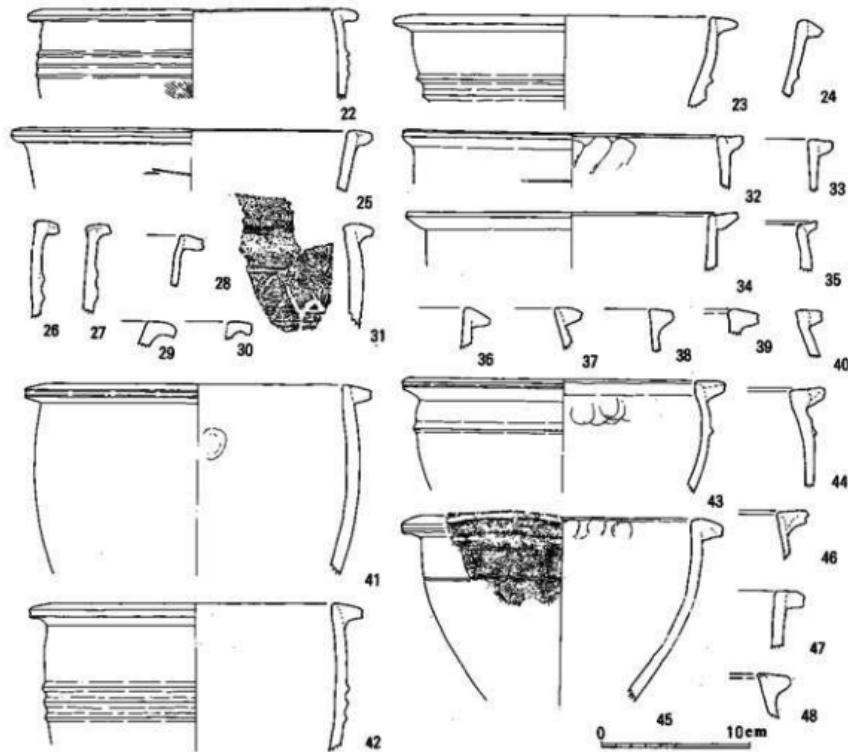
充実した脚台状のもの。

I類：底部が鋭い稜を有して立ち上がるもの。（76～80）



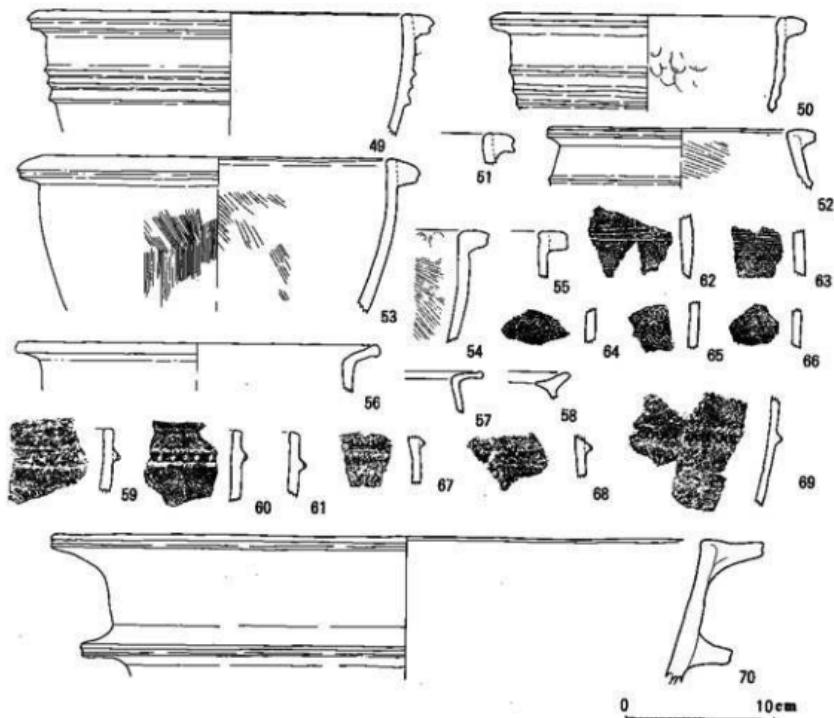
番号	出土地点	部 庫	法 面 (cm)	形 異・手 法 の 特 殊 な か	色 調	地 土	
1	b-22	4形土器	11.0	6.6	16.4	内面部ナメ、ナメテク、底面(カヌロ目)、外底部の盛り1.0cm、底エッジ部、打削ナメ、毛上部ナメ (内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・多	
2	b-22	"	-	-	内面部ナメテクへ底へ、ヘラ痕、スリ行筋、内面部ナメ、ナメ上げ	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 (内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・多	
3	b-22	"	-	-	外面部ナメ、内面部ナメ(口縁部に凹凸)	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 (内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
4	b-22	"	-	-	外面部ナメ、内面部ナメ	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 (内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
5	b-22	"	-	-	外面部ナメ、内面部ナメ	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
6	b-21	"	-	-	外面部方角ハサビ削痕、内面部方角ハサビ削痕のハケ目、ハケ付削ナメ	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
7	b-23	"	-	-	外面部ナメハサビ削痕、内面部化粧して要領不規、ナメ?	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
8	b-22-23	4形土器	27.6	-	-	外面部ナメ、底向ハサビ、底面、底面(内)、内面部ナメ、ナメ、山形三角形切欠、底面に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 (内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少
9	b-23	4形土器	-	-	内面部ナメ	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
10	b-22	"	-	-	外面部ナメ、底面、一部スリ行筋、内面部ナメ	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
11	P.10-19	4形土器	17.2	-	外面部ナメ、内面部ナメ、口縁部三角形切欠、底面凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
12	b-22	"	-	-	外面部方角ハサビ、内面部ナメ、口縁部、底面(内)に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
13	b-22	"	-	-	内面部ナメ、内面部ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
14	b-23	"	-	-	外面部ナメ、底面ナメ、一部スリ行筋、内面部ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
15	b-22	"	-	-	外面部ナメ、底面ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
16	b-22	"	-	-	外面部ナメ、内面部ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
17	b-23	"	-	-	外面部ナメ、底面ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
18	b-23	"	-	-	外面部ナメ、底面ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	
19	b-22	"	-	-	内面部ナメ、底面ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
20	b-22	"	23.4	-	外面部ナメ、底面ナメ、口縁部三角形切欠、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 (内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒・少	
21	b-22	4形土器	22.0	-	外面部ナメハサビ、底面化粧、一部スリ行筋、内面部ナメ、地部に凹凸	(内)に赤褐色(内)に黄褐色 細粒	

第68図 弥生土器実測図(1)



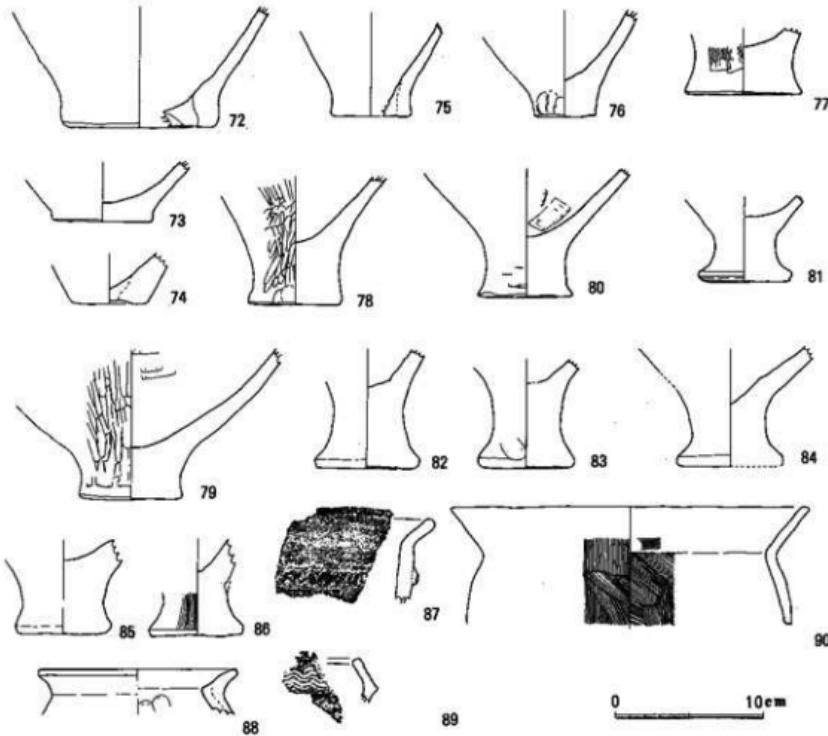
番号	出土地点	器種	形態	子 特徴	はか	色	調	絆	上
22	b-22	堅土層	22.2	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
23	b-23	-	19.6	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
24	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
25	a-19	-	56.1	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
26	b-22	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
27	b-22	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
28	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
29	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
30	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
31	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
32	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
33	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
34	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
35	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
36	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
37	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
38	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
39	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
40	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
41	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
42	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
43	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
44	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
45	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
46	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
47	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多
48	b-23	-	-	-	-	(A・P)	堅	堅少	多

第69図 弥生土器実測図(2)



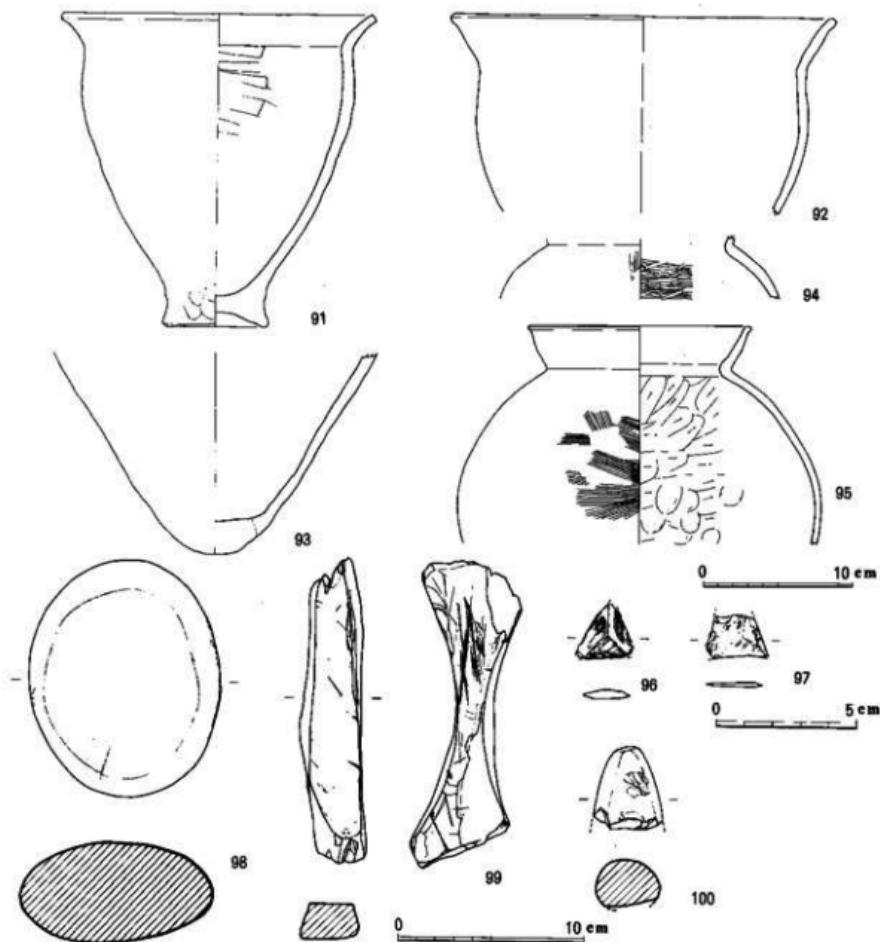
番号	出土地点	器種	法 種 (cm)	形態・手 法 の 特徴 ほか		色 調	質 土
				(外・内) において	特徴		
49	b-22	雙面石器	13.0	-	- 内面にいのち模様ナメ、2名の斜面、スリット付、骨ナメナメ、口縁合形状突起、端に凹痕	(外・内) において	細砂・全黑粘多
50	b-22	"	18.2	-	- 外面端ナメ、やや斜面に三角突出、スリット付、内面ナメ、骨ナメ、口縁合形状の突起	(外) 黑褐色 (内) において	細砂・少
51	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、スリット付、内面端ナメ、口縁合形状の大突起	(外) において (内) において	細砂・多
52	b-21	"	14.2	-	- 外山型ナメ、三角突出、スリット付、内面端ナメ、口縁合形状の突起	(外) 黑褐色 (内) において	細砂・全黑粘多
53	b-22	"	22.4	-	- 外山型ナメ、斜方角凹・凸付、スリット付、内面端ナメ、口縁合形状の突起	(外) において (内) において	細砂・多
54	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、斜方角凹・凸付、スリット付、内面端ナメ、口縁合形状の突起	(外) 黑褐色 (内) 布灰、灰黄	細砂
55	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、スリット付、内面端ナメ、口縁合形状の突起	(外・内) において	細砂・少
56	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、厚くスリット付、内面端ナメ、口縁合形状の突起	(外) において	細砂・少
57	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、スリット付、内面端ナメ、口縁合形状の字彙	(外) において (内) において	細砂・黄褐色子少
58	TJII	"	"	-	- 外面端ナメ、スリット付、内面ナメ、口縁合形状字彙	(外) 黑白 (内) 黑褐色	細砂・高粘子多
59	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、斜方角凹・凸付、内面端ナメ、口縁合形状の字彙	(外・内) において	細砂
60	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、口縁合形状は紅色、内面端ナメ、斜方角凹・凸付	(外) 黑褐色 (内) 布灰	細砂・少
61	b-22	"	"	-	- 外山型ナメ、口縁合形状は赤色、内面端ナメ、斜方角凹・凸付	(外) 黑白 (内) 通透性	細砂
62	○	雙面石器	"	-	- 内面端ナメ、斜方角凹・凸付、3条の斜面内面ナメ	(外) 布灰 (内) において	細砂
63	b-22	雙面石器	"	-	- 内面端ナメ、斜方角凹・凸付、内面端ナメ	(外) 黑褐色 (内) 布灰	細砂
64	b-22	雙面石器	"	-	- 内面ナメ、やや斜面内面ナメ、口縁合形状	(外) において (内) において	細砂
65	b-23	"	"	-	- 内面や斜面内面ナメ、口縁合形状	(外) において (内) において	細砂
66	b-23	"	"	-	- 内面や斜面内面ナメ、口縁合形状	(外) において (内) において	細砂
67	b-22	雙面石器	"	-	- 内面端ナメ、斜面内面ナメ、スリット付、内面ナメ	(外) において (内) 布灰	細砂
68	b-22	"	"	-	- 外面端ナメ、斜面内面ナメ、内面ナメ	(外・内) 布灰	細砂・少
69	b-22	"	"	-	- 外面端斜面内面ナメ、内面端ナメ、化粧化して、内面化粧化して	(外) 布 (内) 黑褐色	細砂・多
70	TJII	(大部)	40.0	-	- 外面端ナメ、口縁合形状は赤色、内面端ナメ	(外) において (内) 布灰	細砂・全黑粘多

第70図 亦生土器実測図(3)



遺物 番号	出土地点 都 種	法 長 (cm) 口幅 延長 高さ	形態・手法の特徴はか		色 調	地 上
			外縁カゲ、一部スス付等、内面斜方向カゲ	(外) 深黄褐色 (内) に赤褐色、斑状		
72 b-22	鹿野上層	- 10.3	-	-	-	細砂
73 E-25	"	- 6.7	- 内面カゲ、内面カゲ	(外) 深黄褐色 (内) に赤褐色	-	細砂
74 m-5	"	- 5.0	- 外面カゲ、内面カゲ	(外-内) 深黄褐色	-	細砂-多
75 b-22	鹿野土層	- 5.3	- 外面カゲ、一部スス付等、内面カゲ	(外) に赤褐色 (内) 深黄	-	細砂
76 E-25	"	- 4.15	- 外面カゲ、一部スス付等、内面カゲ	(外) 深黄褐色 (内) 深	-	細砂
77 b-23	"	- 7.8	- 内面斜方向ハケ足、側カゲ、内面カゲ	(外) 深黄 (内) に赤褐色	-	細砂
78 b-22	"	- 6.5	- 外面ヘリカゲ、ついでいわな状カゲ、内面調整不明、スス付等	(外) に赤褐色 (内) に赤褐色	-	細砂
79 b-22	"	- 6.8	- 外面斜方向カミタガ、堅狀具カゲ上げ、内面ナフ、堅狀具ナゲ上げ、一部スス付等	(外) に赤褐色 (内) 深	-	細砂
80 b-22	鹿野土層	- 6.3	- 外面カゲ、内面カゲ	(外) に赤褐色 (内) 黄褐色、灰	-	細砂
81 b-22	"	- 6.0	- 外面カゲ、内面カゲ	(外) 明赤褐色 (内) に赤褐色	-	細砂-多
82 E-4	"	- 6.6	- 外面カゲ、内面カゲ	(外-内) 深黄褐色	-	細砂-多
83 b-23	"	- 6.3	- 内面カゲ、施擦丸、施擦丸、内面カゲ、施擦丸	(外) 明褐色 (内) 明赤褐色	-	細砂-深黃褐色子多
84 b-22	"	- 7.0	- 外面カゲ、内面ナフ	(外-内) 深黄褐色	-	細砂-多
85 E-3	"	- 6.0	- 内面カゲ、内面ナフ	(外) 橙 (内) 深黃褐色	-	細砂-多
86 b-22	"	- 6.2	- 外面ハケ足、ナフ、内面ナフ、スス付等	(外) 深黄褐色 (内) 灰白	-	細砂-深黃褐色子多
87 c-6	"	-	- 外面様カゲ、圓形剥片口部等、口部底はくの字に外反する、内面擦ナゲ	(外-内) に赤褐色	-	細砂
88 IV 区 鹿野上層	"	- 13.2	- 外面カゲ、口部底はく外反する、内面擦カゲ	(外-内) 深黃褐色	-	細砂
89 m-4	"	-	- 内面斜方向擦痕等状況、口部底はく合口擦痕、内面カゲ	(外) 深黃 (内) 黄褐色	-	細砂
90 E-5 鹿野上層	"	- 23.2	- 外面カゲ、ハケ足、スス付等、口部底はくの字に外反する、内面ハナ足	(外-内) 黄褐色	-	細砂

第71図 弥生土器実測図(4)



遺物番号	出土地点	器種	径 (cm)	考察・手法の特徴は				色調	胎土
				口徑	底径	高さ (cm)	壁厚 (mm)		
91	TDN	陶片	20.8	6.6	21.2	-	-	(赤)にかい青斑、(P)浅黄緑	細砂
92	ro-5	-	21.1	-	-	-	-	(R-P) 青斑	細砂
93	k-4	-	-	-	-	-	-	(R-P) 青斑	細砂
94	z-5	陶片	-	-	-	-	-	(R-P) 青斑	細砂
95	TDNW ro-3	陶片	14.2	-	-	-	-	(R-P) 青斑	細砂・石英粒子多
96	磨製石器	器種	磨削長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (mm)	径 (mm)	材質	出土地点	特徴
96	磨製石器	器種	1.99	1.93	0.20	1.1	良石系	TDN	圓錐形欠刻、角加工面
97	石	器種	(1.55)	(2.06)	0.3	0.6	-	z-22	尖端部・左端部欠刻、基部小凹
98	石	器種	12.7	10.26	5.35	100.0	鈍石系	b-22	全表面磨
99	石	器種	16.2	3.5	1.85	276.0	良石系	SH-5	各面部磨擦面、尖端部は錐状の新擦面
100	磨製石器	器種	(3.65)	3.76	(2.95)	54.0	-	c-21	基部のら全体研磨

第72図 出土土器・石器実測図

II類：底部がいちど上方あるいは外方に短く立上がって延びる。凹線状になるものもある。

(81～86)

(3) 後期～古墳時代初頭の土器（第71～72図）

この時期の土器は、I・II区ではほとんどみられず、大部分はIII・IV区で出土している。⁸⁸～⁹⁰・⁹²・⁹⁴・⁹⁵はIV区の同じトレンチ（m・1～4・5区）から出土し、なんらかの遺構があった可能性がある。

87はくの字口縁を呈し、口縁直下に刻み目突帯が施される。刻み目には布痕が観察できる。88は短頸壺で口縁部は短く外反する。89は複合口縁壺で、拡張部に櫛描波状文が施される。90・91は口縁がくの字に外反し、胴部上半が口徑にやや劣る程度に張る。底部は外方につまみ出され脚台状となる。内外面はハケメ調整が行われている。92は頸部はあまりしまらず穢もなくなり、口縁部は外反し長く延びる。93は壺形土器と考えられ丸底を呈す。94は内面は横方向のヘラミガキ、外面は摩耗しているがタテ方向のヘラミガキ調整が施される。95は1・m-5区より出土した。口縁部外端がつまみ状に膨らみ、口縁は内湾気味に開く。口縁部～頸部は胴部に比べやや厚手となる。外面はていねいなナデで、胴部上半から中位にかけて部分的に横方向のハケメが施されている。内面は頸部までヘラケズリがおよび、胴部中位では指オサエとなる。胴部下半は小片のため図示できなかったが、再度ヘラケズリが施され底部付近では棒状工具や指によるオサエとなる。胎土は他の土器と異なり石英が多量に含まれる。

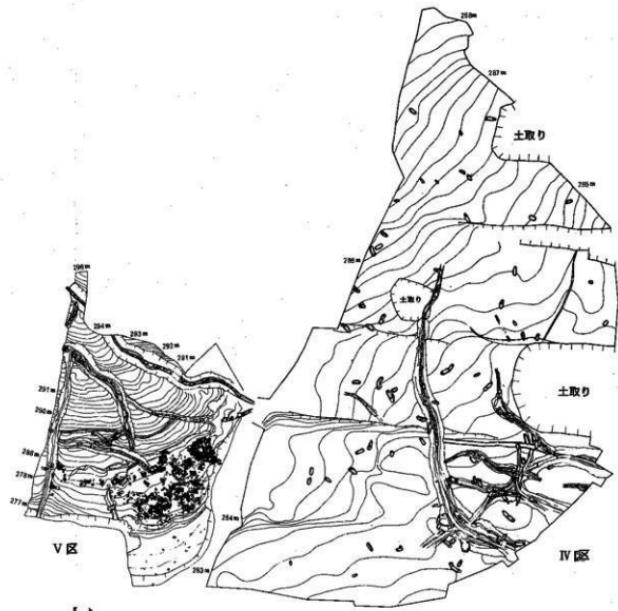
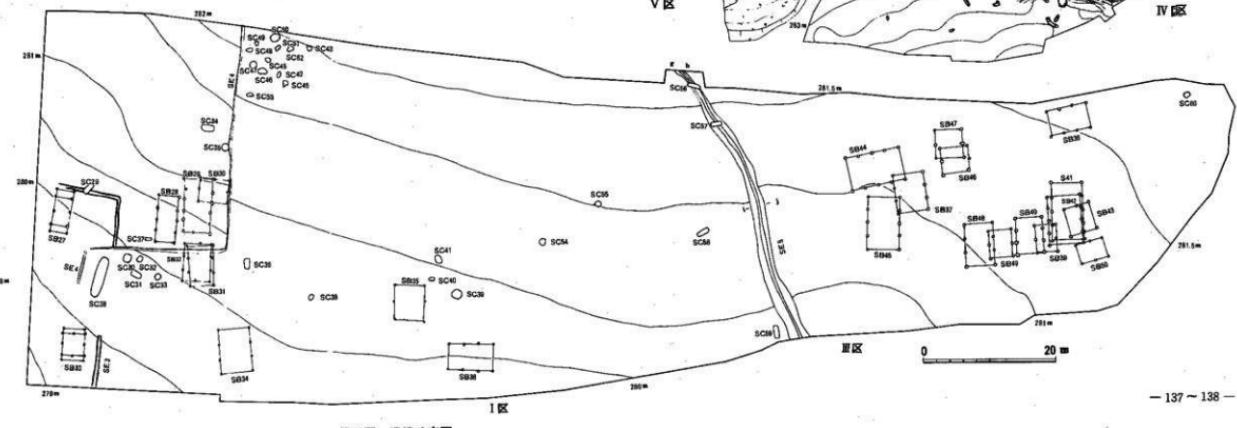
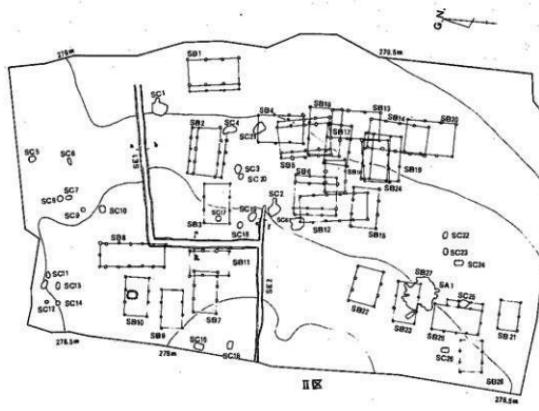
(4) 石器（第72図）

石器の出土量は土器に比べ非常に少ない。磨製石鎌は4点出土しているが、すべて欠損品である。99は砥石で、表・裏面はかなり使い込まれ中央が凹んでいる。また、両側面は線状の粗い研磨痕が残る。100は磨製石斧の基部である。

3. 歴史時代の遺構と遺物

歴史時代の遺構・遺物は調査区全体から検出されている。遺跡の立地している段丘面は約3万m²あるが、段丘の南北にはそれぞれ谷が入り込み、さらにf・g-1～3区付近にも浅い小さな谷が入っていたと考えられ、この段丘面は周囲と切り離され独立した地形を呈し、当時集落拠点として利用されていたことは想像に難くない。

遺構としては掘立柱建物跡50棟、土塙128基、溝状遺構22条、石塔群、製鉄跡と考えられる遺構など多岐にわたる。これらの遺構はさらに北および西に広がり、この河岸段丘全体にひとつの集落が形成されていたと予想される。そして、段丘の東側丘陵に、以前「寺」があったという地元の方々の話も、V区の石塔群によって裏付けされよう。



第73図 道構分布図

なお、I区とII区の間約500mは未調査、I区とIII区の間（10～13区）は土取りによってアカホヤ上面まで削平されていたため遺構は確認できなかった。また、IV区の遺構・遺物についてはII層上面での検出のため未確認の掘立柱建物や土塁、溝状遺構など存在していた可能性が高い。（第73図）

遺物は土師質土器、須恵器、東播系、備前焼、常滑焼、青磁、白磁、染付、滑石製石鍋、滑石製の石鏡、土鏡、古鏡、寛永通宝、銅鏡、鉄製品、鐵滓、フィゴの羽口、砥石、石臼、墨書き石、布痕土器などがある。時代としては、古代～近世まであるが、古代の遺物は2～3点と少なく、本遺跡の中心となるのは中世で、13～16世紀の遺物が多く出土している。近世の遺物は、V区の石塔群からのものが多い。なお、各遺構についての方位は磁北を示している。

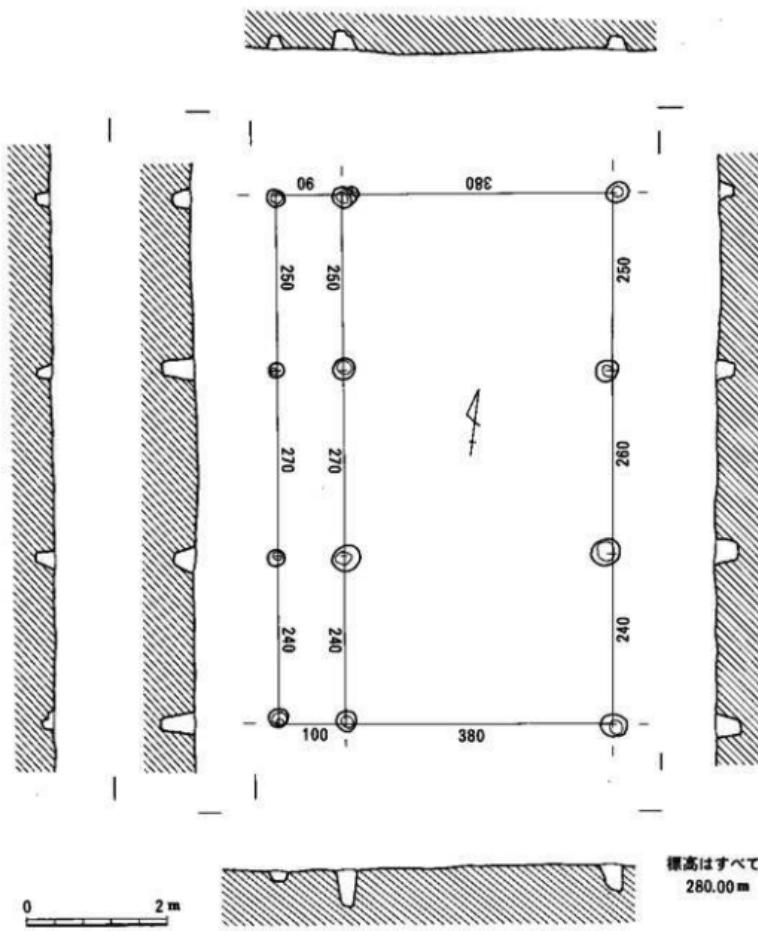
（1）掘立柱建物の概要

掘立柱建物跡は、総数で50棟検出された。内訳はI区10棟、II区26棟、III区14棟で、IV・V区では、柱穴は検出されたが建物については確認できなかった。

掘立柱建物跡の分布は、調査区ごとに大別されそれぞれに特徴を見出せる。II区では方形区画の溝と対応するあるいは溝と重複してSB 8・12・13など1間×5間の建物や一面あるいは二面に廂をもつSB 2・5・6など大型の建物が造られ、これらの建物はおおよそ三群に分かれる。ひとつはSE 1・2に区画されたSB 1～3、4～6、12～20の15棟で構成される一群で、特にSB 4～6、12～20の建物群は、多くの重複関係があり少なくとも四～五期の時期幅が考えられる。第二群はSB 7～11の5群でSB 8など大型の建物もみられる。もう一群は、SB 21～26の5棟から構成され、東側に廂をもつSB 25や小型のSB 21からなる。I区はSB 28～32の5棟からなる建物群以外は一、二棟の建物が重複することもなく散漫な状況で分布している。III区建物の規模は1間×2間、1間×3間、1間×4間の三種類に分かれ、すべて調査区の南側に位置している。第一群はSB 37・44～47の5棟で、すべて梁行が4mをこえている。第二群はSB 39～43、48～50の8棟で構成されその内、同一の重複関係を示すものが4棟存在している。そして、それらの建物群から離れた最も南寄り（f-4区）にはSB 38が1棟建てられている。

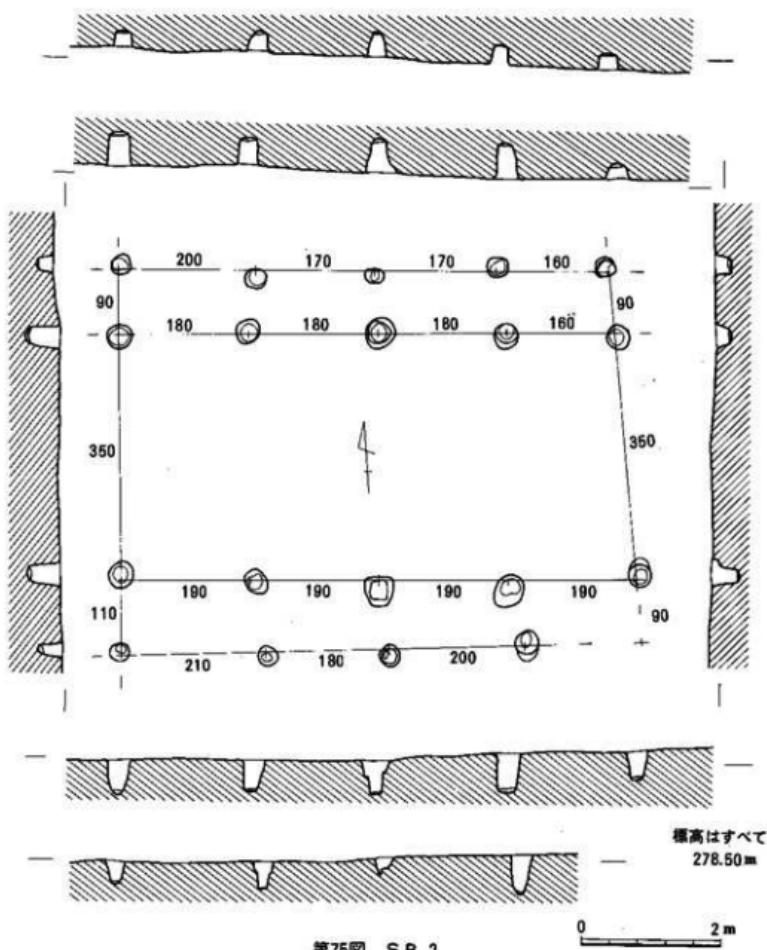
今回検出された建物の種類には1間×5間、1間×2間、1間×3間、1間×4間、2間×3間などやそれらの身舎に廂を一あるいは二面もつものなどある。建物の規模として身舎の床面積を比較した場合、SB 44（1間×4間）の42.1m²が最大で、最小はSB 27（1間×2間）の10.9m²である。平均的には1間×3間の建物が22棟と最も多いが、面積は15m²前後から36m²前後とばらつきがみられる。建物の主軸は南北からN-0°～25°-W方向が17棟、N-81°～105°-W方向が33棟と後者が全体の3分の2を占めている。

柱穴の形は円形がほとんどだが、一部にはSB 06の柱穴のように一辺30～40cmの方形に掘ら



第74図 SB 1

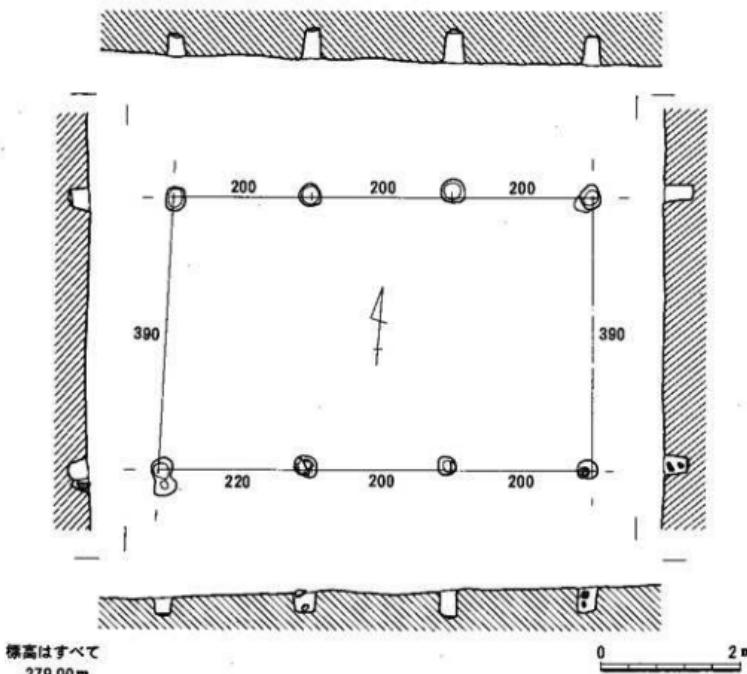
れているものもある。また、柱穴から出土した遺物には土師質土器（ヘラ・糸）や火鉢、青磁、口縁が玉縁状をなす白磁碗、東播糸、土鍤、滑石製石鍤、砥石、炭化物などのほか、根固め石などに使用されていたと考えられる川原石も見つかっている。なお、柱穴間の距離については図に示した。



第76図 SB 2

SB-01 (第74図)

調査区北寄りのe・f-25~26区に検出された。主軸をN-7°-Wにとる1間×3間の建物で西側に一面廂を有する。梁380cm、桁行750~760cmで、面積は約28.9m²を測る。柱穴径は30~40cmと格差があり、底レベルも一様ではない。廂は梁が平均95cmで、柱穴径も20cm前後になり、深さも30cmと浅くなる。



第76図 SB-3

SB-02 (第75図)

d・e-25～26区に検出された。主軸をN-87°-Wにとる1間×4間の建物で北・南に廟を有する。梁350cm、桁行720～760cmで、面積は約25.9m²を測る。柱穴径は30～40cmで、深さは約50cmとある程度揃っている。廟の柱穴径は20cm前後と小さくなる。

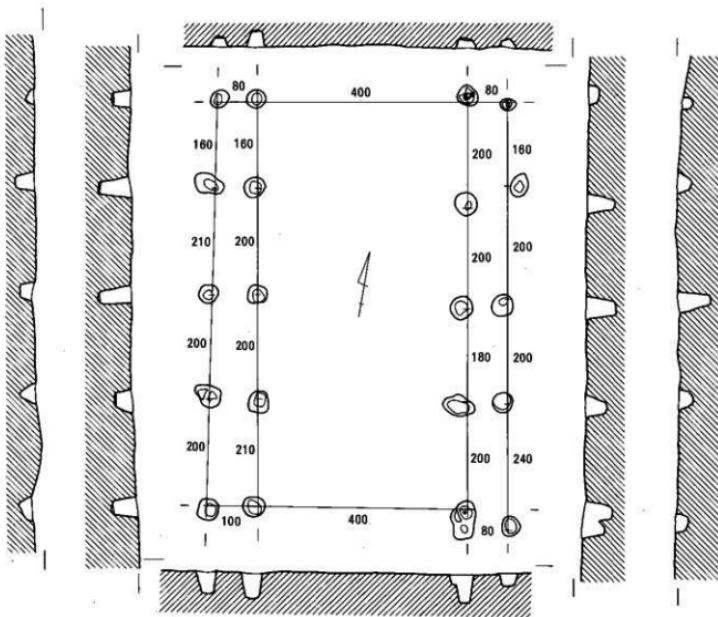
南東隅の柱穴はSC4に切られている。

SB-03 (第76図)

c・d-25区に検出され、主軸をN-96°-Wにとる。1間×4間の建物でSC7と重複関係にある。柱穴の一部には根固め石のあるものもある。梁390cm、桁行600～620cmで、面積は約23.8m²を測る。

SB-04 (第78図)

d・e-24～25区に検出された。主軸をN-3°-Wにとる1間×3間の建物でSC21、SB5と重複関係にある。梁400～410cm、桁行690～700cmで、面積は約28.5m²を測る。柱穴径は30cm前後で、深さも約40cmと一定レベルに揃っている。



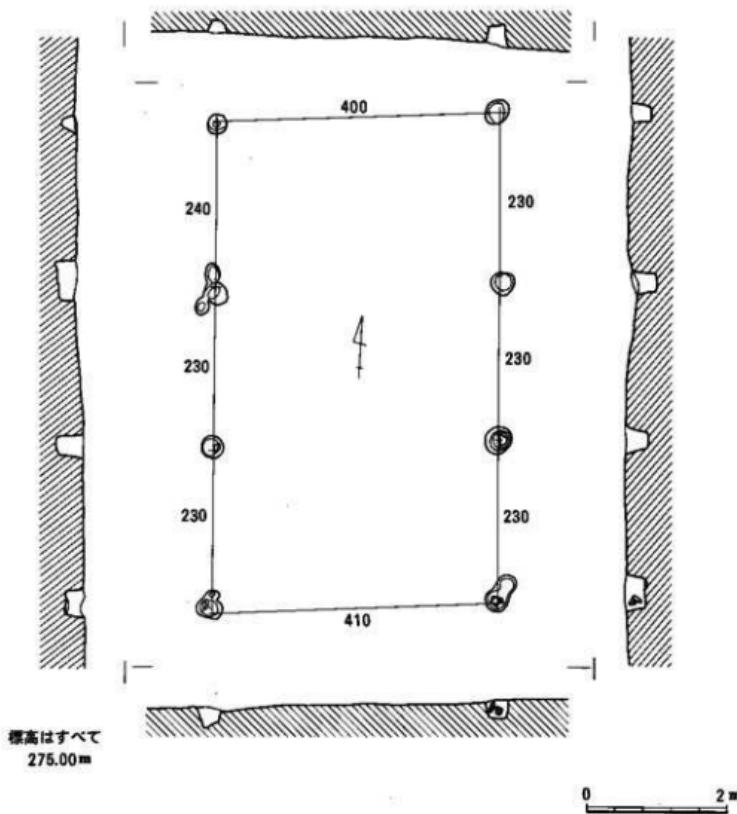
第77図 SB 5

SB-05 (第77図)

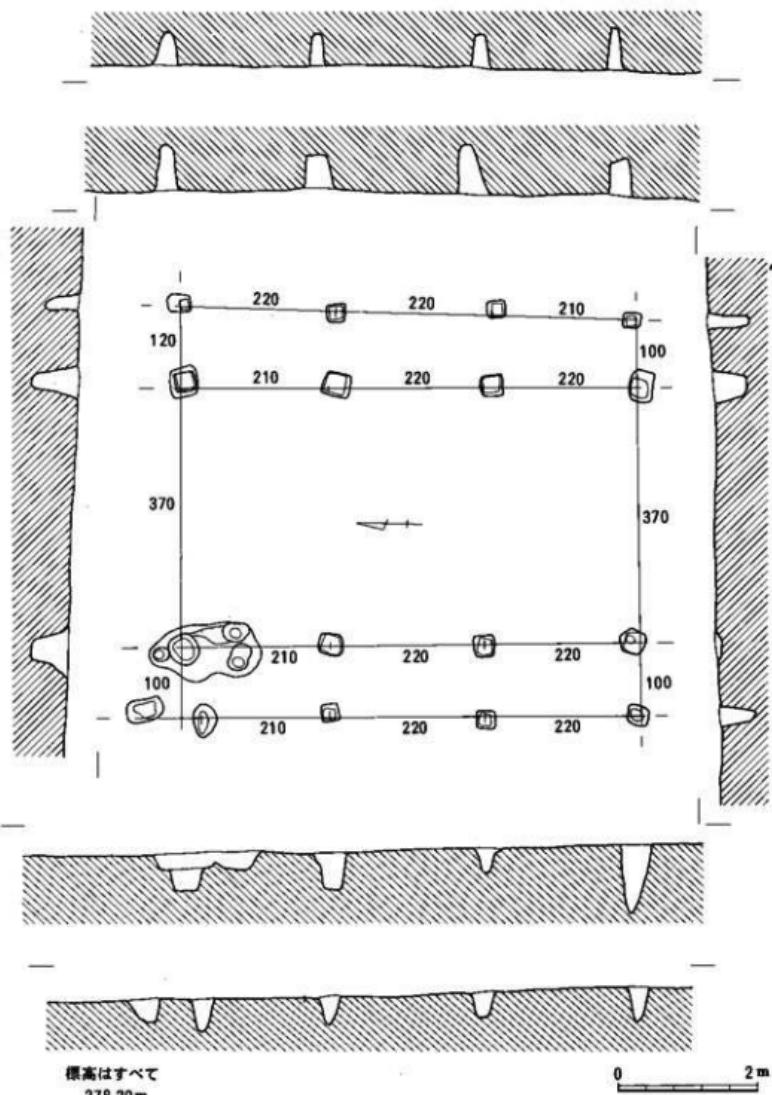
d・e-23~24区に検出され、主軸をN-10°-Wにとる1間×4間の建物で東・西に廻を有する。梁400cm、桁行760~780cmで、面積は約31.0m²を測る。廻は東廻で桁行800cm、梁80cm、西廻で桁行770cm、梁80~100cmである。柱穴径は身舎および廻とも30~40cmであるが、深さは身舎部分が約5~60cm、廻部分は20cmとやや浅くなる。柱穴から銅製品片や磁石、炭化物などが出土した。

SB-06 (第79図)

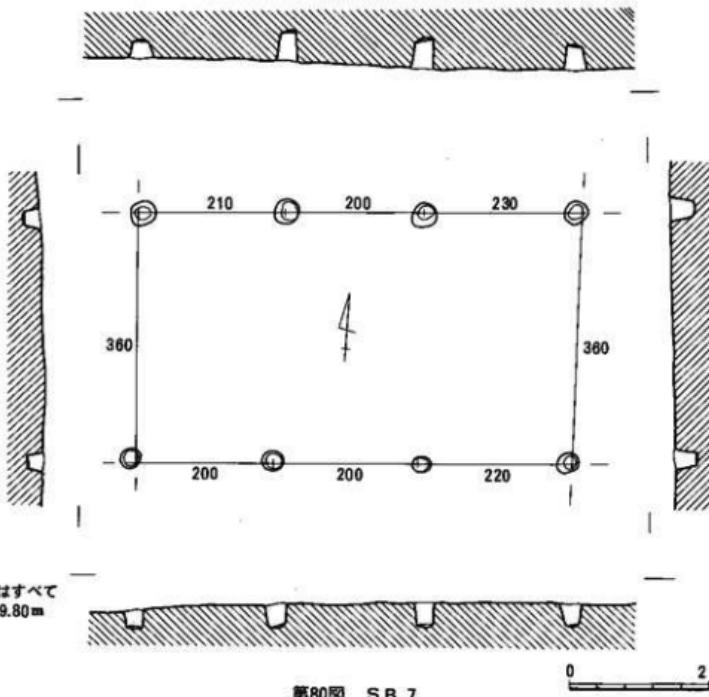
c・d-23~24区に検出され、SB 12・13と重複関係にある。主軸をN-2°-Wにとり、



第78図 SB 4



第79図 SB 6



第80図 SB-7

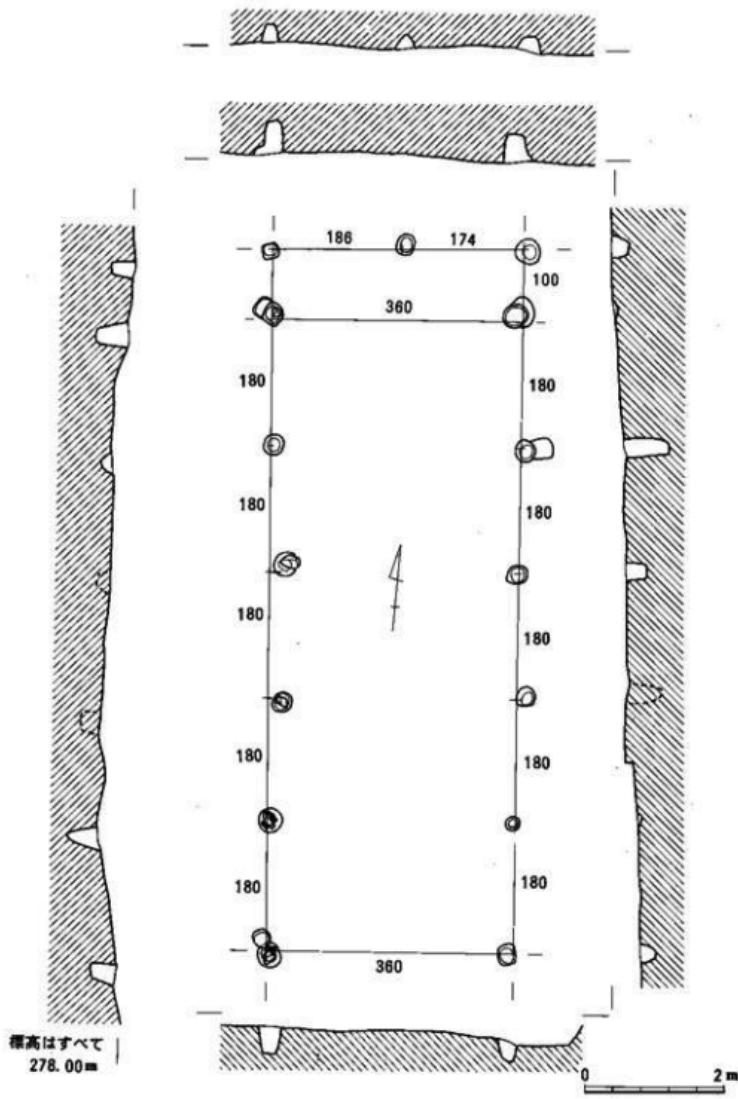
1間×3間の建物で東西に廂をもつ。梁370cm、桁行650cmで、面積は約24.1m²を測る。柱穴は一辺30~40cmの方形を呈し、深さは約50cmとなる。東廂は梁100・120cm、桁行650cm、西廂は梁100cm、桁行650cmで、柱穴は一辺約20cmと小さくなる。柱穴から土師器片、陶器片、鉄片、土鏡が出土している。

SB-07 (第80図)

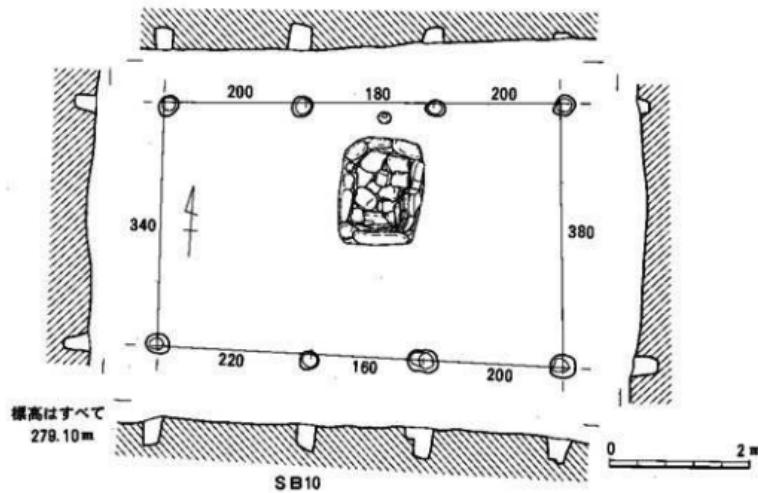
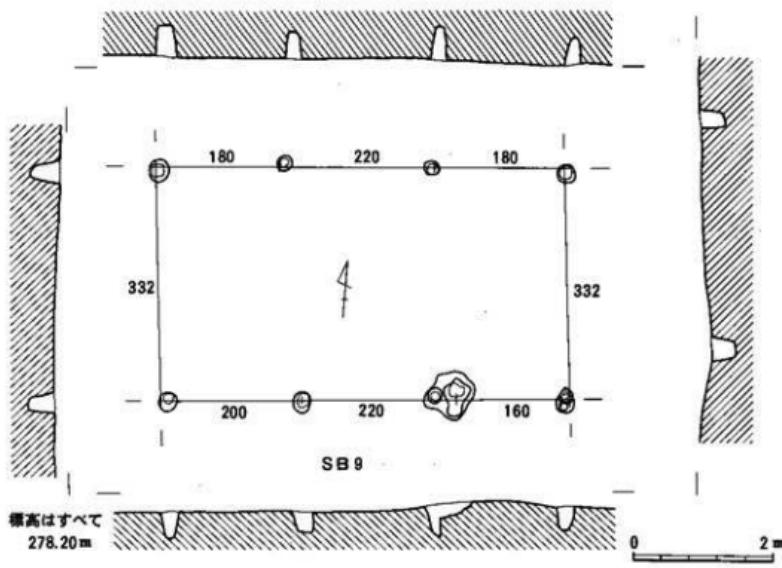
b-25区に検出され、主軸をN-94° 30' -Wにとる1間×3間の建物である。桁行620cm、梁360cmで、面積は約22.6m²を測る。柱穴径は30~40cmで、深さは約30cmとある程度描っている。SB11と重複関係にある。

SB-08 (第81図)

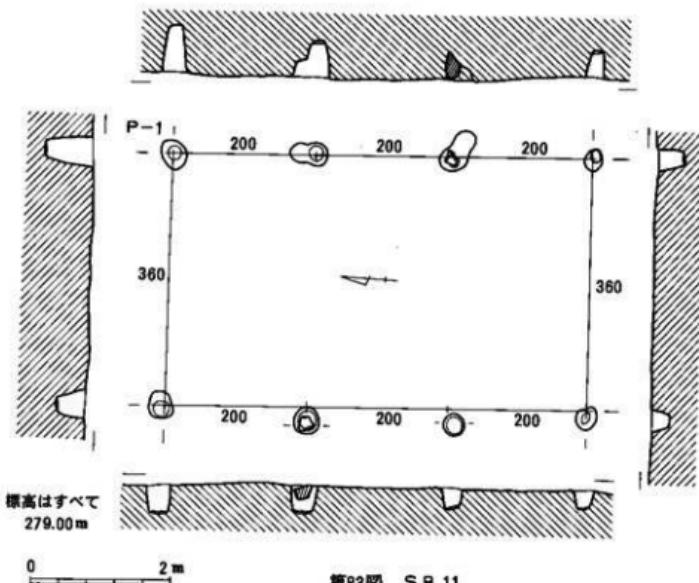
c・b-26区~27区に検出された。主軸をN-4° 30' -Wにとる1間×5間の建物で北側梁部一面に廂を有する。桁行900cm (柱穴間は180cm) 、梁360cmで、面積は約32.2m²を測る。柱穴径は30~40cmで、一直線状には並ばずばらつきがみられる。SE1と切りあい関係にあるが、前後関係は不明。



第81図 SB 8



第82図 SB 9, SB 10



第83図 SB-11

SB-09 (第82図)

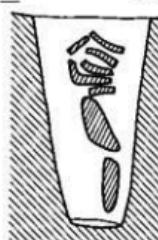
a・b-26区に検出され、主軸をN-95°-Wにとる
1間×3間の建物である。桁行580cm、梁332cmで、面積
は約19.3m²を測る。柱穴径は20~30cmで、深さは約30~
50cmと一定ではない。



278.20m

SB-10 (第82図)

b-26~27区に検出され、主軸をN-91°-Wにとる
1間×3間の建物である。桁行580cm、梁340・380cmで、
面積は約20.9m²を測る。建物内部には石組遺構が造られ
ているが、建物に付随するものかどうかは不明。

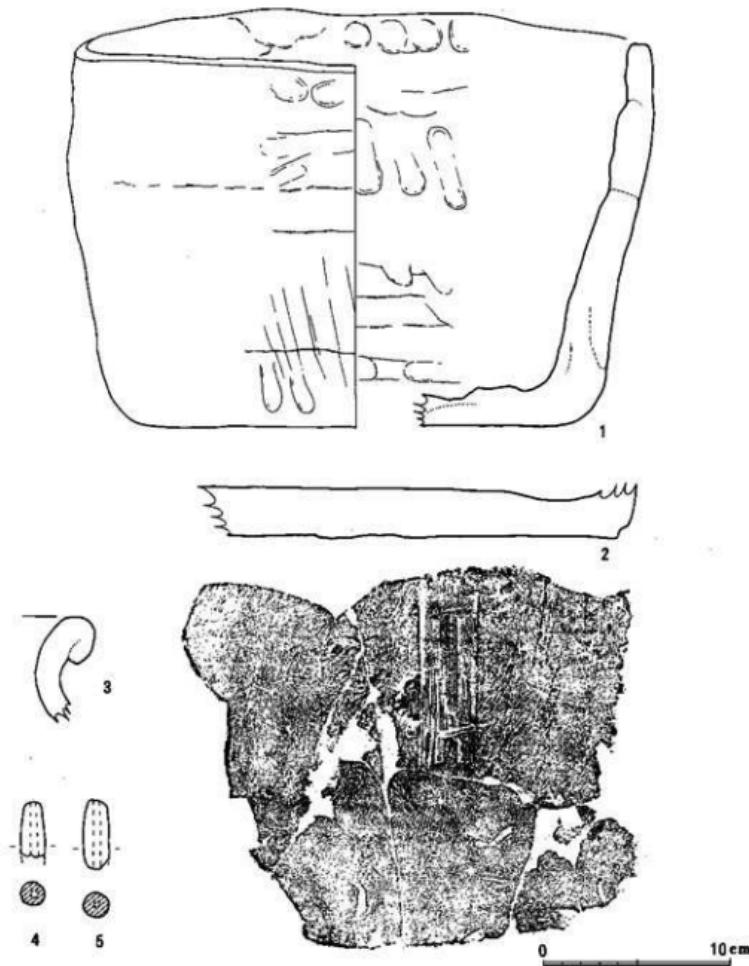


0 50 cm

SB-11 (第83図)

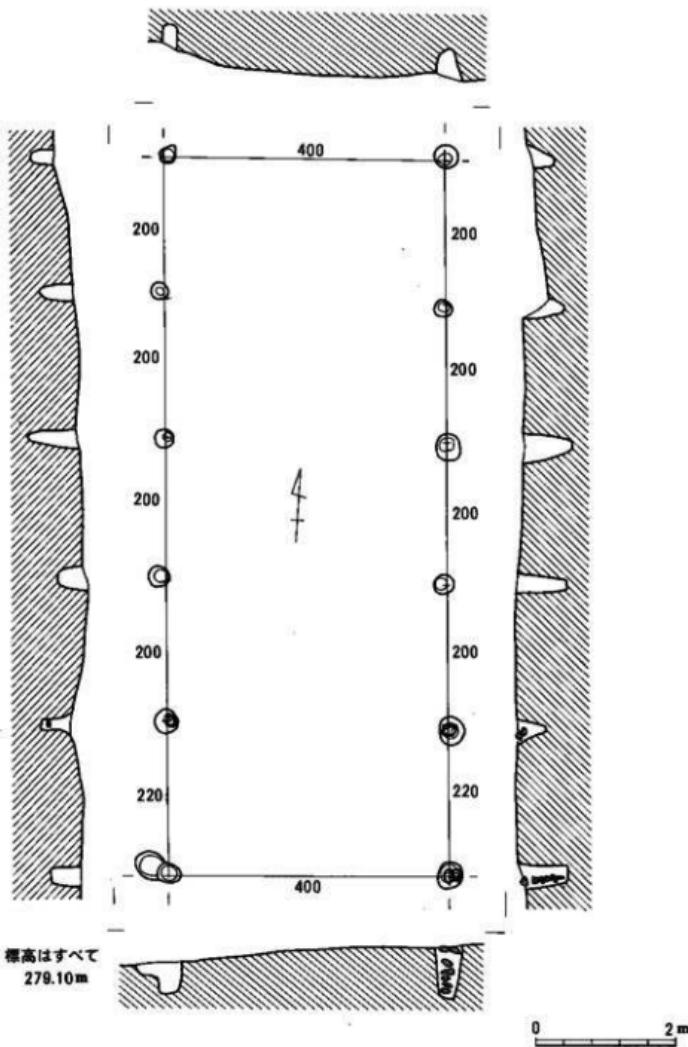
b・c-25~26区に検出され、主軸をN-4°-Wに
とる1間×3間の建物である。桁行600cm、梁360cmで、
面積は約21.6m²を測る。柱穴径は30~40cmで、底レベル
は一様に揃っていない。北東隅の柱穴からは生焼けの厚

**SB-11(P-1)
検出状況**

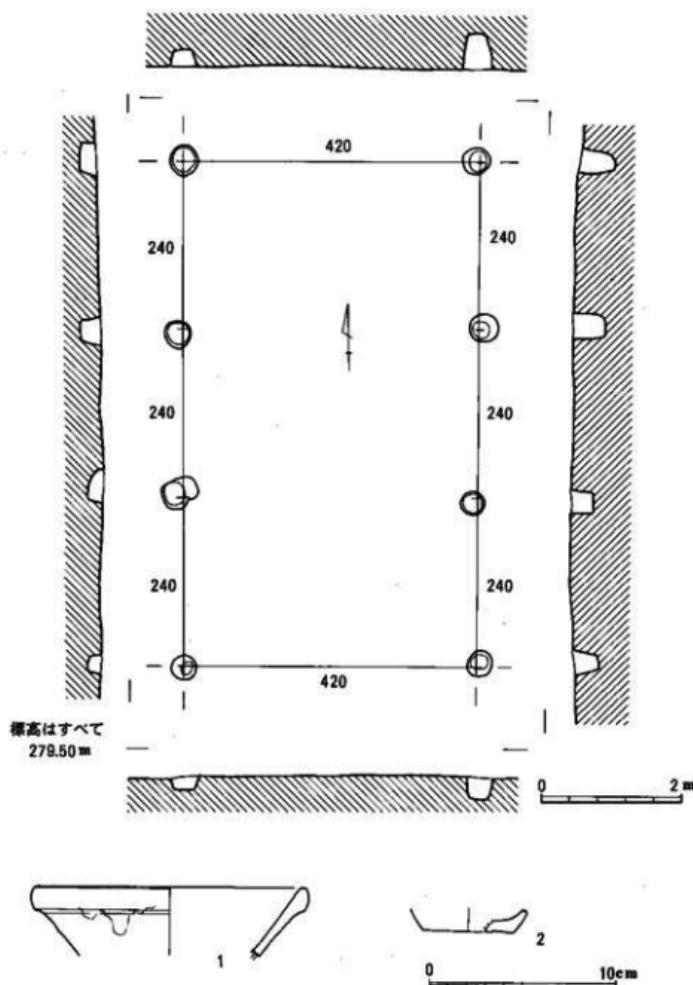


遺物 番号	出土地点 番号	器種	基 盤 量 (cm)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
			口幅 底径 高さ			
1	SB-11 SE-1	土師質火鉢	30.7 21.5 22.4	ナデ、粗横ナデ、板状工具使用ナデ、口縁・底部指痕 有、底部内面擦痕ナデ、底部外面敷目、外側スス付着	(外)淡青緑 (内)淡青緑	きめ細か 無砂少
2	SB-11	土師質火鉢	- -	ナデ、底部指痕、底部外面板目	(外)淡青緑 (内)灰	きめ細か
3	SB-11	陶器	- -	横ナデ、外側自然粘「備前焼」	(外)褐青緑(内)いき緑	粗砂、粗砂
4					0	10 cm
5						

第84図 SB-11 出土遺物実測図

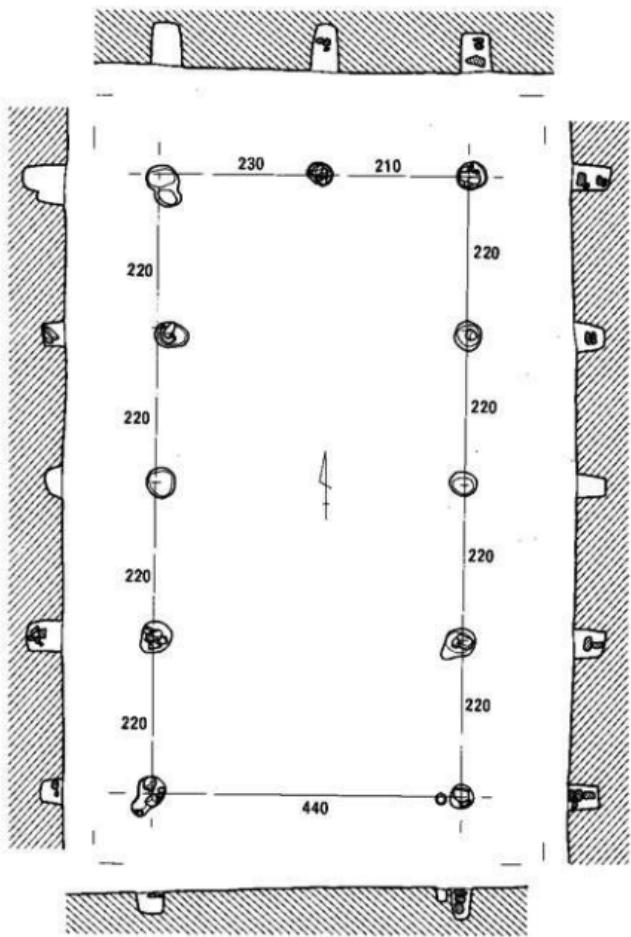


第85図 S B 12



遺物 番号	出土地点	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
			口径	底径	高さ			
1	SB13-1	白磁 瓶	14.4	—	—	口縁 玉縁 外面 下半 無釉	灰白	精良
2	SB13-1	土師質 小皿	—	4.9	—	外面ナデ、内面ナデ、底部ヘタ切り (外・内) 淡黄	きめ細か	

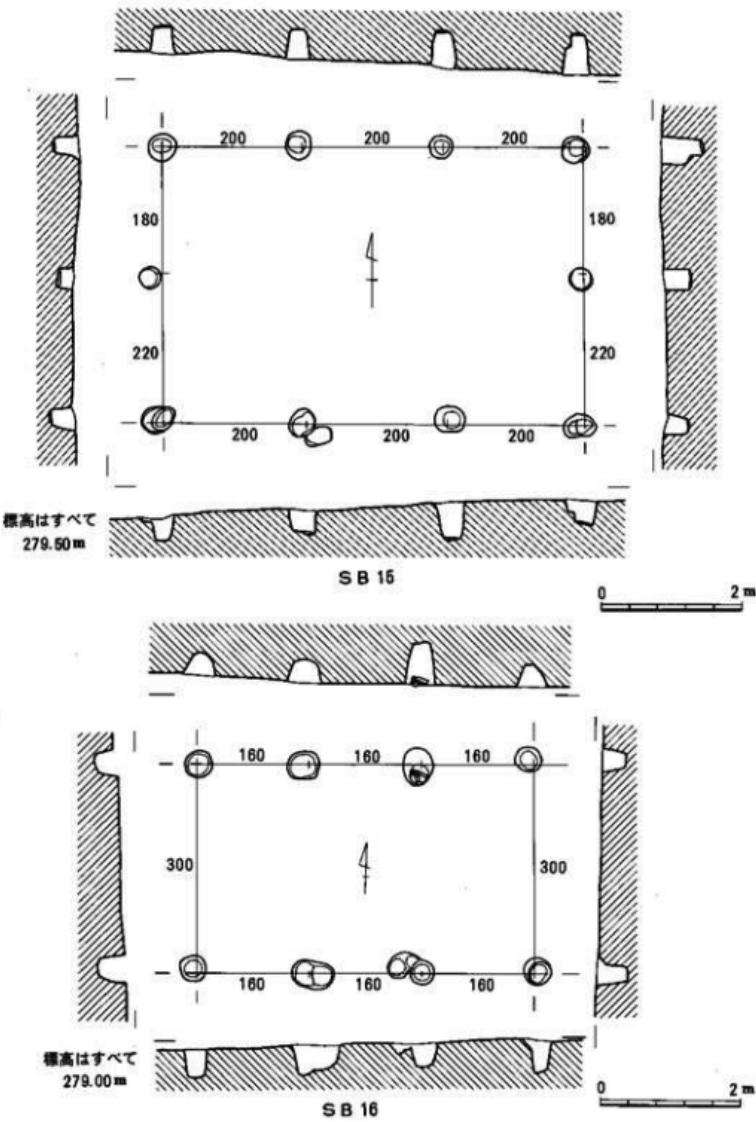
第86図 SB 13



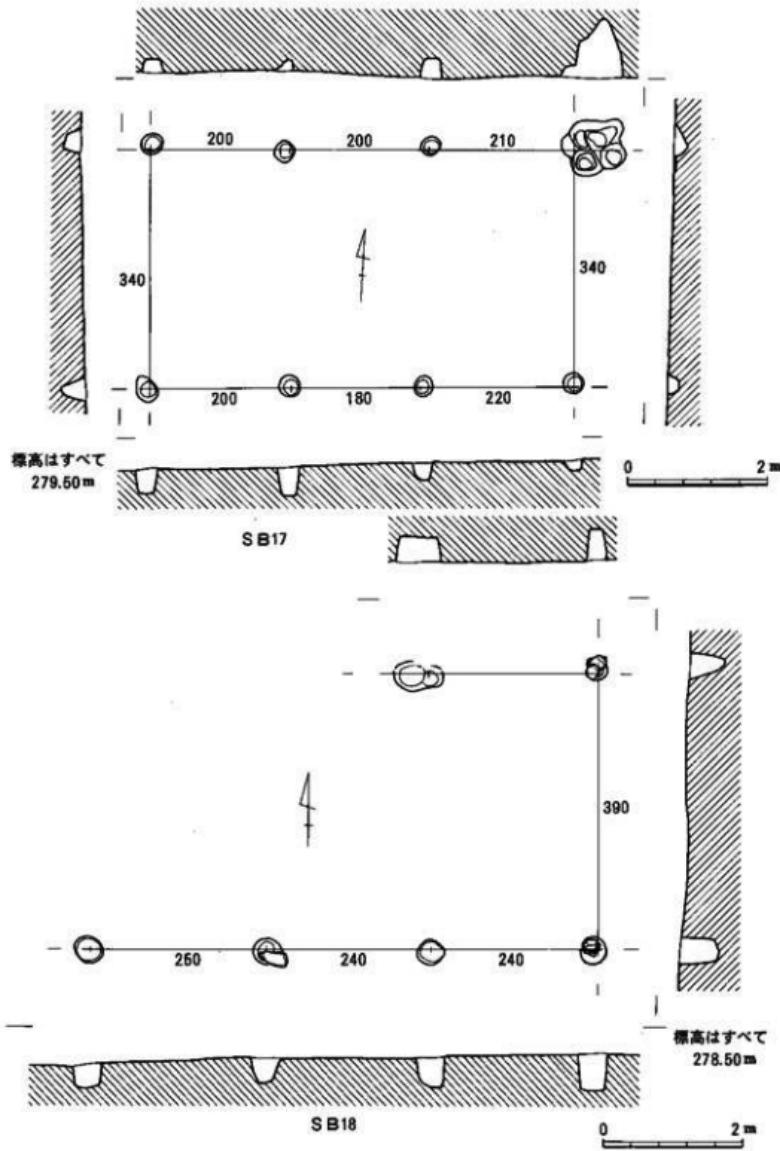
標高はすべて
279.50 m

0 2 m

第87図 SB 14



第88図 SB 15, SB 16



第89図 SB17, SB18

手の火鉢片や備前焼壺口縁部などが出土している。火鉢はSB 1から出土したものと接合した。そのほか柱穴から土鍤二個や鉄片が出土した(第84図)。SB 7と重複関係にある。

SB-12(第85図)

c・d-23~24区に検出され、主軸をN-4°-Wにとる1間×5間の建物で、桁行1020cm、架440cm、面積は約40.9m²を測る。柱穴径は30~40cmで、10~30cm大の石を数個含まれていたものもある。柱穴からは土師器小片や炭化物なども出土している。SB 6・15・SC 61と重複関係にある。

SB-13(第86図)

d・e-23区に検出され、主軸はN-2°-Eを示す。1間×3間の建物で、桁行720cm(柱穴間距離240cm)、架420cmで、面積は約30.1m²を測る。柱穴からは玉縁口縁を呈する白磁碗や土師質小皿、炭化物、陶器片などが出土している。また、SB 14・17~19の4棟と切りあっている。

SB-14(第87図)

d・e-22~23区に検出され、主軸をN-1°-Eにとる。SB 13・19・20・24と重複関係にあり桁行4間、南側架行1間、北側架行は2間となる建物である。桁行880cm(柱穴間距離220cm)、架440cmで、面積は約38.9m²を測る。柱穴径は30~50cm、深さは30~60cmである。柱穴には川原石が詰ったものもある。そのほか滑石製の石鍤や土師片も出土している。(第96図)

SB-15(第88図)

c・d-23区に検出され、主軸はN-90°-Wを示す。建物は2間×3間で、桁行600cm(柱穴間距離200cm)、架400cm(180・220)で、面積は約23.8m²を測る。柱穴径は40~50cmの大きさである。SB 12と重複関係にある。

SB-16(第88図)

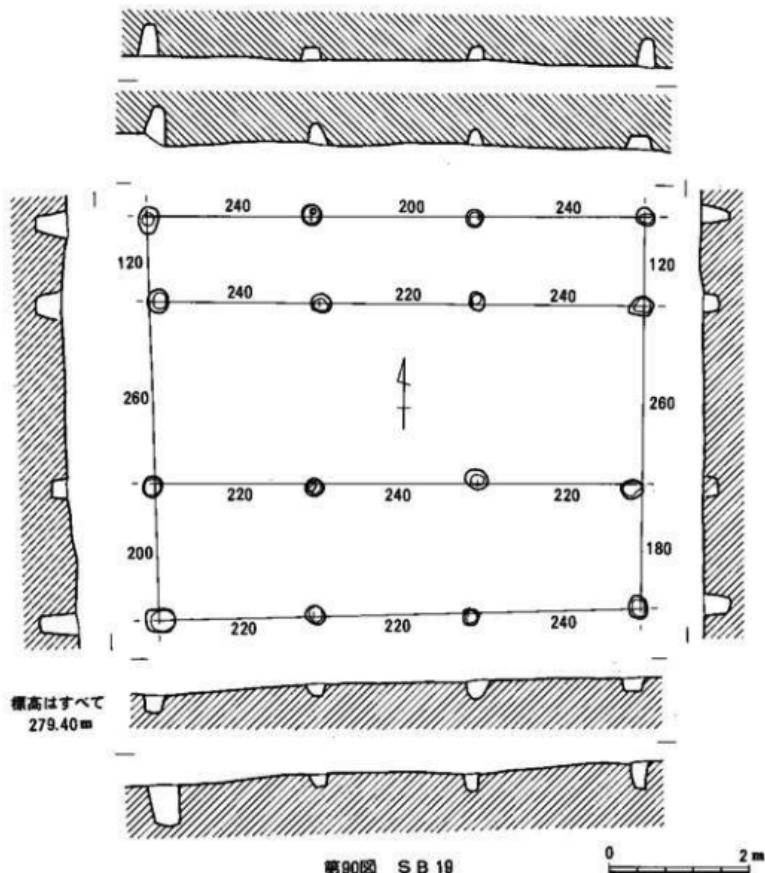
d-23・24区に検出され、主軸をN-92°30'-Wにとる1間×3間の建物で、桁行350cm(柱穴間距離160cm)、架300cm、面積は約14.4m²を測る。柱穴径は40~50cm、深さは30~60cmである。SB 6・17と重複関係にある。

SB-17(第89図)

d・e-23~24区に検出され、主軸はN-93°30'-Wを示す。建物はSB 13・16・18と重複関係にあり、1間×3間で桁行600cm、架340cm、面積は約20.4m²を測る。柱穴径は20~30cmで、土師小片が若干出土している。

SB-18(第89図)

d・e-23~24区に検出され、主軸をN-90°30'-Wにとる1間×3間の建物と考えられるが、北西側の二つ柱穴は削平されている。桁行610cm、架400cmで、面積は推定で約28.5m²を測る。SB 5・13・16・17と重複関係にある。



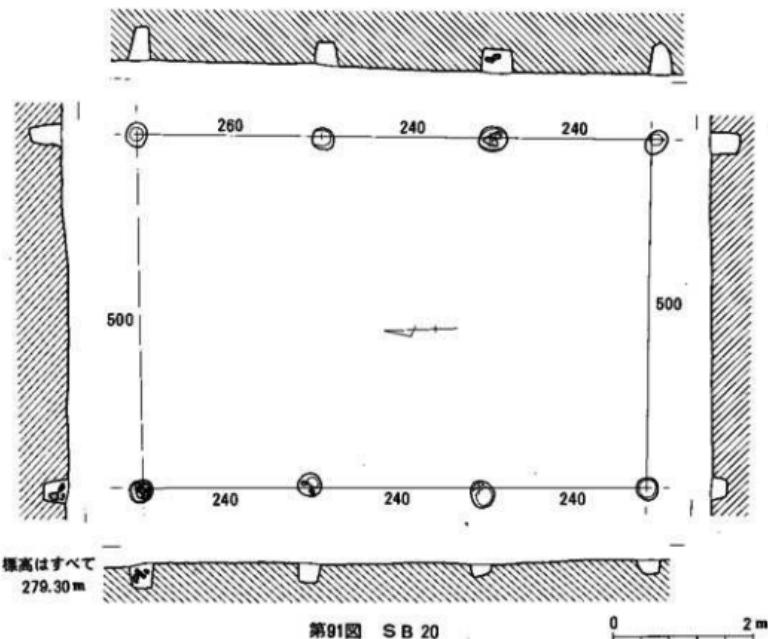
第90図 SB 19

SB-19 (第90図)

d・e-22~23区に検出され、主軸はN-90° 30' -Wを示す。身舎は1間×3間で南北に廂をもち、梁260cm、桁行680cm、面積は約17.7m²を測る。南廂は梁200・180cm、桁行680cm、北廂は梁120cm、桁行680cmである。柱穴から土師小片や、土錐、炭化物が出土している(第96図)。SB13・14・24と重複関係にある。

SB-20 (第91図)

d・e-22区に検出され、主軸をN-1° 30' -Eにとる1間×3間の建物で、SB 4と重複関係にある。建物の規模は桁行720cm、梁500cm、面積約36.0m²を測る。柱穴径は30~40cm、



第91図 SB-20

0 2m

深さは20~50cmである。川原石を検出した柱穴もいくつか見られた。

SB-21(第92図)

b-20・21区に検出された。主軸をN-84° 30' -Wにとる1間×2間の小規模な建物である。桁行440cm、梁300cmで、面積は約13.1m²を測る。柱穴径は30~40cmで、深さは約30cmとある程度揃っている。

SB-22(第92図)

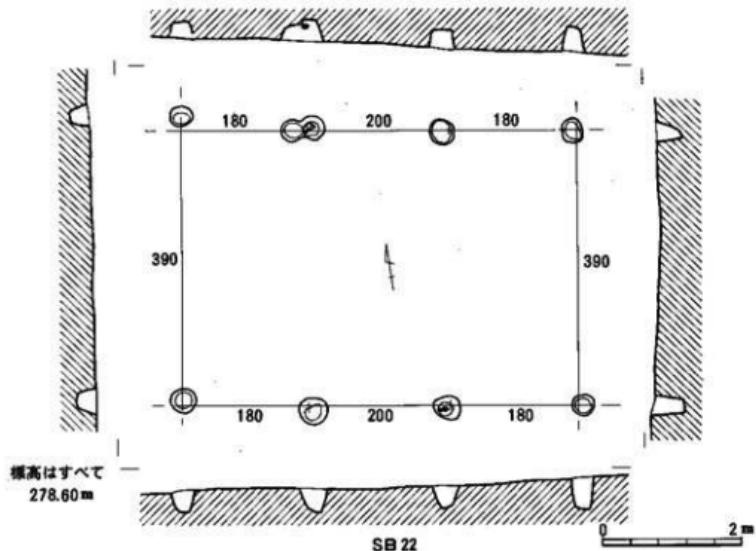
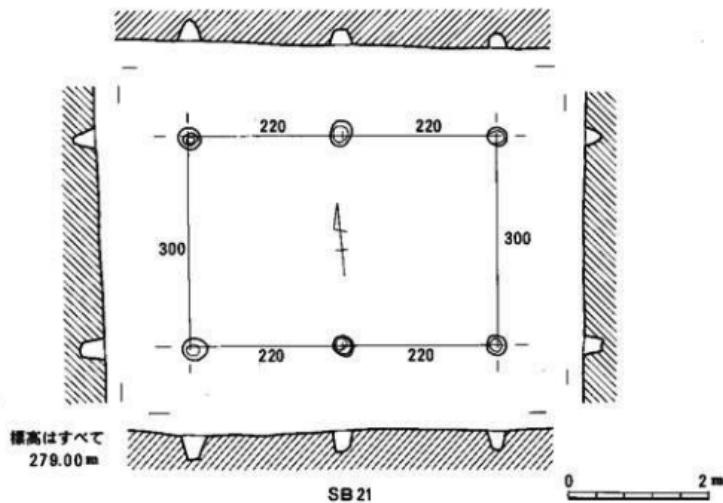
b-23区に検出され、主軸をN-81° 30' -Wにとる1間×3間の建物である。桁行560cm、梁390cmで、面積は約21.8m²を測る。柱穴径は40cm前後で、深さは30~50cmである。

SB-23(第93図)

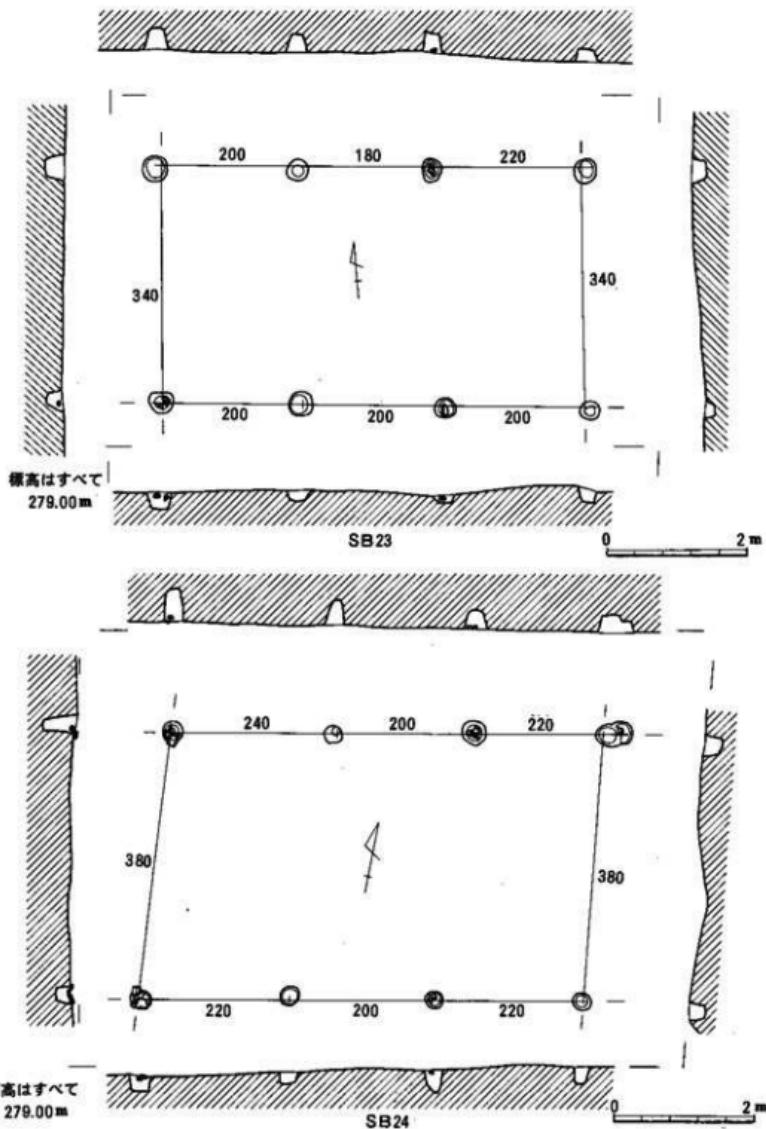
b-22区に検出され、1間×3間の主軸をN-84° -Wにとる建物である。桁行600cm、梁340cmで、面積は約20.5m²を測る。柱穴径は30~40cm、深さは15~30cmである。SC27と重複関係にある。

SB-24(第93図)

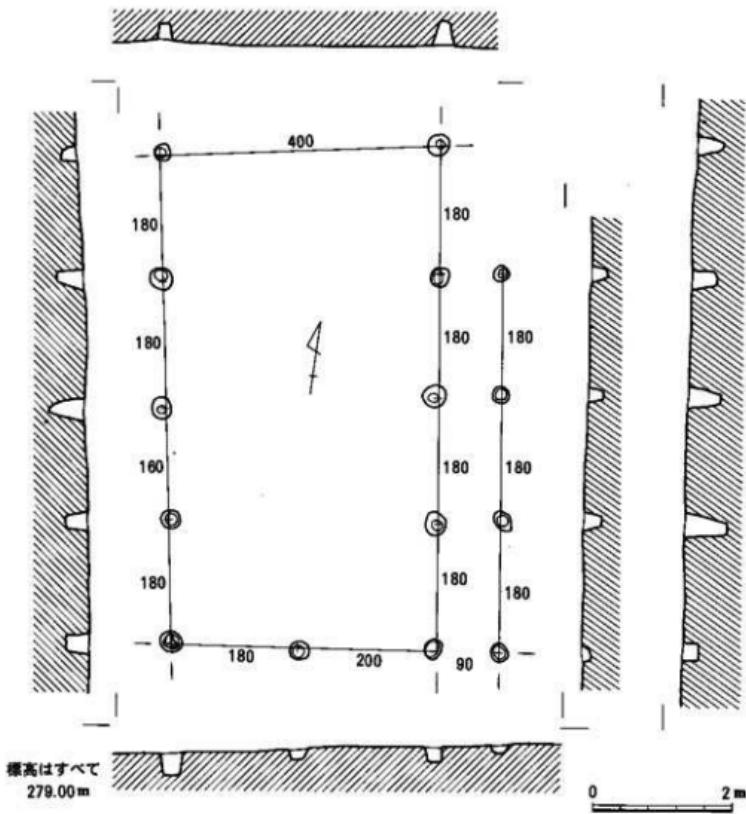
d-23区に検出され、主軸をN-100° -Wにとる1間×3間の建物でSB14・19と重複関係にある。建物の規模は桁行640cm、梁380cm、面積約24.7m²を測る。柱穴径は30cm前後、深さ



第92図 SB 21, SB 22



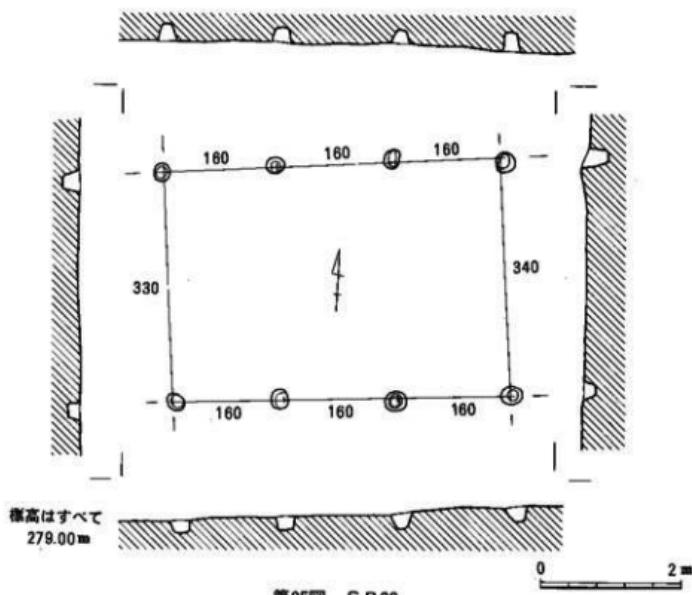
第93図 SB23, SB24



は20~50cmである。川原石を検出した柱穴もいくつか見られた。また、ヘラ切りの土師質小皿も出土している。(第96図)

SB-25 (第94図)

b-21・22区に検出され、主軸はN-8°-Wを示す。身舎は桁行4間、南梁行2間、北梁行は1間となる建物で、東に3間の廂を付ける。梁380・400cm、桁行700・720cm、面積約28.1m²を測る。柱穴径は30cm前後、深さは20~40cmである。廂の柱穴径は20cm前後、深さは20~30cmと浅くなる。SC-25と重複関係にある。

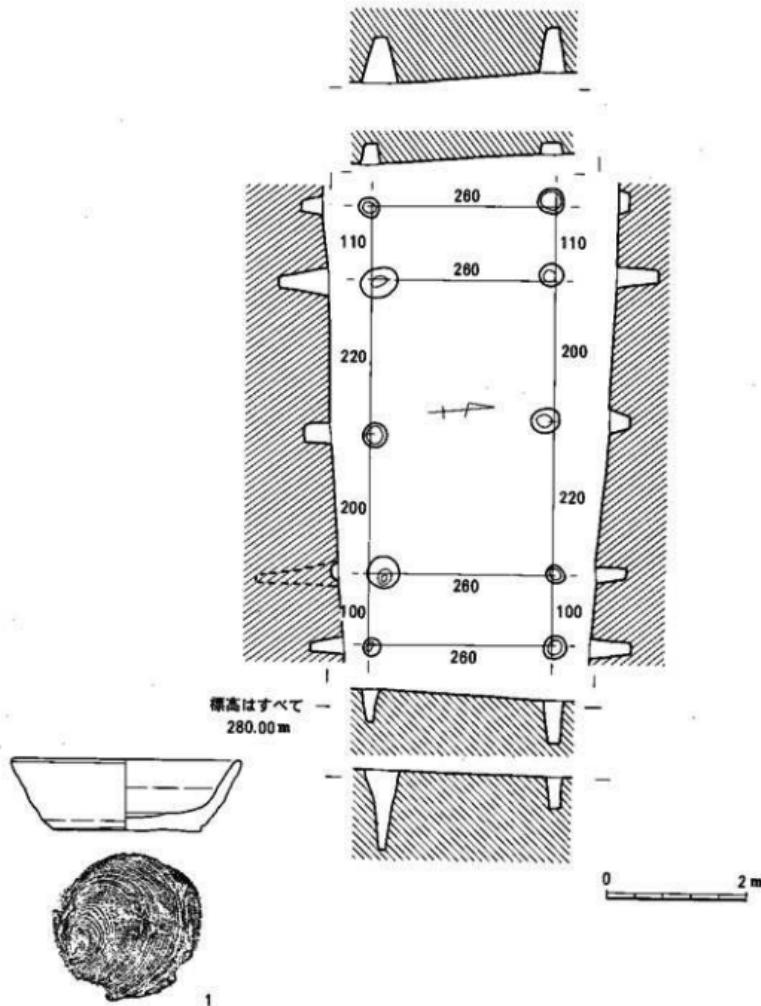


第95図 SB 26



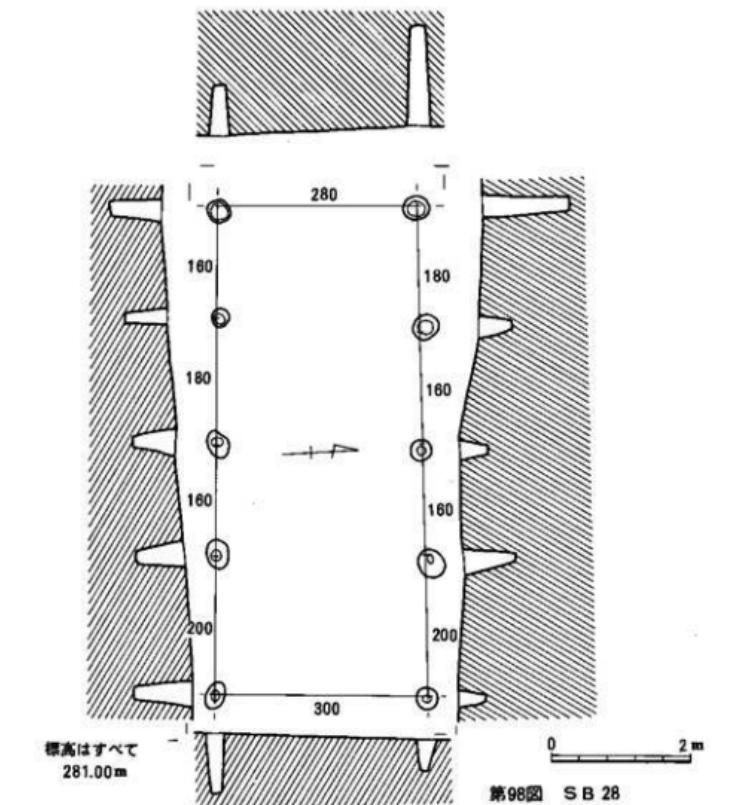
遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	滑石製石鏡	3.0	1.5	1.5	10.6	SB-14	全体面彫りされ、断面は方形を呈する	-	-
2	土鏡	3.1	1.3	1.3	4.0	SB-19	欠損、端部面取り	黒褐色	きめ細か
<hr/>									
遺物番号	出土地点	器種	汎用(cm)	口径(cm)	底径(cm)	源高(cm)	形態手法の特徴ほか	色調	胎土
3	SB-24	土師質皿	8.1	6.0	1.6	-	横ナデ、ヘラ切り底、底部内面平行ナデ	淡黄褐色	きめ細か
4	SB-32	陶器壺	-	-	-	-	横ナデ、東端系縫、内面一部削離	(外)淡青灰(内)灰	細沙、白色粒少

第96図 SB 14, 19, 24, 32 出土遺物実測図

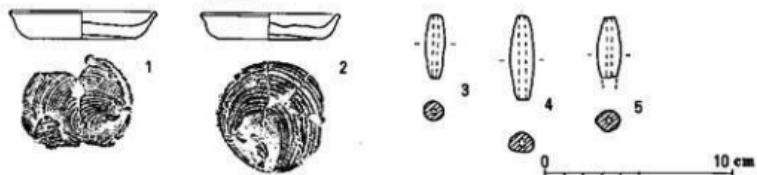


遺物 番号	出土地点	器種	径 墓 (cm)			形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
			口径	底径	高さ			
1	SB-27	土師質 环	12.2	7.9	3.9	横ナデ、底部余切り、内面漬化著しい (外)に赤褐色(内)に淡青色	赤褐色	粗砂、細少(少)

第97図 SB 27

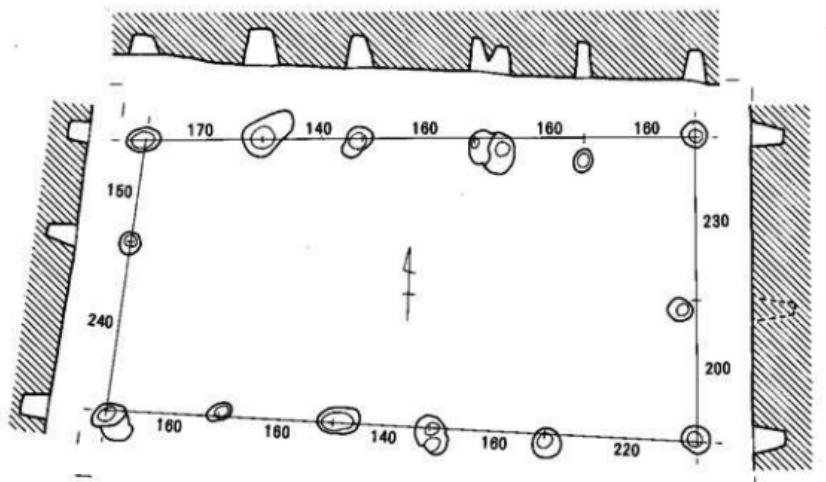


第98図 SB 28



遺物 番号	出土地点	器種	法 量(cm)		形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
			口径	底径			
1	SB-29	土師質 皿	7.8	5.8	1.5 横ナデ、底部糸切り	赤 緋	きめ細か
2	SB-29	土師質 皿	7.1	5.6	1.4 横ナデ、底部糸切り、底部内面平行ナデ	淡 赤 緋	きめ細か
3		土 繩	3.5	1.1	1.1 欠損、端部面取り	緑 灰	きめ細か
4		"	4.5	1.4	1.4 欠損	にじい黄 橙	きめ細か
5		"	3.2	1.4	1.4 欠損	緑 灰	きめ細か

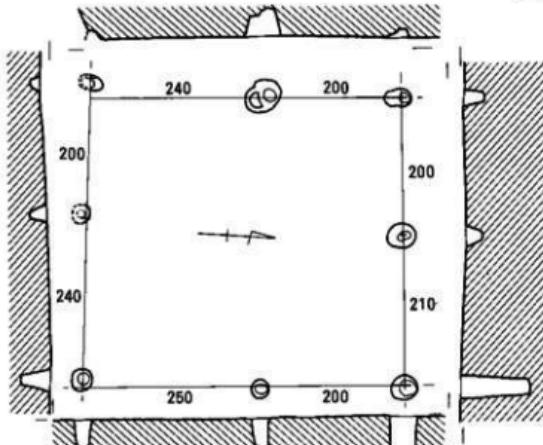
第99図 SB 29 出土遺物実測図



標高はすべて
281.20m

SB29

0 2 m

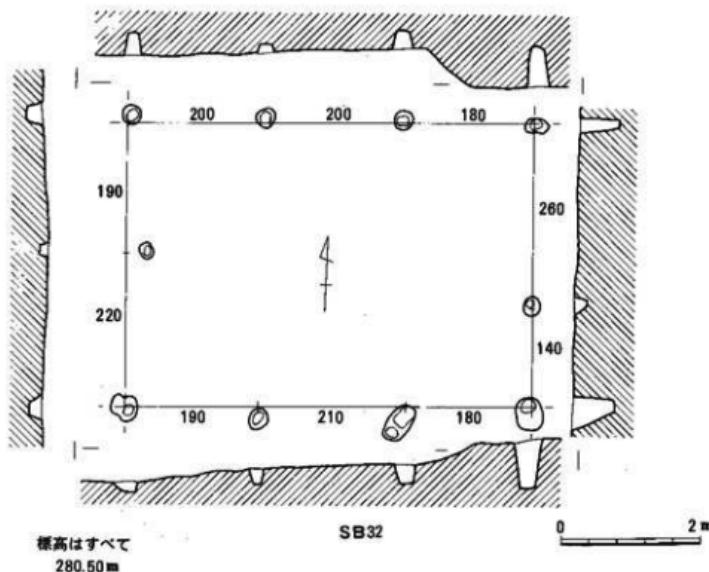
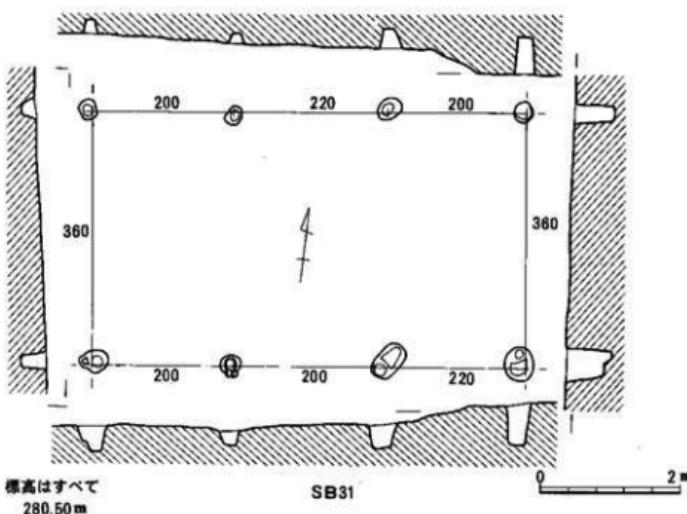


標高はすべて
280.20m

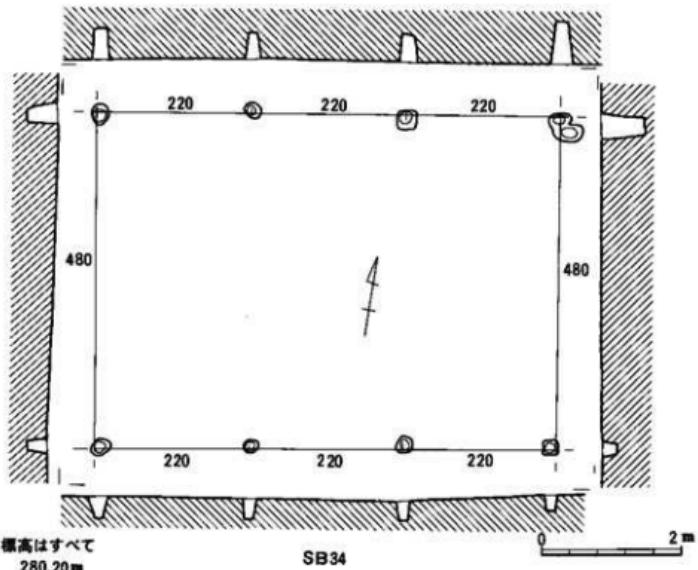
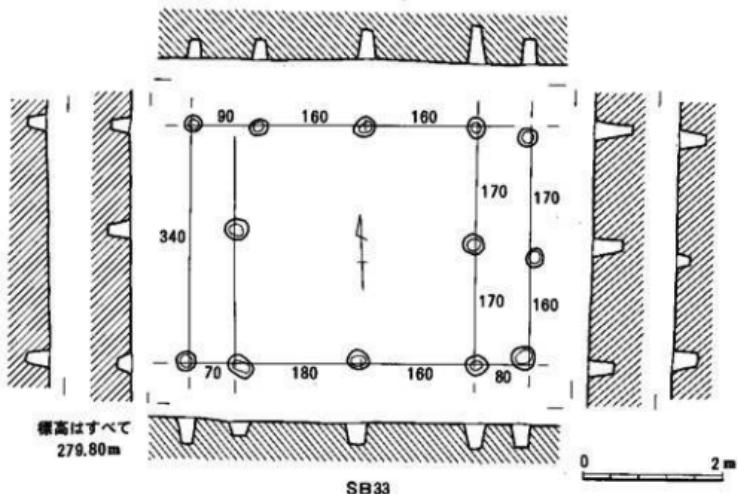
SB30

0 2 m

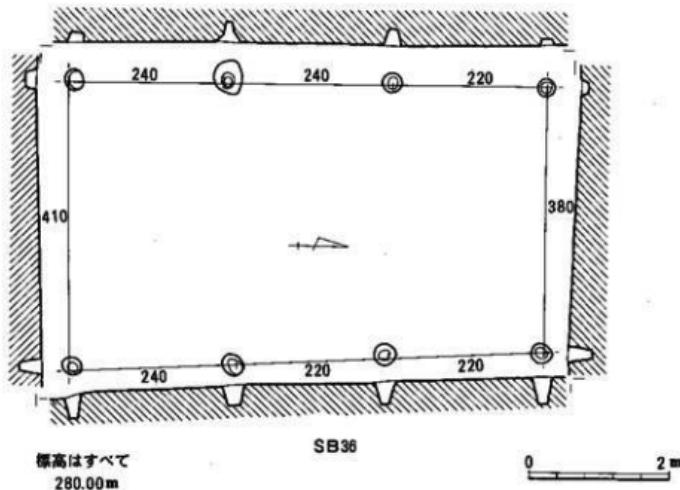
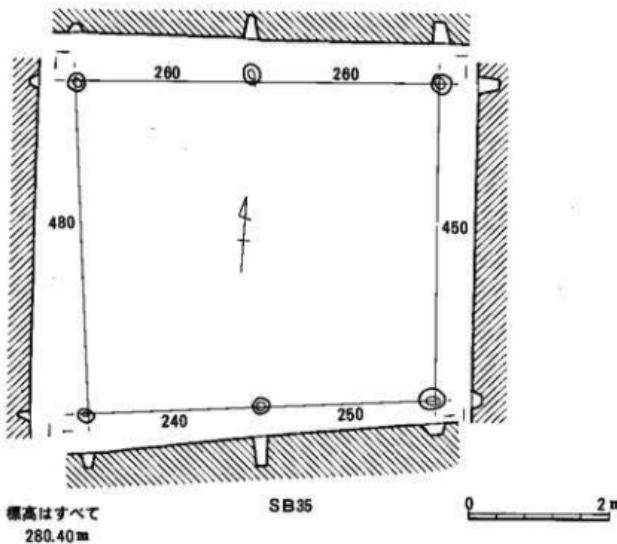
第100図 SB29, SB30



第101図 SB31, SB32



第102図 SB33, SB34



第103図 SB35, SB36

SB-26 (第95図)

a-21区に検出され、主軸はN-95°-Wを示す。身舎は1間×3間で、梁330cm、桁行480cm（柱穴間距離160cm）、面積は約16.3m²を測る。柱穴径は20cm前後、深さは20~30cmである。

SB-27 (第97図)

c・d-19区に検出され、主軸はN-84°-Wを示す。身舎は1間×2間で、梁行の東西方向に廂を付ける。梁260cm、桁行420cm、面積約10.9m²を測る。柱穴径は20~40cm前後、深さは30~120cmである。廂の梁行100・110cm、桁行260cmとなる。柱穴からほぼ完形の糸切り土師器・壺や炭化物が出土している。

SB-28 (第98図)

c・d-17~18区に検出され、主軸をN-85°-Wにとる1間×4間の建物である。建物の規模は桁行700cm、梁300・280cm、面積約20.3m²を測る。柱穴径は40cm前後、深さは40~130cmである。柱穴から土師小片が出土している。

SB-29 (第100図)

d-17区に検出され、主軸をN-89°-Wにとる2間×5間の建物で、SB30と重複関係にある。建物の規模は桁行790・840cm、梁430・390cm、面積約33.4m²を測る。柱穴径は30~50cm前後、深さは30~70cmである。柱穴から糸切りの土師質小皿や土鏡も出土している。(第99図)

SB-30 (第100図)

d-17区に検出され、主軸をN-5°-Wを示す。建物は2間×2間の縦柱建物で、梁410・440cm、桁行450cm、面積は約18.1m²を測る。南側の一部は後世の土取りによって削平されている。SB29と重複関係にある。

SB-31 (第101図)

c-17区に検出され、主軸はN-96°30'-Wを示し、SB32と重複している。建物は1間×3間で、梁360cm、桁行620cm、面積は約22.4m²を測る。柱穴径は30cm前後、深さは20~60cmである。柱穴からは炭化物や土師器片が若干出土している。

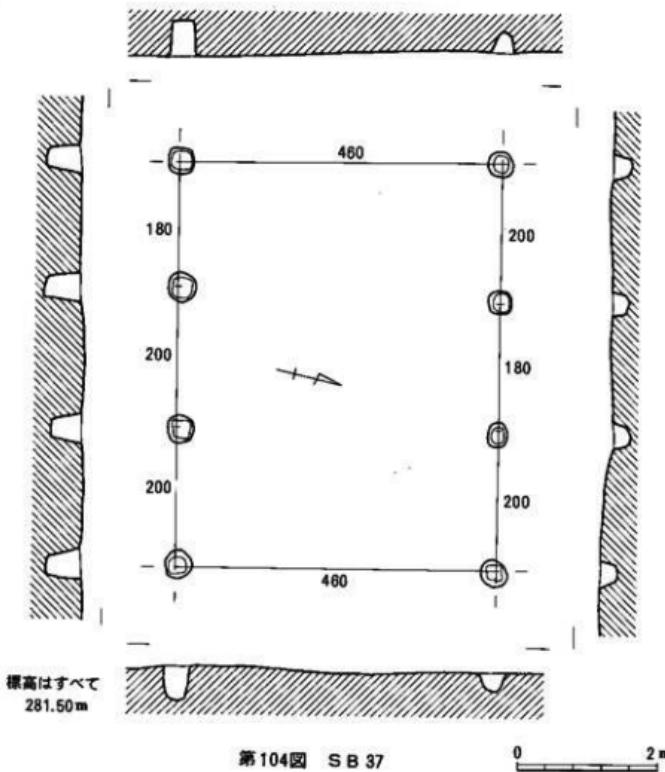
SB-32 (第101図)

c-17区に検出され、主軸をN-92°30'-Wにとる2間×3間の建物で、SB31、SE4と重複関係にある。建物の規模は桁行580cm、梁410cm、面積約23.5m²を測る。柱穴径は30~40cm前後、深さは建物の西側が土取りによって削平されているため浅くなっている。柱穴からは炭化物や陶器片が出土している。

SB-33 (第102図)

b-19区に検出され、主軸はN-88°-Wを示す。建物は2間×2間の縦柱建物で、東西に廂をつける。梁行340cm、桁行340cm、面積は約11.1m²を測る。廂の梁行は70~90cm、桁行340cmとなる。柱穴径は30cm前後、深さは20~50cmである。柱穴からは炭化物が少量出土している。

(第96図)



第104図 SB-37

SB-34 (第102図)

a・b-16~17区に検出され、主軸をN-99° 30' -Wにとる1間×3間の建物で、桁行660cm（柱穴間距離220cm）、梁480cm、面積約31.6m²を測る。柱穴径は20~30cm前後、深さは30~70cmである。

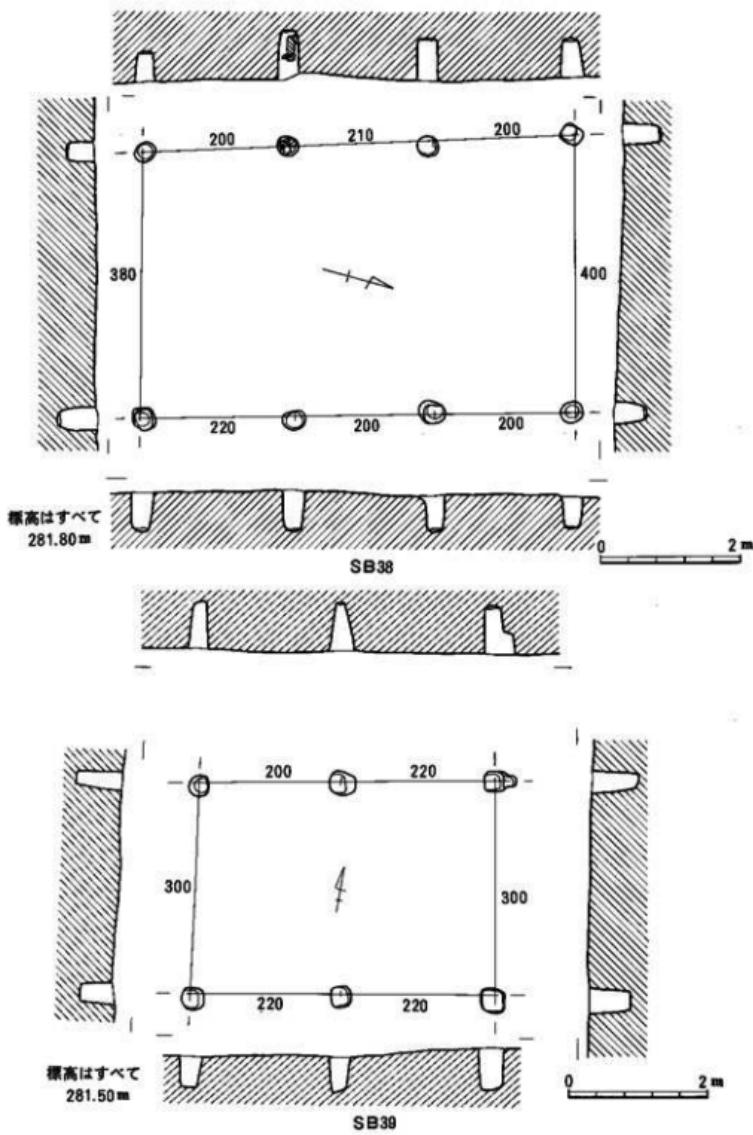
SB-35 (第103図)

c-14・15区に検出され、主軸はN-93° -Wを示す。建物は1間×2間で、梁480cm、桁行490cm、面積は約23.7m²を測る。柱穴径は20~30cm、深さは10~30cmである。

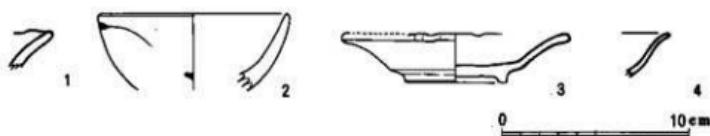
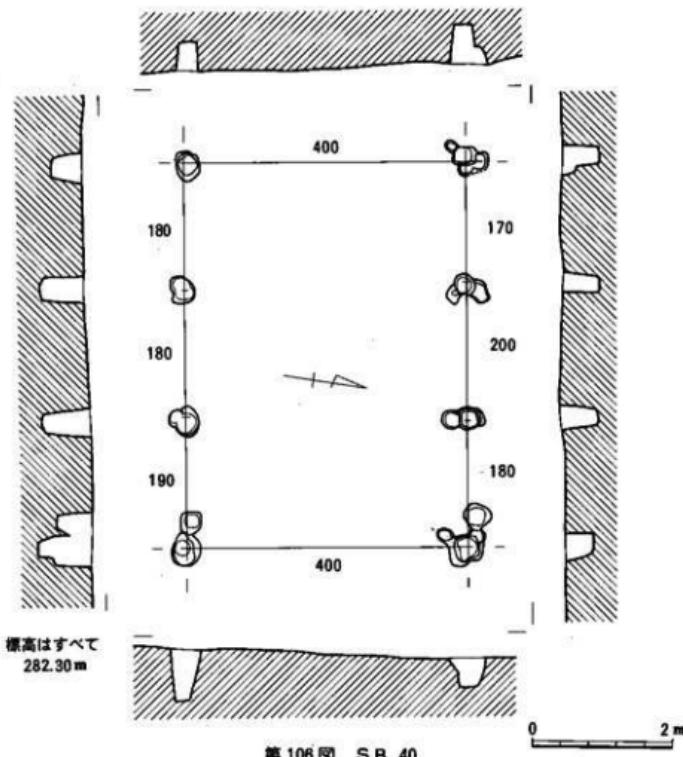
SB-36 (第103図)

b・c-14・15区に検出され、主軸はN-4° -Wを示す。建物は1間×3間で、梁410cm、桁行680cm、面積は約27.3m²を測る。柱穴径は30~50cm、深さは10~30cmである。

SB-37 (第104図)



第105図 SB38, SB39



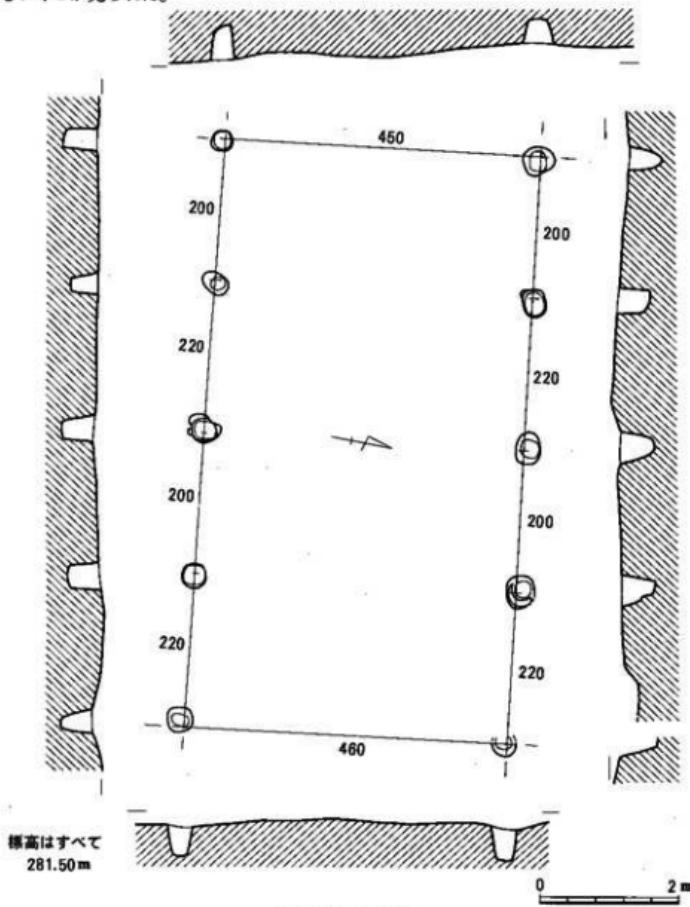
遺物 番号	出土地点	器 種	法 量 (cm)	形 態・手 法の特 徴ほか	色 調	胎 土
1	SB-40	青磁 葵花皿	— — —	内外面貫入、口縁輪花	灰オリーブ	精良
2	SB-41	磁器 碗	10.0	— — —	外面染付、「肥前系」	白
3	SB-45	青磁 葵花皿	11.8 5.3	2.6 — —	高台内輪捺、見込み施剥ぎ、口縁輪花	淡黄
4	SB-47	白磁 皿	12.0	— —	口縁端反り	白

第107図 SB 40, 41, 45, 47 出土遺物実測図

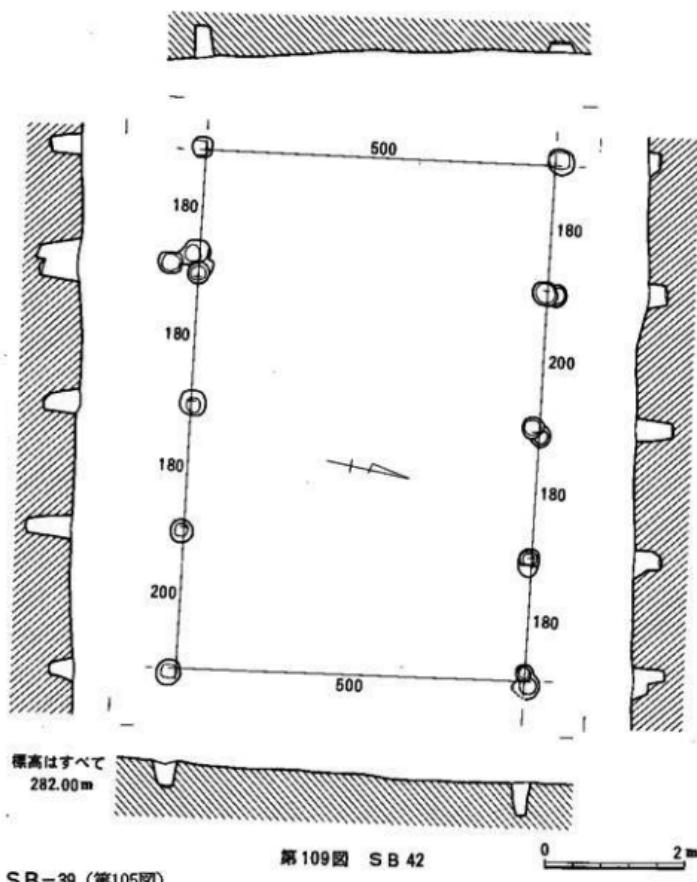
e - 6・7区に検出され、主軸をN-102° 30' - Wとする1間×3間の建物で、SB 44・45と重複している。桁行580cm、梁460cm、面積約26.6m²を測る。柱穴径は30cm前後、深さは50cm前後とある程度崩っている。

SB-38(第105図)

f - 4区に検出され、主軸はN-16° - Wを示す。建物は1間×3間で、梁380cm、桁行620cm、面積は約24.0m²を測る。柱穴径は30~40cm、深さは40~60cmである。川原石を検出した柱穴もいくつか見られた。



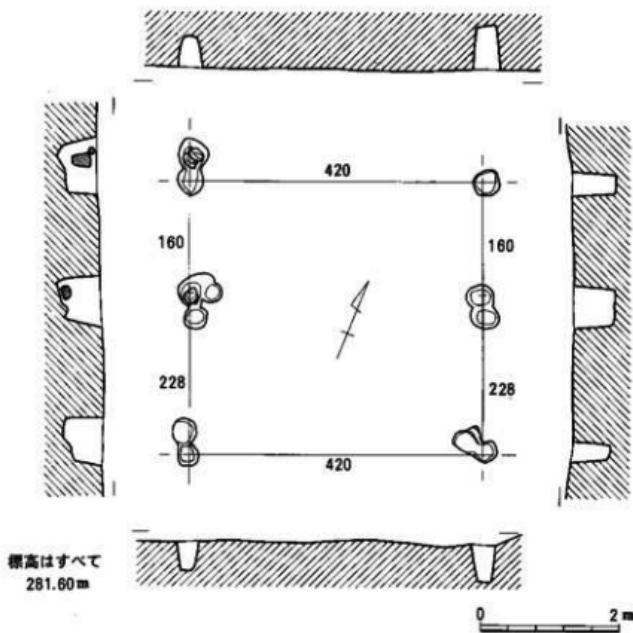
第108図 SB 41



d・e・4・5区に検出され、主軸はN-99° 30' -Wを示す。建物は1間×2間で、梁300cm、桁行440cm、面積は約12.9m²を測る。柱穴径は30~40cm、深さは50~70cmである。SB40~42の3棟と重複している。

SB-40 (第106図)

d・e・4・5区に検出され、主軸はN-99° 30' -Wを示す。建物は1間×3間で、SB39の1棟と重複している。建物の規模は梁400cm、桁行550・570cm、面積は約22.1m²を測る。柱穴径は40cm前後、深さは40~80cmである。また、柱穴から青磁碗、穀花皿、土師小片、砥石などが出土している。(第107図)



第110図 SB 43

SB-41 (第108図)

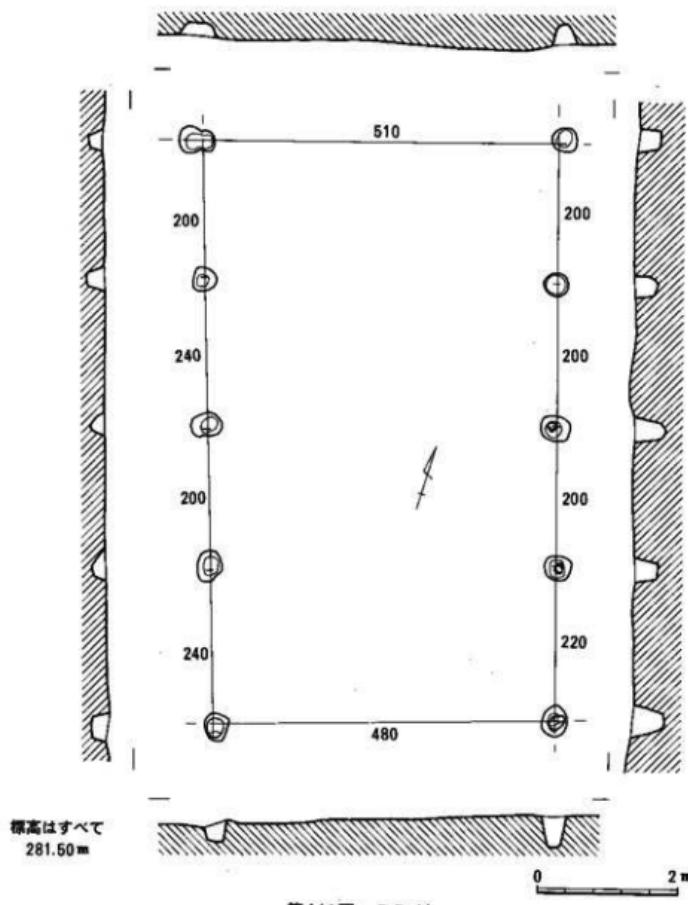
e - 4 区に検出された。主軸はN-97° -Wを示し、建物は1間×4間で、SB 42・43と重複している。建物の規模は梁460cm、桁行840cm、面積は約38.2m²を測る。柱穴径は40cm前後、深さは約40cmと底レベルはある程度一定である。また、柱穴から青磁碗、染付碗などが出土している。(第107図)

SB-42 (第109図)

d - e - 4 区に検出され、主軸はN-99° 30' -Wを示す。建物は1間×4間で、梁500cm、桁行740cm、面積は約36.9m²を測る。柱穴径は30cm前後、深さは40~60cmである。SB 39・41・43の3棟と重複している。

SB-43 (第110図)

d - e - 3・4 区に検出され、主軸はN-11° 30' -Wを示し、SB 41・42の2棟と重複している。建物は1間×2間で、梁420cm、桁行388cm、面積は約16.3m²を測る。柱穴径は30cm前後、深さは40~60cmで、鉄片や船製と考えられる弾丸(玉)2個が出土している。また、川原石を検出した柱穴もいくつか見られた。



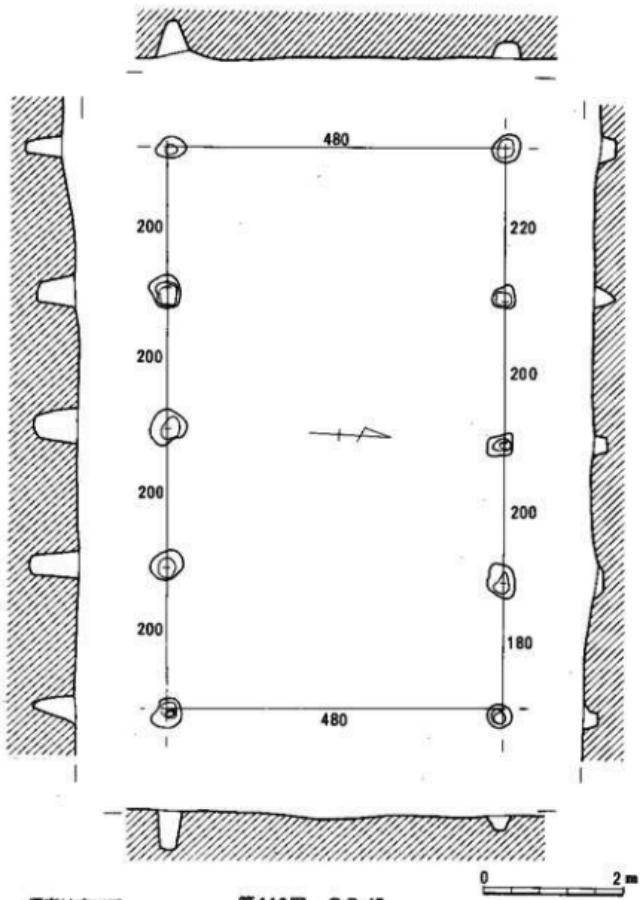
第111図 SB-44

SB-44 (第111図)

e・f-6・7区に検出され、主軸はN-18°-Wを示す。建物は1間×4間で、梁480・510cm、桁行880・840cm、面積は約42.1m²を測る。柱穴径は30~50cm、深さは30~50cmである。SB37と重複している。

SB-45 (第112図)

d・e-6・7区に検出され、主軸はN-93°-Wを示し、SB37と重複している。建物は



標高はすべて
281.00m 第112図 SB 45

1間×4間で、梁480cm、桁行800cm、面積は約38.4m²を測る。柱穴径は30~50cm、深さは20~60cmである。柱穴からは、青磁稜花皿や炭化物が出土している。(第107図)

SB-46(第113図)

e・f-6・7区に検出され、主軸はN-99°-Wを示し、SB47と重複している。建物は1間×2間だが、梁420cm、桁行420cmとほぼ正方形をしている。面積は約17.6m²を測る。柱穴径は50cm前後、深さは70cmである。

SB-47 (第114図)

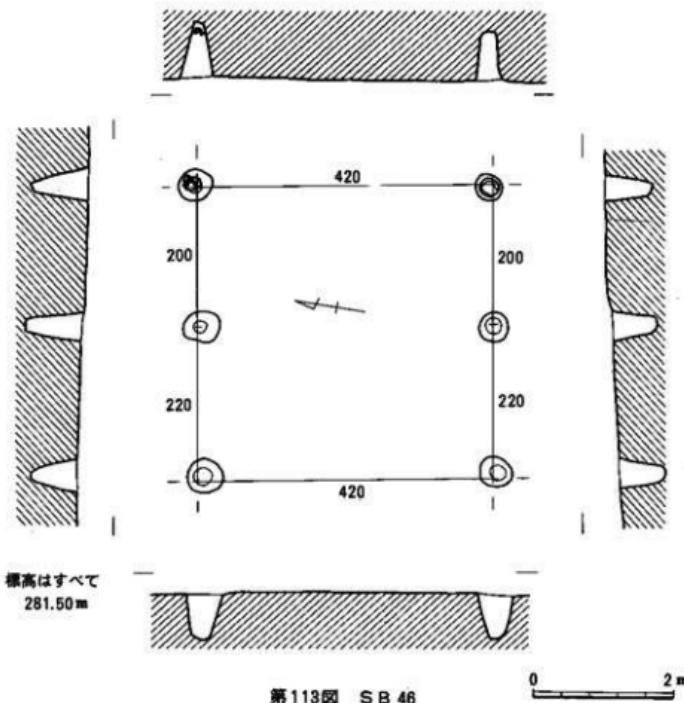
e・f-5・6区に検出された。主軸はN-102°-Wを示し、SB46と重複している。建物は1間×2間で、梁380・420cm、桁行440cm、面積は約17.1m²を測る。柱穴径は30cm前後で深さは30~90cmである。柱穴からは、白磁磚が出土している。(第107図)

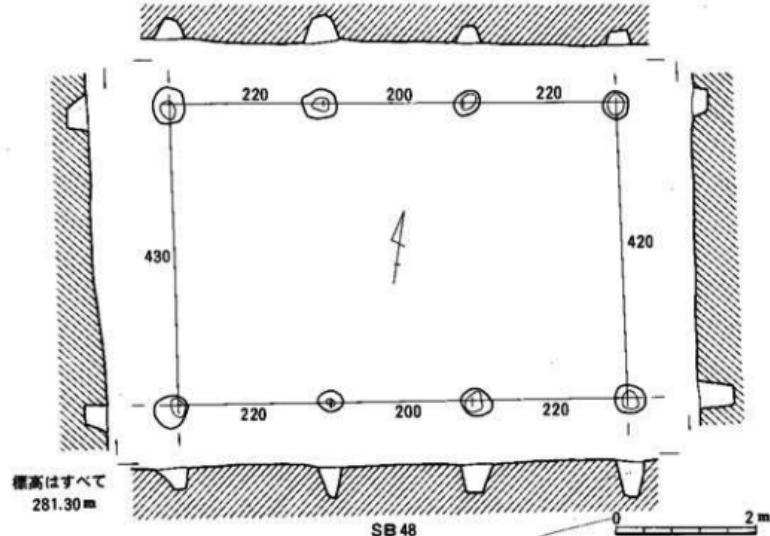
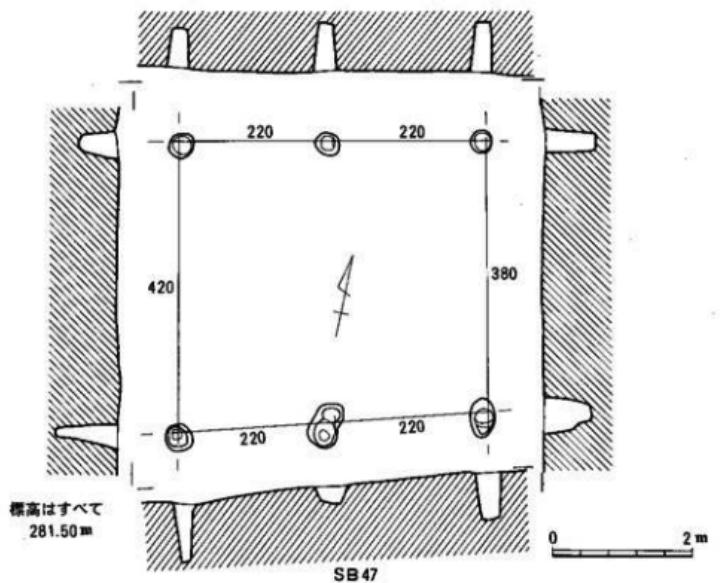
SB-48 (第114図)

d-5区に検出され、主軸はN-99°-Wを示し、SB49と重複している。建物は1間×3間で、梁440cm、桁行640cm、面積は約27.2m²を測る。柱穴径は30~50cm、深さは30~50cmである。

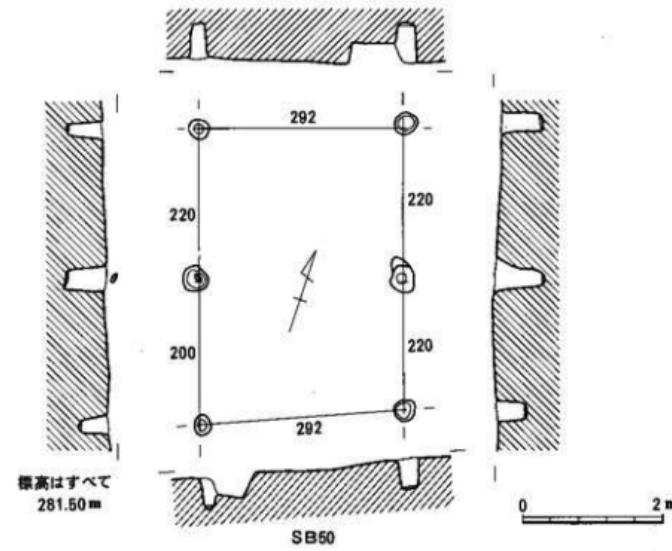
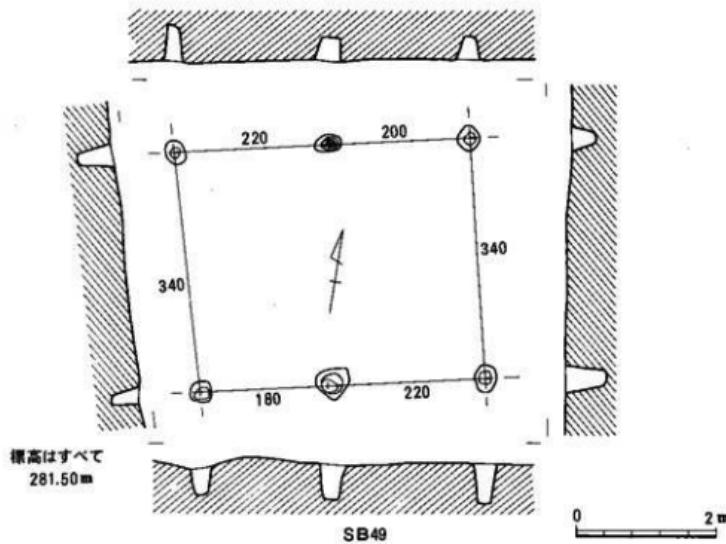
SB-49 (第115図)

d-5区に検出され、主軸はN-101°30'-Wを示す。建物は1間×2間で、梁340cm、桁行400cm、面積は約13.6m²を測る。柱穴径は30~50cm、深さは50cm前後である。





第114図 SB 47, SB 48



第115図 SB49, SB50

掘立柱建物跡計測表(1)

建物No	面積 (m ²)	グリッド	方 向	規 模	梁行 (cm)	板行 (cm)	高 度	重複関係	出 土 遺 物	因面 番号
SB-01	28.9	e-26, f-26, e-25, f-25	N-7° - W	1間×3間	380	750 (240~270)	1面 (西)			74
SB-02	25.2	d-26, d-25, e-25	N-87° - W	1間×4間	350	750~700 (160~190)	2面 (北・南)	SC4		75
SB-03	23.8	c-25, d-25	N-96° - W	1間×3間	390	600~650 (200~220)		SC17		76
SB-04	28.5	d-25, e-25, d-24, e-24	N-3° - W	1間×3間	410	650, 700 (230, 240)		SC21, SB5		78
SB-05	31.0	e-24, d-24, d-23	N-10° - W	1間×4間	400	750~750 (160~210)	80 100 (東・西)	SB4, SB18 SB17	織片、石片、灰石 炭化物	77
SB-06	24.1	c-24, d-24, c-23, d-24	N-2° - W	1間×3間	370	650 (210~230)	100 (東・西)	SB12, SB16	土器片、鉄、土器	79
SB-07	22.5	b-25	N-94° 30' - W	1間×3間	360	520 (200~230)		SB11		80
SB-08	32.2	c-27, b-27, e-26, b-26	N-4° 30' - W	1間×5間	360	900 (180)	100 (北)	SE 1		81
SB-09	19.3	b-26, a-26	N-95° - W	1間×3間	332	580 (160~220)				82
SB-10	20.9	b-27, b-26	N-91° - W	1間×3間	340 380	580 (160~220)				83
SB-11	21.5	b-26, e-26, b-25, e-25	N-4° - W	1間×3間	360	600 (200)		SB7 石組 遷接		83
SB-12	40.9	e-24, d-24, c-23, d-23	N-4° - W	1間×6間	400	1000 (200, 220)		SB6, SB4 SB15	土師片、炭化物	85
SB-13	30.1	d-23, e-23	N-2° - E	1間×3間	420	720 (240)		SB14, SB18 SB17, SB19	土師片、織片(白堜)、 炭化物、石片、陶器片	86
SB-14	38.9	d-23, e-23, d-22, e-22	N-1° - E	1間×4間	440	880 (220)		SB13, SB24 SB19, SB24	黑曜石、石錐 土師片	87
SB-15	23.8	c-23, d-23	N-90° - W	2間×3間	400	600 (200)		SB12		88
SB-16	14.4	d-24, d-23	N-92° 30' - W	1間×3間	300	480 (160)		SB17, SB6		88
SB-17	20.4	d-24, e-24, d-23, e-23	N-93° 30' - W	1間×3間	340	600 (160~220)		SB13, SB18 SB16	土器片	89
SB-18	28.5	d-24, e-24, d-23, e-23	N-92° 30' - W	1間×3間	390	720		SB13, SB16 SB17, SB5	土師片	89
SB-19	7.7	d-23, e-23, d-22, e-22	N-95° 30' - W	1間×3間	260	680 (200~240)	120 180 200 (北・南)	SB13, SB14 SB24	炭化物、土師片 石片、土器	90
SB-20	36.0	d-22, e-22	N-1° 30' - E	1間×3間	500	720 (240)		SB14		91
SB-21	13.1	b-21, b-20	N-84° 30' - W	1間×2間	300	440 (220)				92
SB-22	21.8	b-23, c-23	N-81° 30' - W	1間×3間	390	560 (200~180)			炭化物	92
SB-23	20.5	b-22	N-84° - W	1間×3間	340	600 (200)		SC27		93
SB-24	24.7	d-23	N-100° - W	1間×3間	380	640, 660 (200~220)		SB19, SB14	土師皿片、土師片	93
SB-25	28.1	b-22, b-21	N-8° - W	1間×4間	400	720 (180)	90 (東)	SC25		94

掘立柱建物跡計測表 (2)

建物名	面積 (m ²)	グリッド	方 向	規 模	聚行 (cm)	朽 行 (cm)	高	廣	重複關係	出土遺物	因数 番号
SB-26	16.3	a-21	N-95° -W	1間×3間	330 340	480 (160)					95
SB-27	10.9	c-19, d-19	N-84° -W	1間×2間	260	420 (200, 220)	100 110	2面 (東・西)			97
SB-28	20.3	c-18, d-18, c-17, d-17	N-85° -W	1間×4間	280 300	700 (160~200)					98
SB-29	33.4	d-17	N-85° -W	2間×5間	350 430	840, 790 (140~200)			SB30		100
SB-30	18.1	d-17	N-5° -W	2間×2間	410 440	440, 400			SB29		100
SB-31	22.4	c-17	N-95° 30' -W	1間×3間	360	630 (220, 200)			SB32, SE4		101
SB-32	23.5	c-17	N-95° 30' -W	2間×3間	400 410	580 (180~210)			SB33, SE4		101
SB-33	11.6	b-19	N-80° -E	2間×2間	340 (170)	340 (160, 160)	70 80	2面 (東・西)			102
SB-34	31.6	a-17, b-17, b-16	N-85° 30' -W	1間×3間	460	550 (220)					102
SB-35	23.7	c-15, c-14	N-93° -W	1間×2間	450 480	490, 520 (140~200)					103
SB-36	27.3	b-14, c-14, b-13, c-13	N-4° -W	1間×3間	380 410	680, 700 (220, 240)					103
SB-37	26.6	e-6, e-7	N-102° 30' -W	1間×3間	460	580 (200, 180)			SB44, SB45		104
SB-38	24.0	f-4	N-16° -W	1間×3間	380 400	610, 620 (200, 220)					105
SB-39	12.9	d-4	N-25° 30' -W	1間×2間	300	490, 440 (200, 230)			SB40, SB42 SB41		105
SB-40	22.1	d-5, e-5, d-4, e-4	N-95° 30' -W	1間×3間	400	550 (170~200)			SB39	青磁、碗、玻化皿 土器片、罐器片 (青磁碗)、砾石	106
SB-41	38.2	d-4, e-4	N-97° -W	1間×4間	460 450	840 (200, 220)			SB43, SB42	朱竹碗、罐器片 青磁碗片	106
SB-42	38.9	d-4, e-4	N-95° 30' -W	1間×4間	500	740 (180, 200)			SB41, SB43 SB39	石	109
SB-43	16.3	d-4, e-4, d-3, e-3	N-11° 30' -W	1間×2間	420	385 (160, 220)			SB41, SB42	铁、钢(玉)	110
SB-44	42.1	e-7, f-7, e-6, f-6	N-18° -W	1間×4間	460 510	820, 850 (200~240)			SB37		111
SB-45	38.4	d-7, e-7, d-6, e-6	N-93° -W	1間×4間	460	800 (180~220)			SB37	織花皿、炭化物	112
SB-46	17.6	e-6, f-6, e-5, f-5	N-99° -W	1間×2間	420	420 (200, 220)			SB47	石	113
SB-47	17.1	e-6, f-6, e-5, f-5	N-102° -W	1間×2間	420 350	440 (220)			SB46	白磁碗	114
SB-48	27.2	d-5	N-89° -W	1間×3間	420 380	540 (200, 220)			SB49		114
SB-49	13.6	d-5	N-101° 30' -W	1間×2間	340	400 (180, 220)					115
SB-50	12.8	d-4, d-3	N-18° 30' -W	1間×2間	292	440 (220)			SB42		115

SB-50 (第115図)

d=3・4区に検出され、主軸はN-18°30' -Wを示す。建物は1間×2間で、梁292cm、桁行400・440cm、面積は約12.8m²を測る。柱穴径は30~40cm、深さは40~60cmである。SB42と重複している。

(2) 据立柱建物の分析

建物には1間×2間、1間×3間、1間×4間、1間×5間、2間×2間、2間×3間などの規格があるが、これらの建物の架行や桁行の長さは必ずしも一定ではない。特に架行は260cm~510cmと建物間での格差が大きい。そこで50cmごとに区分し、さらに主軸と調査区で分類

据立柱建物跡分類表

周 (m)	建 物 規 模	主				副			
		N-4° ~ 30° -W				N-80° ~ 105° -W			
		II	I	III	計	II	I	III	計
5	1間×2間			SB50	1	SB21	SB27	SB39	3
	1間×3間				0	SB19, SB16			2
300	1間×4間				0		SB28		1
301	1間×2間				0			SB49	1
	1間×3間				0	SB9, SB17 SB23, SB26			4
350	1間×4間				0	SB2			1
	2間×2間				0		SB33		1
351	1間×2間				0				0
	1間×3間	SB1, SB6		SB38	3	SB3, SB7, SB10 SB18, SB22, 34	SB31	SB40	8
400	1間×4間	SB5, SB11 SB55			3				0
	1間×5間	SB8, SB12			2				0
	2間×3間				0	SB15			1
401	1間×2間			SB43	1			SB46, SB47	2
	1間×3間	SB4, SB13	SB35		3			SB48	1
450	1間×4間	SB14			1				0
	1間×5間				0		SB29		1
451	2間×2間		SB30		1				0
	2間×3間				0		SB32		1
452	1間×2間				0		SB35		1
	1間×3間	SB20			1		SB34	SB37	2
453	1間×4間			SB44	1			SB41, SB42 SB45	3
	1間×5間				0				0
		II	I	4	17	15	*	8	10 33

すると表のようになる。この表からは建物の間数と梁行の長さとの相関関係は認められない。また、梁行350cmまではほとんど東西方向のみで、351~400cmでは東西、南北方向とも半々ずつになり、450cmを越えるとまた東西方向が増えてくる。調査区ごとにみてみると、II区では梁行350cm以下では東西方向のみ8軒で、351~400cmになると南北方向が7軒と多くなり、東西方向は7軒とやや減少する。401cmを越えると南北のみ4軒と少ない。I区はどの長さのものも存在するが、東西方向が8軒が多い。III区はII区と逆で、梁行400cmを越すものが多く、その大部分は東西方向を示している。このように梁行で分類してみると主軸方向や分布状況に偏りがみられ、梁行の長さが時期によって変移していたとも考えられる。

桁行は、梁行との明確な関係は認められないが、梁行450cmを越えると1間×4間が主体となり1間×5間、2間×2間、1間×3間などの建物は減少する。柱間距離は160~260cmまであるが、180~200cmが最も多く使用されている。

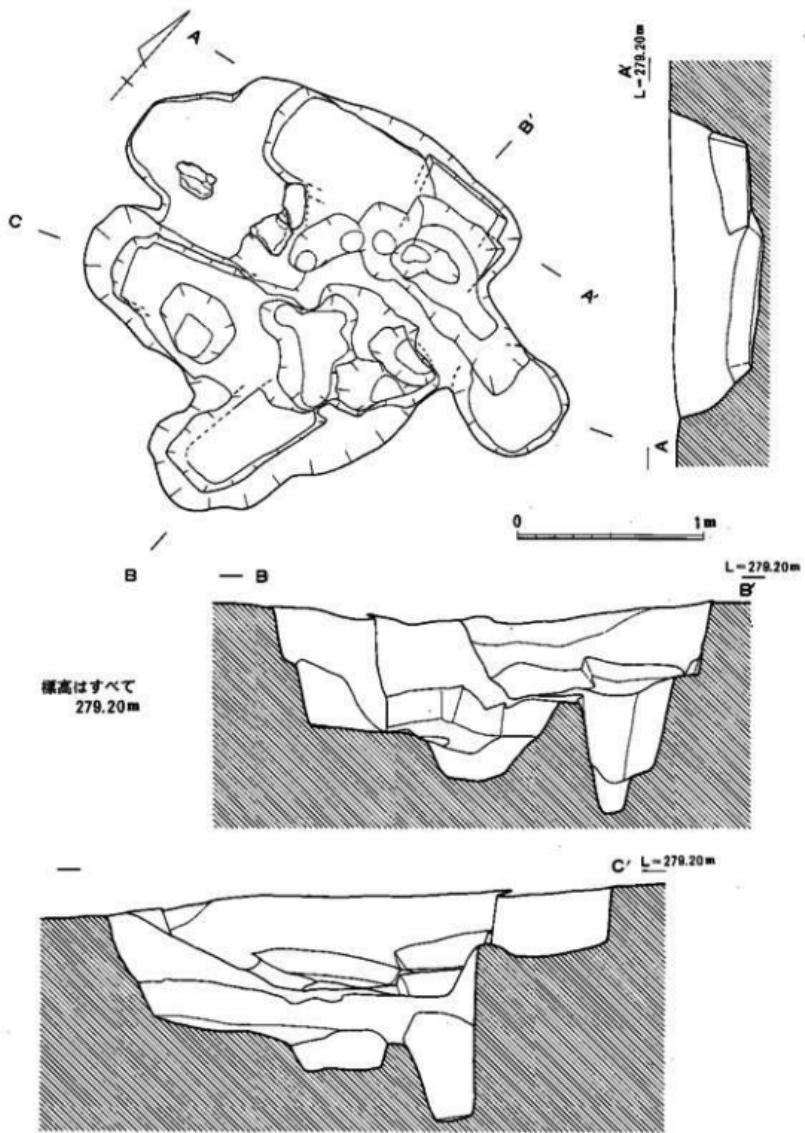
身舎の床面積は、SB44(1間×4間)の42.1m²を最大とし、SB27(1間×2間)の10.9m²を最小とする。基本的には桁数が多くなれば面積も広くなるが、SB35(1間×2間)のように面積が20m²を超え、1間×3間の建物より大きいものもみられ、これは前述したように梁行との関係が指摘できる。

(3) 土塀(第116~132図)

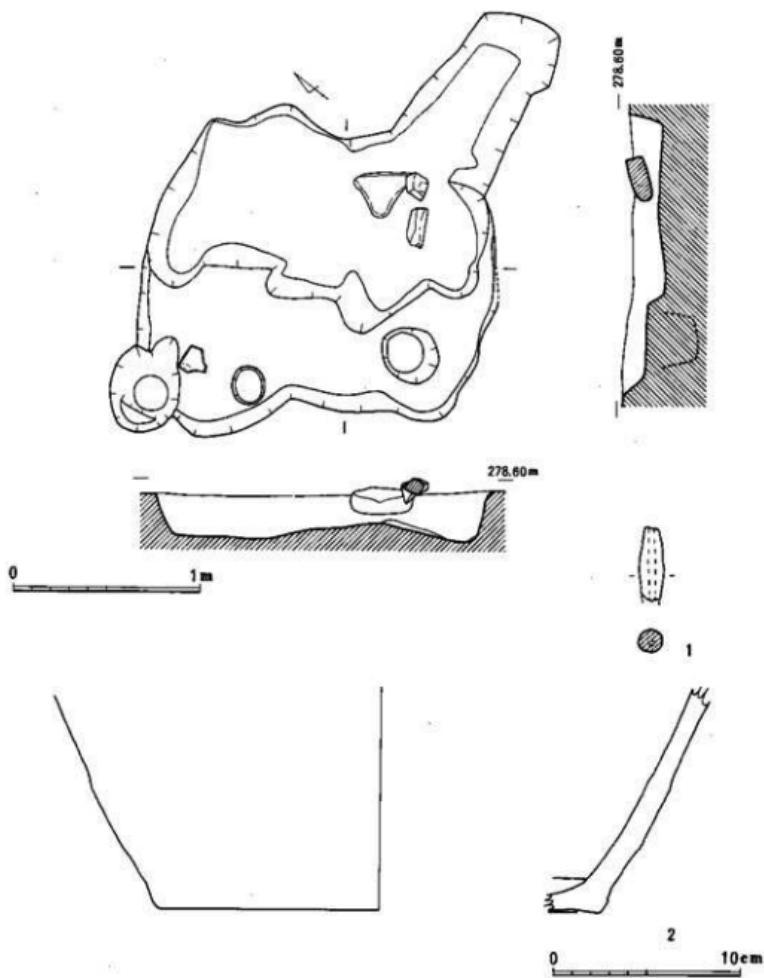
土塀は総数で128基検出され、その内訳はII区28基、I区26基、III区7基、IV区67基であるが、時期・用途についてはほとんどが不明である。

分布状況は大きいくつかに分けられる。II区ではb~d-27~28区にSC5~14の10基、a-25区にSC15~16の2基、c~e-24~26区にSC1~4、17~21、61の10基、b~d-27~28区にSC5~14の10基、b~d-27~28区にSC5~14の10基、b·c-21~22区にSC22~27の6基となる。I区では、c·d-18~19区にSC28~33·37の7基、c-16区にSC36~38の2基、e~g-16~17区にSC34~35·42~53の14基、c·d-14区にSC39~41の3基である。III区は、d·e-11~12区にSC54~55の2基、c~f-8~10区にSC56~59の4基、g-2区にSC60の1基が分布している。IV区では跡だったまとまりはみられず、発掘区全体につくられている。

土塀には、長方形、円形、長楕円形、不定形や長さ6mを越えるものなどいろいろな形態のものがあり、定型化しているものもいくつかみられる。長軸1mを越える長方形で深さ1m前後のもの(I類)、円形や正方形を呈し深さ1m前後のもの(II類)、長方形で深さ40~80cm前後のもの(III類)、端部にピットをもつもの(IV類)、円形で深さが20~50cm前後のもの(V類)などある。I類(SC29~31·57~58など)、II類(SC54~55~60など)の数は少なく、II·III区にのみ分布している。III類(SC3·15·16·22~24·60など)はI~IV区全体にみられる。IV類は特にIV区に47基集中しているが、I類·II類の土塀は検出されていない。



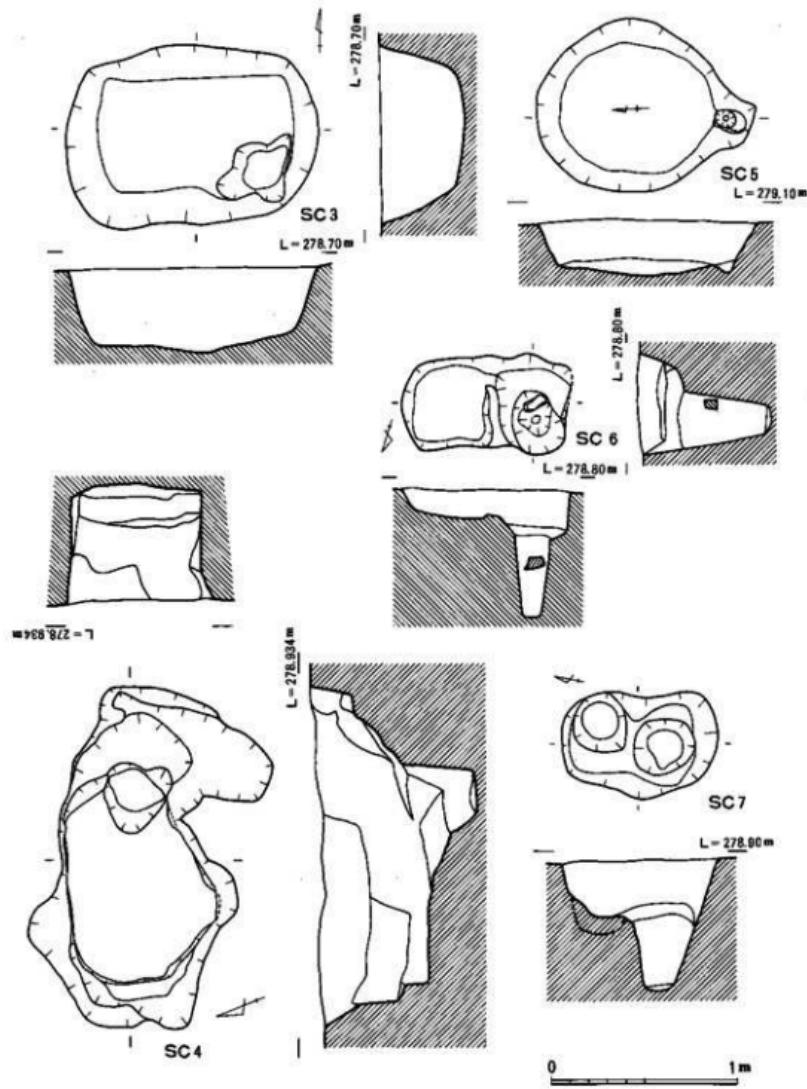
第116図 SC 1



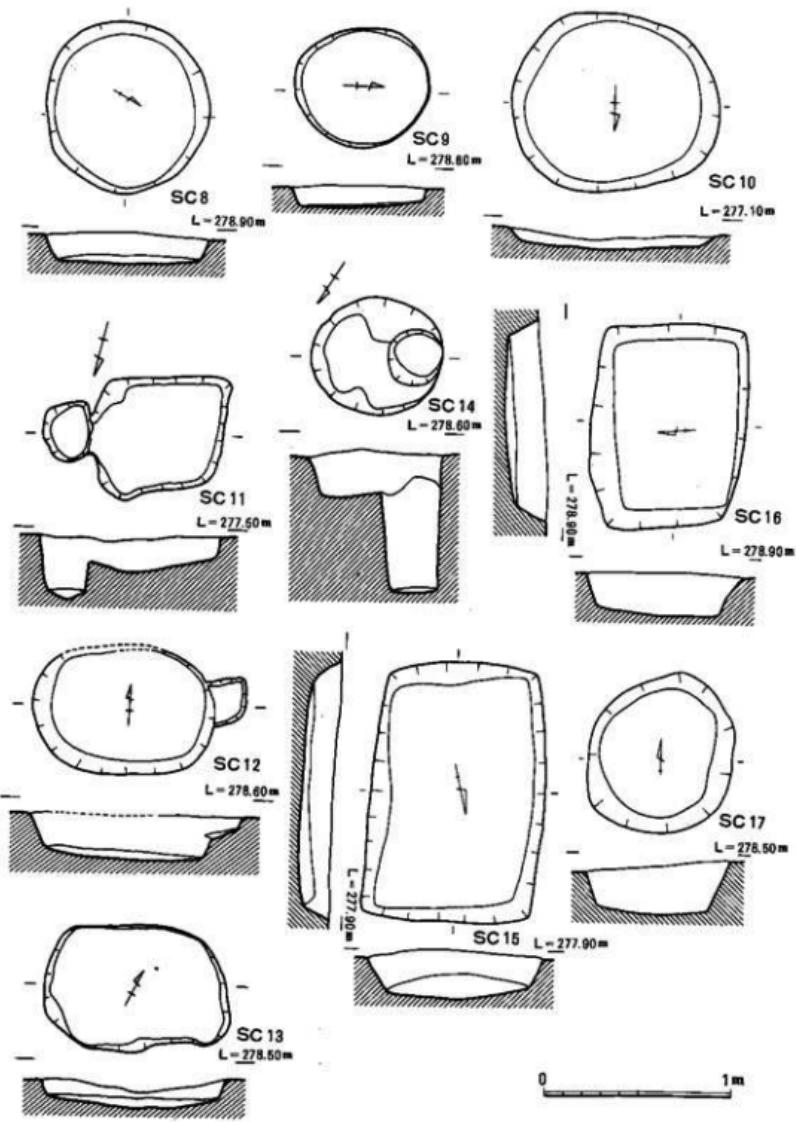
遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土器	3.9	1.4	1.3	5.2	SC-2 欠損		にぶい黄褐色	きめ細かい

遺物番号	出土地点	器種	底面積(cm ²)	形態・手 法の特徴ほか	色調	胎土
2	SC-2	陶器	—	23.7 外面ナデ、底面粗いハケ状のナデ	外周部褐色 内周部灰褐色、白色斑(少)	

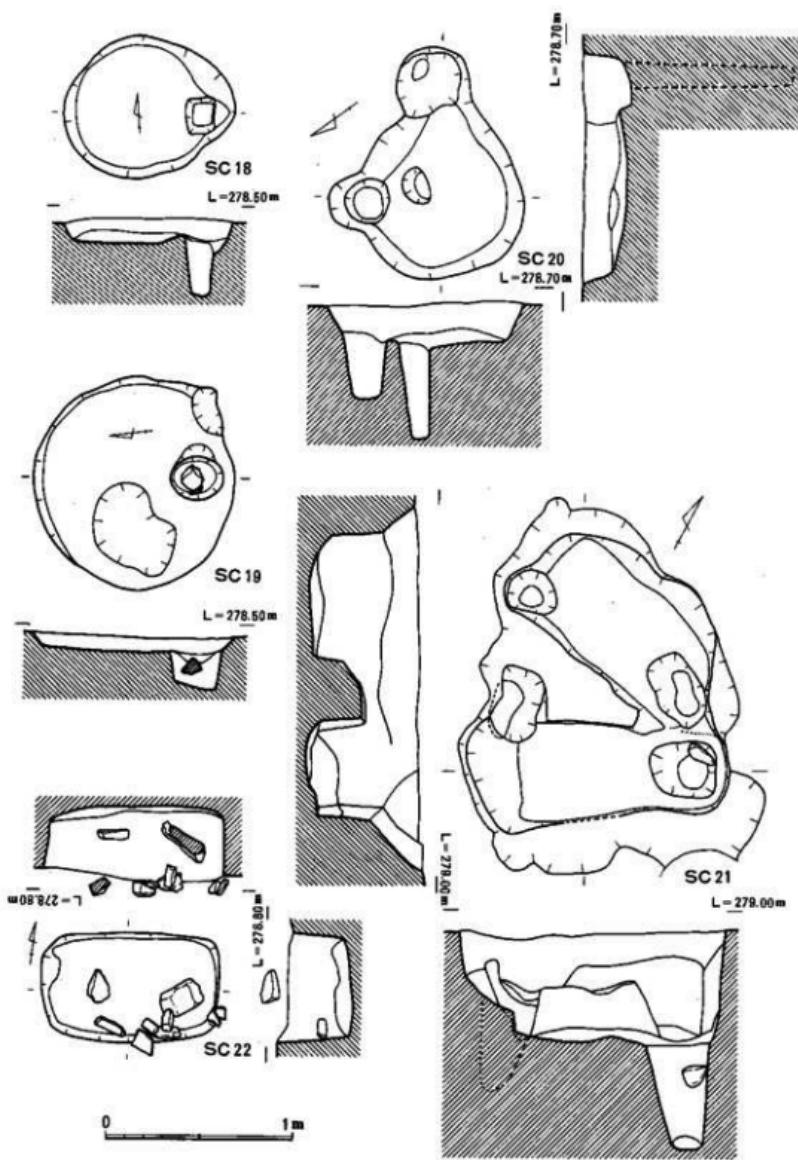
第117図 SC-2



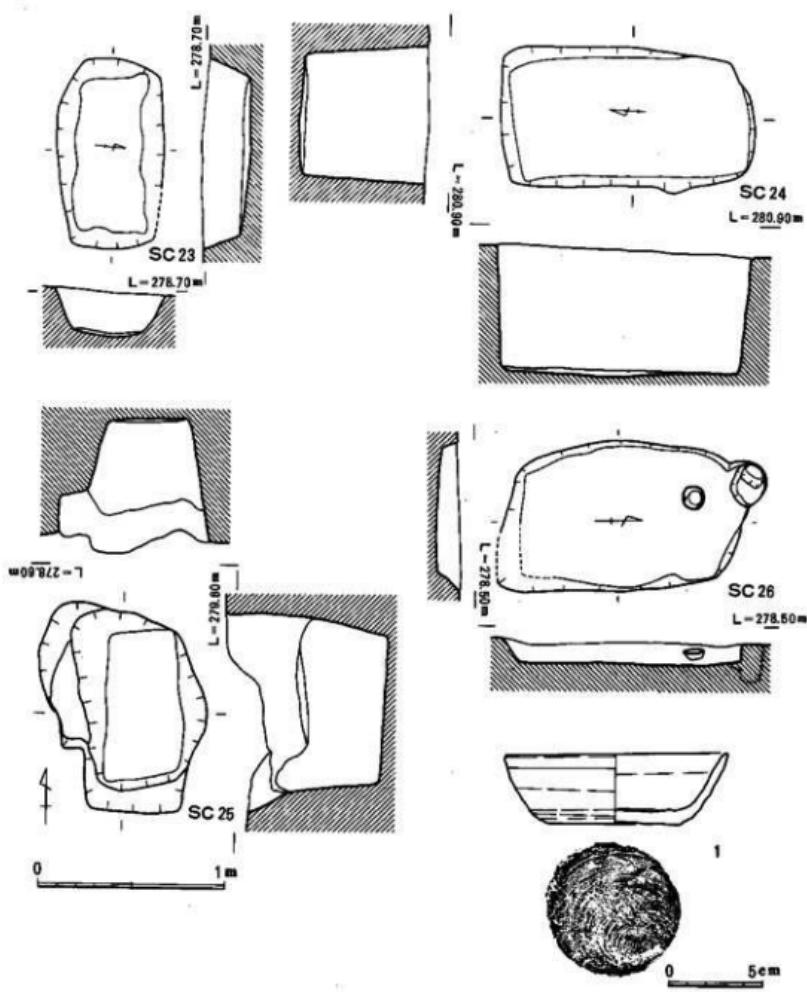
第118図 SC 3, 4, 5, 6, 7



第119図 SC 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17

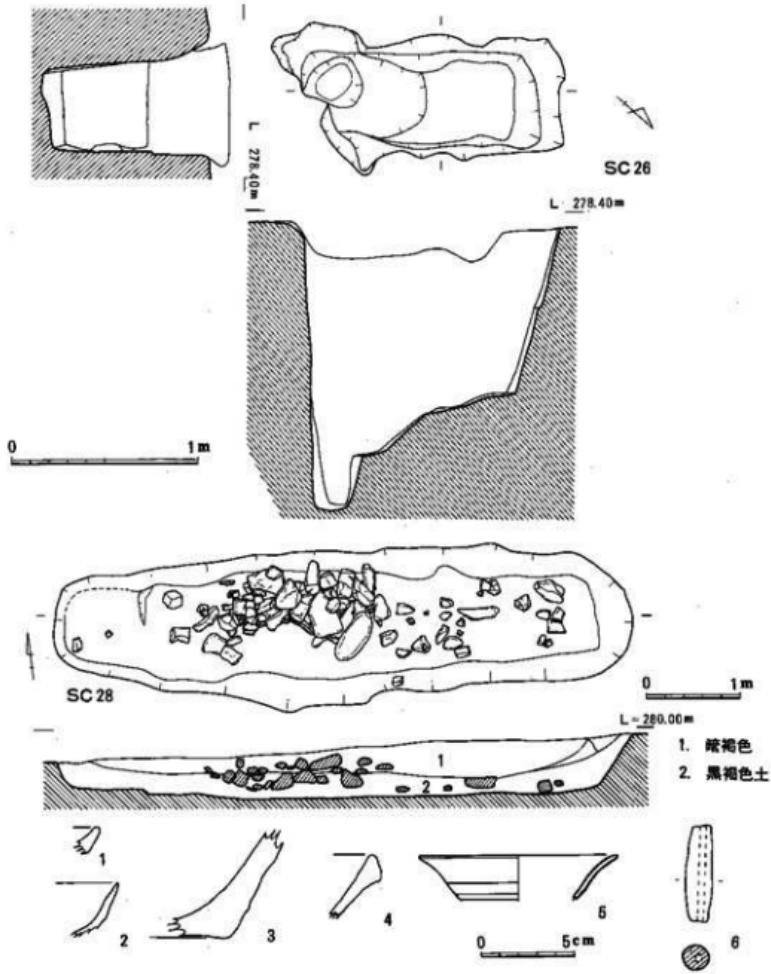


第120図 SC 18, 19 20, 21, 22



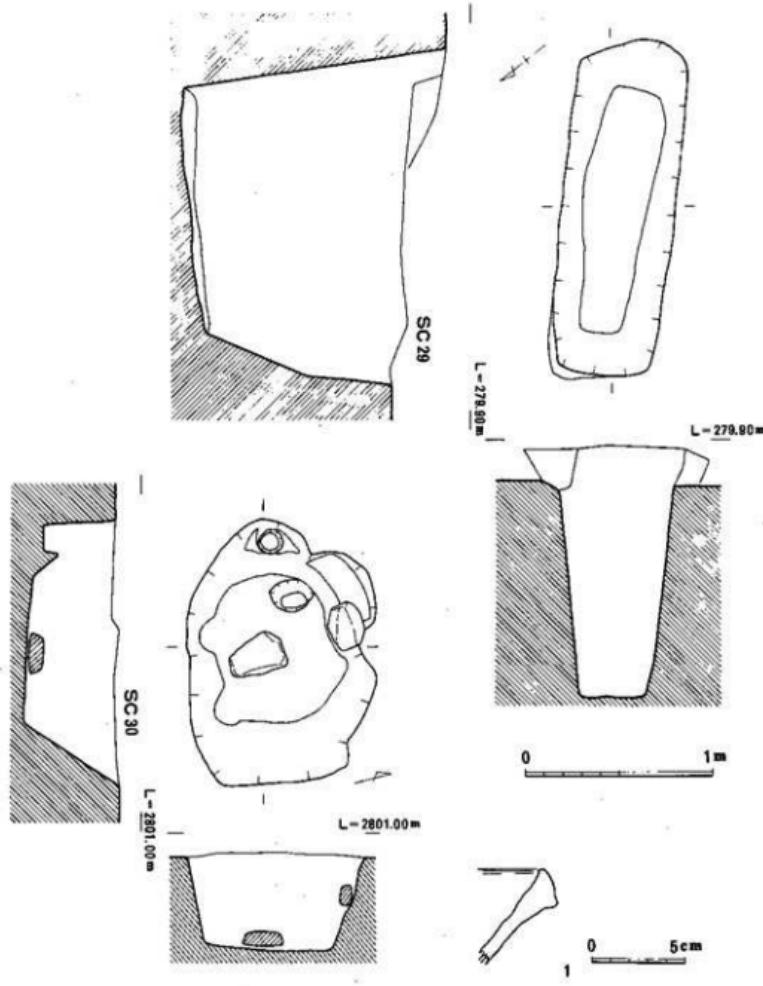
遺物 番号	出土地点	器種	法 量 (cm)	形態・手法の特徴はか	色調	胎土
1	SC-26	土師質 壺	11.8 7.2 4.9	ていねいな横ナギ、糸切り底	明赤褐	きめ細か

第121図 SC 23, 24, 25, 26



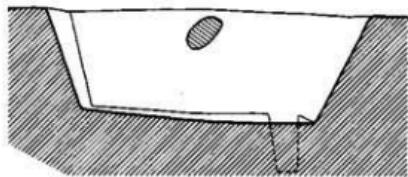
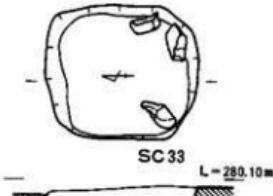
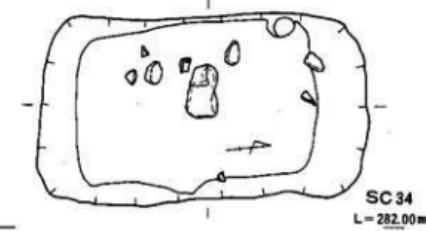
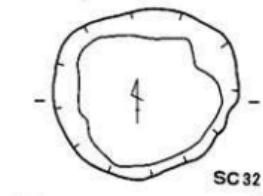
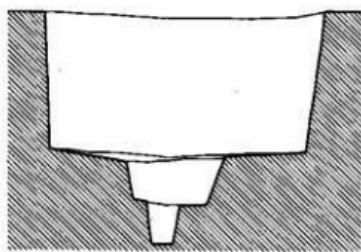
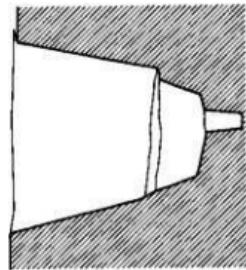
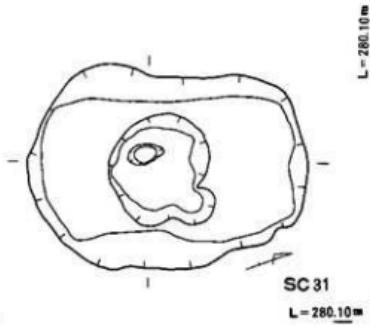
遺物 番号	出土地点	器 種	注 量 (cm)			形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土	
			口徑	底径	高さ				
1	SC-28	土師質 瓢	—	—	—	ナデ、系切り底?	(外)にい焼成 内に油墨	きめ細か	
2	SC-28	土師質 瓢	—	—	—	横ナデ	淡黄褐	きめ細か	
3	SC-28	陶器 瓢	—	—	—	外面継ナデ、内面ナデ、縫前焼?	(外)糊茶褐 (内)暗褐	細砂	
4	SC-28	陶器 瓶	—	—	—	横ナデ、口部内面自然糊、「束縛系」	淡青灰	きめ細か	
5	SC-28	青磁 瓶	10.6	—	—	内外面大きな貫入、外底部下半丸窓、口縁端粗粒	灰白	精良	
遺物 番号	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
6	土 瓶	5.3	1.5	1.5	11.7	SC-1	欠損、端部面取り	淡黄	きめ細か

第122図 SC 26・28



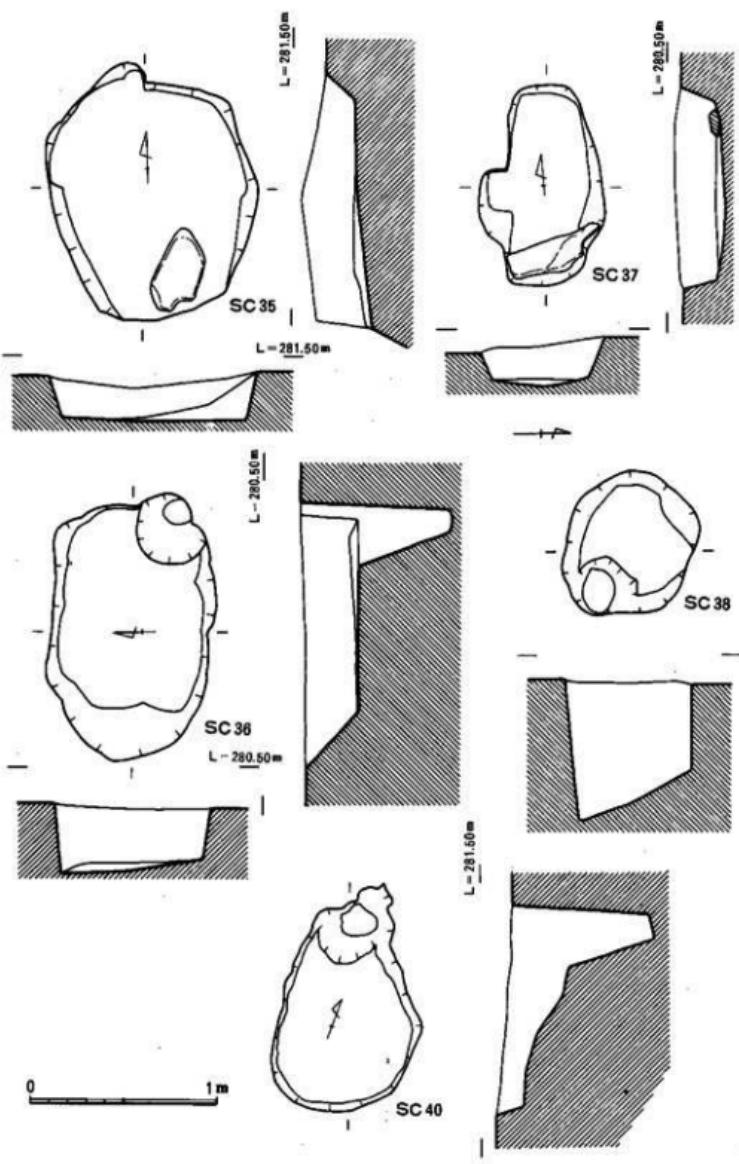
遺物 番号	出土地点	器種	法 量 (cm)	形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
1	SC-30	陶器 体	— — —	— 内面焼ナゲ付ナゲ、外面焼ナゲ、口縁外唇のみ施皮膜系	淡青灰	きめ細か、縮砂

第123図 SC 29, 30

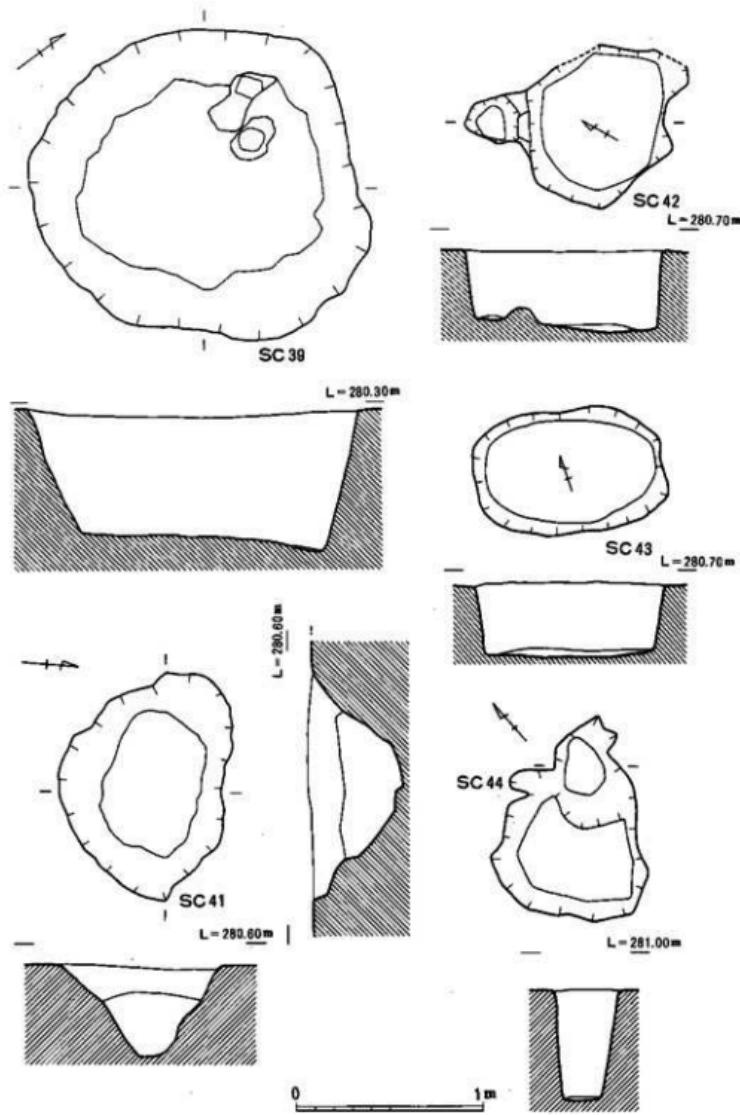


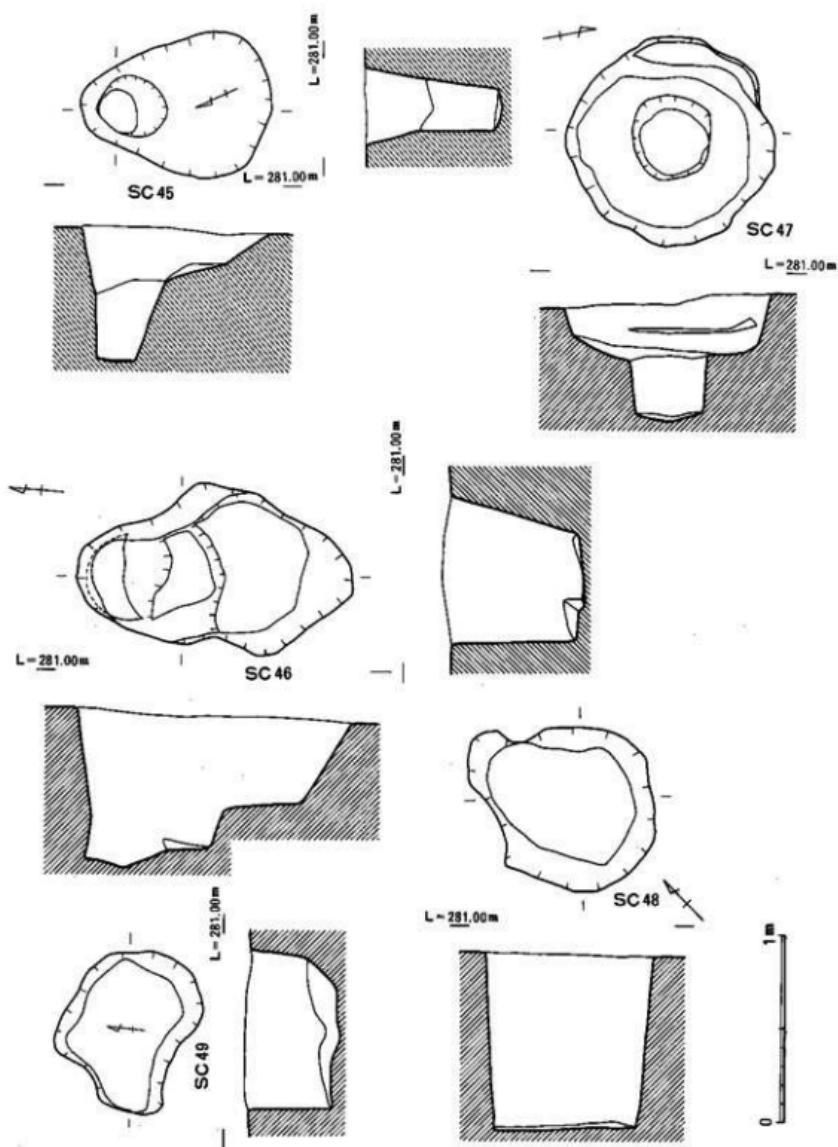
0 1m

第124図 SC 31, 32, 33, 34

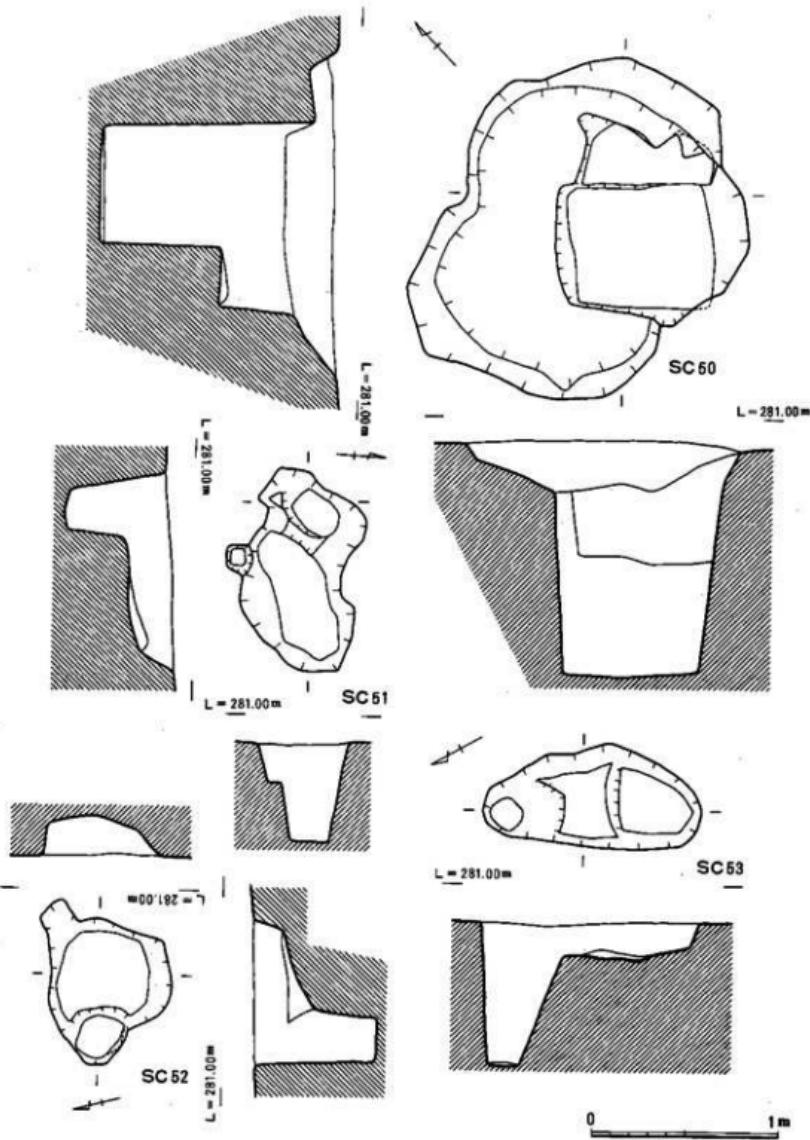


第125図 SC 35, 36, 37, 38, 40

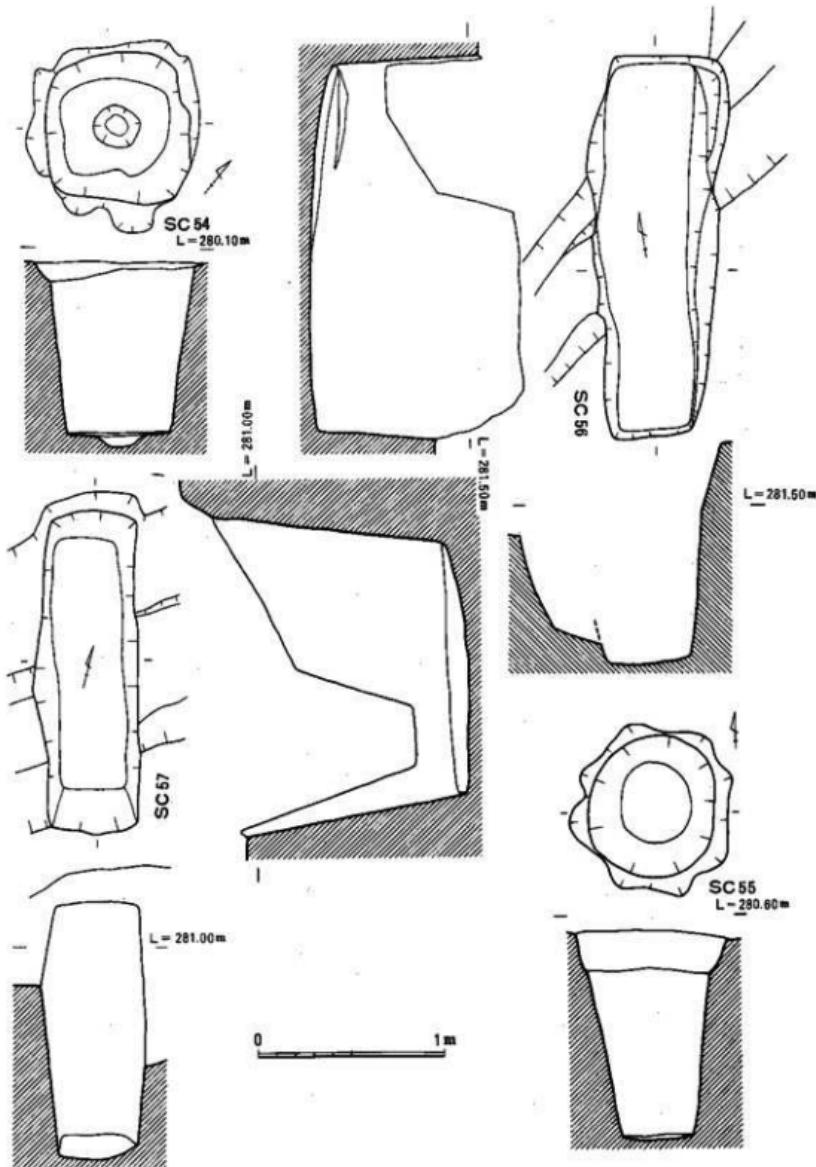




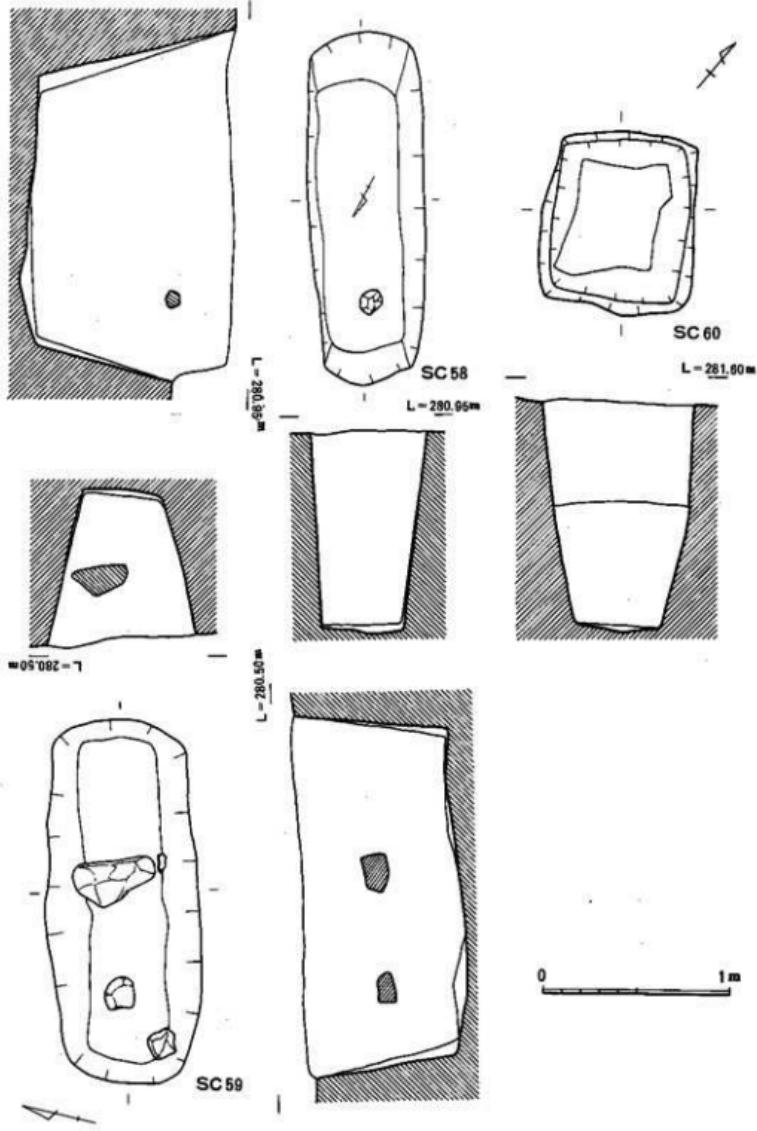
第127図 SC 45, 46, 47, 48, 49



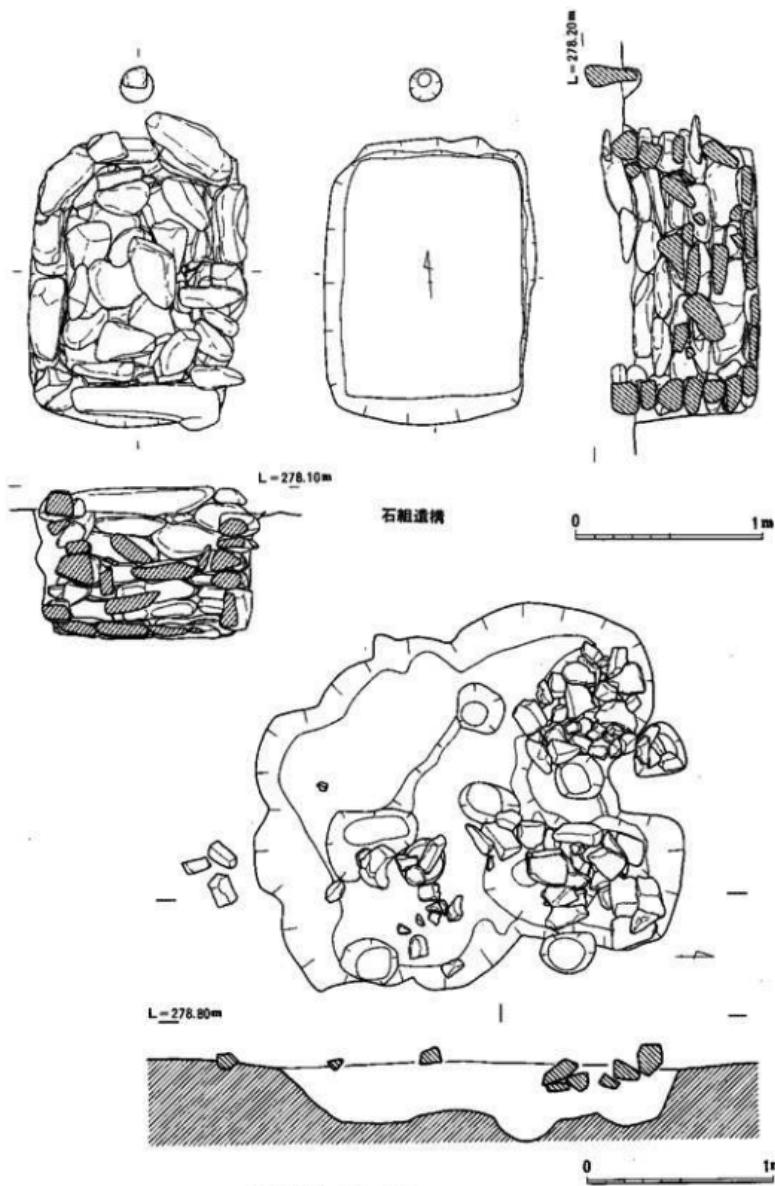
第128図 SC 50, 51, 52, 53



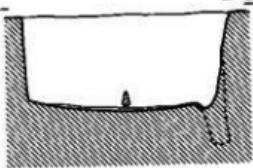
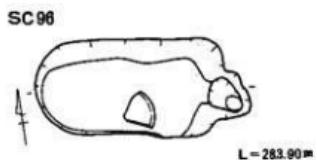
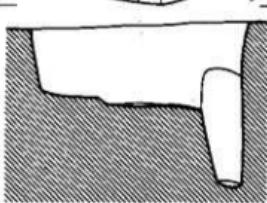
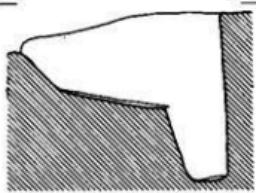
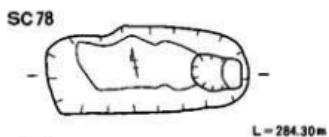
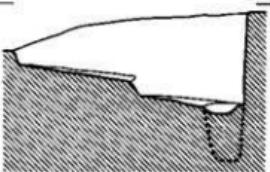
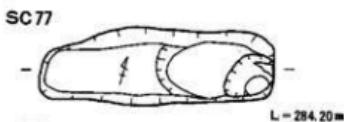
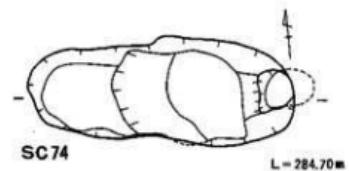
第129図 SC54, 55, 56, 57



第130図 SC 58, 59, 60



第131図 石組造構・SC 61



0 1 m

第132図 SC 74, 77, 78, 95, 96

土 壴 観 察 表 (1)

土坡番号	形 態	分類	グリット	長軸(m)	短軸(m)	厚さ(m)	出 土 遺 物	面番号	備 考
SC 1	不 定 形	III	e-26	2.36	2.0	0.71		116	4つの土壤の切り合いか?
SC 2	不 定 方 形		c-24	2.08	1.6	0.22	陶器残部、土塊、土質質(赤色)	117	
SC 3	長 方 形	III	d-25	1.34	0.96	0.45		118	
SC 4	不 定 長 方 形	IV	d-25, e-25	1.82	0.79	0.64		"	東端に深さ34cmのビット
SC 5	円	V	d-28	1.17	0.91	0.30		"	
SC 6	方 形	IV	d-27	1.03	0.49	0.15		"	西端に深さ54cmのビット
SC 7	方 形		c-27	0.83	0.43	0.3		"	2つの柱穴の切り合いか?
SC 8	円	V	c-28	0.88	0.92	0.18		119	
SC 9	円	V	c-27	0.72	0.64	0.11		"	
SC 10	円	V	c-27	0.95	1.11	0.06		"	
SC 11	方 形	IV	b-28	0.60	0.97	0.16		"	東端に深さ20cmのビット
SC 12	椭 圆 形	III	b-28	0.96	0.68	0.24		"	
SC 13	不 定 方 形	III	b-28	0.98	0.69	0.09		"	
SC 14	円	IV	b-28	0.84	0.71	0.24		"	西端に深さ53cmのビット
SC 15	長 方 形	III	a-25	1.40	0.93	0.26		"	
SC 16	長 方 形	III	b-25	0.83	1.09	0.20		"	
SC 17	円	V	c-25	0.84	0.77	0.26		"	
SC 18	円	IV	c-25	0.78	0.92	0.12		120	東端に深さ32cmの方形ビット
SC 19	円	IV	c-16	1.07	1.14	0.08		"	南端に深さ26cmのビット
SC 20	不 定 形	IV	d-25	1.05	1.33	0.24		"	北・東・中央にビット
SC 21	方 形	IV	d-25, e-25	1.95	1.42	0.58		"	長方形土壙の切り合いか、いずれも裏面にビット
SC 22	長 方 形	III	e-22	0.69	0.94	0.39		"	上位から中位に葛根岩
SC 23	長 方 形	III	c-22	0.975	1.02	0.27		121	
SC 24	長 方 形	I	c-22, c-21	1.35	0.738	0.70		"	
SC 25	方 形	I	b-21	1.51	1.06	0.86		"	
SC 26	方 形	III	a-22	1.38	0.86	0.12	土質質環(赤色)	"	
SC 27	方 形	IV	b-22	1.37	0.64	0.65		122	南端に深さ47cmのビット
SC 28	長 横 円 形		e-19, c-18	6.15	1.48	0.44	土質質小球、青石、石塊、馬頭(瓦面)、削鉗頭、土壙	"	内部に河原石の集積
SC 29	長 方 形	III	d-19	1.76	0.89	1.34		123	
SC 30	不 定 形		c-18	1.42	0.92	0.92	陶器片、東振系鉢、土質質瓦片	"	東端にビット
SC 31	長 方 形	III	e-18	1.58	1.03	1.23		124	中央に二段ビット
SC 32	円	V	c-18	0.88	0.90	0.38	陶器片、土質質瓦片	"	
SC 33	方 形		c-18	0.81	0.71	0.19		"	
SC 34	長 方 形	III	e-17	1.74	0.97	0.61		"	
SC 35	不 定 形		e-17	1.11	1.39	0.30	土質質瓦片	125	南端に扁平な石。南側は削平
SC 36	方 形	IV	c-16	1.35	0.83	0.33		"	東端に深さ50cmのビット
SC 37	長 方 形	III	c-15	1.075	0.66	0.22		"	南端に扁平な石
SC 38	不 定 円 形		c-15	0.89	0.76	0.67		"	
SC 39	不 定 円 形		c-14	1.75	1.60	1.09	炭化物	126	
SC 40	不 定 形		c-14	0.78	1.12	0.30		125	北端に深さ40cmのビット
SC 41	不 定 形		d-14	0.97	1.22	0.47		126	
SC 42	不 定 形		f-16	0.92	0.72	0.43		"	
SC 43	椭 圆 形	III	f-16	1.03	0.66	0.375		"	

土 壤 調 査 表 (2)

土壤番号	形 素	分類	グリット	長軸(m)	短軸(m)	面積(m ²)	出 土 遺 物	面積割り	備 考
SC 44	不 定 形	IV	f-16	0.96	0.71	0.69		126	一段掘り(北東側が深い)
SC 45	不 定 形	IV	f-16	1.01	0.74	0.72		127	北端に深さ42cmのビット
SC 46	不定圓形		f-16	1.42	0.815	0.83		"	三段掘り(南から順に深くなる)
SC 47	円 形	V	f-16	1.10	1.11	0.62		"	中央に径44cm、深さ35cmのビット
SC 48	不正円形	VI	f-16	0.88	0.89	0.93		"	
SC 49	不 定 形		g-16	0.855	0.69	0.49		"	
SC 50	方 形	II	g-16	1.75	1.46	1.18		128	
SC 51	不 定 形	IV	f-16	1.07	0.51	0.23		"	西端に深さ31cmのビット
SC 52	不定圓形	IV	f-16	0.78	0.66	0.66		"	西端に深さ33cmのビット
SC 53	不定圓形	IV	f-16	1.17	0.56	0.76		"	北東端に深さ60cmのビット
SC 54	正 方 形	II	d-12	0.90	0.99	0.98		129	闕文前期の土壌の可能性あり
SC 55	円 形	II	d-11, e-11	0.83	0.87	1.125		"	闕文前期の土壌の可能性あり
SC 56	長 方 形	I	f-10	2.03	0.64	1.12		"	SB5と切り合い
SC 57	長 方 形	I	f-9	1.81	0.55	1.27		"	SB5と切り合い
SC 58	長 方 形	I	d-9	1.89	0.62	1.085		130	
SC 59	長 方 形	I	c-8	1.94	0.81	0.79	青磁	"	
SC 60	正 方 形	II	g-2	0.99	0.81	1.33		"	
SC 61	不 定 形		c-24	2.14	1.73	0.38		131	淡褐色が黒穢
SC 62	長椭円形	IV	m-5	0.93	0.34	0.16			北東端に深さ38cmのビット
SC 63	長椭円形	IV	m-5	0.74	0.27	0.26			北東端に深さ31cmのビット
SC 64	長椭円形	IV	m-4	1.66	0.52	0.51			北東端に深さ43cmのビット
SC 65	長椭円形	IV	m-5	0.86	0.30	0.20			北端に深さ26cmのビット
SC 66	長椭円形	IV	k-6	0.97	0.80	0.34			北端に深さ26cmのビット
SC 67	長椭円形	IV	k-5, k-6	1.70	0.64	0.49			東南端に深さ16cmのビット
SC 68	長椭円形	IV	k-6	1.46	0.60	0.56			北端に深さ29cmのビット
SC 69	長椭円形	IV	j-5, j-6	1.23	0.54	0.42			東南端に深さ42cmのビット
SC 70	長椭円形	IV	j-5	2.03	0.80	1.01			北東端に深さ18cmのビット
SC 71	長椭円形	IV	j-5	1.74	0.64	0.70			東端に深さ21cmのビット。SE14と切り合い
SC 72	長椭円形	IV	j-4, j-5	1.42	0.51	0.45			北西端に深さ35cmのビット
SC 73	長椭円形	IV	k-4, j-4	-	0.46	0.40			東南端に深さ16cmのビット
SC 74	長椭円形	IV	l-4, k-4	1.36	0.58	0.43		132	東北端に深さ5cmのビット
SC 75	長椭円形	IV	l-4	1.40	0.53	0.16			東端に深さ10cmのビット
SC 76	長椭円形	IV	k-3	0.86	0.42	0.19			東北端に深さ28cmのビット
SC 77	長椭円形	IV	k-3	1.30	0.48	0.27		133	東端に深さ36cmのビット
SC 78	長椭円形	IV	k-3	1.08	0.48	0.42		"	東端に深さ36cmのビット
SC 79	長椭円形	IV	j-4	1.70	0.55	0.73			南端に深さ14cmのビット
SC 80	長椭円形	IV	j-3, l-3	1.70	0.56	0.63			北東端に深さ34cmのビット。SE7と切り合い
SC 81	長椭円形	IV	i-3	1.08	0.50	0.38			東端に深さ30cmのビット。SE7-SE9と切り合い
SC 82	長椭円形	IV	i-3	1.40	0.56	0.30	土器質直片(系切り)		東端に深さ38cmのビット。SE6-SE7と切り合い
SC 83	長椭円形	IV	l-5	0.97	0.46	0.31			北東端に深さ25cmのビット。SE14と切り合い
SC 84	長椭円形	IV	j-5	-	0.40	0.14			東端に深さ22cmのビット。SE14と切り合い
SC 85	長椭円形	IV	j-5	1.12	0.36	0.27			南端に深さ4cmのビット。SE14と切り合い
SC 86	長椭円形	IV	h-3	1.64	0.60	0.36			南端に深さ38cmのビット。SE14と切り合い

土 壴 観 察 表 (3)

土地番号	形 態	分類	グリット	長軸(m)	短軸(m)	厚さ(m)	出 土 遺 物	剖面番号	備 考
SC 87	長椭円形	IV	i- 5	1.28	0.44	0.22			北東端に深さ17cmのピット
SC 88	長椭円形	IV	i- 4	1.26	0.64	0.57			北端に深さ24cmのピット。SE12と切り合い
SC 89	長椭円形	IV	i- 4	1.32	0.66	1.05			北東・南端に深さ約8cmのピット。SE14・SE15と切り合い
SC 90	長椭円形	IV	h- 4, h- 5	1.50	0.38	0.11			北端に深さ30cmのピット。SE14と切り合い
SC 91	長椭円形	IV	i- 5	0.92	0.52	0.25			東端に深さ34cmのピット
SC 92	長椭円形	IV	i- 6	1.80	0.44	0.75			東端に深さ19cmのピット
SC 93	長椭円形	IV	i- 6	1.34	0.53	0.39			北西端に深さ45cmのピット
SC 94	長椭円形	IV	i- 6	1.50	0.70	0.66			北端に深さ40cmのピット
SC 95	長椭円形	IV	i- 6	1.17	0.49	0.43		132	北東端に深さ41cmのピット
SC 96	長椭円形	IV	i- 6	1.16	0.50	0.51			= 東端に深さ22cmのピット
SC 97	長椭円形	IV	g- 7	0.72	0.36	0.14			東端に深さ25cmのピット
SC 98	長椭円形	IV	g- 6	0.80	0.38	0.49			東南端に深さ21cmのピット
SC 99	長椭円形	IV	h- 5	1.08	0.42	0.22			北端に深さ43cmのピット。SE100と切り合い
SC 100	長椭円形	IV	h- 5	-	0.42	0.36			東端に深さ41cmのピット
SC 101	長椭円形	IV	h- 4	-	0.52	0.41			北端に深さ26cmのピット。SE14と切り合い
SC 102	長椭円形	IV	h- 4	1.16	0.48	0.58			東南端に深さ16cmのピット
SC 103	長椭円形	IV	h- 4	2.22	0.52	0.73			東北端に深さ25cmのピット
SC 104	長椭円形	IV	i- 3	0.96	0.60	0.79			東端に深さ23cmのピット。SE8-SE9-SE10と切り合い
SC 105	長椭円形	IV	h- 3, h- 4	2.28	0.66	0.97			北東端に深さ21cmのピット
SC 106	長椭円形	IV	i- 3, i- 4	1.15	0.52	0.44			西南端に深さ24cmのピット。SE10-SE11と切り合い
SC 107	長椭円形	IV	h- 3, h- 4	0.96	0.50	0.43			東南端に深さ32cmのピット。SE14と切り合い
SC 108	長 方 形	m- 4		1.10	0.50	0.27			
SC 109	長 方 形	n- 5		1.35	0.50	0.34			
SC 110	正 方 形	IV	n- 4	1.60	0.55	0.33			東端に深さ13cmのピット。南端に深さ7cmのピット
SC 111	不定形	m- 4		1.90	0.49	0.38			北端端に深さ6cmのピット。南端に深さ12cmのピット
SC 112	長 方 形	m- 3		1.95	0.45	0.26			
SC 113	長椭円形	m- 3		1.10	0.70	0.51			
SC 114	長 方 形	m- 3		1.20	0.55	0.46			
SC 115	不定方形	l- 6		1.60	0.55	0.56			
SC 116	不定方形	l- 6		1.35	0.45	0.56			
SC 117	不定形	m- 3		1.15	0.80	0.57			
SC 118	長 方 形	m- 3	j- 6	1.30	0.50	0.47	荒玉頭室		
SC 119	長 方 形	m- 3	j- 5	0.90	0.50	0.45			SC70と切り合い
SC 120	不定方形	j- 4		1.10	0.30	0.17			
SC 121	長 方 形	j- 3		0.60	0.45	0.33			
SC 122	不定形	j- 3		0.80	0.35	0.31			
SC 123	不定形	j- 3		-	0.50	0.27			
SC 124	不定形	j- 5		1.16	0.60	0.59			SE14と切り合い
SC 125	不定形	j- 6		1.10	0.55	0.41			
SC 126	不定形	h- 5, h- 6		1.40	0.50	0.66			
SC 127	長椭円形	h- 4		1.45	0.45	0.79			
SC 128	不定方形	h- 4		0.90	0.60	0.25			

また、IV類の内部ピットは北～東にかけて多く掘られているが、ピットの位置や土坑の位置の規則性・方向性は認められない。

土坑からの出土遺物は少なく、SC26から完形の糸切り底の土師質環が、SC28から陶器片、土師片、青磁片や滑石製の石鍋片が、SC118から寛永通宝などが出土している。

(4) 石組造構（第131図）

b-26区の第Ⅲ層上面で検出され、SB10の建物内につくられるが、時期や建物との前後関係については不明である。掘方は長軸1.5m、短軸1.2m、深さ約0.65mの長方形を呈し、主軸はほぼ北を示している。石組はまず床面に扁平な河原石を平坦に敷きつめ、その後、長めの石の平らな面を内側に向け、敷石の上から組み始めている。側壁の石は横位に使用され、掘方の壁面が石の形に凹んでいることから、内側の面を合わせるために壁面に打ち込んだと考えられるが、裏込め石や石組の隙間に小礫や粘質土は認められない。内部には上部構造の石が落込み、埋土は灰と思われる粘質土や炭化物、焼土などを含んだ暗褐色土で、敷き石直上には炭化物や赤変した土が極く薄く検出された。出土遺物としては埋土中から鉄片や土師質小皿（ヘラ切り）の小片など少ない。また、北側短辺ほぼ中央の北、約20cmには径16cm、深さ10cmのピットがあり、内部には河原石が立った状態で検出され、石組造構に関連した遺構と考えられる。

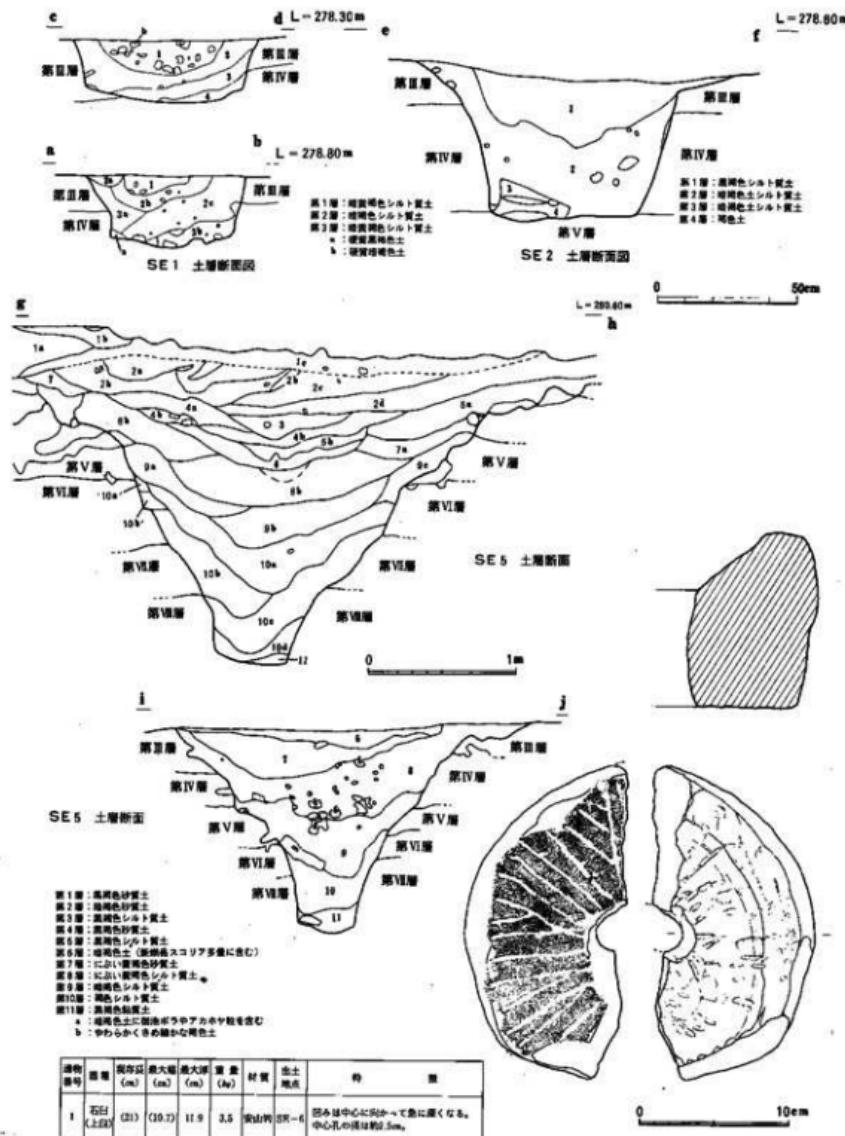
(5) 溝状造構

溝状造構は全部で27条検出されている。ここではI区～III区にあるSE1～5までの5条について述べ、残りについてはIV区・V区のところで触れる。（第133図）

SE1

c～e-24～26区のⅢ層上面で検出された。幅50～70cm、深さ20～30cm、断面は台形を呈した「L」字形に区画する溝で、SB8と重複しSB11とも非常に接近している。造構の遺存状態はあまり良くなく、東端は次第に浅くなり消滅している。SE2との前後関係は不明であるが、SE1の南北に走る溝がSE2との接点で消滅していることなどから、同時期使用の可能性もある。また、SE1とSE2とのレベル差は数cm SE1のほうが高い。土層の堆積は第1層が暗褐色土層、第2層はボラ粒や炭化物を少量含む黒褐色土層、第3層は全体にボラ粒を含む暗褐色土層、第4層はボラ粒を多く含む暗黄褐色土層となっている。

出土遺物には土師質皿（糸切り・ヘラ切り）、東播系鉢、備前焼、青磁碗、銅鏡、砥石、土鍬などがある（第134図1～4・12～14）。銅鏡はc-26区の底面約10cmの高さから出土しているが、c-23区の柱穴からも同一個体と思われる鏡片がみつかっていることから、流れ込みと考えられる。鏡は2分の1ほど欠損し、二次的に火を受けたためか歪んでいる。推定径約12cm、厚さ約0.5cmの円鏡で、縁は直角式を呈す。また、外区には鋸歯文がみられるが、内区の文様は確認できない。産地不明陶器の壺口縁部も出土している。



第133図 SE1・2・5 土層断面図および出土遺物

SE 2

a～c-24・25区の境を東西に走る溝で、東端は遺存状態が悪いためc-24区で消滅している。幅約110cm、深さ55cm、断面は台形をなし、第V層（アカホヤ層）まで掘りこんでいる。出土遺物は土師質皿（糸切り）、東播系鉢、產地不明の陶器片、青磁画花文碗などがある。（第134図5・6・15・16）。土層の堆積は第1層が黒褐色土層、第2層は炭化物を多く含む暗褐色土層、第3層は暗褐色土層、第4層はボラ粒を含まない褐色土層となる。

SE 3

a～d-18・19区に検出した溝で、途中段差によって消滅している。「L」字形に区画する溝で、幅約60cm、深さ10～20cm、断面は台形を呈す。遺物は少なく、鏡蓮弁文鏡の破片が1点出土している（第134図7）。

SE 4

c-19区に検出された東西に走る溝で、約幅30cm、深さ10～20cmを測る。遺存状態が非常に悪く長さ約4mしか確認できなかった。

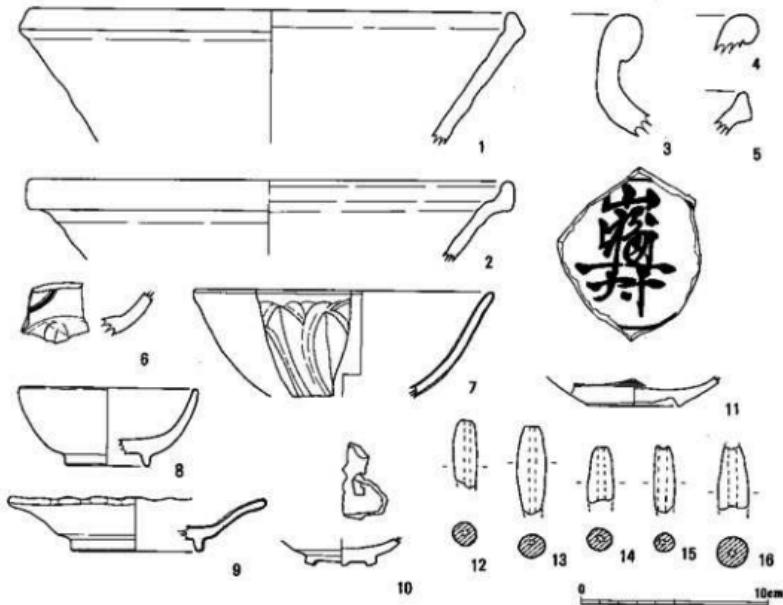
SE 5

III区を南北に分断するように、北東から南西に走る溝である。溝は箱薬研掘りで、上面約3m、底幅約50cm、深さ約2mとなる。SC54・55と重複関係にあり、SE 5のほうが新しい。埋土はレンズ状に堆積し第1層は耕作土で黒褐色土層、第2層は暗褐色砂質土層、第3層は黒褐色シルト質土層で、溝の埋土はこの第3層から始まっている。第4層は黒褐色土層、第5層は砂質に近い黒褐色シルト質土層、第6層は新燃岳スコリアを多量に含む暗褐色シルト質土層となる。第7層はアカホヤ粒を含むにぶい黄褐色砂質土層、第8層はボラ粒をやや多めに含んだにぶい黄褐色シルト質土層、第9層はボラ粒を多く含んだ暗褐色シルト質土層、第10層は全体にボラ粒を含んだ粘性の強い褐色シルト質土、第11層は黒色土の混じる黒褐色粘質土層となる。SE 17・18などで確認された文明輕石（1476：文明8年）が堆積していないことから、この溝は15世紀後半から新燃岳スコリア（1716～1717）の噴出するまでの間に使用されたと考えられる。出土遺物は新燃岳スコリア上層から肥前系鏡が、下層からは見込に旧字体の「宝」が書かれた染付皿が出土し、前述した使用時期と適合する。そのほかに青磁綴花皿や高台をアーチ状に削った白磁小皿などが出土している。（第134図8～11）。

(6) IV区の概要（第135図）

南端のIII区から丘陵を東に回り込んだ南向きの約3000m²の段丘面をIV区として調査を行った。IV区の第II層上面で検出された遺構はこれまでのI～III区のものとは様相が異なり、土塙57基、溝状遺構11条からなるが、柱穴は少なく建物は確認できなかった。また、包含層中からは古代から近世までの幅広い時期の遺物が出土しているが、量としては少ない。

土塙は底面端部にピットを有するIV類が47基と突出しているものの、出土遺物はほとんど無



遺物 番号	出土地点	器種	法 長(cm)	法 幅(cm)	法 厚(cm)	形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
1	SE 1	須恵質 脚	25.7	—	—	横ナデ後ナデ、口縁外面のみ輪「東海系」	灰灰、ミーラー灰、白灰	粗砂
2	"	"	25.4	—	—	横ナデ、口縁外周のみ輪、外面スズ付唇「東海系」	内灰、外輪灰、内火灰	粗砂-細砂
3	"	陶器 葉	—	—	—	横ナデ、外面自然輪「肥前系」	内に火、輪厚輪	粗砂-細砂
4	"	須恵質 豆	—	—	—	口縁部端は折り曲げられ玉縁をなす、底地不明	淡青灰	細砂少
5	SE 2	" 脚	—	—	—	横ナデ、生焼け	淡黄褐	3D細-粗砂少
6	"	青磁 豆	—	—	—	外面模造、實入	オリーブ黄	精良
7	SE 3	青磁 瓢	15.9	—	—	外面輪厚弁文	明緑	精良
8	SE 5	磁器 瓢	9.4	4.6	4.2	臺付露胎「肥前系」	灰白	精良
9	"	青磁 菊花豆	13.5	7.0	2.9	底部外周露胎	灰白	細砂少
10	"	白磁 小皿	—	3.8	—	内面目輪、臺付露胎、底部外周アーチ	灰白	精良
11	"	染付 豆	—	4.7	—	底部外周露胎、外周回輪、足込みに「宝」の留字	灰白	微砂

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
12	土 瓢	3.6	1.3	1.3	5.8	SE 2	欠損、黒斑	淡黄-灰	きめ細か
13	"	4.2	1.6	1.5	9.0	SE 1	欠損、端部凹取り	にぶい黄褐	きめ細か
14	"	2.9	1.4	1.4	4.3	SE 1	欠損	にぶい黄褐	1mm以下の基盤の砂を含む
15	"	3.5	1.2	1.2	3.5	SE 1	欠損	浅黄褐	きめ細か
16	"	3.3	1.6	1.7	8.1	SE 2	欠損	にぶい黄褐	1mm以下白、無色の砂を含む

第134図 SE 1~5 出土遺物 実測図

く、唯一Ⅲ類とされるSC118から寛永通宝が一枚出土しているだけである。溝状遺構には底面が階段状になるものや文明の軽石が埋土中にみられるものなどあり、遺構の残存状況も丘陵の傾斜にあわせて西側が深く、東側にいくにつれて次第に浅くなり消滅してしまっている。また、掘方には箱形や台形、箱薬研などあり、溝も直線的に延びるものは少なく、弧を描きながら「く」の字状に曲がるものや蛇行しているものが多い。出土遺物は、古代から近世までの幅広い時期の遺物が出土しているがすべて小片である。（第136図）

SE 6

i～k-2～4区を北東に延び、途中「く」の字に折れて東に延び途中で消滅している。溝は箱薬研掘りで底面は階段状を呈し南に下り、北端と南のSE7と接したところの底面のレベル差は約1.7mである。SE7・8・12と切り合い、SE7・8より古く、SE12との関係はよくわからないが埋土の状況からSE6のほうが古いと考えられる。出土遺物としては備前焼甕の底部が出土している。（第137図1）

SE 7

i・j区の境界付近をほぼ南北に走る溝でSE14と接したところ消えている。幅約80cm、深さ20cm、断面は箱形をなす。北端と南端とのレベル差は約60cmで南に傾斜している。埋土は暗褐色砂質土で文明軽石がまんべんなく混入するが、新燃岳スコリアはみられない。SE6・8・9・12を切ってつくられており、IV区検出の溝状遺構では最も新しい。出土遺物としては土師質皿の小片や青磁碗の底部などある。

SE 8

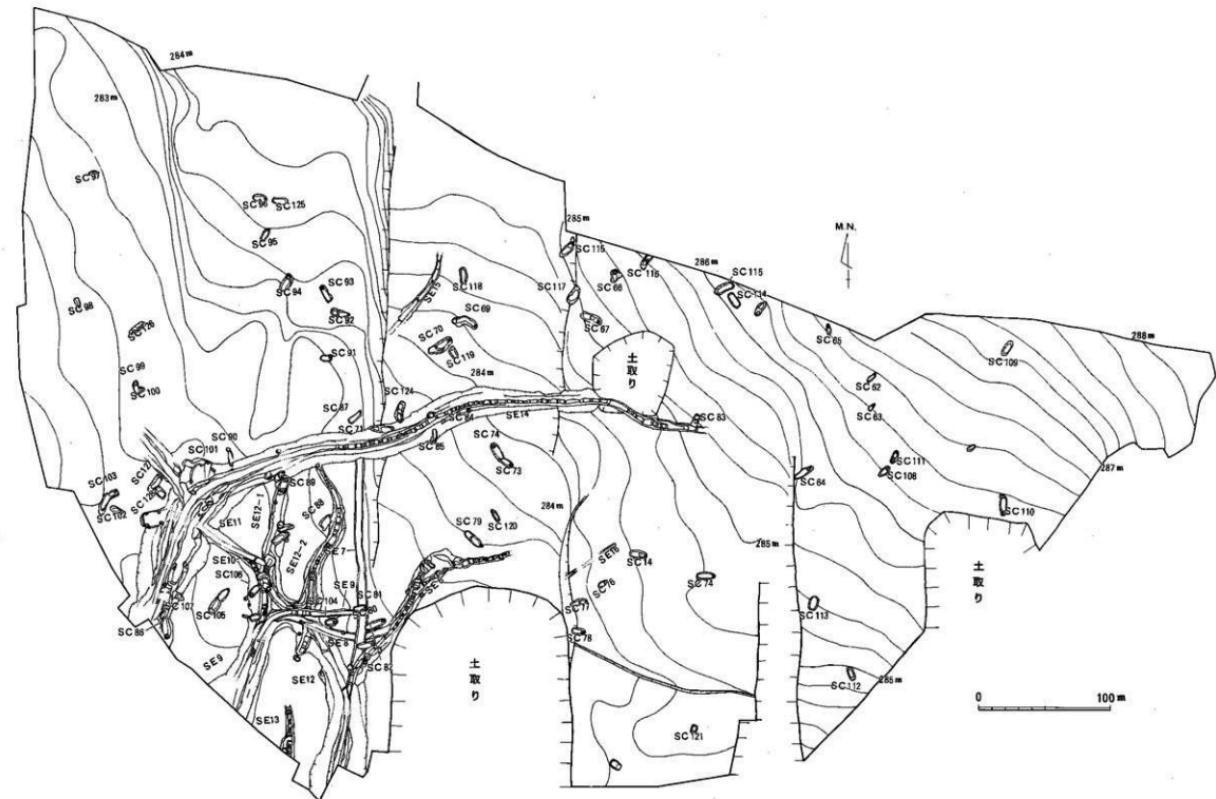
i・j-3区に検出され、東西に延びる溝で、幅約50cm、深さ約5cmと浅い。SE6・7・9・12と重複しているが、SE6・12より新しく、SE7・9より古い。

SE 9

h・i-2・3区に検出され、「く」の字状に区画する溝でSE7と接したところで途切れている。東端と南端の底面レベル差は約1.8mで比較的急角度で東に上り、部分的に階段状になっている。掘り方は浅い箱薬研掘りを呈す。i-3区のSE10と分かれるところの埋土の状態は、第1層がボラ粒を少量含んだ黄黒褐色砂質土層、第2層は暗褐色砂質土層、第3層は文明の軽石層、第4層は文明の軽石を全体に含んだ暗褐色砂質土層、第5層はやや粘性のある暗褐色砂質土層、第6層は暗黄褐色砂質土層で、底面は黄灰色砂質の硬化面となる。さらにその下には第7層の硬化した黄褐色砂質土層を挟んでSE10の底面（黄灰色砂質の硬化面）が残っている。SE10のSE7・8・10・12と重複し、SE7より古く、SE8・10・12より新しい。出土遺物としては土師質皿の小片や青磁碗の底部などがある。（第137図2・3）

SE10

h・i-3・4区に検出され、北端をSE11、南端をSE9に切られている。溝は北から弧を



第135図 IV区遺構分布図

描くように北西に延び、北端と南端の底面レベル差は約30cmで比較的緩やかに北に上っている。幅約80cmで底面は階段状になっている。

SE11

h・i-4区に検出され、南東から北西に延びる溝で、幅約90cm、深さ約20cmで、断面はU字形となる。埋土は第1層が文明の軽石を多量に含んだ暗褐色砂質土層、第2層は御池ボラを含む暗褐色砂質土層となり、底面には暗灰色砂質の硬化面がみられる。SE10・12・14と重複し、SE12・14より古く、SE10より新しい。

SE12

h・i-2～5区に検出され、南から蛇行しながら北に延び、途中i-3区で二本に分かれそれぞれSE14との接点で消滅している。西側の溝(SE12-1)が底面の傾斜角度から本来のもので、東側の溝(SE12-2)は後になんらかの理由で掘られたのではないかと考えられる。SE12-1は検出面での幅約1.8m、底面の幅は0.40m、深さは南端で約1.6m、断面は箱薬研となる。底面は一部分岐点付近で階段状になるが全体としては平で、北端と南端の底面レベル差は約1.5mで北が高くなっている。SE12-2は蛇行しながら北に延び、底面は階段状を呈し、分岐点から急角度で上りその後は緩やかな傾斜で上る。またSE12-1の始点の対面にはSE12-2と同様な急角度でSE12-1に落ち込む階段状の造構もみられる。i-2・3区の境で観察した埋土は、第1層は文明軽石を含んだ暗褐色砂質土層、第2層は暗褐色砂質土層、第3層は文明の軽石層、第4層は御池ボラや炭化物を含む黒褐色砂質土層、第5層は御池ボラや炭化物、アカホヤ粒を含む暗黄褐色砂質土層、第6層はややしまりのある暗黄褐色土層、第7層はアカホヤ粒やカシワバンを含む暗黄褐色砂質土層、第8層は第7層に類似しやや黒味をおびた黄暗褐色土層、第9層は暗黄褐色土層、第10層は第9層より明るい暗黄褐色土層、第11層は若干赤味をおびた暗黄褐色シルト質土層、第12層は第11層より暗く粘性の強い暗黄褐色シルト質土層、第13層は砂層が少し混じる暗黄褐色シルト質土層となる。SE6～11・14と重複し、SE8～11・14より古く、SE6より新しい。出土遺物は土師質皿片や青磁碗片のほか平安時代と考えられる須恵器甕や高台付壺の破片などもみられる。(第137図4・6)

SE13

i-2・3区で検出された南北に走る溝である。遺存状況が悪く4mの長さしか確認できなかった。南北の底面のレベル差は約25cmで、階段状に北に向い上っている。

SE14

h・l-3～5区に検出された。h-3区から北東寄りに延びた溝は、h-4区付近で「く」の字形に東方向へ曲り、蛇行しながらl-5区で消滅している。幅約2.3m、深さ約1.2m、断面はV字状をなすが底面は丸味をおびる。底面はi-5区付近を境に西側が平、東側は階段状になっているが、角度としては同じ傾斜で東に上っている。東端と南端の底面レベル差は約3.6

mを測る。また、「く」の字に曲がっている箇所では幅が約4.5mに広がり、高低差のある平坦面（硬化面）が三段つくられている。SE12-1との接点の東側で観察した埋土は、第1層が黄褐色砂質土層、第2層は文明軽石を含んだ黄褐色砂質土層、第3層は文明の軽石層、第4層は黄褐色砂質土層、第5層は暗褐色粘質土層、第6層はやや砂質の暗褐色土層、第7層は酸化鉄分を含む暗褐色土層、第8層は酸化鉄の層をはさむ黄灰色砂質土層となる。出土遺物は土師質皿片や青磁碗片のほか平安時代と考えられる須恵器甕や土師質皿の破片などもみられる（第137図4・6）。SE7・11・12と重複し、SE7・11より古く、SE12については前後関係はよくわからない。

SE15

j-5・6で検出された南東から北西に弧を描くように走る溝でIV区では最も標高の高いところに位置している。遺存状況が悪く長さ約6mしか確認できなかった。南北の底面のレベル差は約77cmで、北に向かって上っている。

SE16

k-4区で検出された南東から北西に走る溝である。遺存状況が悪く長さ約5mしか確認できなかった。南北の底面のレベル差は約40cmで北に向かって上っている。

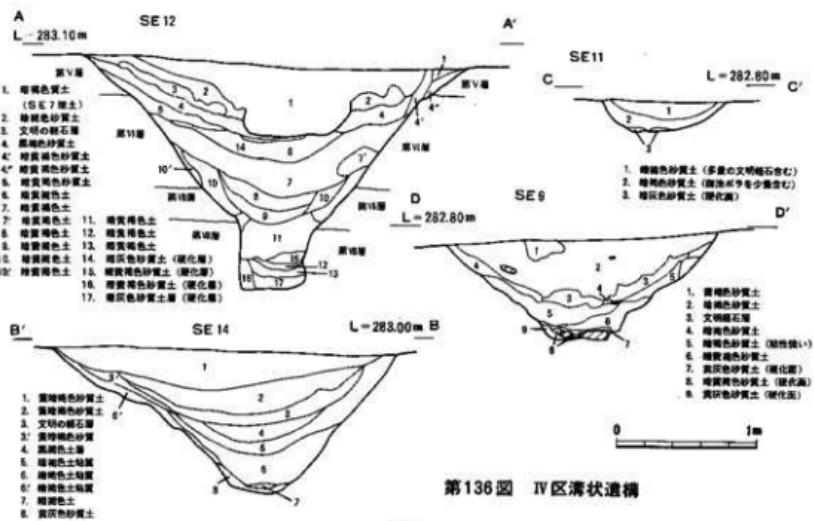
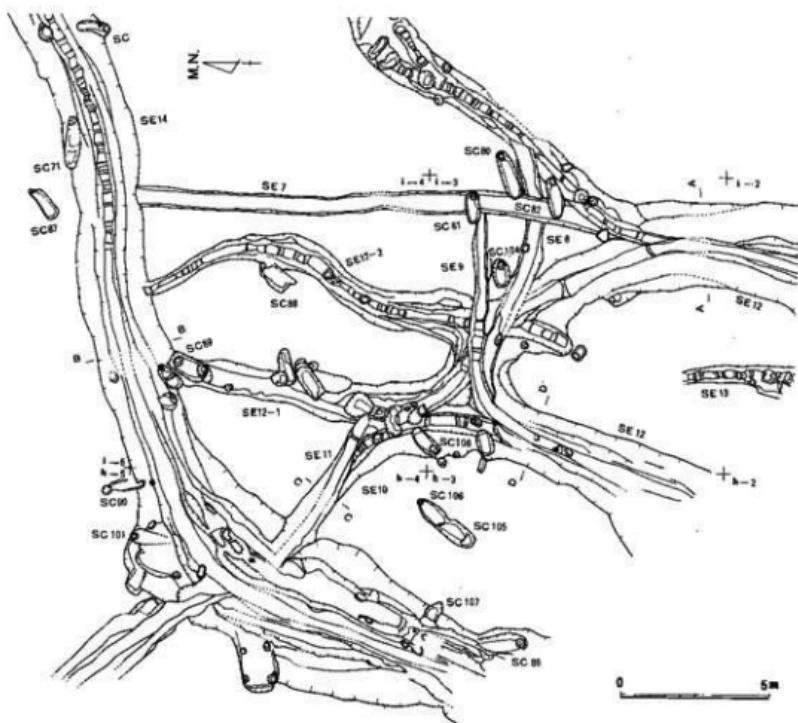
これまで述べてきた溝状遺構の前後関係をまとめるとSE6→SE12→SE8→SE9→SE7、SE12→SE10→SE11、SE10→SE9、SE14→SE11、SE14→SE7になり、SE6が最も古く、SE7が一番新しい。また、文明の軽石が堆積していた溝状遺構はSE9・11・12・14で、階段状に掘られているものはSE6・10・12-1とSE14の東側部分である。そして、溝状遺構はIV区の南端を区画するように東に延びる溝（SE6・8・9・14）と、IV区の南西隅を囲むように西に延びる溝（SE10・11・12）とに分かれる。そのなかで特に、SE6・14は、溝の掘り方や方向が類似している。

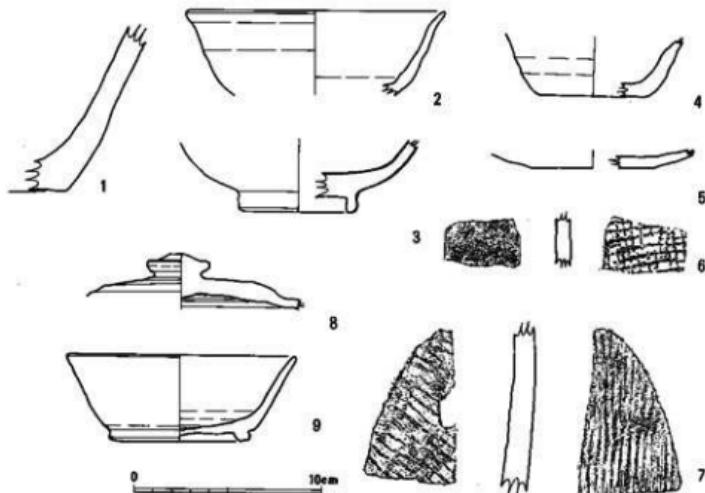
溝の用途はよくわからないが建物の区画のほかに、第II層上面で自然流路と考えられる硬化面がスジ状に何本もみられることから、北側丘陵から流れる水を止め、谷に排水する役割も想定される。また、底面の階段状遺構の役割については不明である。溝の使用時期については出土遺物が非常に少なくよくわからないが、文明の軽石が堆積しているSE9・11・12・14は、15世紀後半（1476年）には廃絶されていたと考えられる。

(7) V区の概要（第138図）

一次調査の際、IV区の北側の斜面上に数個の五輪塔が散在しているのが確認され、地元の方の話でも付近に「寺」があったという話もあり、当初、発掘区外であったこの丘陵斜面をV区として、平成2年度に調査を行った。なお、発掘区の東側には最近まで小さな墓地が営まれていた。

調査の結果、g～l-7～11にかけて五輪塔や石組遺構などを中心とする石塔群や溝状遺構





遺物 番号	出土地点	器種	底面積 (cm)			形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
			口面	底径	基高			
1	SE 6	陶器 瓢	—	—	—	内面網ナデ、外面縦方向の粗いナデ、「重前波」	茶褐色	細砂多
2	SE 9	土師質 环	13.7	—	—	ていねいな横ナデ、口縁部はやや外反	淡黃褐色	細砂
3	"	青磁 瓢	—	7.9	—	内外面眞人、高台・脚點、高台内でいねいな仕上げ	オリーブ灰	微砂
4	SE 12	土師質 环	—	5.8	—	擦耗者しい、糸切り底	淡黃褐色	細砂
5	SE 14	土師質 盆	—	6.5	—	内外面ともいねいな横ナデ、底部ミガキ	淡黃褐色	細砂少・薄色粘土
6	SE 12	須恵器 瓢	—	—	—	内面ナデ、外面格子目文叩き	茶味おびた青灰色	細砂
7	SE 14	"	—	—	—	内面平行線文叩き、外面格子目文叩き	(外)青灰 (内)淡青色	細砂
8	SE 18	須恵器 瓢	—	—	—	内外面とも横ナデ、受け部は欠損	灰白色	細砂少
9	"	須恵器 环	12.1	7.6	4.7	外縁横ナデ、断面形状合て底面内側に貼り付ける	(外)濃青白 (内)灰白	細砂少

第137図 SE 6～18 出土遺物実測図

10条を検出した。また、表土中から多くの五輪塔が検出され、そのほかに多量のフイゴの羽口や鉄津が出土し、製鉄が行われていた可能性がある。

石塔群（第139・141図）

石塔群は南西向きの丘陵端部を開削して造られた平坦面に営まれ、一部は北側の斜面上にも分布している。大部分は埋没していたため、多くの河原石や五輪塔は土砂によって流れ、原位置を保つものや完全な五輪塔として復元できるものは非常に少なかった。全体的に石塔類は少なく、地輪は約20基程度で板碑は1基も出土していない。また、石組造構は7基検出された。検出状況をみてみると平坦面の南半分には五輪塔はみられず、かわりに大きな河原石が多量に検出されていることから、数基の石組造構が存在していたと考えられる。これに対し、北側半分では石組造構と五輪塔が混在して検出されている。出土遺物には土師質皿のほか古瀬戸瓶の



第138図 V区造構分布図

胴部片や江戸時代終り頃の陶磁器類や墨書きなどある。

1号遺構は平坦面の奥まった標高の高いところに位置し、SE19埋没後つくられている。2基の地輪からなり周囲には河原石が敷かれるが、地輪下には掘り込みは確認されなかった。地輪南側の河原石のいくつかは直立したままの状態で出土している。2号遺構は平坦部の前面に位置する。南北に南から地輪と二つの石組からなり、南側の地輪の下には掘り込みは検出されなかった。中央の石組は長さ50cm程の河原石を横位に使用して一辺約1mの正方形の区画をつくっている。内部の北東隅付近にはいくつかの骨片が出土したが明確な掘り込みは設けられていない。そして北側の石組も中央のものと同様なつくりで、一辺約70cmの正方形を呈し、内部には径50cm、深さ25cmの掘り込みがあり、上部に骨片が少量検出された。3号遺構は1号遺構の東に位置し、河原石を一辺約1.1mの正方形に配石している。明確な掘り込みはないが、中央やや東寄りのところに浅い凹みがあり、そこから粉状になった骨片が出土している。4号遺構は平坦面の北寄りのところに位置し、10~15cm程度の河原石が方形状に配石されている。中央に深さ10cmの掘り込みがあるが、人骨などは確認されていない。5号遺構は1号遺構のすぐ北側に位置し、6個の大きな河原石を利用して一辺約80cmの方形に配石されている。6号遺構は1号遺構の南に位置する。検出状況から大きな川原石が立てられた状態で方形に組まれ、内部にはこぶりの河原石が敷かれていたと考えられる。下面には掘り込みを有していない。7号遺構は平坦部の南西端に位置する。中央部は電柱によって破壊され、一部は南側下方に流れ落ちているが、本来は10cm内外の河原石が径約3.5mの方形あるいは円形状に敷き詰められ、そこに大きな川原石で配石がなされていたと考えられる。

墨書きは石塔群、北端のh-10区から1点、7号石組遺構の南、i-8区から2点みつかっている(第141図)。そのほか、空風輪に梵字が墨書きされているものも1点出土している。

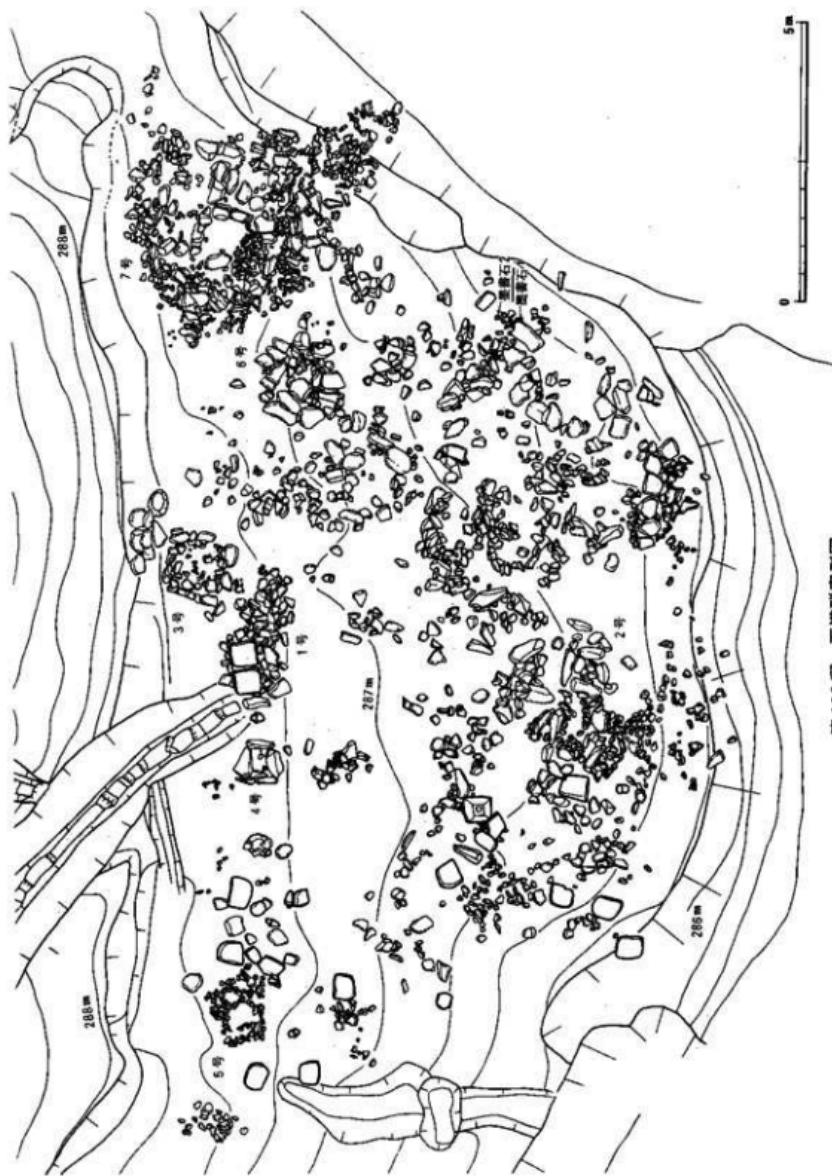
溝状遺構(第142図)

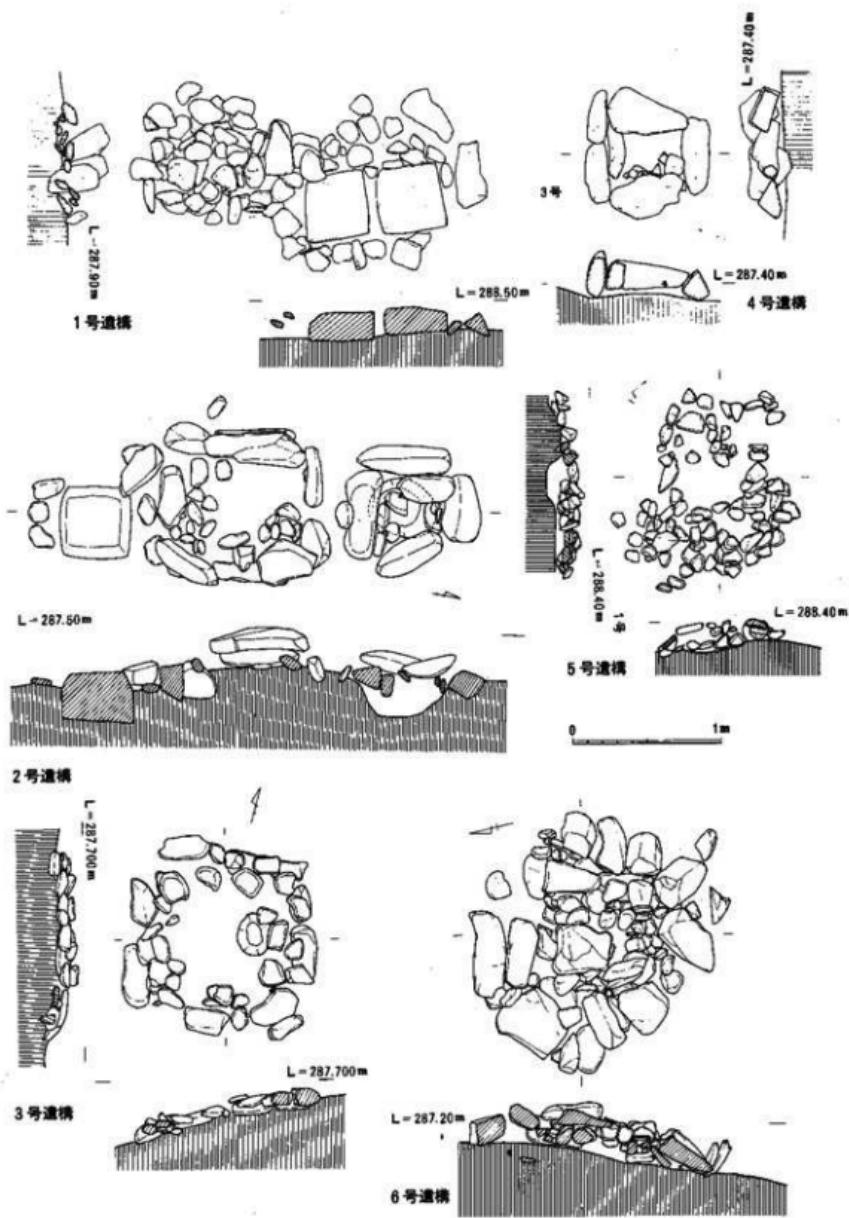
V区では、大小合わせて10条の溝状遺構が検出されている。SE17~21は幅広で丘陵斜面を大きく分断するように掘られ、大きさや断面形はIV区で検出された溝状遺構と類似している。これに対しSE22~26は、溝の深さは浅く幅も狭く、これらは時期差を示していると考えられる。出土遺物は全体的に非常に少ない。

SE17

j・k-7~10区に検出され、北から蛇行しながら南に延びる。IV区との境付近で消滅し、北端ではSE11と重複している。検出面での幅約3.8m、底面の幅は約0.3m、深さは南端で約1.6m、断面は箱蓋研となる。底面は南端から北端へ階段状に上り、北端と南端の底面のレベル差は約7.7mを測る。j-8・9区の境付近で観察した埋土は、第1層は暗褐色砂質土の表土、第2層は暗褐色砂質土層で上部に新燃岳スコリア、下部に文明の軽石が含まれる。第3層は暗褐色砂質土層で全体に文明の軽石がみられる。第4層は文明の軽石層、第5層は文明の軽石を

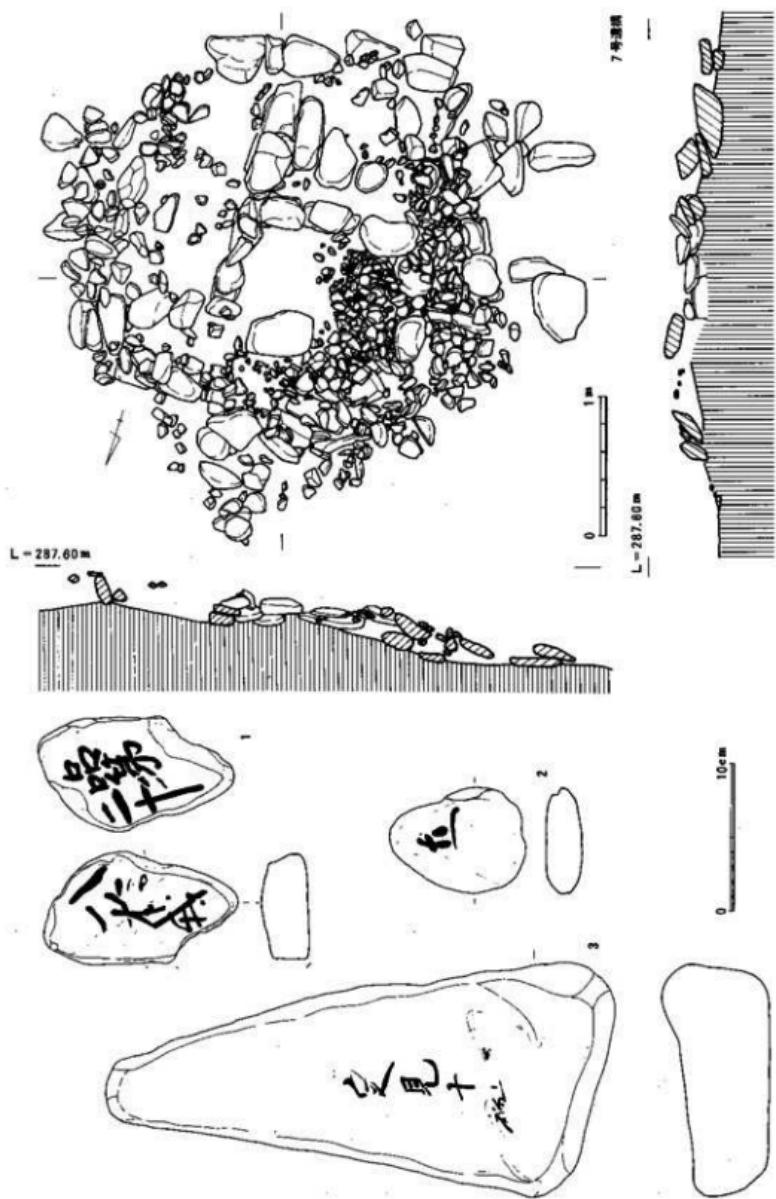
第139図 石塔群実測図





第140図 V区石組造構

第141圖 石組遺構・礫巖石



多量に含んだ暗褐色砂質土層、第6層は御池ボラやアカホヤ粒を少量含む暗褐色砂質土層、第7層はきめ細かな黒褐色砂質土層、第8層はやや粘性の強い暗黄褐色土層、第9層はシラス塊を少量含んだ暗黄褐色シルト質土層、最下層はザラザラした暗黄褐色砂質土層となる。

SE18

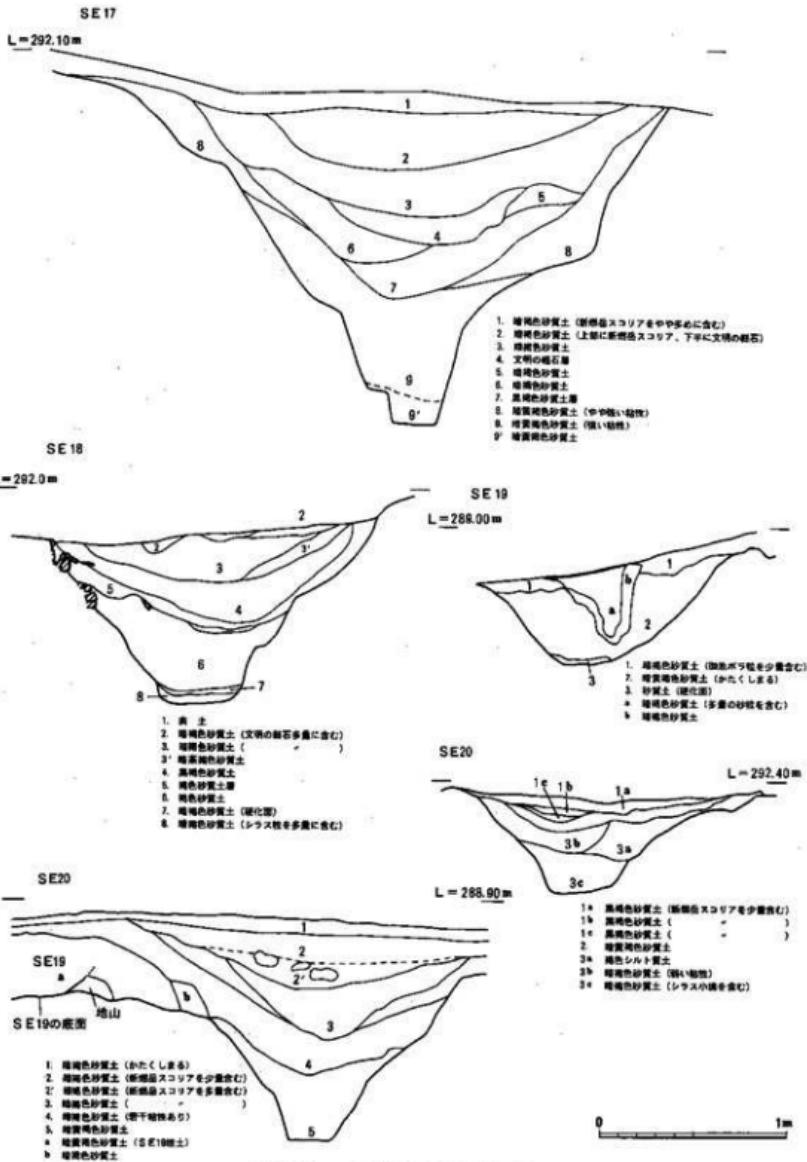
i-k-9・10区に検出され、南西から北東にくの字状に曲がりながら延びる。北側上部での溝の大きさは、幅約2.5m、底面の幅は約0.3m、深さは約0.9mで、断面は箱薬研となる。底面は南端から北端へ階段状に上り、北端と南端の底面のレベル差は約4.1mを測る。j-10区で観察した断面で、SE18がSE21に切られている状況が認められる。第1層から第5層までがSE21の埋土で、第6層以下がSE18の埋土となる。第1層は表土、第2層は文明の軽石を全体に含んだ暗褐色砂質土層、第3層は暗褐色砂質土層、第4層はややしまりがあり、きめ細かな黒褐色砂質土層、第5層は弱い粘性をもった暗褐色砂質土で底面に硬化面がみられる。第6層は褐色砂質土層、第7層はシラス粒を含みザラザラした明褐色砂質土層となる。i-9区でSE19とぶつかりそこで途切れ、中央付近でSE21・22・23と、北端でSE20とそれぞれ重複するが、埋土の状況からSE20が新しいことが確認でき、SE18→21→20という関係が成り立つ。遺物としては、底面から須恵器の环・蓋がほぼ完形で一点ずつ出土している(第137図8・9)。

SE19

i-9・10区に検出され、北から南に延び、端部はやや西よりに向きを変え石塔群の下に潜り込んでいるが、その西側には検出されていない。また、北端はSE20と直交しそこで消滅している。検出面での幅約1.6m、底面の幅は約0.2m、深さは約0.6m、断面はU字形を呈す。底面は南端から北端へ幅のある階段状に上り、北端と南端の底面のレベル差は約1.8mを測り、SE17・18に比べ上りの傾斜は緩やかである。i-10区で観察した埋土は、第1層は御池ボラ粒を少量含む暗褐色砂質土層、第2層は炭化物、御池ボラ粒、アカホヤ塊を含んだ暗黄褐色砂質土で固くしまっている。

SE20

h-l-10・11区に検出され、丘陵を分断するかのようにほぼ東西に延びている。東端部はSE18を切ったところで終結している。溝の大きさは幅約2.0m、底面の幅は約0.2m、深さは約1.1m、断面は箱薬研を呈す。底面は南端から北端へ上り、北端と南端の底面のレベル差は約7.4mを測る。j-8・9区の境付近で観察した埋土は、第1層は暗褐色砂質土の表土、第2層は暗褐色砂質土で下層に新燃岳スコリアが含まれる。第3層は暗褐色砂質土で全体に新燃岳スコリアがみられる。第4層は暗褐色砂質土層、第5層は暗黄褐色砂質土層となる。溝の大きさや埋土、位置関係からSE5とつながる可能性がある。



第142図 V区溝状造構土層断面図

SE21

j・i-7～9区に検出され、SE17と同様にIV区との境付近で消滅している。溝は幅約0.8m、底面の幅は約0.35m、深さは約0.5m、断面は台形状を呈す。底面は階段状に南から北へ上り、北端と南端の底面のレベル差は約4.4mを測る。j-9区でSE19と重複しているが、j-10区で観察した断面でSE19の埋土中にSE21の底面と考えられる硬化面が認められ、SE21はSE19埋没後つくられたことがわかる。第1層から第5層までがSE21の埋土で、第6層以下がSE18の埋土となる。第1層は表土、第2層は文明の軽石を全体に含んだ暗褐色砂質土層、第3層は暗褐色砂質土層、第4層はややしまりがあり、きめ細かな黒褐色砂質土層、第5層は弱い粘性をもった暗褐色砂質土で底面には硬化面がみられる。

SE22

i・j-8～10区に検出され、そのほかの溝とは対照的に標高289mの等高線に沿うように南北に走る。SE18・20・23・24と重複し、SE21と接したところで途絶えている。溝は幅約0.3m、深さは約0.15m、断面は浅いU字状を呈す。溝の埋土は黒褐色砂質土で、V区の中では最も新しいと考えられる。

そのほかにSE23・24はSE19の中央付近から北東・南東に短くのびる。SE25・26は残存状況が良好でなかった。SE27はk-10区に検出され、東はSE17と接し、西は区外にのびているため全容は不明だが、溝底面が階段状に掘られていることからSE17やSE18に類似した溝であったと考えられる。

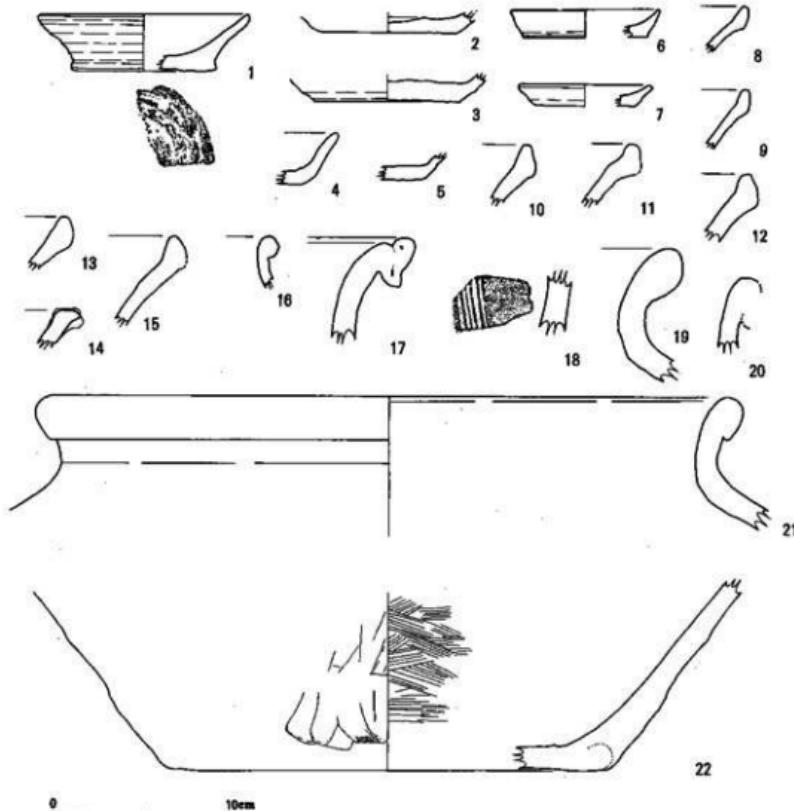
(8) 包含層出土の遺物（第143図～第149図）

表土および第II層から布痕土器、土師質土器、陶磁器類、石製品、銅製品、鉄製品などが出土しているが、建物の棟数からすれば量的には少ない。

布痕土器：IV区から小片が1点出土している。

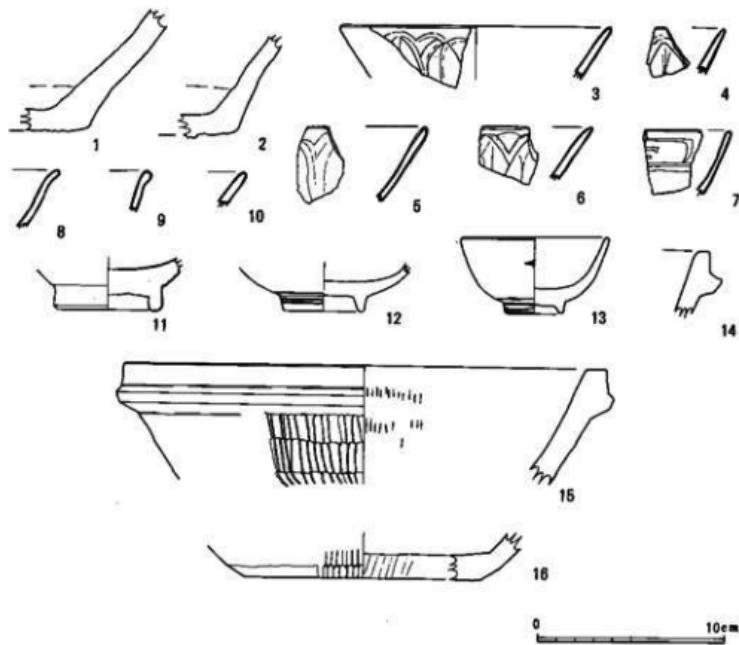
土師質土器：I～V区全体に出土しているが、小片が多く完全に復元できるものは少ない。器種には壺と小皿があるが、ヘラ切り底と糸切り底が混在し、量的には同量かやや糸切り底の方がまさっている。ヘラ切り底の壺は底部と胴部との境が明瞭で、体部にはクロ成形の凹凸が残り、外に大きく開く。厚手である（第143図1）。糸切り底の壺は体部が内湾気味にのび、口縁端部は丸みをもつ。そのほかに体部下間に穿孔の施されるものもある（第148図14）。また、ヘラ切り底の小皿は底部と胴部との境が明瞭で、体部には厚手で外方に短く立上がるもの（第143図7・第148図17）や若干内湾するもの（第148図18）があり、口縁端部は丸く仕上げられる。糸切り底の小皿は底部と胴部との境が丸味をもち、体部には薄手で口縁端部が丸く仕上げられるもの（第145図1）、先細りもの（第143図6）、口径のやや大きくなるもの（第148図19）などある。また、法量ではヘラ切り底、糸切り底ともほぼ同じ範囲内に収まる。

陶器：陶器類には東播系、常滑焼、備前焼があり、そのほとんどはI～II区から出土している。



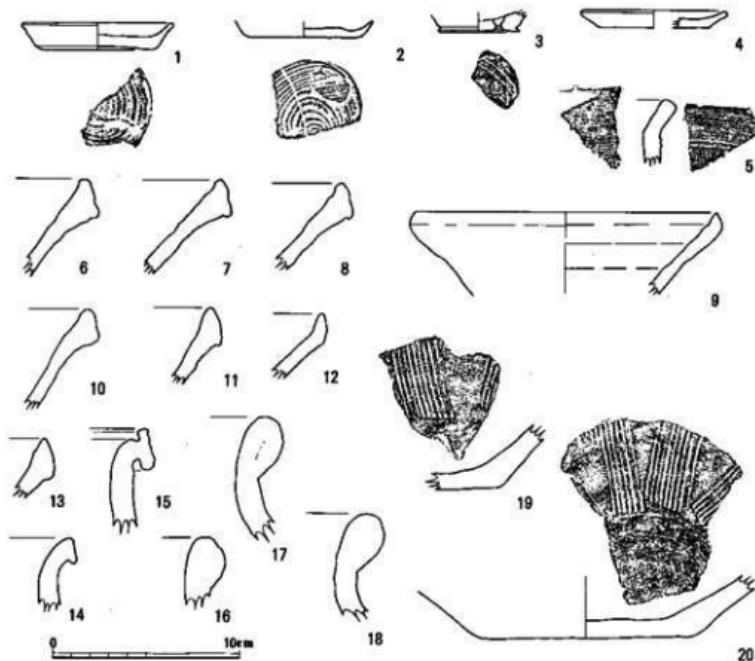
番号	出土地点	器種	長さ (cm)	形態・手法の特徴ほか		色調	地土	
				口径 (mm)	底径 (mm)			
1. d-36	土器窯 沿	土器	11.1	7.8	3.1	内側面ナメ、外側面ナメによる凹凸がある、底部高いへう切り、柱穴1つ にようつて	(内)灰褐色 (外)灰褐色	きの細か、細砂少
2.	"	"	7.2	-	-	横ナメ、底部切り	(内)灰褐色	きの細か、細砂少
3. d-37	"	"	7.8	-	-	内側面ナメ、底部高いへう切り	(内)灰褐色	きの細か、細砂少
4. "	"	"	7.8	-	-	内側面ナメナメ、底部へう切り	(内)灰褐色	きの細か、細砂少
5. e-25	土器窯 小窓	"	-	-	-	内側面へう切り	褐色	きの細か、細砂少
6. e-34	"	"	7.8	6.7	3.3	内側面と底ナメ、底部へう切り	褐色	きの細か、細砂少
7. d-34	"	"	7.0	5.6	1.3	内側面とも底ナメ、底部へう切り、口縁端丸い	褐色	きの細か
8. d-26	瓦窯 砂	"	-	-	-	内側面とも底ナメ、口縁端丸いをもつた、等厚・内凹の輪郭状外縁三點 (内)灰褐色・オーバーラップ (外)灰褐色	褐色	細砂少
9. d-27	"	"	-	-	-	内側面とも底ナメ、口縁端丸いをもつた、等厚・内凹の輪郭状外縁三點、内凹に輪 青灰色	褐色	細砂少
10.	"	"	-	-	-	内側面とも底ナメ、口縁端丸いをもつた、等厚・内凹の輪郭状外縁三點、内凹に輪 (内)灰褐色・灰白 (外)灰褐色	褐色、細砂	細砂少
11. d-18	"	"	-	-	-	内側面二点に輪、底部へう切り	(内)灰褐色・白 (外)灰褐色	褐色少
12. d-24	"	"	-	-	-	口縁端二点に輪、底部へう切り	(内)灰褐色・白 (外)灰褐色	褐色少
13. d-27	"	"	-	-	-	口縁端二点に輪、底部へう切り	(内)灰褐色・白 (外)灰褐色	褐色少
14. c-27	"	"	-	-	-	口縁端三點は小さな三連形、口縁端外縁三點をもつた、柱穴1つ	灰	細砂少
15. d-25	"	"	-	-	-	内側面ナメとも底ナメ、口縁端内縁に輪	(内)灰褐色・灰白 (外)灰褐色	褐色、細砂
16. B-DC	瓦窯 沿	"	-	-	-	(内)輪郭状外縁三點 (底部へう切り)	(内)灰褐色	細砂少
17. d-26	"	"	-	-	-	内側面ナメナメ、口縁端丸い (内)灰褐色 (外)灰褐色	褐色	細砂少
18. d-24	瓦窯 沿	"	-	-	-	内側面ナメナメ、口縁端丸い (内)灰褐色 (外)灰褐色	褐色少	細砂少
19. d-22	"	"	-	-	-	内側面ナメナメ (底部へう切り)	(内)灰褐色 (外)灰褐色	褐色少
20.	"	"	-	-	-	内側面も底ナメ、口縁端外縁三點 (底部へう切り)	こないだ灰	細砂少
21.	"	"	-	-	-	内側面とも底ナメ、口縁端外縁三點 (底部へう切り)	こないだ灰	細砂少
22. d-26	"	"	25.7	-	-	内側面・斜めのナメ、外表面丸いナメ、底部高いナメ (底部へう切り)	(内)灰褐色 (外)灰褐色	褐色、灰白色子
23.	"	"	-	25.7	-	内側面・斜めのナメ、外表面丸いナメ、底部へう切り、底地不均	(内)灰褐色 (外)灰褐色	褐色、灰白色子

第143図 出土遺物実測図 (II区)



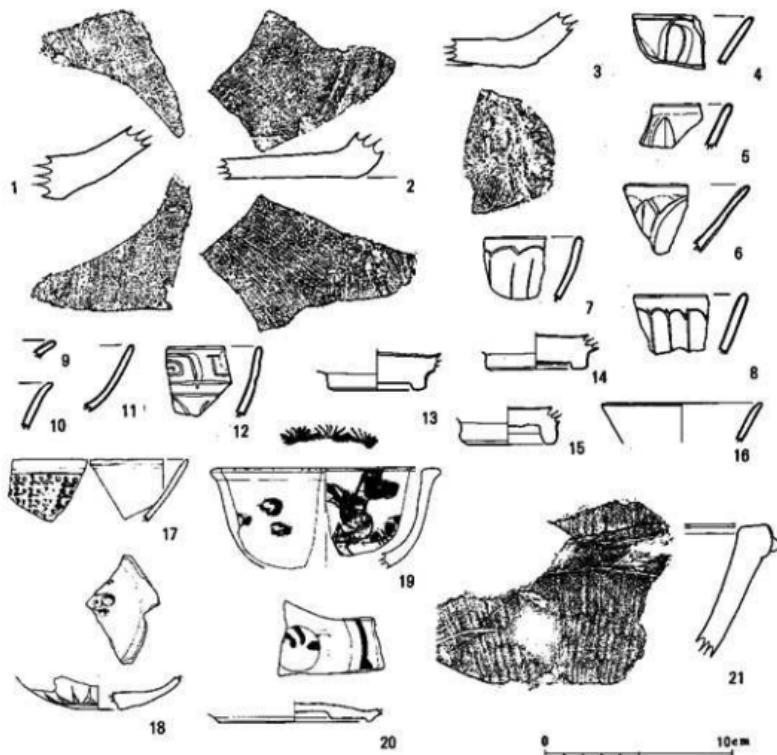
遺物 番号	出土地点	器種	底 面 寸 法 (cm)			形態・手法の特徴はか	色 調	胎 土
			口径	底径	高さ			
1	e-23	陶器 瓢	-	-	-	内外面ともいわいなナメ、内面は使用上の痕跡(磨痕?)	(外)灰、(内)黄灰、(内)灰	精良少
2	c-23	"	-	-	-	内外面とも粗いナメ	(外)灰	粗少
3	II 区	青磁 瓢	14.6	-	-	外面ヘラ擦運弁文	明暁灰	精良
4	"	"	-	-	-	外面ヘラ擦運弁文	オリーブ灰	精良
5	e-24	"	-	-	-	外面ヘラ擦運弁文	オリーブ灰	精良
6	TD II	"	-	-	-	外面ヘラ擦運弁文	明暁灰	精良
7	I 区	"	-	-	-	外衛青文、二次的加熱	(外)オリーブ灰 (内)灰	精良
8	II 区	"	-	-	-	口縁部砸破反り、内外面に若干の質入	オリーブ灰	精良
9	"	"	-	-	-	厚手で口縁部砸破反り、内外面に質入	灰オリーブ	精良
10	"	"	-	-	-	口縁部は直口で無文	明暁灰	精良
11	"	"	-	5.4	-	底部高台内凹陷、内面面に質入	明暁灰	精良
12	"	磁器 瓢	-	4.35	-	側面下部・底面凸出部に削痕、(底付)黒灰	灰白	精良
13	"	"	7.65	2.95	-	全体下部・高台上面に灰褐色の回輪、「肥前系」	明暁灰	精良
14	"	滑石製石綿	-	-	-	外縁側方向の削り仕上げ、内面はいわいな仕上げ	(外)三熹い黄灰 (内)褐色	
15	a-25	"	25.6	-	-	外縁側方向の削り仕上げ、スス付着、内面はいわいな仕上げ	(外)灰、(内)灰黄	
16	e-24	"	-	12.6	-	外縁側方向の削り仕上げ、内面はいわいな仕上げ、滑石質	(外)灰白、(内)灰白	

第 144 図 出土遺物実測図 (II 区)



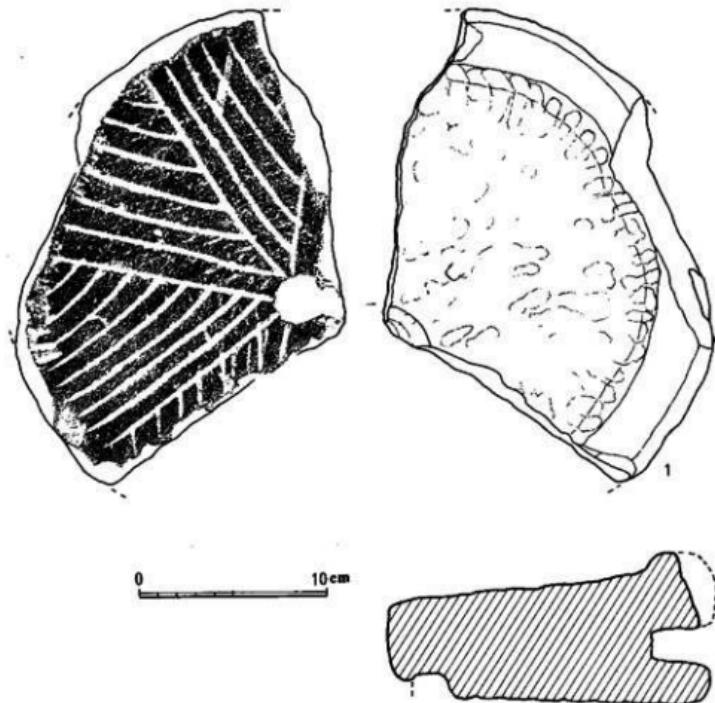
遺物 番号	出土地点	器 種	法 量 (cm)	形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
1	d - 17	土器小鉢	7.9 6.0 1.5	底部へラ切り、薄手	棕	さめ細か
2	"	"	- 6.2 -	底部粗い糸切り、部分的に板目が残る、スヌ付着	(外)濃褐色 (内)灰褐色	さわやか、薄
3	c - 19	"	- 4.4 -	底面糸切り、既成底面部に穿孔	にぶい棕	さめ細か
4	d - 19	"	7.6 5.9 0.9	底部へラ切り、ていねいな仕上げ	棕	さめ細か
5	d - 18	瓦質 鉢	- - -	口縁部くの字状、外縁スヌ付着	(外)濃褐色 (内)浅青色	あわや、細かな
6	I 区 陶器 鉢	鉢	- - -	口縁断面は大きな三角形、口縁部外面に輪「束縛系」	青灰	細砂
7	d - 18	"	- - -	体部はナデによる凹凸、口縁部外面に輪「束縛系」	淡青灰	細砂少
8	c - 18	"	- - -	体部はナデによる凹凸、口縁部外面に輪「束縛系」	淡青灰	細砂少
9	c - 19	"	16.1 - -	口縁断面小さな等二角形、口縁部内面に輪「束縛系」	青灰 (外口縁) 淡赤青灰	細砂少
10	d - 18	"	- - -	口縁部外面に輪「束縛系」	灰	さわやか、細砂
11	I区-P-7	"	- - -	口縁部外面に輪、体部横ナデ「束縛系」	条線のある淡青灰	細砂多
12	I 区 "	"	- - -	口縁断面山吹き等二角形、口縁部外面に輪「束縛系」	灰	細砂
13	c - 18	"	- - -	口縁断面山吹き等二角形、口縁部内面に輪「束縛系」	暗赤褐	細砂、もい
14	d - 17	" 巻	- - -	口縫端部はやや下に彎れる、口縁部外縁は輪「束縛系」	淡青灰 (外口縁) 暗青灰	細砂
15	d - 19	"	- - -	内外側縫ナデ、口縁部断面V字状「常滑型」	淡青灰 (外口縁) 暗青	細砂、重い
16	c - 17 陶器 鉢	鉢	- - -	口縫端部はやや下に彎れる玉縫状「御前縫」	青褐	細砂少
17	d - 19	"	- - -	内外側縫ナデ、口縁部断面玉縫状「御前縫」	青褐	細砂少
18	c - 16	"	- - -	内外側縫ナデ、口縁部断面玉縫状「御前縫」	青褐	細砂少
19	i - 17 陶器 鉢	鉢	- - -	外表面ナデ、内面使用による擦痕が重い。9本を一單位とする条縫	赤褐	細砂、細砂
20	i - 16	"	11.5 -	外表面ナデ、内面使用による擦痕が重い。内面縫は9本と体を1单位とする二重縫	(外) 淡青 (内) 明青灰	細砂、細砂

第145図 出土遺物実測図 (I区)



遺物 番号	出土地点	器種	法 長 (cm)	形 態 手 法の特徴はか	色 調	胎 土
			口径 底径 高さ			
1	d-18	陶器 瓢	- - -	内面横ナデ、外面縱方向の長いナデ「備前焼」 (外)にかい焼(内)にかい焼	細沙	
2	"	"	- - -	内面ナデ、底部余りナデ、底地不明	(外)褐灰(内)にかい黄	細沙
3	e-17	陶器 爐?	- - -	内面ナデ、底部余り切り「赤堀系」?	淡青灰	細沙
4	b-19	青磁 瓢	- - -	内面花文、外面無文、口縁部は直口	灰オーブ	精良
5	c-18	"	- - -	外面西いへラ種の蓮瓣文、輪は不明瞭	オリーブ灰	精良
6	"	"	- - -	外面ヘラ巻きの蓮瓣文	オリーブ灰	精良
7	d-17	"	- - -	外面蓮瓣された輪郭の蓮瓣文、口縁部は内側、内外面に貫入	オリーブ灰	精良
8	c-16	"	- - -	外面蓮瓣された輪郭の蓮瓣文、内外面に貫入	オリーブ灰	精良
9	e-17	"	- - -	口縁部は端反り	オリーブ灰	精良
10	b-18	"	- - -	口縫部や外反する、内面口縫部織目付は薄い	灰白	精良
11	d-18	罐形 瓢	- - -	体然下半2本凹「肥前系」	(外)オリーブ灰(内)灰白	精良
12	I 区	青磁 瓢	- - -	外表面文帯、内外面貫入、口縁部は内側	(外)灰白(内)オリーブ灰	精良
13	II 区	"	5.26	縄付及び窩台内は織目	オリーブ灰(内)オリーブ灰	精良
14	b-19	"	- 5.4	縄付及び窩台内は織目となるが、部分的に輪付等	灰オーブ	精良
15	d-19	"	- 4.2	窩台内織目、裏面方向が高い場合がつく、貫入あり	緑灰	精良
16	c-17	白磁 瓢	8.6	口縁部はやや外反、口縁部は織目	白	精良
17	I 区	縄付 瓢	- - -	外表面筋目	明緑灰	精良
18	c-17	突付 瓢	- 2.6	外表面無文、見込みに花文、底面無文、一次的加熱	灰白	精良
19	c-19	罐形 瓢	12.3	- - -	口縫部平坦面をなす「肥前系」	灰白
20	e-19	"	- 8.2	蛇ノ目貫筋、見込み部蛇ノ目に輪付等「肥前系」	明緑灰	精良
21	I 区	滑石製石鍋	- - -	内側刃付等付せられ、外縁部の側に上部、輪付等付	白	精良

第146図 出土遺物実測図 (I + II区)



遺物番号	器種	周径長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(kg)	材質	出土地点	形態・手法の特徴ほか
I 石臼	臼	21.8	17.2	8.15	4.40	砂岩	C-15	上臼、側面に15×25cmの把手穴、表面に目割1cmの芯崩受け

第147図 石臼実測図（I区）

東播系にはこね鉢と甕がある。こね鉢は約25点出土し、口縁部形態が小さく上方に延びるものや、三角形状に肥厚するものがある。前者は薄手で、後者には厚手のものが多く、口縁下端が垂下するものもみられる。甕は口縁部が外反し、口縁端部が下方に垂れている。焼成はやや軟質である。常滑焼大甕の口縁部には縁帯が幅広くなるもの（第145図15）や断面がN字状を呈するもの（第143図18）がI・II区で一点ずつ出土している。備前焼は甕と摺鉢があり、甕はすべて玉縁状をなしている。胴部片や底部片も多く出土している。摺鉢は少なく、底部と胴部片だけであった。産地不明の陶器の特徴は、内外面とも淡青灰色で、内外面はナデ調整が施され、粗く仕上げられているものやていねいなものがある。胎土には白色粒を含み、淡黄褐色

を呈す。

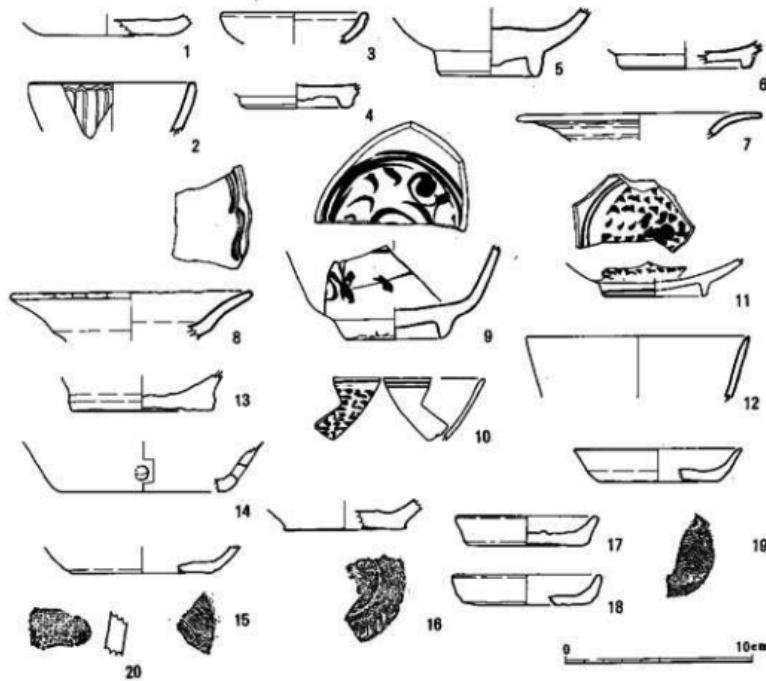
磁器：磁器類には青磁、白磁、染付があり、大部分はI～IV区から出土している。青磁は、龍泉窯系の碗が大半を占め、割花文、鎬蓮弁文、線描蓮弁文、雷文帯などの文様が施されている。割花文は2～3点と少なく、鎬蓮弁文、線描蓮弁文、無文は約50点程度あるが、完形品は無く、小片ばかりであった。無文の碗には口縁部が端反り、内湾、まっすぐにのびるものがある。皿には稜花皿や小皿があるが碗に比較すると少ない。白磁は口ハゲの皿など1～2点しかなく、ほかにSB11から玉縁口縁の白磁碗も出土している。染付には芭蕉葉文が外面に描かれた幕筒底の皿や碗などが数点ある。そのほか近世の肥前系の磁器類なども全区から少量出土している。

石製品：石臼や滑石製の石鍋・石錐、砥石などある。石臼は2点（SE5から1点）出土し、細粒砂岩製である。石鍋片はI・II区から10点（SC26から1点）出土しているが、大きめの破片には破損箇所を削った痕跡が認められる。滑石製石錐はII区から4点出土し、石鍋の再加工品と考えられる。（第147図）

銅製品：銅鏡と古銭がある。銅鏡はI区から出土しているが、2～3cmの小片で二次的焼成を受けていたため背面の文様は確認できない。SE1から出土した銅鏡と同一個体と考えられる。古銭はI区のd-17区から13枚まとまってみつかり、錢に通してあった紐の一部が残存している。13枚は2枚、3枚、8枚に分かれて密着し文字が潰れているため、錢貨名を知ることはできないが、1枚だけ「元豊通宝」と読める。そのほかにIV区から「政和通宝」1枚と、SC118から「寛永通宝」1枚が出土している。

土製品：土錐は包含層や遺構内から総数53点出土している。その内完形品は11点と少ない。形態としては端部が面取りしているものや丸く仕上げられているもののほか、細長のタイプもある。（第149図）

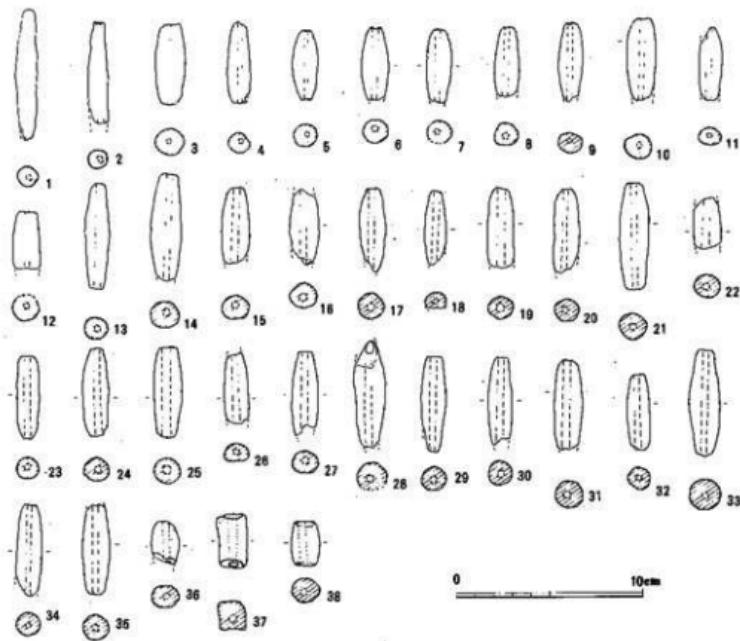
鉄製品：時期不明の釘などやV区の表土中から多量の鉄滓が出土している。



20

遺物 番号	出土地点	器種	法 規 cm 口徑 底径 高さ	形態・手法の特徴ほか		色 調	胎 土
				内面	外面		
1	d - 5	土師質 盆	- 6.85	- 内面ナテ、スス付、外縁ナテ、底部あ切り、後口あり	(外)淡黄、灰黄(内)灰黄	きめ細か、薄	
2	f - 5	青磁 瓢	8.4	- 外縁部による運弁文、口縁部内側	灰白	精良	
3	f - 6	青磁 盆	7.4	- 口縁部は厚手で内側溝する、輪は厚い	灰ホリーブ	精良	
4	Ⅲ 区	青磁 瓢	- 6.0	- 高台内を挖り目に駒刺ぎ、内外面に貫入	オリーブ灰	精良	
5	f - 6	"	- 5.2	- 厚手の底部で高台は輪肋	灰ホリーブ	精良	
6	e - 4	"	- 7	- 高台はいねいに駒刺ぎ、内外面に貫入	明緑灰	精良	
7	c - 4	白磁 盆	13.0	- 口縁部・体部外面下半角脚	灰白	精良	
8	d - 4	青磁 花文瓢	12.65	- 口縁部は輪花をなす、口縁部内面に飾彫	灰ホリーブ	精良	
9	e - 4	安村 瓢	- 5.2	- 体部外面凹込みに草花文、墨付彫、内外面に貫入	明緑灰	精良・微砂	
10	Ⅲ 区	"	- "	- 外面に文様、やや磨化がまし	(外)灰白 (内)明緑灰		
11	"	"	- 5.2	- 脚部の底面は小さな二等辺三角形、底部斜面-先込みに文様、墨付彫	明青灰	精良・微砂	
12	e - 3	陶器 瓢	11.8	- 口縁部は直口(直縁系)	灰白	精良・微砂	
13	Ⅲ - 5	土師質 壌	- 7.5	- 底部へタ切り後ナゲ、堅壁	黄褐	きめ細か	
14	i - 8	"	- "	- 体部下半に跳成前の穿孔	(外)赤褐 (内)淡黄褐	きめ細か	
15	h - 9	土師質 盆	- -	- 底部糸切り、内外面とも横ナゲ	(外)淡灰褐 (内)淡黄褐	きめ細か	
16	h - 8	"	- 6.6	- 内外面とも横ナゲ、底部へタ切り、堅壁	棕	きめ細か・粗砂	
17	h - 9	土師質小盤	7.2 7.0 1.65	内面とモチエ、底面に凹凸ス付唇、口縁部丸棒をもつ	淡黄褐	きめ細か・粗砂	
18	"	"	7.6 6.2 1.65	底面へタ切り、口縁部丸棒をもつ	(外)暗褐 (内)暗黄褐	きめ細か・粗砂	
19	i - 8	"	8.8 6.0 1.8	内外面ともいねいな横ナゲ、底部糸切り	淡黄褐	きめ細か	
20	Ⅳ 区	布痕土器	- -	内面に底底、欵窓	赤褐	砂、多	

第148図 出土遺物実測図 (III・IV区)



標本番号	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	重さ (g)	山土地名	特徴・手触りの特徴はか	色	質	形
① 土 壤	7.0	1.8	1.2	7.18	TD1 テーブル	灰 黒 粘性	白	柔軟	長
② "	5.5	1.1	1.0	5.5	TD1 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
③ "	5.5	1.1	1.6	10.8	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
④ "	4.5	1.2	1.5	4.5	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑤ "	3.7	1.4	1.3	4.1	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑥ "	3.9	1.5	1.4	5.3	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑦ "	3.9	1.4	1.4	5.2	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑧ "	3.7	1.4	1.4	4.4	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑨ "	4.3	1.5	1.3	5.4	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑩ "	4.3	1.6	1.5	4.3	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑪ "	3.85	1.2	1.5	3.0	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑫ "	3.0	1.5	1.8	6.8	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑬ "	3.05	1.3	1.3	6.65	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑭ "	3.7	1.7	1.6	11.0	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑮ "	4.0	1.5	1.5	4.7	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑯ "	3.9	1.8	1.5	5.8	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑰ "	4.4	1.5	1.4	5.75	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑱ "	4.0	1.8	1.5	5.7	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑲ "	4.3	1.4	1.4	7.8	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
⑳ "	4.5	1.4	1.35	7.2	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉑ "	5.7	1.8	1.5	11.3	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉒ "	2.7	1.5	1.5	4.30	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉓ "	4.5	1.2	1.15	8.0	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉔ "	7.7	1.6	1.4	7.20	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉕ "	6.05	1.6	1.5	8.3	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉖ "	5.8	1.5	1.5	8.7	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉗ "	4.5	1.4	1.4	5.98	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉘ "	5.7	1.8	1.6	11.7	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉙ "	9.1	1.4	1.4	8.55	TD1 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉚ "	4.2	1.3	1.3	9.4	TD1 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉛ "	4.8	1.8	1.8	10.3	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉜ "	3.1	1.3	1.2	5.4	TD2 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉝ "	5.7	1.7	1.7	12.0	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉞ "	4.3	1.2	1.5	8.3	TD1 テーブル	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉟ "	4.7	1.5	1.5	8.2	"	灰 黑 粘性	白	柔軟	長
㉟ 土 壤	7.5	1.5	0.9	4.25	灰 黑	灰 黑	白	硬	長
㉟ 土 壤	5.8	1.8	1.5	9.3	"	灰 黑	灰 黑	硬	長
㉟ 土 壤	5.8	1.8	1.5	9.3	"	灰 黑	灰 黑	硬	長
㉟ 土 壤	2.4	1.6	1.6	6.7	TD1 テーブル	灰 黑	白	硬	長

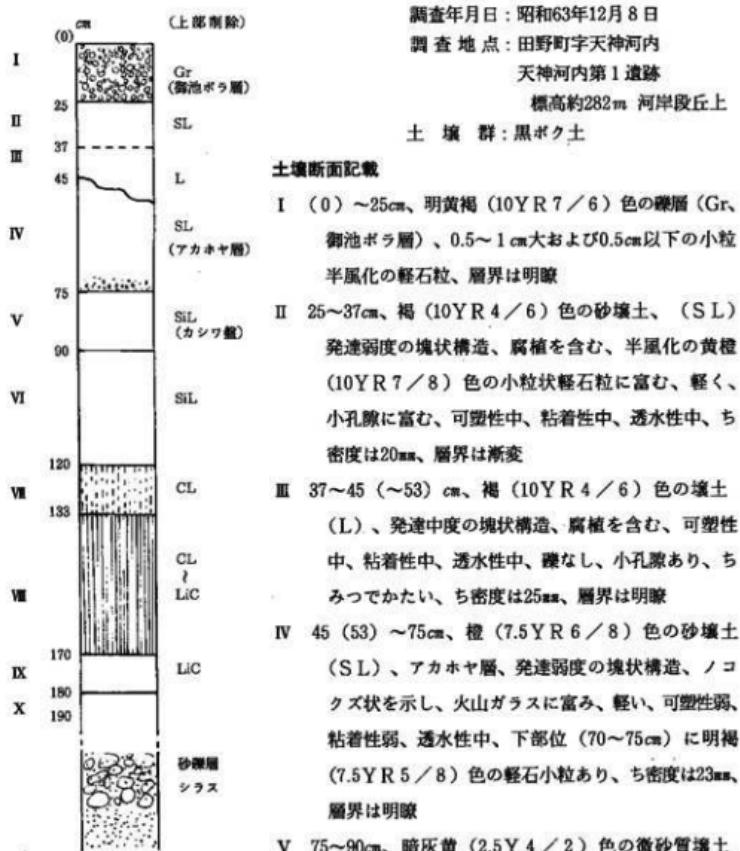
第149図 土壌・石鉱実測図

第V章 自然科学的分析の結果

田野町天神河内第1遺跡土壤調査報告書

宮崎県総合農業試験場

有村玄洋



- (S i L)、カシワ盤、発達中度の塊状構造、腐植を含む、細孔隙を含む、かなりかたい、明褐(7.5YR 5/8)色の軽石小粒を含む、可塑性中、粘着性中、透水性小、ち密度は30mm、層界はやや明瞭
- VI 90~120cm、褐(10YR 4/4)色の微砂質壤土(S i L)、腐植がやや多い、発達中度の塊状構造、可塑性中、粘着性中、透水性小、白色長石小粒が多く、黄褐~赤褐色の風化軽石小粒に富む、小孔隙あり、ち密度は28mm、層界はやや漸変
- VII 120~133cm、黒褐(7.5YR 3/2)色の埴土(CL)、腐植に富み、発達中度の塊状構造、可塑性中、粘着性中、透水性中、細孔隙あり、白色長石小粒や黄褐色軽石粒を含む、ややちみつ、ち密度は26mm、層界は明瞭
- VIII 133~170cm、黒(7.5YR 2/1)色の埴土(CL)~輕埴土(L i C)、腐植に頗る富み、発達中度の塊状構造、可塑性中~大、粘着性大、透水性中~小、細孔隙あり、ややちみつ、ち密度は25mm、層界はやや明瞭
- IX 170~180cm、黒褐(7.5YR 3/2)色の輕埴土(L i C)、腐植に富み、発達中度の塊状構造、可塑性大、粘着性大、透水性中、細孔隙あり、ち密度は23mm、層界は明瞭
- X 180~190cm、褐(7.5YR 4/6)~明褐(7.5YR 5/6)色の輕埴土(L i C)、腐植を含む、発達弱度の塊状構造、可塑性大、粘着性大、透水性中、細孔隙あり、ち密度22mm
本断面は堺川の右岸に発達した河岸段丘(砂礫層/シラス)上に発達した各種火山噴出物を主要母材とした火山灰土断面である。すなわち、(黒色火山灰土)/御池ボラ層(I)/褐色火山灰層(II~III)/アカホヤ層(IV)/カシワ盤(V)/褐色火山灰層(白色長石多)(VI)/黒褐色火山灰層(白色長石含)(VII)/黒色火山灰層(埋没土層)以下(VIII~X)/砂礫層/シラス層
また、本断面より4~5m離れた断面は埋没表層(VII以下)生成後アカホヤ層~カシワ盤形成前に堆積したと思われる崩積性火山灰層(黒褐色土塊、褐色土塊、黄褐色軽石小粒塊などが混在)が認められた。その下の漆黒色火山灰層の土塊壁に灰色の粘土被膜が多く認められ、水の影響が考えられた。

土壤断面の記載に関する解説

- 1. 土 壤 群**: 断面形態の主な特徴及び母材、分布する地形などについて共通点を持っている一連の土壤統をまとめて土壤群とする。
- 2. 土 壤 断 面**: 断面にみられる土壤層位の配列は層位分化の原因となった土壤生成過程を反映している。
- 3. 土壤層位の区分**: 一般に土壤断面は上から順にA層、B層、C層などの3つの主層位から成立している。

- (1) A層：腐植で暗色に汚染され、有機物が無機物と結びついた腐植が多量に集積している層で、この層の質的特徴と形態的特徴（土色、構造など）によって、細分するときはA11、A12のように記す。また、補助記号として、P（作土層で、plowingの略）、g（斑紋の存在）を用いて、水田の作土層はApg、また、畑の作土層はAPで示される。
- (2) B層：A層とC層の中間に位置し、母材の風化により生成された遊離鉄によつて赤褐色、黄褐色を呈する風化層、あるいはA層から、洗脱された物質の集積層で、構造が発達していることが多い。B1層はA層とB層の漸移層でB層の性質が優越している層である。形態的特徴（土色、構造、土性など）により、B2層、B21層などに細分される。
- (3) C層：風化作用を受けてもろくなっているが母岩の組織を残している。土壤化はほとんど進行せずに無構造、いくつかの層に区分されるときは上から順にC1、C2……のように細分する。
- (4) 埋没層：現在の土壤下に埋没した土壤については現在の土壤をIA、IB、IC、埋没土をIIA、IIB、IIC……以下III……IV……とする。

4. 野外土性の判定：土性は土壤断面の層位間の比較、風化の程度、異種母材の判定などの重要な目安となるので、現場で手ざわりや肉眼的観察によってだいたいの判定（野外土性という）を行う。（表1参照）

表1 野外土性判定の目安

判 定 法	土性名と略号
ほとんど砂ばかりで、ねばり気を全く感じない。	砂土 (S)
砂の感じが強く、ねばり気はわずかしかない。	砂壤土 (SL)
ある程度砂を感じ、ねばり気もある。砂と粘土が同じくらいに感じられる。	壤土 (L)
砂はあまり感じないが、サラサラした小麦粉のような感触がある。	シルト質壤土 (Si L)
わずかに砂を感じるが、かなりねばる。	埴壤土 (CL)
ほとんど砂を感じないで、よくねばる。	重壤土 (HC)

5. 土色の判定：土色を調べようとする層位のなかから、代表的な色調の部分から適当な大きさの土塊をとり、標準土色粘を使い、土壤の色と一致する色片をさがす土壤の色と一致する色片が決まったら色相、明度／深度の順にならべ黒（7.5YR 2/1）のように記載する。
6. ち密 度：硬度計（山中硬度計）を用いて平滑に整えた土壤断面に対し、直角の方向に

硬度計を押し当て、その円錐部のつばが土壤面に密着するまで、ゆっくり水平に保ちつつ押し込み、その貫入の深さを数値mmで読み、その平均値で示す。

7. 可塑性（表2）：可塑性とは、力を加えていくと変形し、力を除いたときその変形を保持する能力を表す。野外での判定は、土壤を親指と人差指の間でこねて粒団を壊し、こねている間に水分が蒸発し、土が指に付着しないようになったときに棒状にこねのばし、その状態を次の基準によって区分する。

表2 可塑性の区分基準（農林省、1961）

区分	基 準
なし	全然棒状に延ばせないもの。
弱	辛うじて棒状になるが、すぐ切れてしまうもの。
中	直径2mm内外の棒状に延ばせて、こね直すのにやや力を要するもの。
強	直径1mm内外の棒状に延ばせて、こね直すのにやや力を要するもの。
極強	長さ1cm以上の極めて細かい糸状に延ばせて、こね直すのにかなりの力を要するもの。

8. 粘着性（表3）：粘着性とは、土壤を親指と人差指の間で圧して引きはなすときの付着する性質をいっている。粘着性が最大になるまで水分を与え、親指と人差指との間の付着性の強弱によって次のように区分する。

表3 粘着性の区分基準（Soil Survey Staff, 1951）

区分	基 準
なし	土壤が殆ど指に付着しない。
弱	土壤が一方の指に付着するが、他の指には付着しない。指をはなすと、のびない。
中	両指頭に付着する。指をはなすと、多少伸びる傾向をもつ。
強	指頭に強く付着する。指をはなすと伸びてくる。

焼け石の熱ルミネッセンス年代測定結果について

奈良教育大学物理教室

市川米太

長友恒人

天神河内第1遺跡の縄文時代早期遺物包含層に伴う焼け石の年代を熱ルミネッセンス法により測定したので、以下に報告する。

1. 測定方法

熱ルミネッセンス年代測定法にはいくつかの手法があるが、今回採用したのは石英粗粒子法である。熱ルミネッセンス法では試料が吸収した自然放射線を測定する。自然放射線には、 α 線、 β 線、 γ 線及び宇宙線があるが、石英粗粒子法では、焼石から選別した石英粒子の表面を酸処理によって約0.01mmの厚さだけ除去した粒径約0.1mmの粒子を測定試料とするのが特徴である。この表面層除去により飛程（放射線が物質中を透過する長さ）の短いアルファ線の寄与を除外する事ができ、吸収線量は β 線、 γ 線及び宇宙線について評価するだけで良く、その分だけ測定精度が向上すると考えられる。

2. 試料について

試料は土器包含層と同一の分化層から採取された焼けたと思われる砂岩8個である。試料の大きさは拳大から直徑30cm程度までのものであった。

試料処理は通常行っている方法であるので、要點のみを記す。まず石をハンマー、万力などで碎いた後、含まれている石英粒子を砕かないように注意しながら粉末にする。塩酸処理の後、フランツ型マグネットセパレーターで非磁性鉱物を選別する。これをフッ酸で処理することにより石英粒子の表面層を除去すると共に、不要な鉱物を溶かす。各段階で、アセトン中で超音波洗浄をした。

3. 蓄積線量と年間線量の評価

蓄積線量

蓄積線量は試料の石英が焼けた後に、吸収した放射線量であり、付加線量法により測定する等価線量とスプラリニア補正值の和である。付加線量法では、処理した試料をいくつかに分割し、その一部に付加的に人工放射線を照射する。人工放射線を付加せずに測定したTLと付加した試料のTLとを比較することにより等価線量を求めることができる。通常、線量に対するTL量の成長の比例性を調べるため、スプラリニア補正を行うが今回はこの補正是行わなかった。

年間線量評価

石英粗粒子法の場合、蓄積線量は β 線量、 γ 線量と宇宙線量の総量である。これらの放射線の年間線量は β 線量 + 宇宙線量に分けて別々に測定した。

β 線は透過能が小さく土中では数mmしか透過しないので、焼石からの β 線量のみを評価すればよい。この目的のため、アルミリング中に焼石を粉末化したものとプレスしたコイン状のものを2枚作り、その間に高感度線量計素子（硫酸カルシウム粉末）をはさんで測定した。

γ 線と宇宙線は遺跡の土中に硫酸カルシウム粉末を封入した銅パイプを設置することにより測定した。

4. 結 果

測定結果を表に示す。等価線量の項に不焼とあるのは試料の石がほとんど焼けていなかったものであり、加熱不十分とあるのは焼けてはいるが石の内部までの加熱が不十分で石英粒子が高温度になっていなかったものである。これらについてはいずれも年代値を決定することができない。

既述のように今回はスプラリニア補正測定を行わなかったので、TL年代値は表の値より若くはないということを示す。しかし、通常スプラリニア補正值は大きないので、蓄積線量の誤差を等価線量の-5%および+10%の間にとると仮定してもよいであろう。そうするとTL年代値の誤差は約-7%から+13%程度であることになる。

熱ルミネッセンス年代測定結果

試 料	等価線量 (R)	スプラリニア 補 正 値	β 線 量 (R)	γ 線 量 (R)	TL年代 (年・B.P.)
I区 1	3,400		0.280	0.085	9,310
I区 2	加 烧 不充分		0.270	0.085	
I区 3	不 烧		0.250	0.085	
II区 SI 1	3,200		0.305	0.085	8,200
I区 4-2	加 烧 不充分		0.360	0.085	
I区 4-4	3,100		0.275	0.085	8,600
I区 4-7	3,400		0.260	0.085	9,850
I区 SI 3	2,700		0.220	0.085	8,850

R : レントゲン / B. P. : Before Presentの略

天神河内第1遺跡の集石遺構に残存する脂肪の分析

㈱ズコーシャ総合科学研究所 中野 寛子、明瀬 雅子

長田 正宏

帯広畜産大学畜産環境学科 中野 益男、福島 道広

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に住んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと^①、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子^②、約5千年前のハーゼルナット種子^③に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多い。脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物の種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のものはコレステロール、植物性のものはシストテロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能である。

この「残存脂肪分析法」を腐朽分解の進んだ、考古学的実証の困難な遺跡の解明に適用し、出土遺物に残存する脂肪を分析することによって天神河内第1遺跡から出土した砾の性格を解明しようとした。

1. 砂および土壤試料

天神河内第1遺跡は縄文時代早期及び前期のものと推定されている。この遺跡のII区の早期層中から全く単独でS I 1とS I 2の集石遺構が互いの距離が100m以内の所で検出された。

1号集石遺構の砾群からは黒色の付着物のある砾のみを任意に選び、試料No.29～No.34とした。

2号集石遺構の砾群からなるべく黒色の付着物があるものを任意に選び、試料No.7～No.28と

した。また2号集石遺構内の礫周辺土壌も東側、南側、西側、北側、集石の真上、真下から採取し、各々試料No.1～No.6とした。S I 1とS I 2の集石遺構内での礫試料の配置図と、周辺土壌の採取地点図をそれぞれ図1-1～1-2に示す。

2. 残存脂肪の抽出

礫および土壌試料67～835gに3倍量のクロロホルム-メタノール(2:1)混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム-メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表1に示す。抽出率は礫試料で0.0001～0.0040%、平均0.0007%、土壌試料で0.0006～0.0023%、平均0.0009%であった。このうち礫試料の値は北海道日進33遺跡から出土した礫試料の抽出率⁽⁵⁾0.0012%や静岡県清水柳北遺跡から出土した礫試料の0.0008%とはほぼ同率であり、土壌試料の値は全国各地の遺跡土壌の平均抽出率⁽⁷⁾0.02%に比べるとかなり低いものではあったが、分析には十分量であった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質から構成され、遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪の結合したトリグリセリド、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

3. 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪に5%メタノール性塩酸を加え、125°C封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルをクロロホルムで分離し、ヘキサン-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)またはヘキサン-エーテル(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した。

残存脂肪の脂肪酸組成を図2-1～2-5に示す。残存脂肪から10種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸(C16:0)、パルミトレイン酸(C16:1)、ステアリン酸(C18:0)、オレイン酸(C18:1)、リノール酸(C18:2)、アラキジン酸(C20:0)、ベヘン酸(C22:0)、エルシン酸(C22:1)、リグノセリン酸(C24:0)の9種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー質量分析により同定した。

試料No.1からNo.6までの土壌試料とNo.7からNo.34までの礫試料とでは脂肪酸組成パターンに差異がみられた。すなわち試料No.1からNo.6では6試料とともに同じ脂肪酸組成パターンを示した。6試料中の主要な脂肪酸はパルミチン酸で約44～57%分布していた。次いで、パルミトレイン酸、ステアリン酸、オレイン酸の順に分布していた。一般に考古遺物はパルミチン酸の分

布割合が高い。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解されてバルミチン酸が生成するためで、主として植物遺体の土壤化に伴う腐植物から来ると推定される。また高等動物、特に臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられるベヘン酸、リグノセリン酸などの高級脂肪酸は約5～17%分布していた。試料No.7からNo.28までの標本では全試料で主要な脂肪酸はバルミチン酸で約32～78%分布していた。次いでステアリン酸、オレイン酸などが20%以内の分布量であった。高級脂肪酸のベヘン酸はいずれの試料にも約1～21%分布し、リグノセリン酸は最多の試料で6%、試料によっては含まれていなかった。試料No.29からNo.34ではベヘン酸、リグノセリン酸の両方とも含まれぬ試料が多かった。一般に脂肪酸は250°C以上に加熱されると熱変性を受け、オレイン酸はバルミチン酸に変化してバルミチン酸が急激に増えるなど、不飽和脂肪酸は飽和脂肪酸に変わる。^回今回調べたいずれの試料とも飽和脂肪酸で殆ど占められていることから、試料中の脂肪酸は明らかに熱変性を受けていることがわかる。これら脂肪酸の結果からみると、試料には熱変性を受けた動物性脂肪の痕跡が見られる。

4. 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサン-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ビリジン-無水酢酸(1:1)を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にしてからガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図3-1～3-4に示す。残存脂肪から2～23種類のステロールを検出した。このうちコレステロール、エルゴステロール、カンペステロール、スチグマステロール、シsstステロールなど7種類のステロールをガスクロマトグラフィー-質量分析により同定した。

各試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは試料No.1からNo.6の土壤試料で約14～46%、No.7からNo.34の標本では約29から56%という高い含有量であった。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは4～8%含まれている。植物由来のシsstステロールは試料No.1からNo.6の土壤試料で約3～18%、No.7からNo.34の標本では最多のものでも約8%しか含まれていなかった。他のエルゴステロール、カンペステロール、スチグマステロールは未検出の試料も多くあり、含まれていても5%内外までであった。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシsstステロールの分布比の指標値は土壤で0.6以上、土器・石器・石製品で0.8～23.5をとる。^(10,11)試料中のコレステロールとシsstステロールの分布比を表2に示す。表からわかるようにいずれの試料もその値が0.8以上を示し、高いものでは61にも達した。このことはいずれの試料にも動物性脂肪が付着していたことを示唆している。

5. 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料間の類似度を調べた。同時に試料中に残存する脂肪の持主を特定するために、脂肪酸組成の類似した動植物種もクラスター分析にかけた。試料には黒色のものが付着しており、先の脂肪酸のパターンも加熱変性を受けている可能性を示していることから現生基準試料にも加熱変性後の脂肪酸組成を用いた。予め50～100検体の対照試料を入れクラスター分析を行い、その中から類似度の具合により対照試料を50検体以内にし、各試料間の脂肪酸組成の類似度をパターン間距離にして表したのが図4である。図からわかる通り、譲試料No.11を除き他のいずれの試料も相関行列距離が0.1以内で類似しており、ヒトの手の油、イノシシ試料とともにA群を形成した。またこれらの試料はアカハラ、モズ、ニホンジカ、キジ、マガモ、イヌ試料で形成されるB群とも相関行列距離0.2以内で類似していた。譲試料No.11は単独でC群を形成したが、この試料は相関行列距離が0.2より若干遠い所でA、B群に類似していた。

クラスター分析の成績から土壤試料、譲試料すべてには動物の脂肪の混在が推測された。そこでクラスター分析から導き出された動物種のうち相関行列距離の短い動物種の脂肪酸組成に基づいて、誤差の二乗和で最も小さくなるような動物種の組み合せをラグランジェの未定係數法を用いて算出し、その分布割合を求める。分布割合の算出にはS I 1集石内譲から試料No.29 S I 2集石内譲から試料No.7、また1検体単独でC群を形成した試料No.11を用いた。その結果を表3-1～3-3に示す。またこれらの分布割合をまとめたのが表4である。以上の結果から各試料中での分布割合の高いものを挙げてみると、3試料とともにアカハラ、モズ、キジ等の野鳥の割合が多く、次いでイノシシ、ニホンジカ、イヌ等の動物が多かった。従って集石内譲は調理用の炉としての機能を持っていたもので、ここで野鳥や動物を焼いていたものと推定される。

6. 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のバルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限に移る原点から離れた位置に海産動物が分布する。

試料中の残存脂肪から求めた相関図で加熱変性後のものを図5-1、加熱変性前のものを図5-2に示す。加熱変性後の値を用いた図5-1でみると試料No11を除きいずれの試料も第2象限内に幅広く分布した。試料No11は単独で第1象限の原点から離れた位置に分布した。疎は加熱されていることから加熱変性前の値に変換して相関図をみたのが図5-2である。試料No12、No15、No16が第1象限に移動したが、他の試料は同じ象限内のY軸上で上方に移動した。しかしいずれの試料も第1、第2象限内に分布していた。特に試料No11はS-I-2集石内疎の1つで、どの疎試料とは特定できないが、この疎の上部に焼いて調理した動物の臓器類があったという推測もできる。従って加熱変性前、加熱変性後とともに第1象限、第2象限に分布したということは高等動物の脂肪が存在していたことを意味している。

7. 総括

天神河内第1遺跡から出土した集石内疎および土壤試料に残存する脂肪を分析した。その結果いずれの試料にも動物性脂肪を構成する脂肪酸とステロールが多量に付着していた。数理解析の結果これらの動物性脂肪はアカハラ、モズ、キジ等の野鳥やイノシシ、ニホンジカ、イヌ等の動物に由来するものであろうと推定される。これらの成績から集石遺構はこれらの動物を焼いて調理するための炉と認定された。

参考文献

- (1) R.C.A. Rottländer and H. Schlichtherle : 「Food identification of samples from archaeological sites」,『Archaeo-Physika』,10巻, 1979, pp280.
- (2) D.A.Priestley, W.C.Galinat and A.C.Leopold: 「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」,『Nature』,292巻, 1981, pp146.
- (3) R.C.A.Rottländer and H.Schlichtherle: 「Analyse frühgeschichtlicher Gefäßinhalte」,『Naturwissenschaften』,70巻, pp33.
- (4) 中野益男: 「残存脂肪分析の現状」,『歴史公論』,第10巻(6), 1984, pp124.
- (5) 中野益男,福島道広,中野寛子: 「日蓮33遺跡遺物に残存する脂肪の分析」,『日蓮33遺跡一名寄市文化財調査報告書V』,北海道名寄市教育委員会, 1988, pp87.
- (6) 中野益男,福島道広,中野寛子,長田正宏: 「清水郡北遺跡遺物に残存する脂肪の分析」,『未発表』,静岡県沼津市文化財センター。
- (7) 中野益男,伊賀啓,根岸孝,安本教傳,畠宏明,矢吹俊男,佐原真,田中琢: 「古代遺跡に残存する脂肪の分析」,『脂質生化学研究』,第26巻, 1984, pp40.
- (8) M.Nakano and W.Fischer: 「The Glycolipids of Lactobacillus casei DSM 20021」,『Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem.』,358巻, 1977, pp1439.
- (9) 中野益男: 「残存脂肪酸による古代復元」,『講演録集-新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』,第3回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編, 1989, pp114.
- (10) 中野益男: 「真駒遺跡出土土器に残存する動物油脂」,『真駒遺跡-農村基盤総合設備事業施設東地区真駒工区に係る発掘調査報告書』,能都町教育委員会・真駒遺跡発掘調査会, 1988, pp401.
- (11) 中野益男,根岸孝,長田正宏,福島道広,中野寛子: 「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」,『ヘロカルウス遺跡』,北海道文化財研究調査報告書, 第3集, 1987, pp191.
- (12) 大地羊三: 「電子計算機の手法とその応用」,『土木工学大成』,第4巻, 東京, 森北出版, 1970.

表1 土壌および雑試料の残存脂肪抽出量

試 料 №	試 料 名	湿重量 (g)	全脂質 (mg)	抽出率 (%)
1	SI 2 周辺土壤東側	817.5	5.8	0.0007
2	" 南側	676.7	4.1	0.0006
3	" 西側	764.7	4.6	0.0006
4	" 北側	835.3	6.2	0.0007
5	" 真上	386.7	9.0	0.0023
6	" 真下	775.7	4.6	0.0006
7	SI 2 集石内疊	235.4	2.0	0.0008
8	"	124.1	2.0	0.0016
9	"	126.9	0.8	0.0006
10	"	163.4	0.3	0.0002
11	"	116.3	0.2	0.0002
12	"	523.6	0.6	0.0001
13	"	735.2	1.2	0.0002
14	"	357.4	3.0	0.0008
15	"	454.1	1.5	0.0003
16	"	224.9	0.8	0.0004
17	"	238.5	5.6	0.0023
18	"	261.8	0.2	0.0001
19	"	136.8	0.5	0.0004
20	"	261.1	1.1	0.0004
21	"	99.9	0.5	0.0005
22	"	223.8	1.4	0.0006
23	"	204.7	0.1	0.0001
24	"	258.3	0.2	0.0001
25	"	112.7	0.1	0.0001
26	"	163.2	0.3	0.0002
27	"	122.2	1.5	0.0012
28	"	67.4	1.7	0.0025
29	SI 1 集石内疊	232.2	0.9	0.0004
30	"	149.2	6.0	0.0040
31	"	525.3	0.3	0.0001
32	"	301.4	1.1	0.0004
33	"	93.2	0.7	0.0008
34	"	107.5	1.1	0.0010

表2 試料に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料番号	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール / シトステロール
1	13.79	8.70	1.59
2	46.40	6.06	7.66
3	42.03	3.21	13.09
4	28.30	7.33	3.86
5	41.90	8.37	5.01
6	24.91	17.74	1.40
7	53.29	0.96	55.51
8	46.26	—	—
9	52.14	0.85	61.34
10	54.61	—	—
11	55.98	—	—
12	44.74	2.58	17.34
13	45.54	2.47	18.44
14	43.29	2.29	18.90
15	51.77	1.92	26.96
16	47.06	1.17	40.22
17	52.21	—	—
18	50.08	—	—
19	29.32	2.17	13.51
20	45.76	0.56	81.71
21	48.03	3.48	13.80
22	32.52	7.56	4.30
23	43.69	2.90	15.07
24	37.59	6.21	6.05
25	28.82	5.53	5.21
26	55.75	3.77	14.79
27	33.17	2.15	15.43
28	46.63	5.16	9.04
29	51.54	—	—
30	45.78	—	—
31	42.04	2.28	18.44
32	45.34	—	—
33	51.46	—	—
34	32.40	—	—

表3-1 碳試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	No.7	*1	2	3	4	5	6	7	8	計算値
C16: 0	55.2	45.9	48.8	34.7	34.3	44.3	44.4	43.4	38.3	55.704
C16: 1	6.3	22.8	—	4.9	3.7	7.0	6.2	3.9	4.8	6.475
C18: 0	13.0	6.4	13.7	14.0	14.2	24.6	11.5	11.5	9.9	13.461
C18: 1	10.2	14.0	6.6	12.7	19.1	13.5	24.5	32.1	35.8	10.374
C18: 2	1.6	4.2	10.0	13.5	13.8	4.5	10.6	2.3	11.2	1.992
C18: 3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C20: 0	3.1	1.1	1.3	6.3	5.0	2.4	1.4	1.9	—	2.736
C20: 1	—	2.1	—	0.3	0.4	0.3	0.1	1.3	—	0.721
C20: 2	—	—	—	—	—	0.3	0.1	0.2	—	0.237
C20: 4	—	—	—	6.5	4.1	—	—	—	—	0.808
C20: 5	—	—	—	1.3	1.1	—	—	—	—	0.269
C22: 0	10.7	0.4	3.8	—	—	0.9	0.4	0.6	—	1.752
C22: 1	—	1.3	3.2	0.0	0.1	0.3	0.1	0.4	—	0.933
C22: 2	—	0.4	—	—	0.1	0.4	0.3	0.3	—	0.520
C22: 5	—	—	—	5.4	3.9	—	—	—	—	0.168
C24: 0	—	1.0	7.5	0.4	0.3	1.2	0.3	0.7	—	2.499
C24: 1	—	0.3	5.3	—	0.2	0.3	0.2	1.5	—	2.196
分布割合 (%)	0.8	3.3	18.9	27.2	1.7	23.2	10.7	14.1	—	—

*対象名：1 ヒトの手の油（加熱）
 2 イノシシ血液+肉（加熱）
 3 アカハラ（加熱）
 4 モズ（加熱）
 5 ニホンジカ（加熱）
 6 キジ（加熱）
 7 マガモ（加熱）
 8 イヌ（加熱）

表3-2 碳試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	No.11	*1	2	3	4	5	6	7	8	計算値
C16: 0	32.2	45.9	48.8	34.7	34.3	44.3	44.4	43.4	38.3	34.269
C16: 1	—	22.8	—	4.9	3.7	7.0	6.2	3.9	4.8	0.749
C18: 0	13.0	6.4	13.7	14.0	14.2	24.6	11.5	11.5	9.9	14.882
C18: 1	5.4	14.0	6.6	12.7	19.1	13.5	24.5	32.1	35.8	6.070
C18: 2	2.1	4.2	10.0	13.5	13.8	4.5	10.6	2.3	11.2	3.527
C18: 3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C20: 0	9.1	1.1	1.3	6.3	5.0	2.4	1.4	1.9	—	7.099
C20: 1	—	2.0	—	0.3	0.4	0.3	0.1	1.3	—	3.737
C20: 2	—	—	—	—	—	0.3	0.1	0.2	—	0.064
C20: 4	—	—	—	6.5	4.1	—	—	—	—	0.630
C20: 5	—	—	—	1.3	1.1	—	—	—	—	1.540
C22: 0	20.8	0.4	3.8	—	—	0.9	0.4	0.6	—	3.660
C22: 1	1.8	1.3	3.2	0.0	0.1	0.3	0.1	0.4	—	4.499
C22: 2	9.4	0.4	—	—	0.1	0.4	0.3	0.3	—	0.344
C22: 5	—	—	—	5.4	3.9	—	—	—	—	3.261
C24: 0	6.2	1.0	7.5	0.4	0.3	1.2	0.3	0.7	—	8.301
C24: 1	—	0.3	5.3	—	0.2	0.3	0.2	1.5	—	7.557
分布割合 (%)	4.2	6.2	21.0	34.5	2.1	14.7	8.2	9.2	—	—

*対象名：1 ヒトの手の油（加熱）
 2 イノシシ血液+肉（加熱）
 3 アカハラ（加熱）
 4 モズ（加熱）
 5 ニホンジカ（加熱）
 6 キジ（加熱）
 7 マガモ（加熱）
 8 イヌ（加熱）